

D-Link AP Manager II

WLAN Management System

ユーザマニュアル



安全にお使いいただくために

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

本書は、製品を正しくお使いいただくための取扱説明書です。必要な場合には、いつでもご覧いただけますよう大切に保管してください。

また、必ず本書、設置マニュアル、および同梱されている製品保証書をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上で、記載事項にしたがってご使用ください。

- 本書および同梱されている製品保証書の記載内容に逸脱した使用の結果発生した、いかなる障害や損害において、弊社は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 本書および同梱されている製品保証書は大切に保管してください。
- 弊社製品を日本国外でご使用の際のトラブルはサポート対象外になります。

なお、本製品の最新情報やファームウェアなどを弊社ホームページにてご提供させていただく場合がありますので、ご使用の前にご確認ください。
また、テクニカルサポートご提供のためにはユーザ登録が必要となります。

<http://www.dlink-jp.com/>

目次

はじめに	5
本マニュアルの対象者	6
表記規則について	6
第 1 章 本製品のご利用にあたって	7
概要	7
動作環境	7
サポートするアクセスポイント	7
サポートする機能	7
第 2 章 製品のインストール	8
インストール手順	8
PostgreSQL サーバのインストール	8
AP Manager II のインストール	8
AP Manager II の起動	12
モジュールパッケージのインストール	13
AP Manager II の画面構成	14
AP Manager II のメニュー構成	14
第 3 章 基本的なアクセスポイントの管理	17
デバイスの検索	17
同じサブネットワーク内の検索	17
詳細な検索	18
Access Point Report タブ (アクセスポイントリストの表示)	19
Station Report タブ (接続する無線クライアントの表示)	20
Model Report タブ (管理モデルの表示)	21
Band Report タブ (無線帯域の表示)	21
Group (管理アクセスポイントのグループ化)	22
Configuration (設定)	22
Sort by (ソート)	28
アクセスポイントのグループ化	29
View (参照)	30
Properties (プロパティ)	31
第 4 章 アクセスポイントの設定	32
Home (ホーム)	34
Information (製品の情報)	34
Basic (基本設定)	35
Wireless (無線設定)	35
Wireless Client (802.11n のみ)	43
LAN (LAN 設定)	44
Advanced (詳細設定)	45
Performance (性能設定) (802.11a)	45
Performance (性能設定) (802.11g)	46
Performance (性能設定) (802.11n)	48
Filters (フィルタ設定)	49
Grouping (アクセスポイントグループ化設定)	51
DHCP Server (DHCP サーバ設定)	52
Multi-SSID (マルチ SSID 設定)	55
Rogue AP (不正なアクセスポイントの検出)	56
Intrusion (侵入) (802.11n のみ)	57
VLAN (VLAN 設定) (802.11n のみ)	58
QoS (QoS 設定) (802.11n のみ)	62
Schedule (スケジュール設定) (802.11n のみ)	63
Ap Array (AP アレイ) (802.11n のみ)	64
ARP Snooping Prevention (ARP Spoofing 防止) (802.11n のみ)	65
Internal RADIUS Server (内部 RADIUS サーバ)	66
Traffic Control (トラフィックコントロール)	67

Maintenance (メンテナンス設定)	70
Admin (管理者設定)	70
Firmware and SSL (ファームウェアと SSL 証明書の更新)	71
Configuration File (コンフィグレーションファイルの保存と復元)	72
Date and Time (時間設定)	74
Status (ステータスの表示)	76
Device Information (デバイス情報)	76
Stats (状態)	77
Client Information (クライアント統計情報)	79
WDS Information (WDS 情報)	80
Log (ログの参照)	81
System (システム設定)	84
Help (ヘルプ表示)	85
第 5 章 詳細なアクセスポイントの管理	86
MultiConfiguration (マルチコンフィグレーション)	86
Template (テンプレート設定)	86
Task Schedule (タスクのスケジュール設定)	94
Fault Manager (故障管理)	102
Event Settings (イベント設定)	103
Tool (ツール)	107
Topology (トポロジ設定)	107
Site Planning (配置計画)	113
Report (レポート)	117
Association (アソシエーション)	117
Security (セキュリティ)	118
Utilization (使用率)	119
Channel (チャンネル)	120
Rogue AP (不正なアクセスポイント)	121
Syslog (システムログの出力)	121
Customer (カスタマ)	122
Monitor (モニタリング)	122
User Management (ユーザ管理)	124
System Environment (システム環境)	125
付録 A MySQL から Postgresql へのデータベース変換	128

はじめに

本ユーザマニュアルは、本製品のインストールおよび操作方法を例題と共に記述しています。

第1章 [本製品のご使用にあたって](#)

- 製品の概要とその機能について説明します。本製品の動作環境について説明します。

第2章 [製品のインストール](#)

- 製品のインストールを行います。

第3章 [基本的なアクセスポイントの管理](#)

- 本製品の検出とグループ化などアクセスポイントを管理する基本機能について説明します。

第4章 [アクセスポイントの設定](#)

- 本製品を使用してアクセスポイントの有線 / 無線 LAN 設定を行います。

第5章 [詳細なアクセスポイントの管理](#)

- マルチコンフィグレーション機能を使用したコンフィグレーションの比較やファームウェアの更新、イベント設定、トポロジマップ、モニタリングなど本製品を詳細に管理する方法について説明します。

付録 A [MySQL から Postgresql へのデータベース変換](#)

- データベースの変換方法について説明しています。

本マニュアルの対象者

本マニュアルは、本製品の操作方法についての情報を記載しています。また、ネットワーク管理の概念や用語に十分な知識を持っているネットワーク管理者、システム管理者、または IT 技術者を対象としています。

表記規則について

本項では、本マニュアル中での表記方法について説明します。

注意 注意では、特長や技術についての詳細情報を記述します。

警告 警告では、設定の組み合わせ、イベントや手順によりネットワークの接続状態やセキュリティなどに悪影響を及ぼす恐れのある事項について説明します。

表 1 に、本マニュアル中での字体・記号についての表記規則を表します。

表 1 字体・記号の表記規則

字体・記号	解説	例
「」	メニュータイトル、ページ名、ボタン名。	「Submit」ボタンをクリックして設定を確定してください。
青字	参照先。	" ご使用になる前に " (13 ページ) をご参照ください。

第 1 章 本製品のご利用にあたって

- 概要
- 動作環境
- サポートするアクセスポイント
- サポートする機能

概要

AP Manager II は、中心となる 1 台のコンピュータからご使用の無線ネットワーク設定を管理する便利なソフトウェアツールです。本製品を使用することで、個別にデバイスを設定する必要がなくなり、統合的な管理を実現します。また、アクセスポイントの設定、ファームウェアの更新、およびご使用のアクセスポイントを管理しやすいグループにまとめて分類することができます。

動作環境

本製品が動作するためには、以下の条件が必要です。

項目	スタンダード版
ハードウェア	<ul style="list-style-type: none">• Windows® 2008 Server/7/Vista /2003/XP/2000 を搭載するコンピュータ• イーサネットアダプタ搭載• 128MB 以上のメモリと 500MHz 以上のプロセッサ搭載
最小システム要件	PostgreSQL サーバ、PostgreSQL® ODBC Connector (psqlodbc)
アクセスポイント要件	SNMP は、AP Manager II を使用してアクセスポイントで有効にします。

サポートするアクセスポイント

本製品は、以下のアクセスポイントに対応しています。

DAP-2360、DAP-2590、DAP-2690、DAP-2553、DAP-3520、DWL-3200AP

注意 最新の本製品のバージョンまたは各アクセスポイントの対応モジュールについては、弊社ホームページで各製品のファームウェア情報をご確認ください。

サポートする機能

- ディスカバリ
- グループ化
- 無線 / 有線設定
- プロファイルによるコンフィグレーション
- ステータス表示
- 統計情報
- アクセス制限
- トポロジマップによる配置計画、管理
- イベント設定、ログ管理
- セキュリティ、モニタリング
- 異なるユーザレベルのアクセス権
- ログイン時の認証モード（ローカル / RADIUS）
- コンフィグレーション、ファームウェアの更新、復元
- SMTP 設定
- SNMP 設定

第 2 章 製品のインストール

- インストール手順
- AP Manager II の起動
- モジュールパッケージのインストール
- AP Manager II の画面構成

インストール手順

PostgreSQL サーバのインストール

ご使用のコンピュータに AP Manager II をインストールする前に、まず PostgreSQL サーバと PostgreSQL® ODBC Connector をインストールする必要があります。

PostgreSQL サーバと PostgreSQL® ODBC Connector は、以下の 3 バージョンをサポートしています。

- 8.3
- 8.4
- 9.1 (推奨)

PostgreSQL サーバと PostgreSQL® ODBC Connector は、同じバージョンのものを使用してください。

AP Manager II インストールの処理中に、これらの PostgreSQL プログラムがインストールされているかどうかをチェックし、見つけれない場合、それらをダウンロードするように要求します。

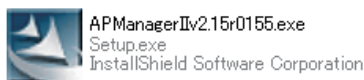
以下の Web サイトで PostgreSQL® ソフトウェアとドキュメントを見つけることができます。

<http://www.postgresql.org/>

AP Manager II のインストール

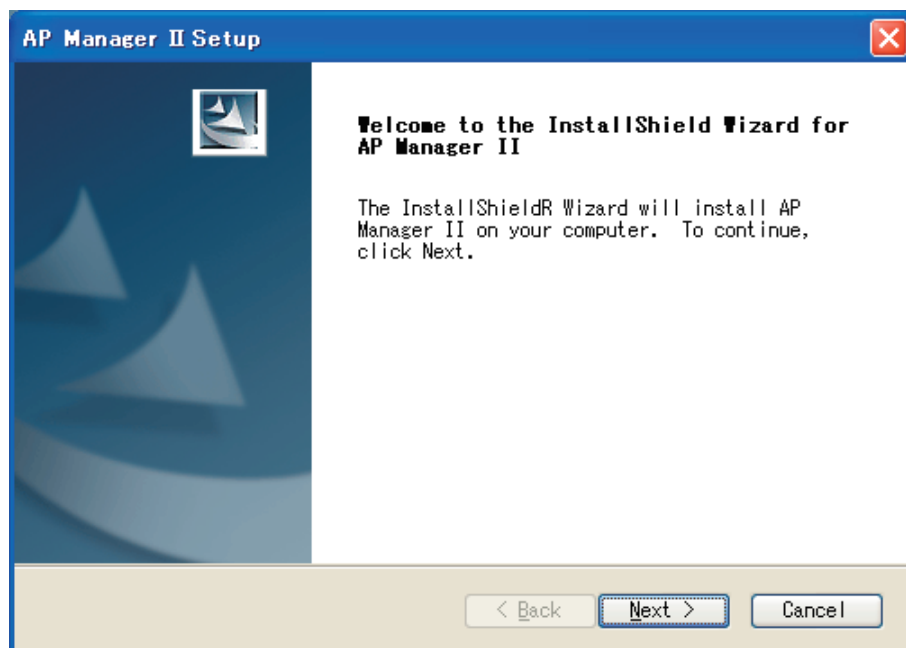
PostgreSQL サーバと PostgreSQL ODBC Connector プログラムをインストール後に AP Manager II のインストールを行います。

1. AP Manager II のインストールを開始するために、インストールパッケージの次のアイコンをダブルクリックします。

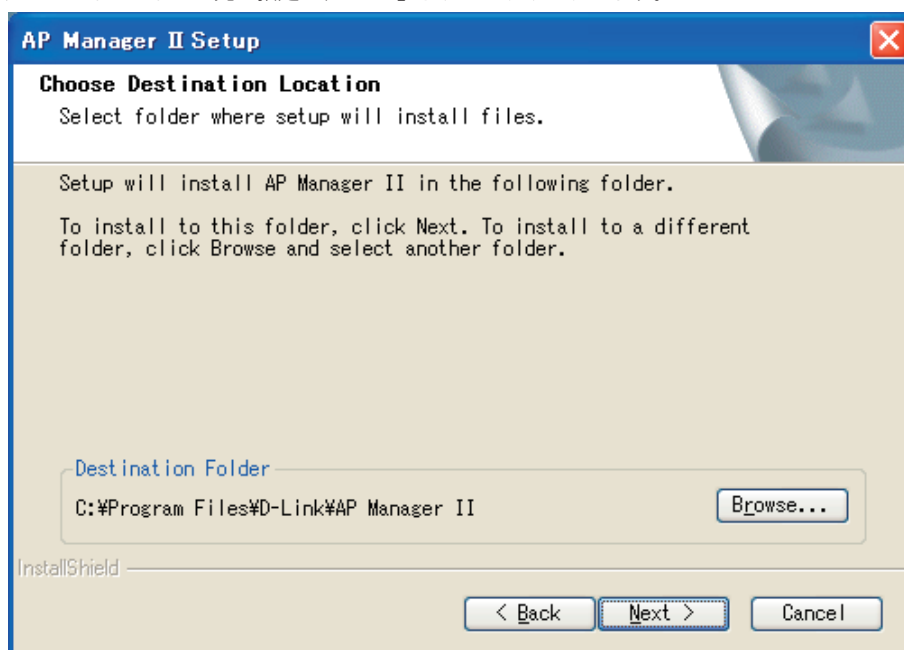


注意 インストールを続行する前に動作している他のすべてのプログラムを終了させることを推奨します。

2. インストールが開始され、以下の Welcome 画面が表示されます。「Next」ボタンをクリックします。

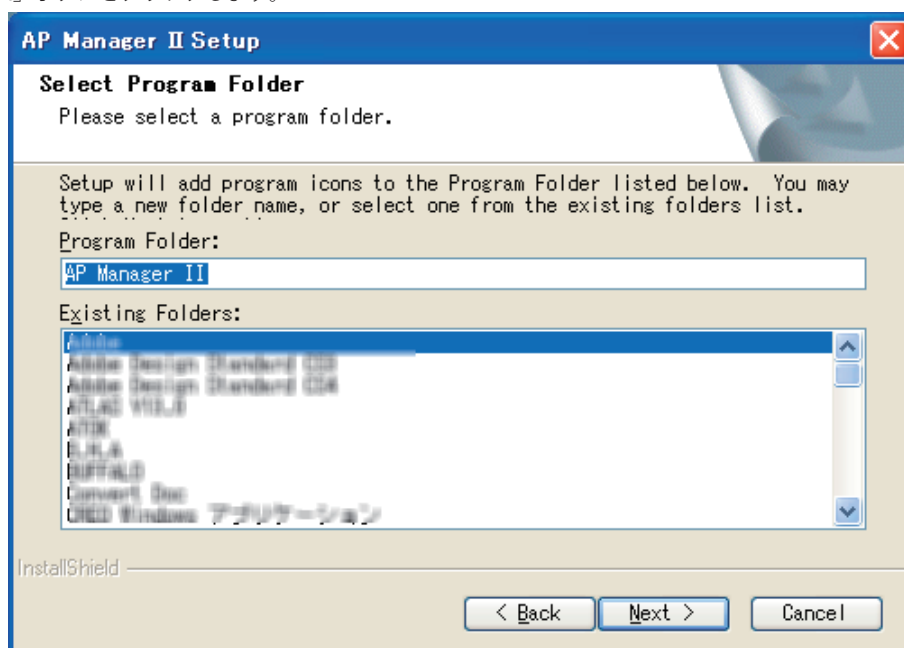


3. プログラムのインストール先を指定し、「Next」ボタンをクリックします。

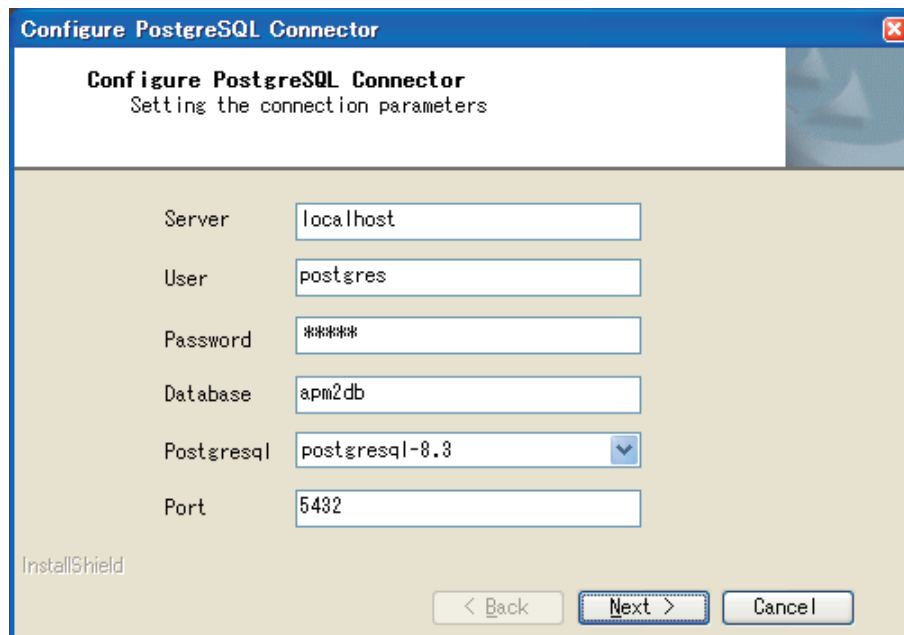


AP Manager II は、初期値で「C:\Program Files\D-Link\AP Manager II」フォルダにインストールされます。プログラムのインストール先を変更する場合は、「Browse」ボタンをクリックし、フォルダを指定します。

4. 「Next」ボタンをクリックします。



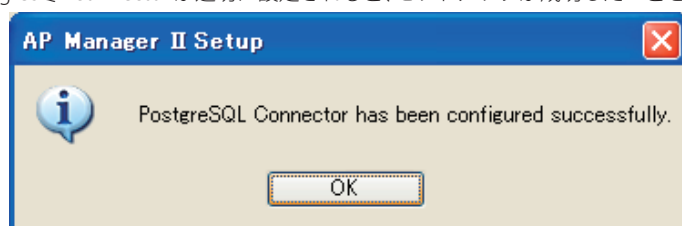
5. PostgreSQL Connector の設定を行います。PostgreSQL サーバが動作する PC の IP アドレス、ルートユーザ名とパスワード、およびデータベース名を入力します。これらの設定は PostgreSQL サーバのインストール処理中に設定されるものです。



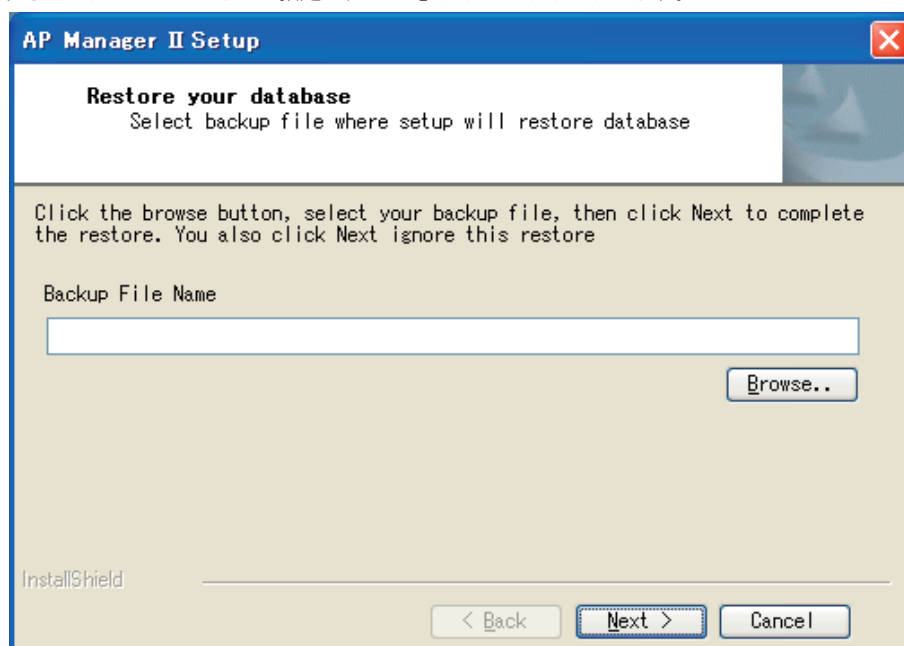
The dialog box is titled "Configure PostgreSQL Connector" with a subtitle "Setting the connection parameters". It contains several input fields: "Server" with "localhost", "User" with "postgres", "Password" with masked characters "*****", "Database" with "apm2db", "Postgresql" with a dropdown menu showing "postgresql-8.3", and "Port" with "5432". At the bottom, there are three buttons: "< Back", "Next >" (highlighted), and "Cancel". The "InstallShield" logo is in the bottom left corner.

「Next」ボタンをクリックします。

6. PostgreSQL Connector が適切に設定されると、セットアップが成功したことを確認するメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

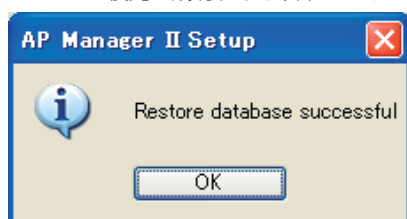


7. 復元するデータベースファイルを指定し、「Next」ボタンをクリックします。

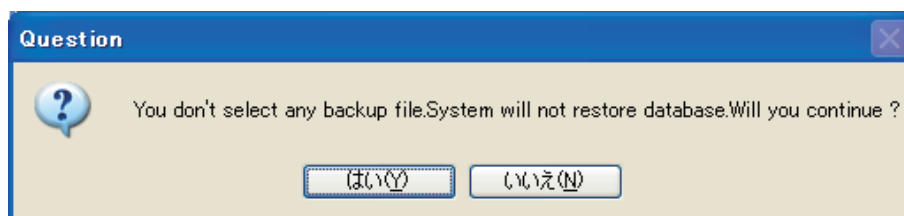


The dialog box is titled "AP Manager II Setup" with a subtitle "Restore your database" and a further subtitle "Select backup file where setup will restore database". It contains instructional text: "Click the browse button, select your backup file, then click Next to complete the restore. You also click Next ignore this restore". Below this is a "Backup File Name" label and an empty text input field. To the right of the input field is a "Browse.." button. At the bottom, there are three buttons: "< Back", "Next >" (highlighted), and "Cancel". The "InstallShield" logo is in the bottom left corner.

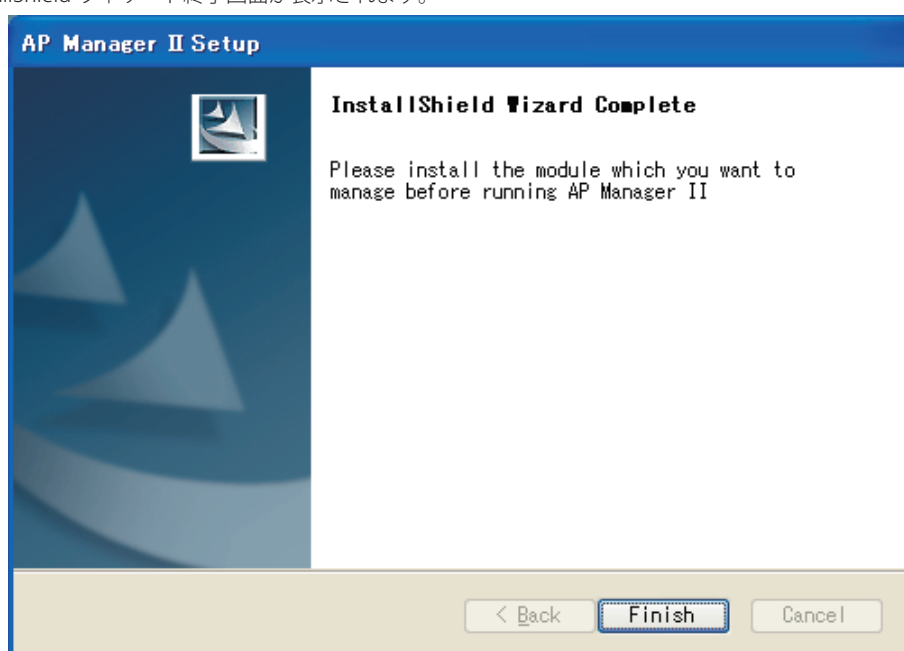
データベースの復元に成功すると以下のダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



指定しない場合は、以下のダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



8. InstallShield ウィザード終了画面が表示されます。



「Finish」ボタンをクリックして、インストールを終了します。

注意 本製品インストール後に、モジュールインストールパッケージをダブルクリックして管理されるアクセスポイントのモジュールをインストールする必要があります。

AP Manager II の起動

AP Manager II を起動するためには、Windows デスクトップの  アイコンをダブルクリックします。

AP Manager II

または、「スタート」メニューの「すべてのプログラム」から「D-Link AP Manager II」 - 「AP Manager II」メニューをクリックして、以下のログイン画面を表示します。

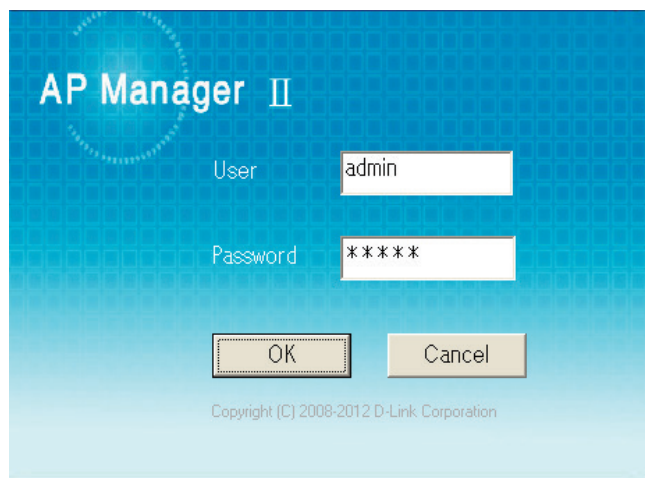


図 2-1 Login 画面

初めて本製品にログインする場合、ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。本製品の操作を開始する場合は、本マニュアルの次のセクション「[第3章 基本的なアクセスポイントの管理](#)」（17 ページ）を参照してください。

モジュールパッケージのインストール

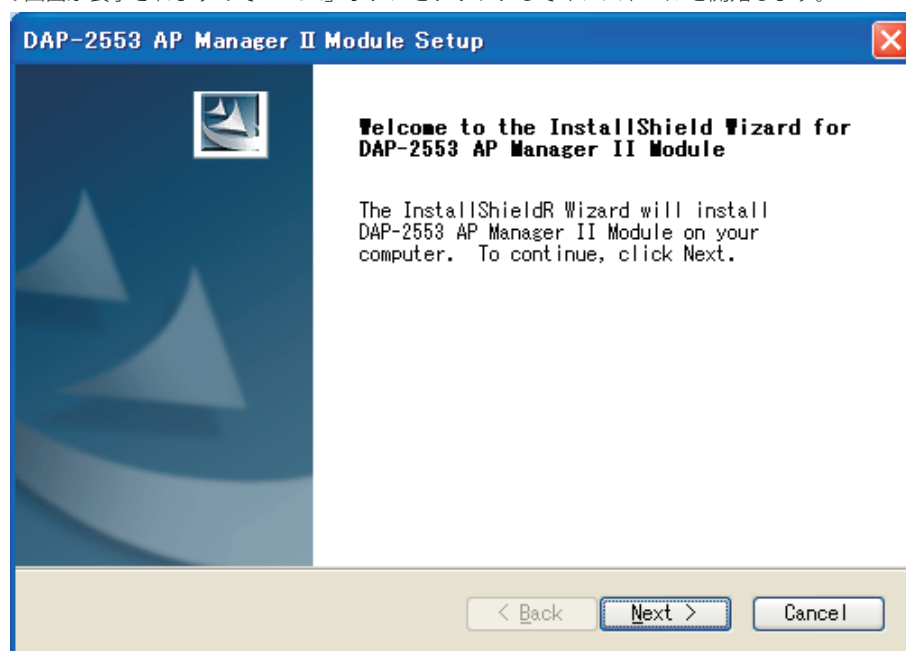
本ソフトウェアが各アクセスポイントを認識するためには、「AP Manager II」のインストール後に、各アクセスポイント用のモジュールパッケージをインストールする必要があります。以下は、DAP-2553 の例です。

1. 管理するアクセスポイント用のモジュールパッケージをご使用の PC にダウンロードします。

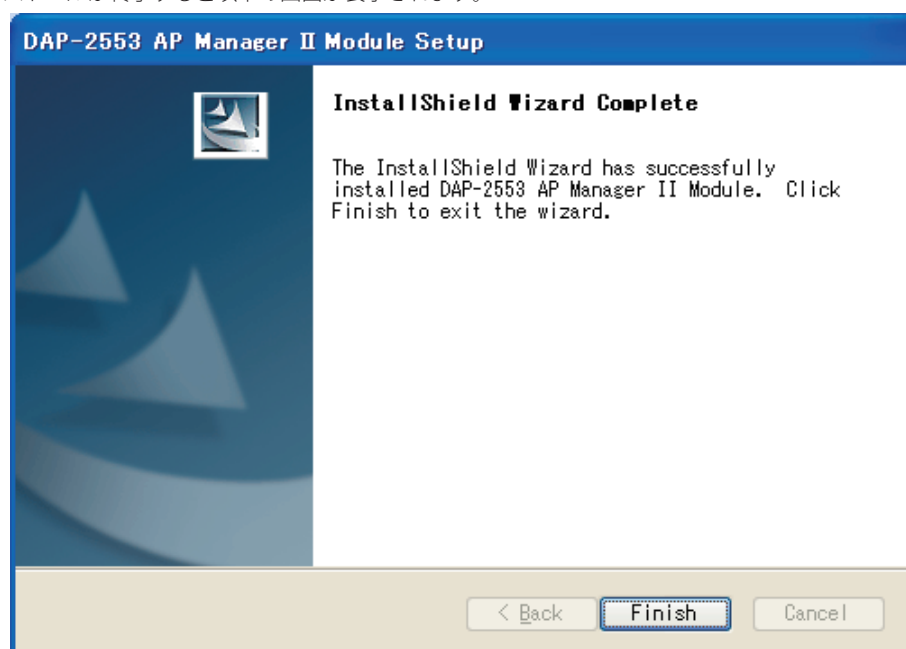
2. モジュールパッケージのアイコンをダブルクリックします。



3. 以下の画面が表示されますので「Next」ボタンをクリックしてインストールを開始します。



4. インストールが終了すると以下の画面が表示されます。



「Finish」ボタンをクリックしてモジュールのインストールを終了します。

AP Manager II の画面構成

AP Manager II の画面は、メインメニュー、ツールメニュー、アイコンメニュー、ビュー画面、およびメッセージリストに分かれています。

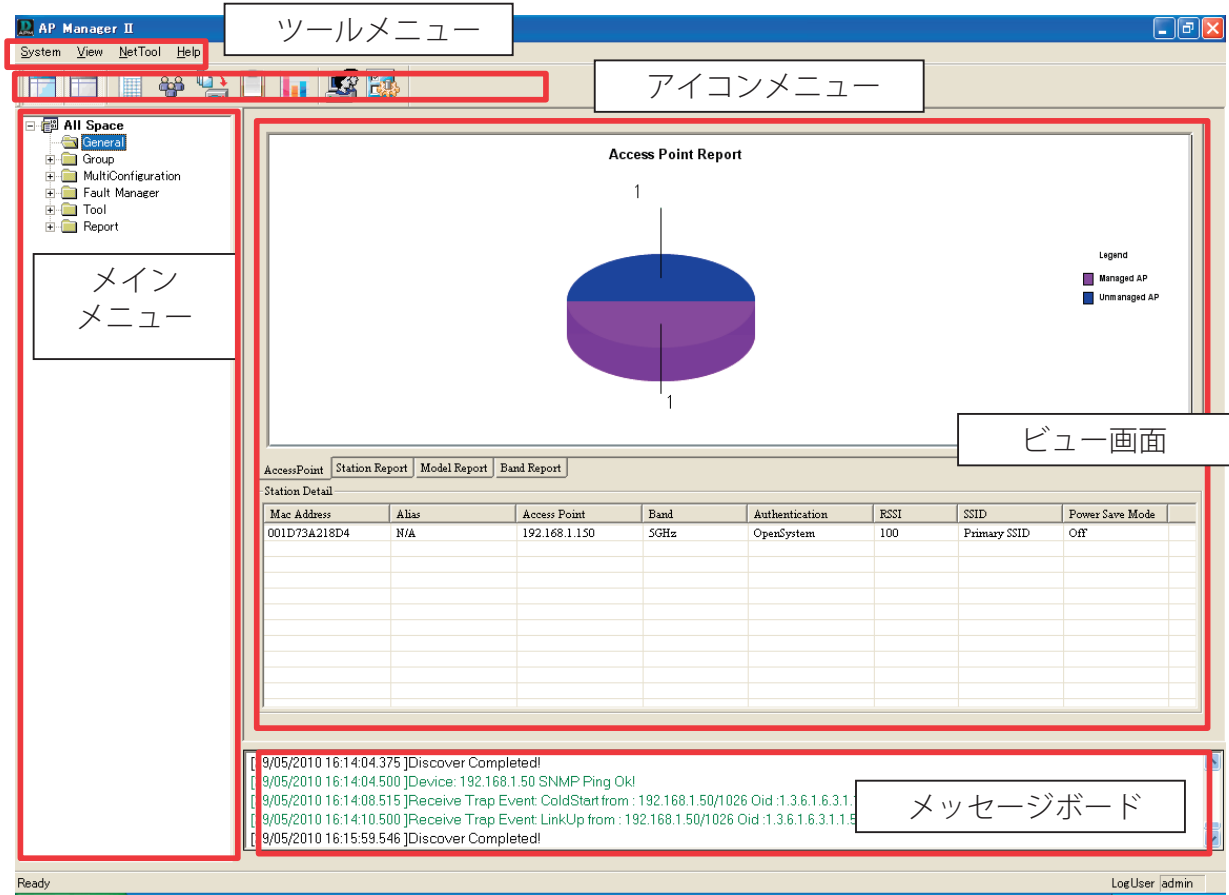


図 2-2 メイン画面

AP Manager II のメニュー構成

AP Manager II で設定可能な機能は以下の通りです。ここでは各オプションに関する機能や設定の詳細を説明します。

メインメニュー

メインメニュー	サブメニュー	説明
General		アクセスポイント、接続するクライアント、アクセスポイントの製品名、無線帯域を表示します。
Group	Model	管理中のアクセスポイントを製品別に分類することができます。
	Category1-3	管理中のアクセスポイントをカテゴリ別に分類することができます。
MultiConfiguration	Template	テンプレートを使用して検出したアクセスポイントのコンフィグレーションを管理します。
	Task Schedule	デバイスの比較、デバイスへのファームウェアの更新、およびテンプレートのアップロードを行います。
Fault Manager	StandardTrap	標準のトラップ画面ではアクセスポイントから受信した標準のトラップデータを表示します。
	System	ポーリング結果を表示します。
	Threshold	しきい値通知データを表示します。
	Private	アクセスポイントから受信したプライベートトラップのデータを表示します。
Tool	Topology	ネットワークのトポロジマップを作成します。また、ネットワークデバイスに定期的にポーリングしてステータスをモニタリングします。
	Site Planning	無線ネットワークを確立する前に、無線ネットワークの配置を評価します。
	Config Comparison	製品同士のコンフィグレーションを比較します。
Report	Association	管理アクセスポイントと接続するクライアントステーションをアクセスポイントごと、または無線ステーションごとに表示します。
	Security	管理アクセスポイントのセキュリティレベルを図で示します。
	Utilization	指定アクセスポイントの帯域使用率を表示します。
	Channel	管理アクセスポイントのチャンネル使用状態を図で表示します。
	Rogue AP	検索されたアクセスポイントが有効、不正、または Neighbor AP であるかを指定することができます。
	Syslog	管理アクセスポイントが送信したシステムログ情報を表示します。
	Custom	指定間隔でアクセスポイントに接続するステーション数に関するサマリ情報を表示します。
	Monitor	指定アクセスポイントの性能をリアルタイムに表示します。

アイコンメニュー

項目	説明	
	Leftpanel	左側のメインメニューの表示 / 非表示を切り替えます。
	Message	画面下側にあるメッセージボードの表示 / 非表示を切り替えます。
	General	ソフトウェアが検出したアクセスポイントのリスト、アクセスポイントに接続する無線クライアントステーションのリスト、管理中のアクセスポイントのモデル、および無線帯域を表示します。
	Group	アクセスポイントの検出、検出したアクセスポイントを分類し、管理およびモニタします。
	MultiConfiguration	複数のアクセスポイントのコンフィグレーションの管理や同じプロファイルのロードを行うことができます。
	Fault Manager	アクセスポイントから受信したトラップデータとポーリングしたデータを表示します。
	Report	管理アクセスポイントと接続するクライアントステーションの表示、モニタリング、システムログなどの情報の表示を行います。
	User Manage	ユーザプロファイルを管理します。
	Options	ログイン方式、SNMP 設定、ポーリング間隔などソフトウェアの動作環境を変更します。
	Delete device	管理中のアクセスポイントをビュー画面から削除します。
	Configure	<ul style="list-style-type: none"> Set IP - 選択したアクセスポイントの IP アドレスを手動で設定します。 Update Config - コンフィグレーションファイルの設定や表示を行います。 Upgrade Firmware - 各アクセスポイントに新しいファームウェアをアップロードします。 Web Management - アクセスポイントの Web ベースマネージャにアクセスします。 Telnet - アクセスポイントの Telnet CLI マネージャにアクセスします。 Change Access Password - のアクセスポイントに新しいログインパスワードを設定します。 Snmp Enable - SNMP を設定します。 Config Comparison - コンフィグレーションファイルの内容を比較します。
	View	<ul style="list-style-type: none"> Icon - アクセスポイントのアイコンで表示します。 Small Icon - 小さいアイコンで表示します。 List - リスト表示します。 Report - 詳細情報を表示します。
	Discover	アクセスポイントを検出します。
	Import device configuration from external file.	デバイスのコンフィグレーションをインポートします。
	Save config into file	デバイスのコンフィグレーションをエクスポートします。
	Sign Unread	読まないように指定します。
	Delete Event	イベントを削除します。
	Event Settings	イベント設定をします。
	Event Search	イベントを検索します。
	Event Export	テキスト / Excel / PDF の形式でイベント結果をファイルにエクスポートすることができます。
	Notice Settings	イベントが発生した際に行う操作を設定します。
	Create Watchlist	<ul style="list-style-type: none"> Create Watchlist - 特定のデバイスとイベントだけを表示するウォッチリストを作成します。 Update Watchlist - 特定のデバイスとイベントだけを表示するウォッチリストを編集します。 Delete Watchlist - ウォッチリストを削除します。

システムメニュー

メインメニュー	サブメニュー	説明
System	User Management	管理者設定を行います。
	System Log	システムログを表示します。
	Options	ログイン方式、SNMP 設定、ポーリング間隔などソフトウェアの動作環境を変更します。
	Workspace	左側のメインメニューの表示 / 非表示を切り替えます。
	Message Space	画面下側にあるメッセージボードの表示 / 非表示を切り替えます。
	Trap Start	トラップを開始します。
	Trap Stop	トラップを終了します。
	Exit	AP Manager II を終了します。
View	General	アクセスポイント、接続するクライアント、アクセスポイントの製品名、無線帯域を表示します。
	Group	アクセスポイントの検出、検出したアクセスポイントを分類し、管理およびモニタします。
	MultiConfiguration	複数のアクセスポイントのコンフィグレーションの管理や同じプロファイルのロードを行うことができます。
	Fault Manager	アクセスポイントから受信したトラップデータとポーリングしたデータを表示します。
	Tool	ネットワークのトポロジマップを作成します。また、ネットワークデバイスに定期的にポーリングしてステータスをモニタリングします。
	Report	管理アクセスポイントと接続するクライアントステーションの表示、モニタリング、システムログなどの情報の表示を行います。
NetTool	Scan	ScanAP を起動して、アクセスポイントの RF 情報を収集します。
Help	Help Topics	機能のヘルプを表示します。
	About AP Manager II...	アクセスポイントのモジュールに関する情報を表示します。

第3章 基本的なアクセスポイントの管理

- デバイスの検索
- Group (管理アクセスポイントのグループ化)

デバイスの検索

同じサブネットワーク内の検索

AP Manager II を使用してアクセスポイントの管理およびモニタリングを行う前に、アクセスポイントのリストを作成する必要があります。ここでは、ご使用の LAN において検出処理を使用して自動的にアクセスポイントを検索することができます。

検索を開始するためには、**Group** メニューをクリックし、以下のように画面右側のいずれかを右クリックして表示されるプルダウンメニューから「Discover」を選択します。

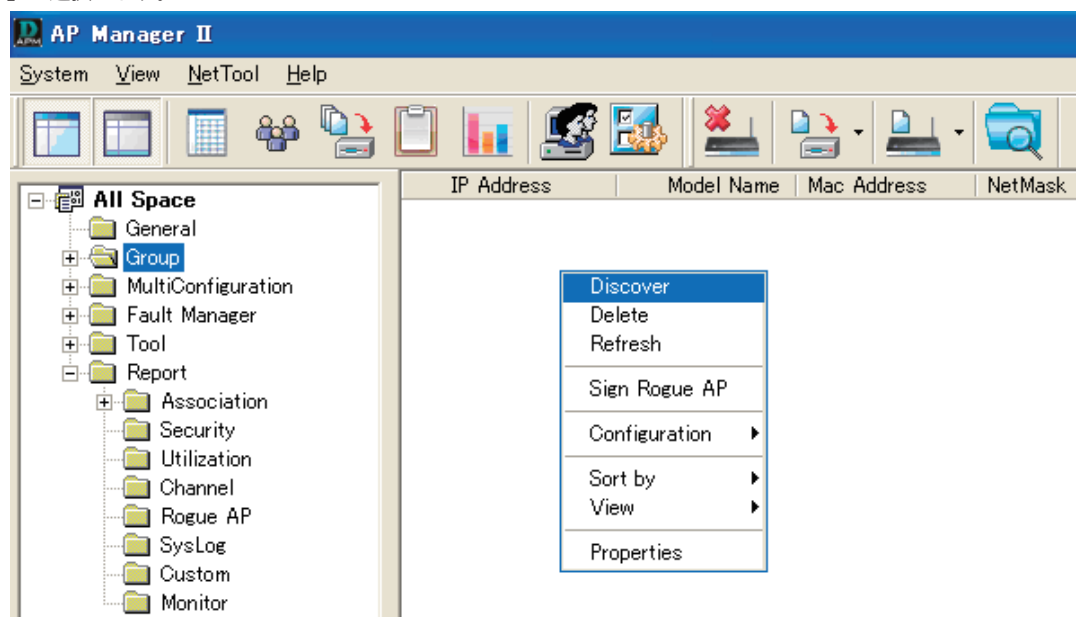


図 3-1 Group 画面 - Discover

以下のダイアログ画面がデイスカバリ処理中に表示されます。

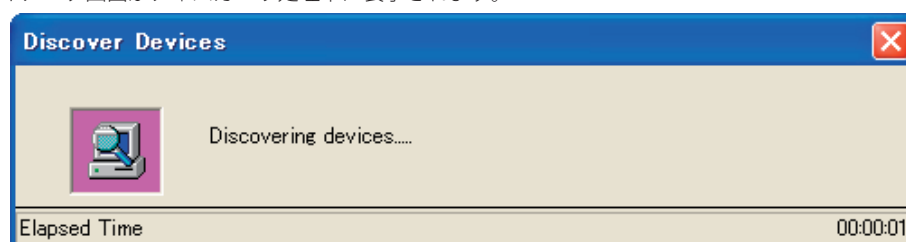


図 3-2 Discover Devices 画面

検索の最後に、本画面はクローズし、検出されたいずれかのアクセスポイントが **Group** ビュー画面に追加されます。

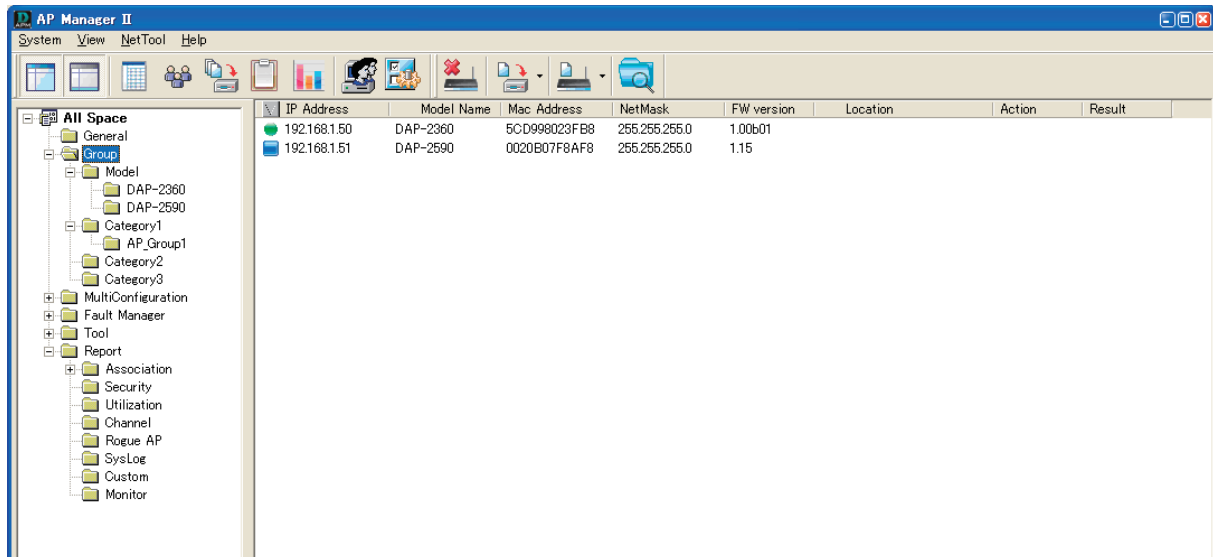


図 3-3 Group 画面 - 結果

検出されたすべてのアクセスポイントが、そのタイプごとにアイコンとして追加されます。

アイコン	説明
	新しく検出されたアクセスポイント
	管理されるアクセスポイント
	アクセスポイントには ping できませんが、IP を変更できます。
	アクセスポイントがオフライン、または SNMP エンジンがオフです。
	アクセスポイントは、不正な AP として指定されます。アクセスポイントがオンラインで SNMP エンジンがオープンな状態の場合、デバイスは、アクセスポイントを右クリックすることによって不正アクセスポイントとして指定されます。また、プルダウンメニューから「Sign Rouge AP」項目を選択することができます。

詳細な検索

標準的な検索機能は同じサブネットワークにあるアクセスポイントを検出するだけです。本機能では、他のネットワークセグメント内のアクセスポイントの検出、または IP アドレス範囲を指定した検索ができます。

Group メニューをクリック後、ツールバーの アイコンをクリックし、プルダウンメニューから「Advanced Discover」を選択して、以下の画面を表示します。

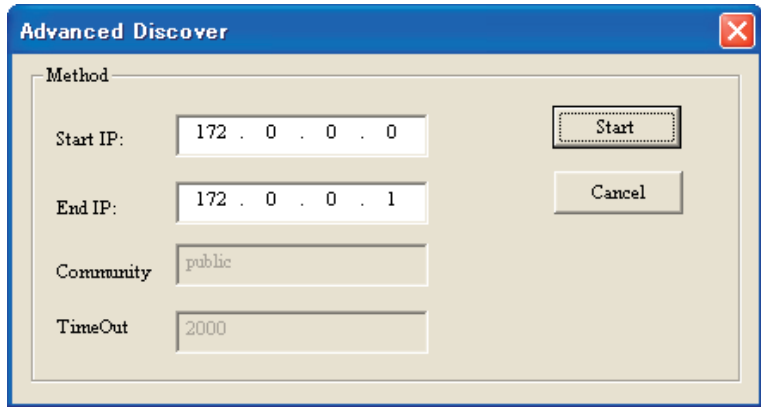


図 3-4 Advanced Discover 画面

「Start IP」（開始 IP） / 「End IP」（終了 IP）を入力し、次に「Start」ボタンをクリックして、この IP 範囲で AP Manager II が管理可能なアクセスポイントを検出します。

Access Point Report タブ（アクセスポイントリストの表示）

AP Manager II が検出したアクセスポイントの現在のリストを表示します。

General > Access Point タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

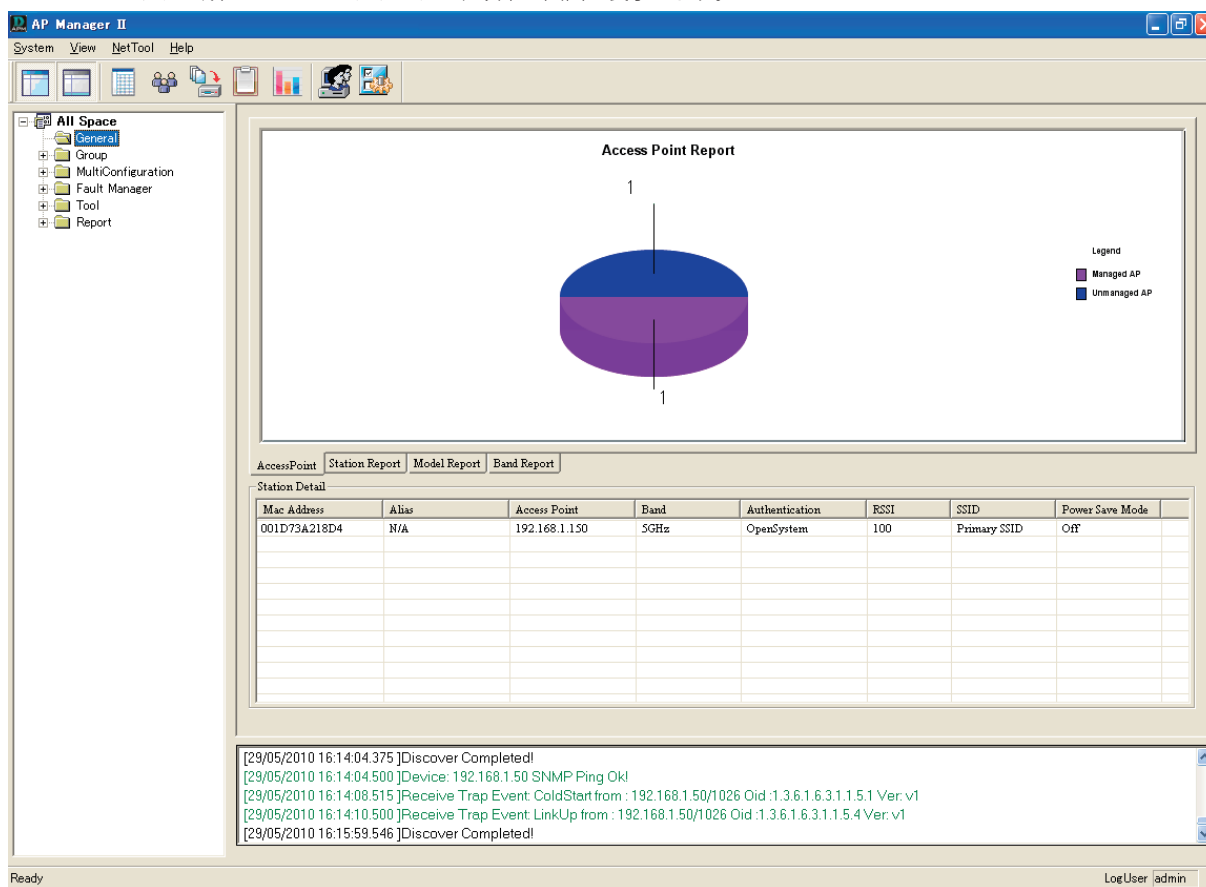


図 3-5 Access Point Report 画面

これらのアクセスポイントは、「Managed AP」（管理されるアクセスポイント）と「Unmanaged AP」（管理されないアクセスポイント）に分けられて、結果が図示されます。「Managed AP」は、「Station Detail」セクションに表示されます。

Station Detail（ステーションの詳細）セクション

「Station Detail」テーブルでは、管理されるアクセスポイントに接続するすべてのステーションの情報を表示します。

Station Detail							
Mac Address	Alias	Access Point	Band	Authentication	RSSI	SSID	Power Save Mode
000D0BE980F3	N/A	192.168.1.50	802.11g	OpenSystem	18	Primary-SSID	Off
001D73A218D4	N/A	192.168.0.50	5GHz	OpenSystem	100	Primary SSID	Off

図 3-6 Station Detail 画面

以下の項目が表示されます。

項目	説明
Mac Address	MAC アドレスを表示します。
Alias	エイリアスを表示します。
Access Point	アクセスポイントの IP アドレスを表示します。
Band	無線帯域を表示します。
Authentication	認証タイプを表示します。
RSSI	受信信号強度を表示します。
SSID	SSID を表示します。
Power Save Mode	省電力モードを表示します。

クライアントの切断

「Station Detail」テーブルからアクセスポイントから接続するクライアントステーションを切断することができます。

アクセスポイントからステーションを切断するためには、「Station Detail」内のステーションを右クリックして、プルダウンメニューから「Kick off」を選択します。

エイリアスの作成

より適切な識別のために関連ステーションにタグを付与することができます。エイリアスを作成するためには、「Station Detail」内のステーションを右クリックして、プルダウンメニューから「Alias」を選択します。

エイリアス管理画面では、エントリをダブルクリックし、次にエイリアスを入力して以下の画面を表示します。

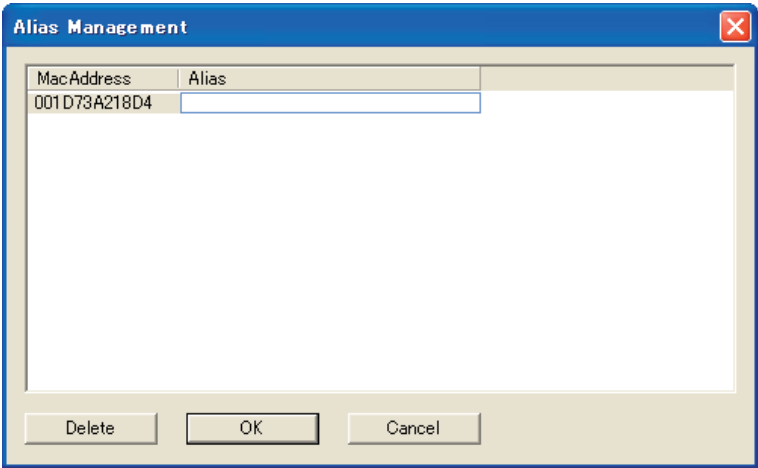


図 3-7 エイリアスの作成 画面

「Station Report」テーブル下のメッセージボードに、AP Manager II と管理アクセスポイント間における SNMP レポートの交換がリアルタイムに表示されます。

Station Report タブ（接続する無線クライアントの表示）

接続する無線ステーションを図示します。

General > Station Report タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

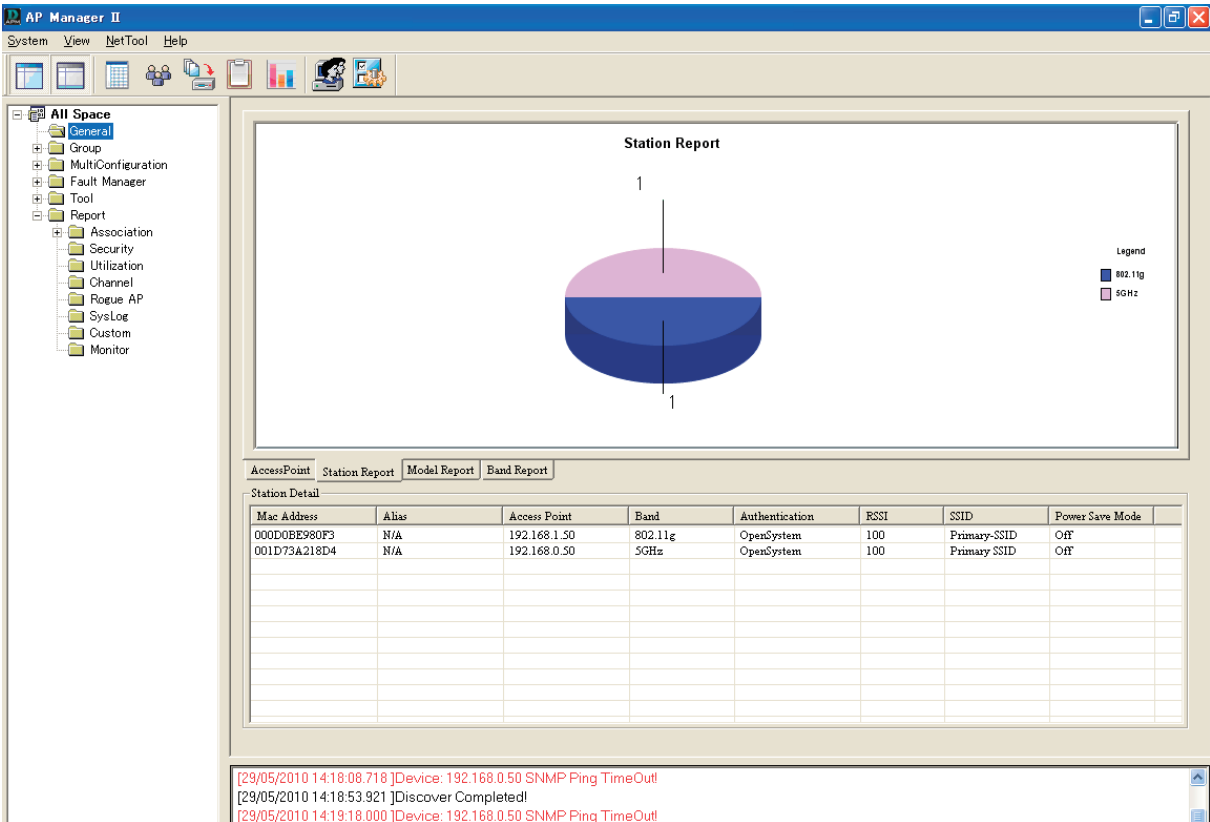


図 3-8 Station Report 画面

無線帯域ごとにステーション进行分类して、各帯域のステーション数を表示します。

Model Report タブ（管理モデルの表示）

AP Manager II が検出し、現在、管理しているモデルの数の分布を図示します。

General > Model Report タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

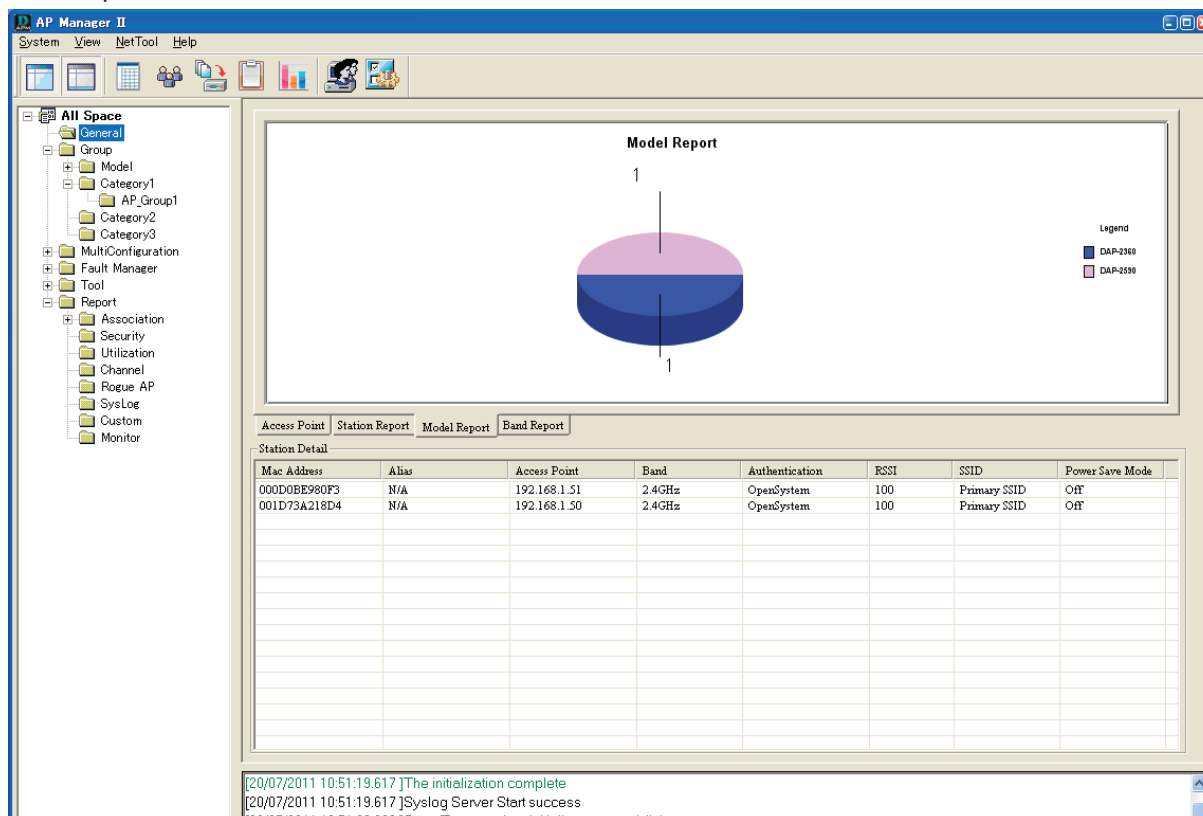


図 3-9 Model Report 画面

Band Report タブ（無線帯域の表示）

現在 AP Manager II が管理しているアクセスポイントが使用する WLAN 帯域（802.11a、802.11b/802.11g、および 802.11b/g/n）の分布を図示します。すべての帯域のアクセスポイント数を表示します。

General > Band Report タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

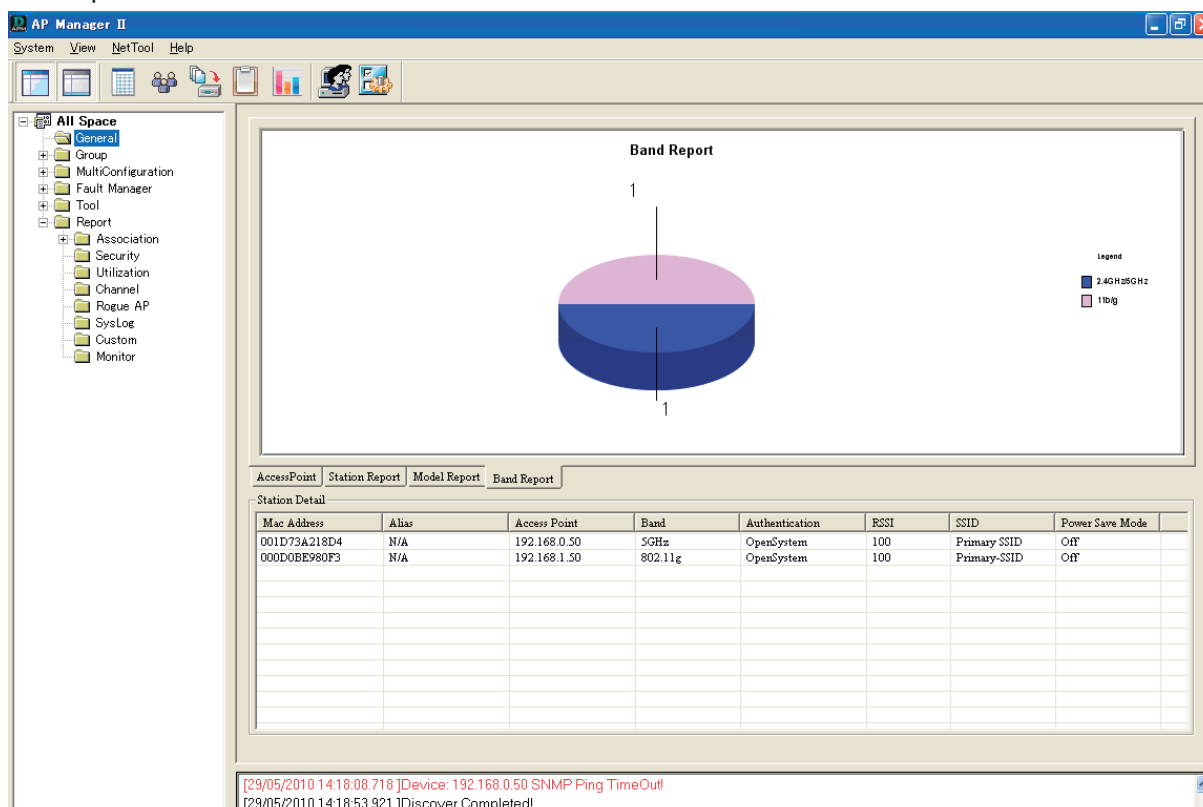


図 3-10 Band Report 画面

Group（管理アクセスポイントのグループ化）

AP Manager II が検出し、現在管理中のアクセスポイントを表示します。これらのアクセスポイントの分布をより視覚化しやすいようにモデル、または、カテゴリに分類することができます。

AP Manager II は、D-Link アクセスポイントのいくつかのモデルをモニタまたは管理することができます。モデルはプラグイン形式で AP Manager II のインストールフォルダにインストールされて、サポートしているモデルを柔軟に追加または削除できます。

ディスクバリ処理中に検出されるアクセスポイントは、AP Manager のメイン画面に表示されます。

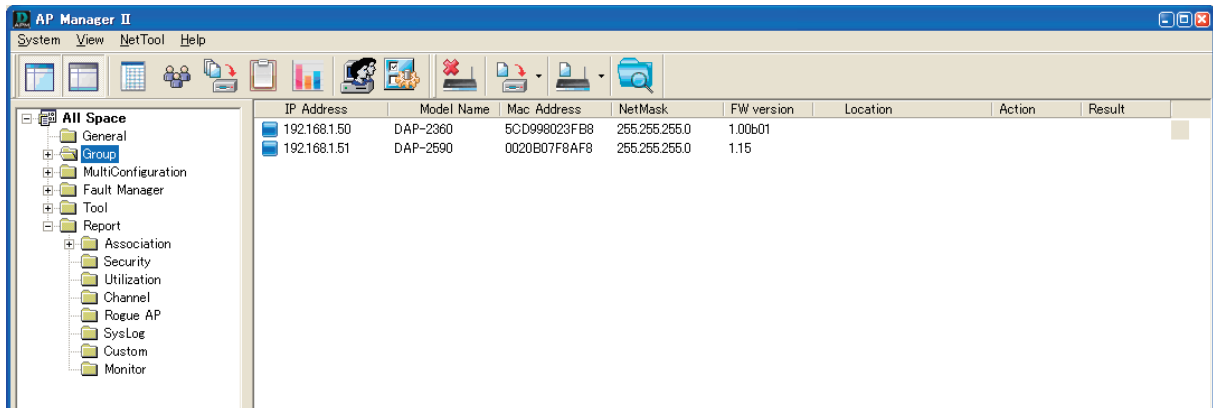


図 3-11 Group 画面

画面からアクセスポイントを削除するためには、対象のアクセスポイントを指定し、右クリックメニューから「Delete」を選択します。

Configuration（設定）

AP Manager II が検出したどのアクセスポイントも、アクセスポイントのアイコン上で右クリックすることで設定することが可能で、「Group」またはカテゴリに表示されます。

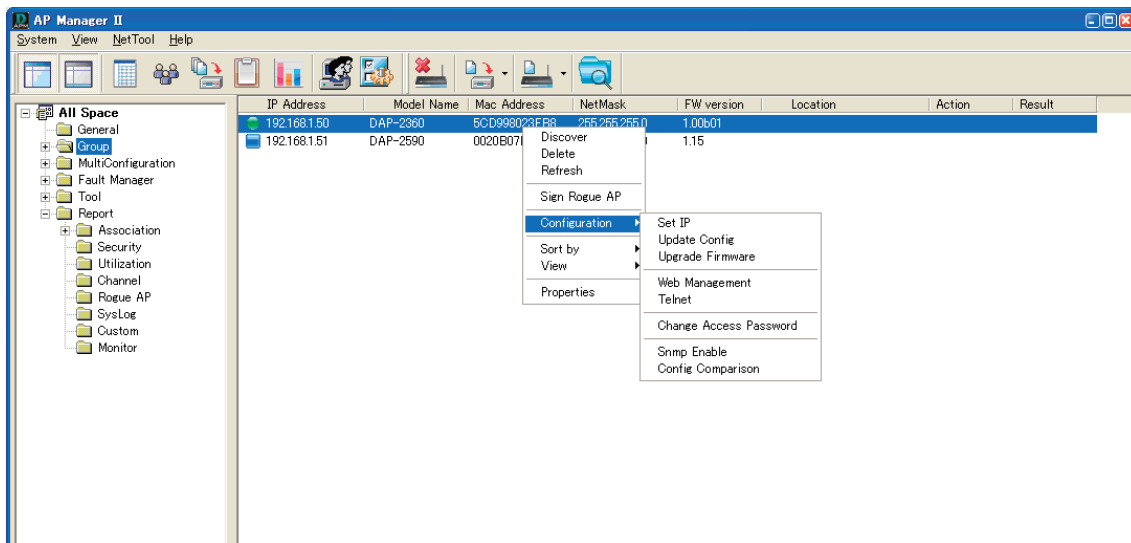


図 3-12 Configuration 画面

「Configuration」メニューでは、「Set IP」、「Update Config」、「Upgrade Firmware」、「Web Management」、「Telnet」、「Change Access Password」、「Snmp Enable」および「Config Comparison」を選択することができます。各メニューオプションについては、次に説明します。

Set IP (IP アドレスの設定)

選択したアクセスポイントの IP アドレスを手動で設定します。AP Manager II が検出した各アクセスポイントに、新しい IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを割り当てることができます。

該当デバイスの「Set IP」を選択すると、以下のダイアログが表示されます。

The image shows a 'Set IP' dialog box with a blue title bar and a red close button. It contains three input fields for IP configuration: 'IP Address' with values 192, 168, 0, 50; 'Subnet Mask' with values 255, 255, 255, 0; and 'Default Gateway' with values 0, 0, 0, 0. Below these fields are 'OK' and 'Cancel' buttons. At the bottom, there is a 'Get gateway done' button and a 'SCRL' button.

図 3-13 Set IP 画面

該当する欄に新しい IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

	IP Address	Model Name	Mac Address	NetMask	FW version	Location	Action	Result
<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.50	DAP-2360	5CD998023FB8	255.255.255.0	1.00b01		Reset	3%
<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.51	DAP-2590	0020B07F8AF8	255.255.255.0	1.15			

図 3-14 Station Detail 画面

「Action」列では実行している操作を示します。例えば「Set IP」、「Reset」、「Password Error」、「Time out!」、および「Update F/W」などで、「Result」列では結果（「OK」、「unsuccess」など）と実行の状況（%）を表示します。同時に、複数デバイスの IP アドレスを設定できます。

操作が失敗した場合、デバイスと AP Manager II が論理的に接続されているか、ユーザ名とパスワードが正しいかをチェックしてください。より詳しい情報については、「[Change Access Password \(パスワードの設定\)](#)」(26 ページ)を参照してください。

選択したアクセスポイントの IP アドレスが設定されると、本画面はクローズし、「Group」画面に表示される IP アドレスおよびネットマスク情報は更新が反映されます。

Update Config（コンフィグレーションの更新）

コンフィグレーションファイルの設定や表示を行います。デバイスのコンフィグレーションを更新するためには、更新するアクセスポイント用の新しい画面をオープンして設定を行いますが、「Apply」または「Save」ボタンをクリックしてはじめて設定は有効になります。

該当デバイスの「Update」メニューをクリックするか、または該当デバイスをダブルクリックして、以下の画面を表示します。

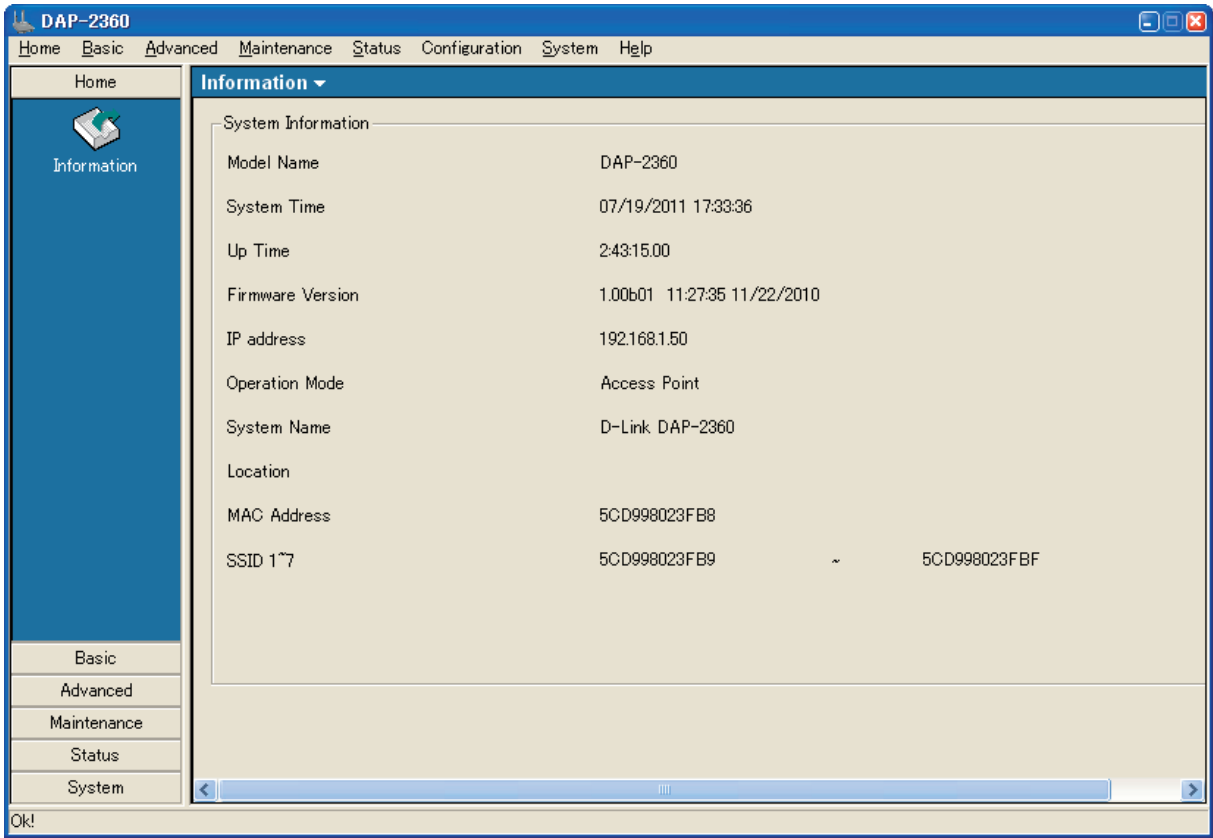


図 3-15 Information 画面

選択デバイスにコンフィグレーション設定を適用する場合は、各ページの「Apply」または「Save」ボタンをクリックします。

注意 アクセスポイントのコンフィグレーションの更新に関するより詳しい情報については「[第 4 章 アクセスポイントの設定](#)」（32 ページ）を参照してください。

Upgrade Firmware（ファームウェアの更新）

AP Manager II が検出した各アクセスポイントに新しいファームウェアをアップロードすることができます。

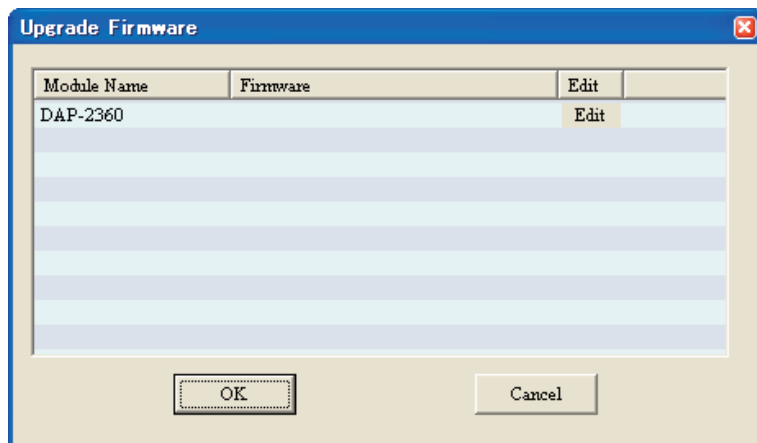


図 3-16 Upgrade Firmware 画面

1. 「Edit」ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。

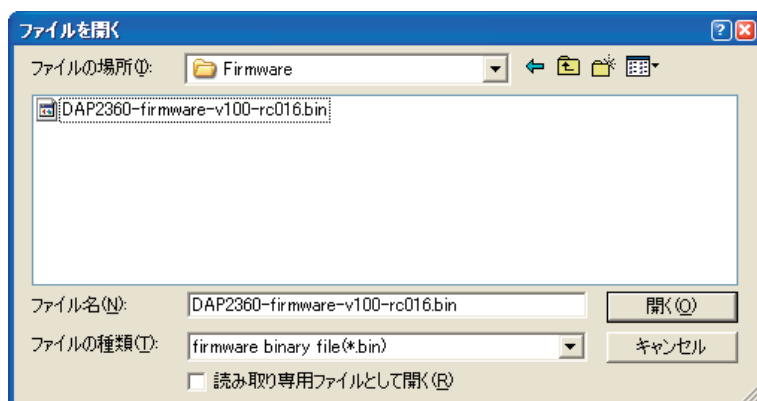


図 3-17 ファイルを開く画面

2. 更新するファームウェアファイルを指定し、「開く」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

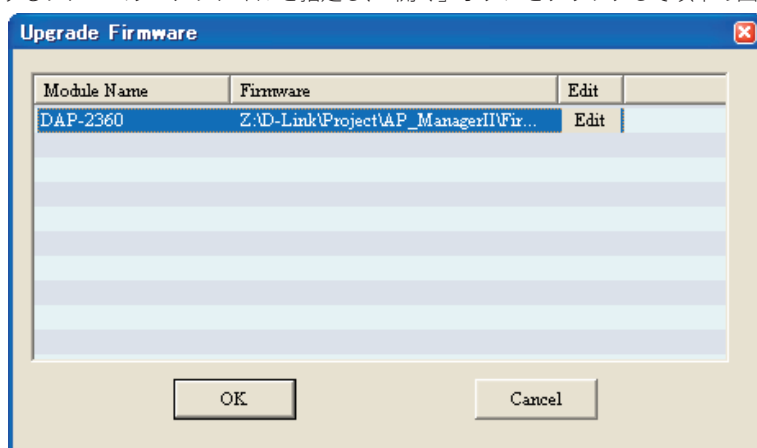


図 3-18 Upgrade Firmware 画面

3. 「OK」ボタンをクリックすると以下の画面が表示され、ファームウェアをアップロードします。

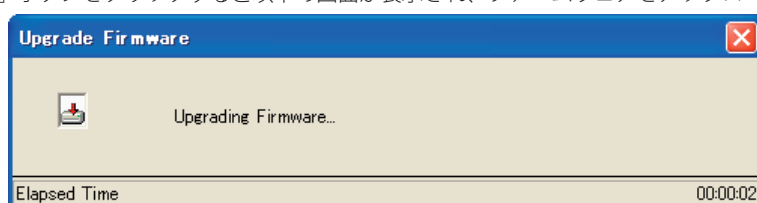


図 3-19 Upgrade Firmware 画面

選択したアクセスポイントのファームウェアが更新されると、本画面はクローズし、「Group」画面内に表示されるファームウェア情報は更新されます。

Web Management (Web 管理)

プルダウンメニューから「Web Management」を選択すると、ご使用の PC の Web ブラウザがオープンし、自動的に選択されたアクセスポイントの IP アドレスが指示されます。これによりアクセスポイントに実装されている Web ベースマネージャにアクセスすることができます。

以下のように各製品のログイン画面に接続します。

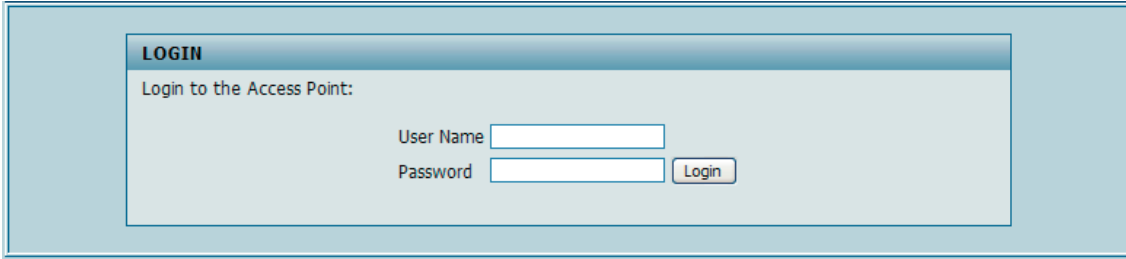


図 3-20 ログイン画面

ここで適切なユーザ名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

ご使用の PC の Web ブラウザがオープンし、アクセスポイントの IP アドレスがアドレス欄に入力され、実装された Web ベースマネージャを使用してアクセスポイントを設定することができます。AP Manager II によって始動されたアクセスポイントの Web マネージャの使用方法是各製品の Web マネージャと同じです。

Telnet (Telnet 接続)

プルダウンメニューから「Telnet」を選択すると、ご使用の PC のコマンドラインインタフェースがオープンし、自動的に選択されたアクセスポイントの IP アドレスが指定されます。これによりアクセスポイントに実装されている Telnet CLI マネージャにアクセスすることができます。最初に Telnet のコンソール画面が表示されます。

以下の通り、ここで適切なユーザ名とパスワードを入力し、「Enter」キーを押します。

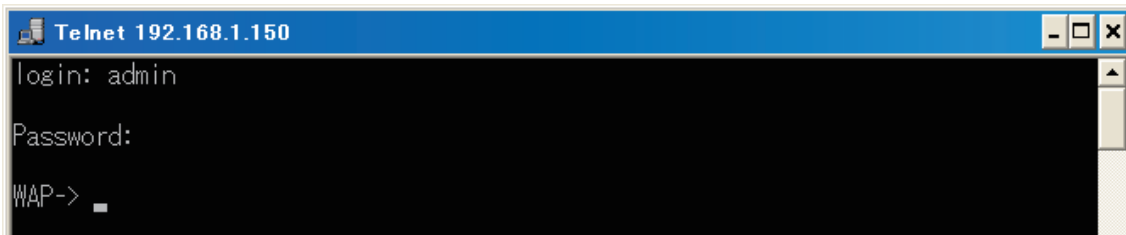


図 3-21 Telnet 画面

Change Access Password (パスワードの設定)

「Change Access Password」オプションを選択すると、既に設定済みのアクセスポイントに新しいログインパスワードを設定することができます。

以下の画面が表示されます。

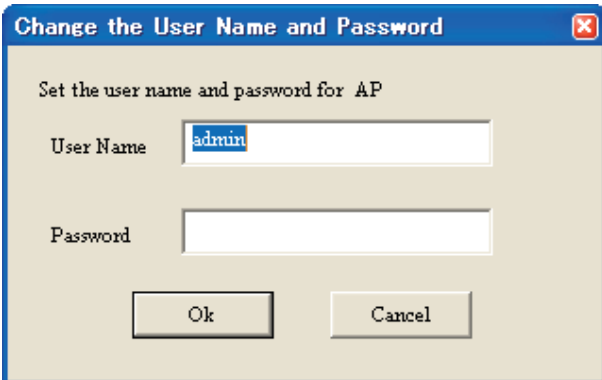


図 3-22 Change Access Password 画面

新しいパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。

注意 ユーザ名とパスワードは Web ログイン時に入力したものと一致する必要があります。一致しないと、「Set IP」機能でエラーになります。

SNMP Enable (SNMP 有効化)

プルダウンメニューから「Snmp Enable」を選択すると、アクセスポイントに既に設定済みの SNMP 機能を有効にすることができます。

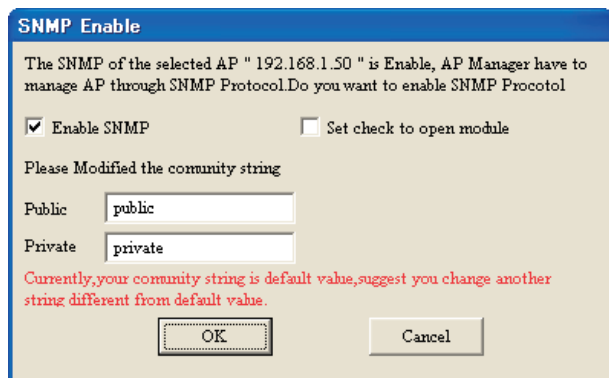


図 3-23 SNMP Enable 画面

「Enable SNMP」ボックスをチェックして、「OK」ボタンをクリックします。

注意 Public/Private テキストボックス内の文字列「public」および「private」は変更できます。

Config Comparison (コンフィグレーションの比較)

コンフィグレーションファイルの内容を比較します。

はじめに比較するデバイスを 2 つ選択し、「Config Comparison」メニューをクリックします。

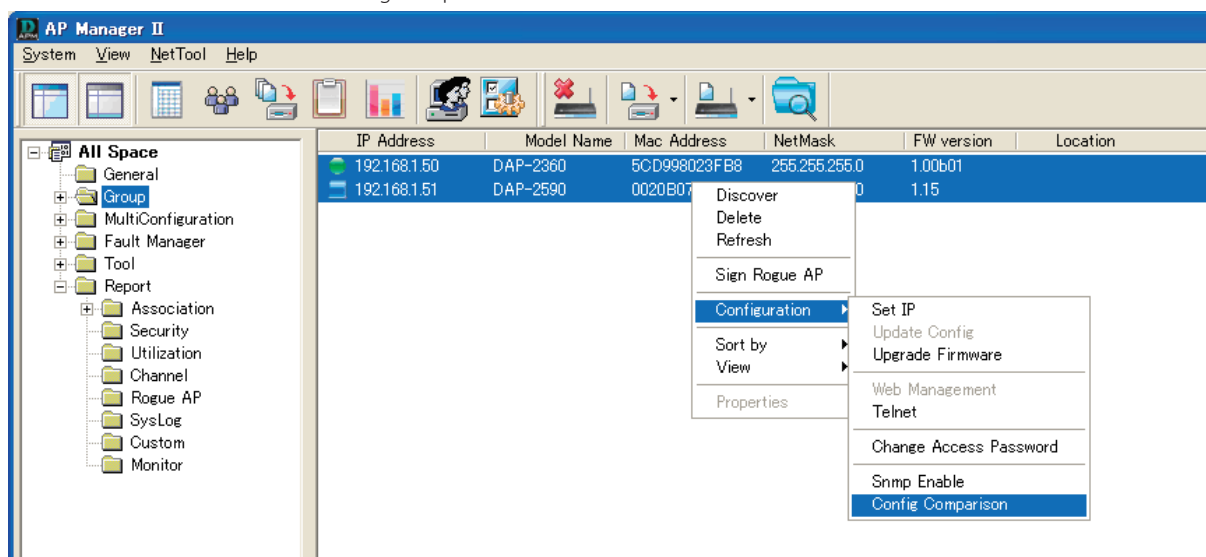


図 3-24 Config Comparison 画面 - デバイスの選択

以下のような比較結果が画面に表示されます。

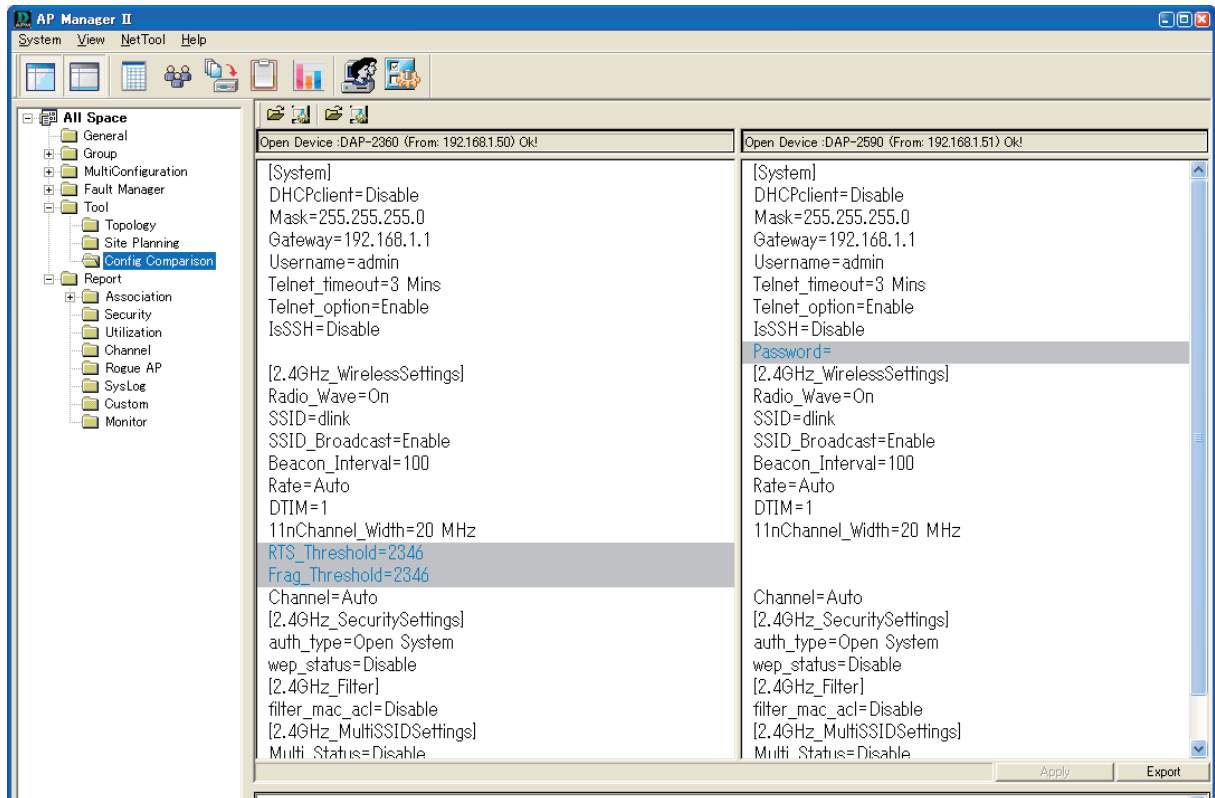


図 3-25 Config Comparison 画面 - 結果

参照 Tool > Config Comparison から也表示できます。

Sort by (ソート)

AP Manager II が検出したアクセスポイントを IP アドレス、ロケーション、またはステータスごとにソートすることができます。必要に応じて「Group」画面のいずれかの場所をダブルクリックし、ソートする条件を選択します。

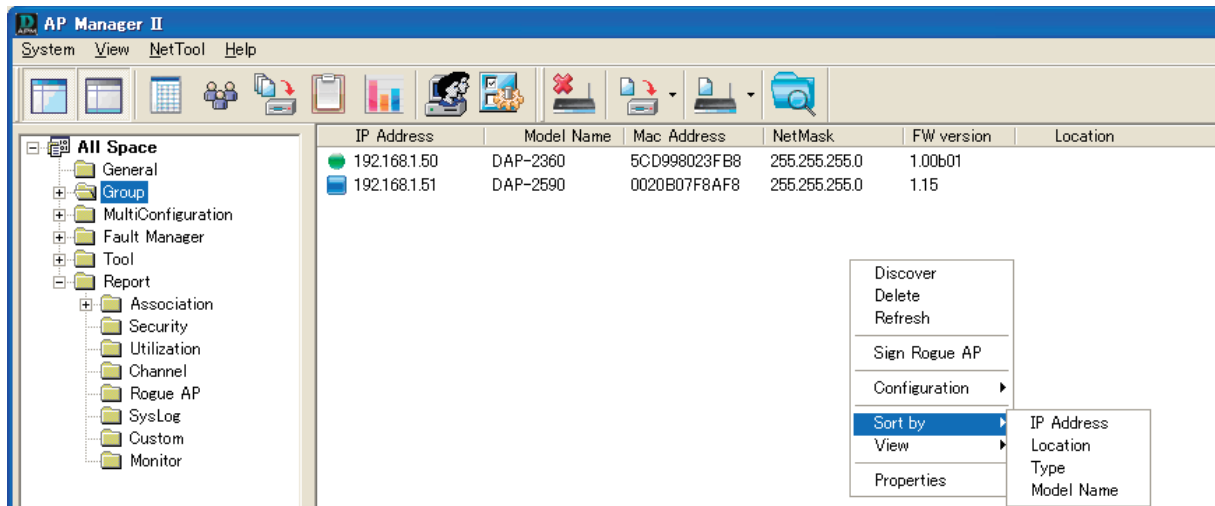


図 3-26 Sort By 画面

ソートのタイプは以下の通りです。

項目	説明
IP Address	IP Address 欄でソートします。
Location	Location 欄でソートします。
Type	指定したアクセスポイントのタイプでソートします。タイプは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none">Unmanaged - 未管理Managed - 管理Rogue AP - 不正なアクセスポイント
Model Name	アクセスポイントのモデル名でソートします。

アクセスポイントのグループ化

アクセスポイントを異なるグループに分類することができます。また、新しいグループを作成することもできます。

1. 新しいグループを作成するためには、「Group」の3つのサブカテゴリ（Category 1、Category 2、または Category 3）の1つを右クリックして、プルダウンメニューから「Create Group」を選択します。

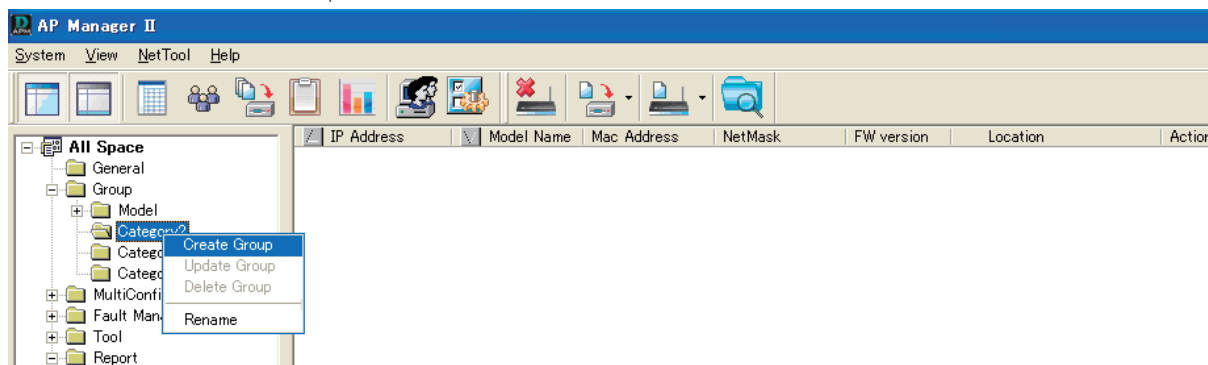


図 3-27 Create Group メニュー画面

2. 以下の画面を表示されます。

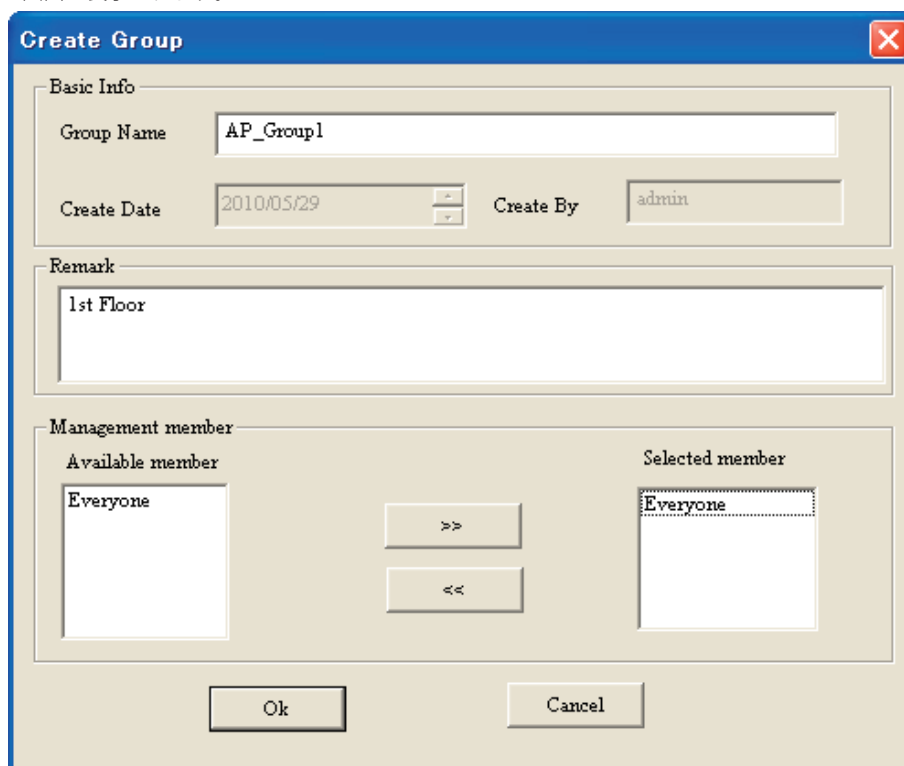


図 3-28 Create Group 画面

グループ新規作成画面では、「Group Name」に説明文を入力し、「Manager member」セクションのメンバを選択後、「OK」ボタンをクリックして、新しいグループを作成します。

3. 以下の通り、メイングループ画面リストからカテゴリのサブ項目に作成したグループまでアクセスポイントをドラッグすることによって、サブグループにアクセスポイントを追加します。

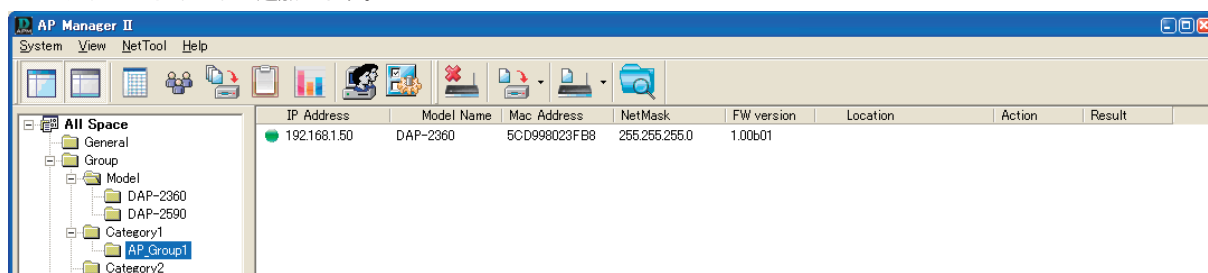



図 3-29 Category View 画面

アクセスポイントのタイプは「Managed」に変更され、アイコンは  に変更されます。

View（参照）

「Group」画面の右クリックメニューから「View」メニューを選択することにより AP Manager II によって検出されたアクセスポイントリストを表示する方法を変更します。

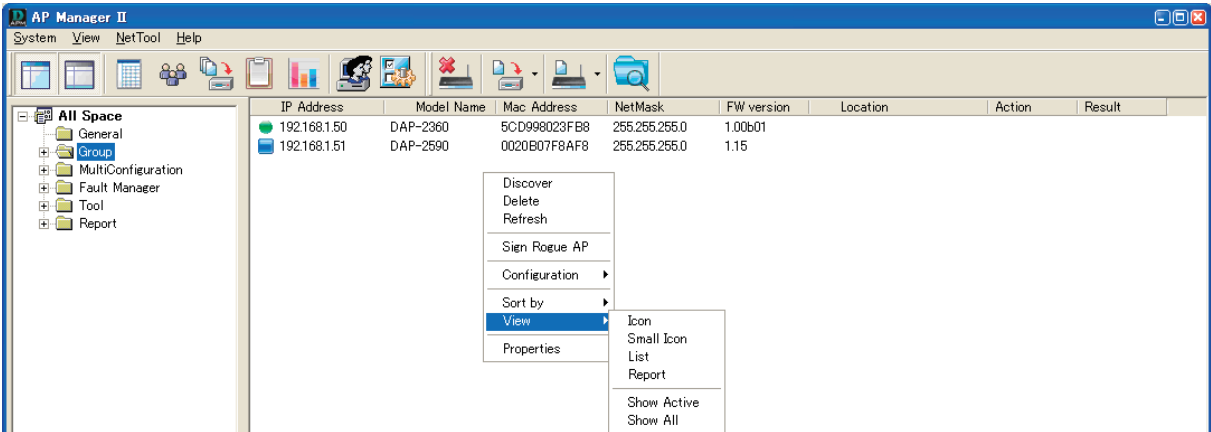


図 3-30 Group View 画面

「Icon」メニューによる表示

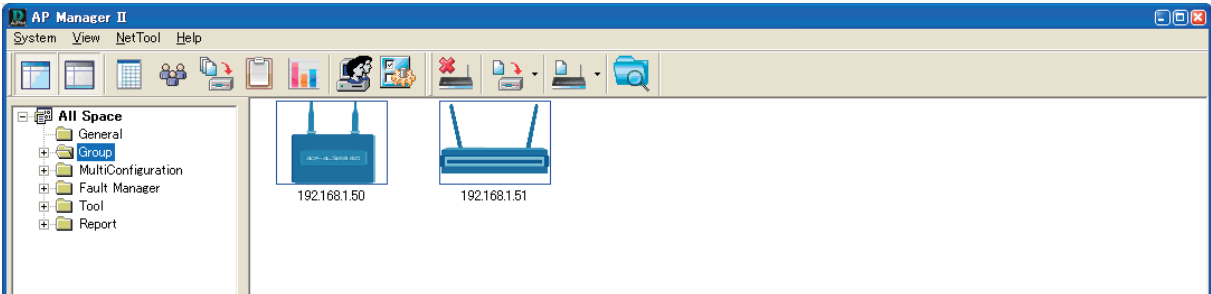


図 3-31 Group View 画面 - Icon メニュー

「Small Icon」メニューによる表示

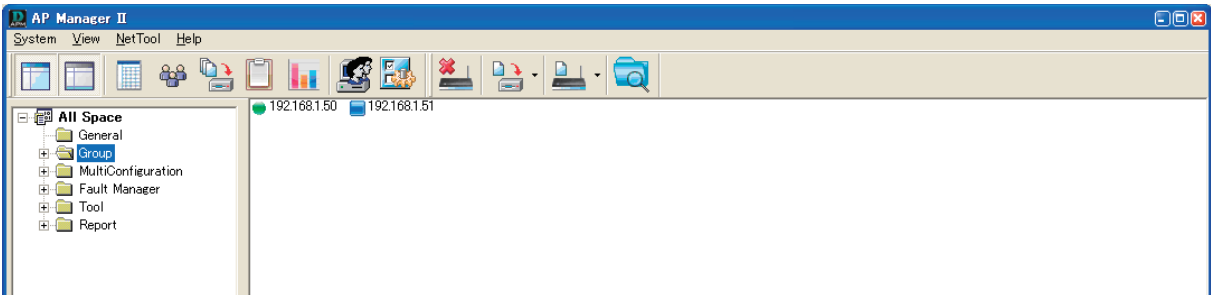


図 3-32 Group View 画面 - Small Icon メニュー

「List」メニューによる表示

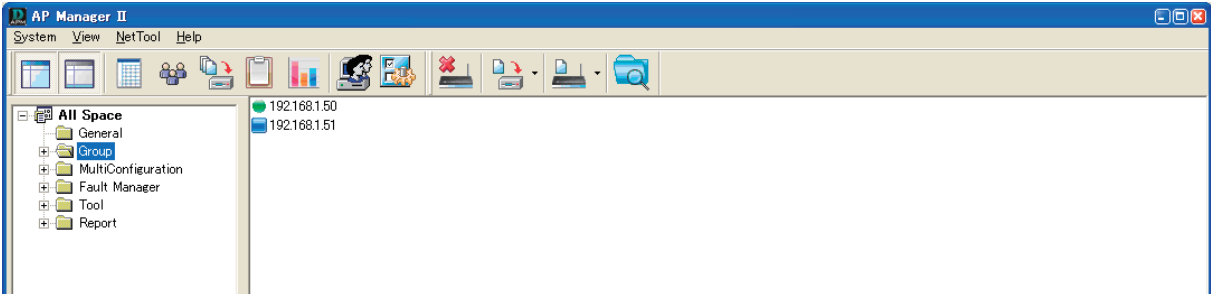


図 3-33 Group View 画面 - List メニュー

「Report」メニューによる表示

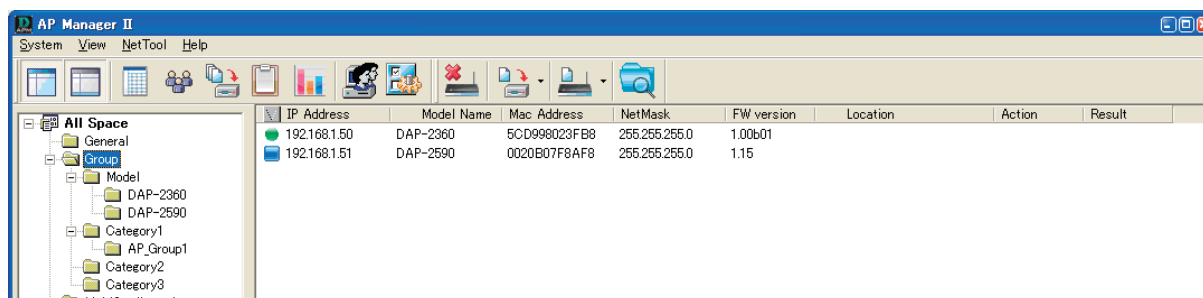


図 3-34 Group View 画面 - List メニュー

各メニューの内容は以下の通りです。

メニュー	説明
Icon	アクセスポイントのアイコンで表示します。
Small Icon	小さいアイコンで表示します。
List	リスト表示します。
Report	詳細情報を表示します。
Show Active	アクティブなアクセスポイントを表示します。
Show All	すべてのアクセスポイントを表示します。

Properties (プロパティ)

「Group」画面のアクセスポイントを右クリックメニューから「Properties」メニューを選択することによりプロパティを参照することができます。

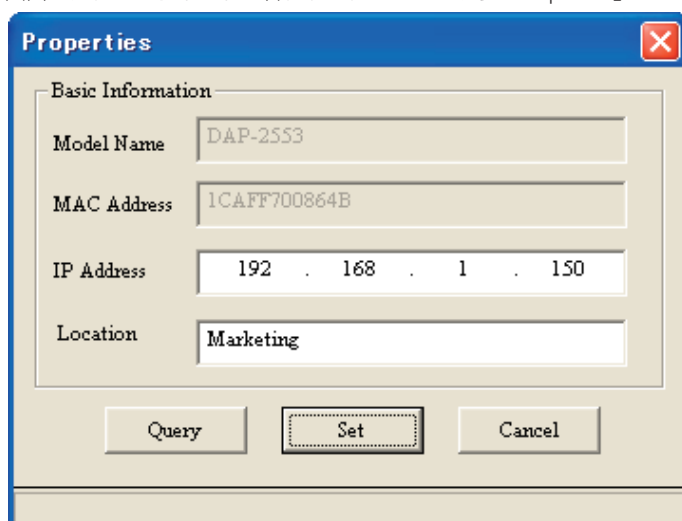


図 3-35 Properties 画面

「Location」欄にアクセスポイントの説明文を入力し、「Set」ボタンをクリックして変更することができます。

第 4 章 アクセスポイントの設定

- Home (ホーム)
- Basic (基本設定)
- Advanced (詳細設定)
- Maintenance (メンテナンス設定)
- Status (ステータスの表示)
- System (システム設定)
- Help (ヘルプ表示)

デバイスのコンフィグレーションを更新するためには、更新するアクセスポイント用の新しい画面をオープンして設定を行います。 「Apply」 または 「Save」 ボタンをクリックしてはじめて設定は有効になります。 また、本画面を使用して、コンフィグレーションファイルの保存や復元を行います。 「Group」 画面のデバイスをダブルクリックするか、または右クリックメニューでの 「Configuration」 から 「Update Config」 をクリックします。

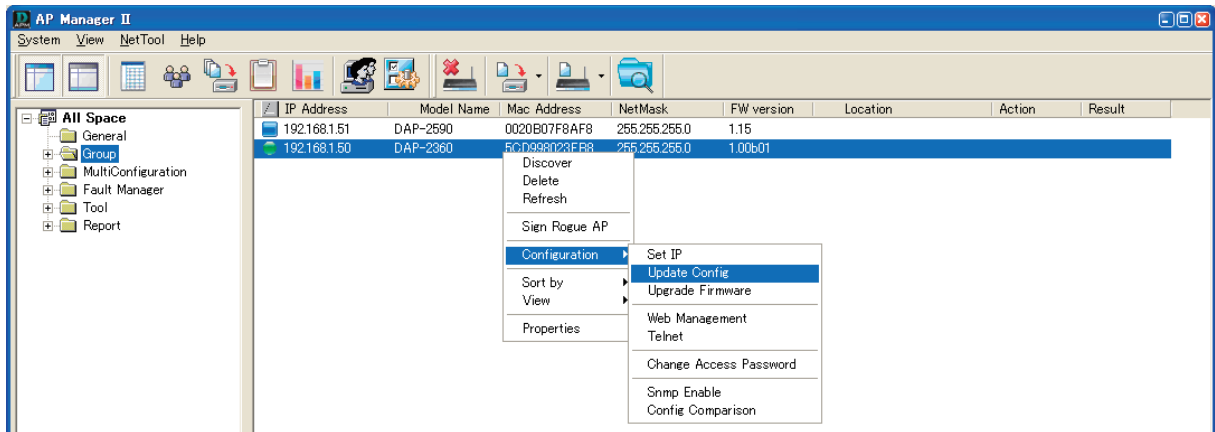



図 4-1 Update Config メニュー画面 - メインメニュー

または、 アイコンメニューから 「Update Config」 をクリックします。

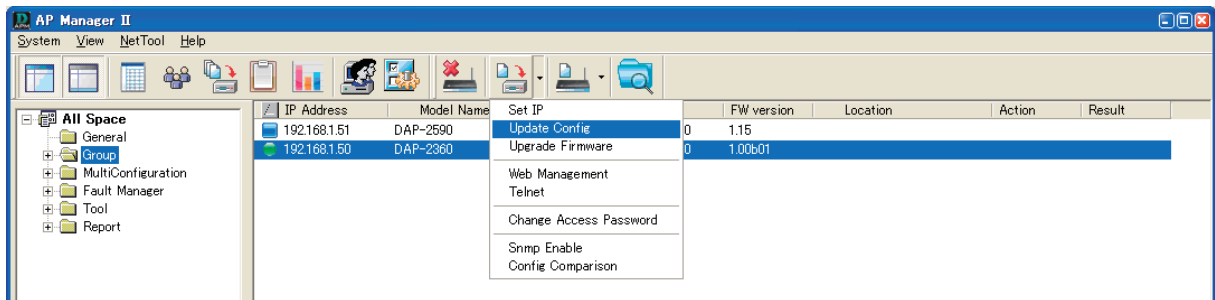


図 4-2 Update Config メニュー画面 - アイコンメニュー

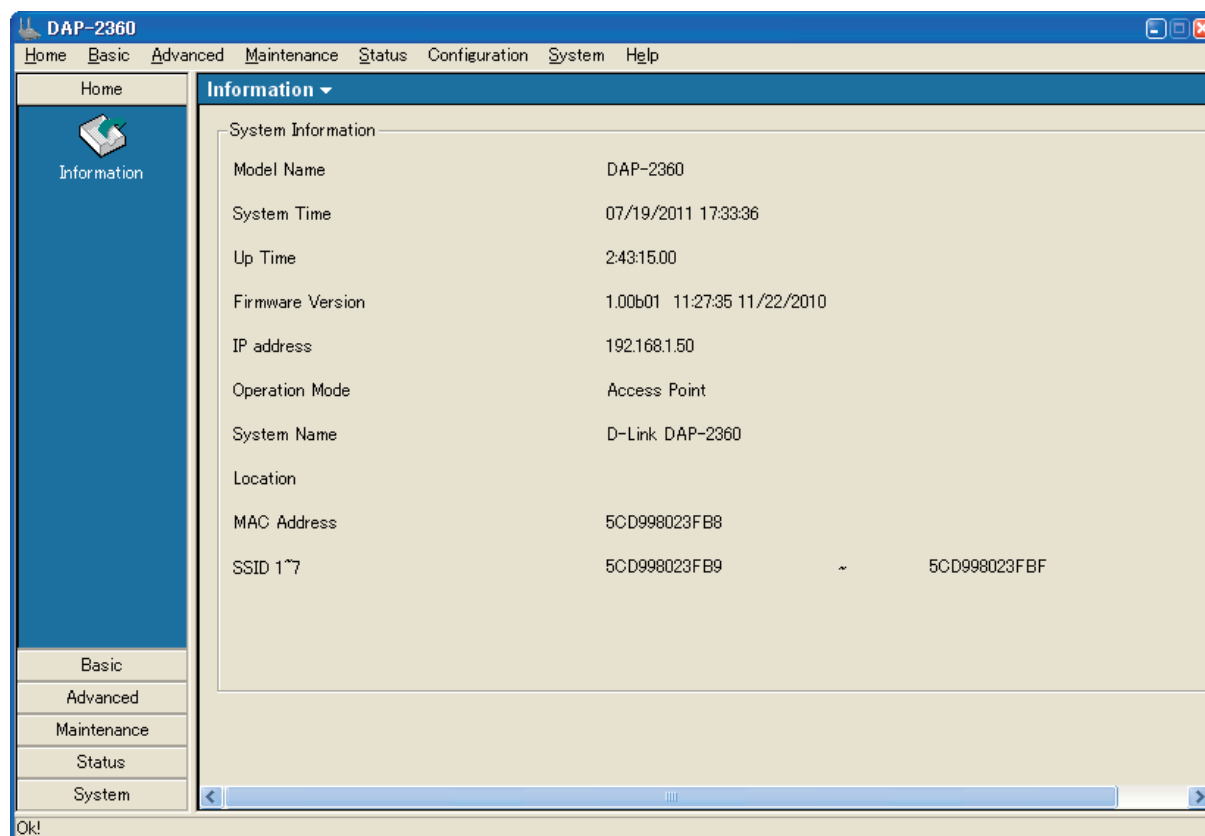


図 4-3 Home 画面例

画面左側のメニューを使用してアクセスポイント設定を操作します。本メニューには「Home」、「Basic」、「Advanced」、「Maintenance」、「Status」、および「System」があります。以下のページでは、それらのメニューについて詳しく説明します。

注意 Web ブラウザの種類 / バージョンによってはスクロールバーがうまく表示されない場合があります。お使いの Web ブラウザの変更 / バージョンアップを行い、再度確認してください。

Home（ホーム）

Information（製品の情報）

アクセスポイントに関する基本的な設定情報を表示します。

Home > Information の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

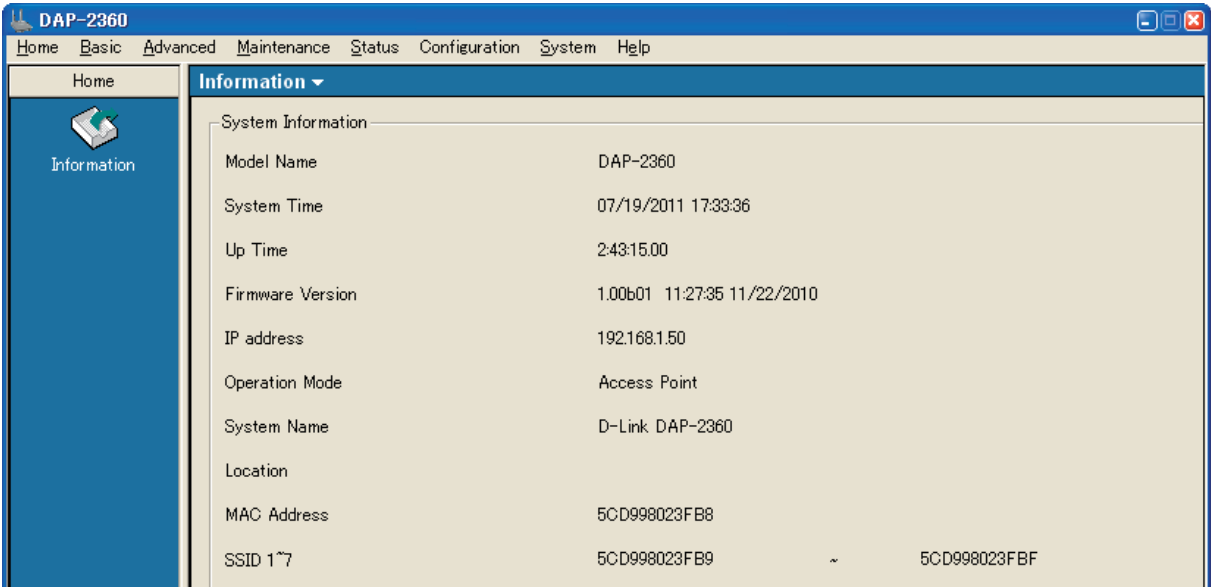


図 4-4 Information 画面例 1

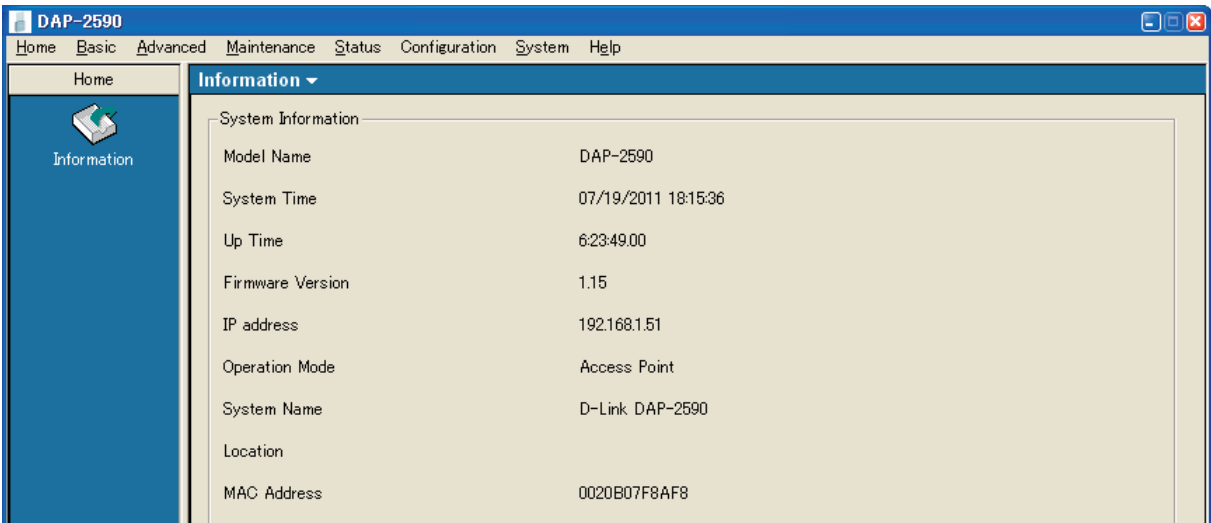


図 4-5 Information 画面例 2

画面には以下の情報が表示されます。

項目	説明
Model Name	モデル名を表示します。
System Time	システム時間を表示します。
Up Time	システムの稼働時間を表示します。
Firmware Version	ファームウェアバージョンを表示します。
IP address	IP アドレスを表示します。
Operation Mode	アクセスポイントの接続モードを表示します。
System Name	システム名を表示します。
Location	ロケーションを表示します。
MAC Address	MAC アドレスを表示します。
SSID	SSID を表示します。

AP Manager II をシングルバンドアクセスポイント、およびデュアルバンドアクセスポイントに使用する場合には表示に違いがあります。本書では、802.11g と 802.11n の設定について説明します。

Basic（基本設定）

Wireless（無線設定）

アクセスポイントの無線設定を行います。

Basic > Wireless の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

DAP-2360

Home Basic Advanced Maintenance Status Configuration System Help

Home Basic Wireless LAN

Wireless

Wireless Band: 2.4GHz

Mode: Access Point

Network Name (SSID): dlink

SSID Visibility: Enable

Channel Width: 20 MHz

Channel: 11 ☒ Auto Channel Selection

Authentication: Open System

Key Settings

Encryption: Disable Key Size: 64 Bits

Valid Key: First Key Type: HEX

Network Key:

Confirm Key:

Save

Refresh OK!

図 4-6 Wireless 設定 画面例 1

DAP-2590

Home Basic Advanced Maintenance Status Configuration System Help

Home Basic Wireless LAN

Wireless

Wireless Band: 5GHz

Application: Concurrent 11a/n on W52/W53/W56 for indoor

Mode: Access Point

Network Name (SSID): dlink

SSID Visibility: Enable

Channel Width: 20 MHz

Channel: 120 ☒ Auto Channel Selection

Authentication: Open System

Key Settings

Encryption: Disable Key Size: 64 Bits

Valid Key: First Key Type: HEX

Network Key:

Confirm Key:

Save

Refresh OK!

図 4-7 Wireless 設定 画面例 2

アクセスポイントの設定

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Band	設定する無線帯域を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> IEEE 802.11g - IEEE 802.11g の場合に選択します。 2.4GHz - IEEE 802.11a/b/g の場合に選択します。 5GHz - IEEE 802.11a/n の場合に選択します。
AP Mode / Mode	アクセスポイントモード（Access Point、WDS with AP および WDS）を選択します。また、IEEE 802.11n アクセスポイントでは、さらに Wireless Client モードも含まれます。
Network Name (SSID)	無線 LAN の識別子です。
SSID Broadcast SSID Visible / SSID Visibility	SSID のネットワーククライアントへのブロードキャストを「Disable」（有効）/「Enable」（無効）にします。初期値は有効です。
Channel Width	運用するチャンネル帯域を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 20MHz - 802.11n 無線クライアントを使用していない場合に選択します。 Auto 20/40 MHz - 802.11n と 802.11n でない無線デバイスの両方を使用している場合に選択します。
Channel	使用するチャンネルを選択します。特定地域（例：ヨーロッパと米国）では、DFS（Dynamic Frequency Selection）に従うため、802.11a/g ネットワークのチャンネルを手動では設定できません。「Auto Channel Selection」をチェックすると無線ネットワークにおいて最適なチャンネルを自動的に選択します。
Authentication	Open System/Shared Key 両方の暗号化方式をサポートします。表示される項目はアクセスポイントによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> Open System - キーは、ネットワークを経由して交換されます。 Shared Key - 同じ WEP 設定を共有するデバイス間の通信に制限します。 Both - キーは交換され、同じ WEP 設定が必要となります。 WPA-Enterprise - RADIUS サーバを持つネットワークにセキュリティを提供します。 WPA-Personal - パスワードとダイナミックなキー交換を使用したネットワークにセキュリティを提供します。（RADIUS サーバは必要ありません。） WPA2-Enterprise - RADIUS サーバを持つネットワークにセキュリティを提供します。また、データの暗号化を AES(Advanced Encryption Standard) に更新します。 WPA2-Personal - パスワードとダイナミックなキー交換を使用したネットワークにセキュリティを提供します。 RADIUS サーバは必要ありません。また、データの暗号化を AES(Advanced Encryption Standard) に更新します。 WPA-Auto-Enterprise - クライアントは、WPA-Enterprise または WPA2-Enterprise のいずれかを使用できます。 WPA-Auto-Personal - クライアントは、WPA-Personal または WPA2-Personal のいずれかを使用できます。 802.1x - 802.1x ネットワーク認証がある場合に選択します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

各アクセスポイントモードでサポートする認証方式は以下の通りです。

AP モード	選択可能な認証方式
Access Point	<ul style="list-style-type: none"> Open System Shared Key Open System/Shared Key WPA-Enterprise WPA-Personal WPA2-Enterprise WPA2-Personal WPA-Auto-Enterprise WPA-Auto-Personal 802.1x
WDS with AP	<ul style="list-style-type: none"> Open System Shared Key Open System/Shared Key WPA-Personal WPA2-Personal WPA-Auto-Personal
WDS	<ul style="list-style-type: none"> Open System Shared Key Open System/Shared Key WPA-Personal WPA2-Personal WPA-Auto-Personal
Wireless Client	<ul style="list-style-type: none"> Open System WPA-Personal WPA2-Personal

Access Point モード

「AP Mode」に「Access Point」を選択します。

認証方式 : WEP

図 4-8 Access Point モード画面例 - WEP

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Authentication	認証方式を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Open System - ネットワークを通して鍵の通信を行います。 Shared Key - 同じ WEP 設定を行ったデバイス同士の通信のみ可能になります。 Open System/ Shared Key - 両方の暗号化方式をサポートします。
Encryption	選択したデバイスの暗号化を「Enable」(有効)/「Disable」(無効)にします。本オプションは、セキュリティが「Open System」または「Open System/Shared Key」に設定されている場合にだけ使用可能です。
Valid Key	選択デバイスで有効にするキーを指定します。本オプションは、セキュリティが「Open System」、「Shared Key」、または「Open System/Shared Key」に設定されている場合にだけ使用可能です。
「First Key」から 「Fourth Key」	キー長を「64 Bits」、「128 Bits」、「152 Bits」から選択し、キー種別を「HEX」(16 進数)または「ASCII」(半角英数字)から選択します。さらにキーとなる文字列を入力します。入力したキーの長さは、選択したキー長に合わせて自動的に調整されます。本オプションは、セキュリティが「Open System」、「Shared Key」、または「Open System/Shared Key」に設定されている場合にだけ使用可能です。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

認証方式 : WPA/WPA2 Enterprise

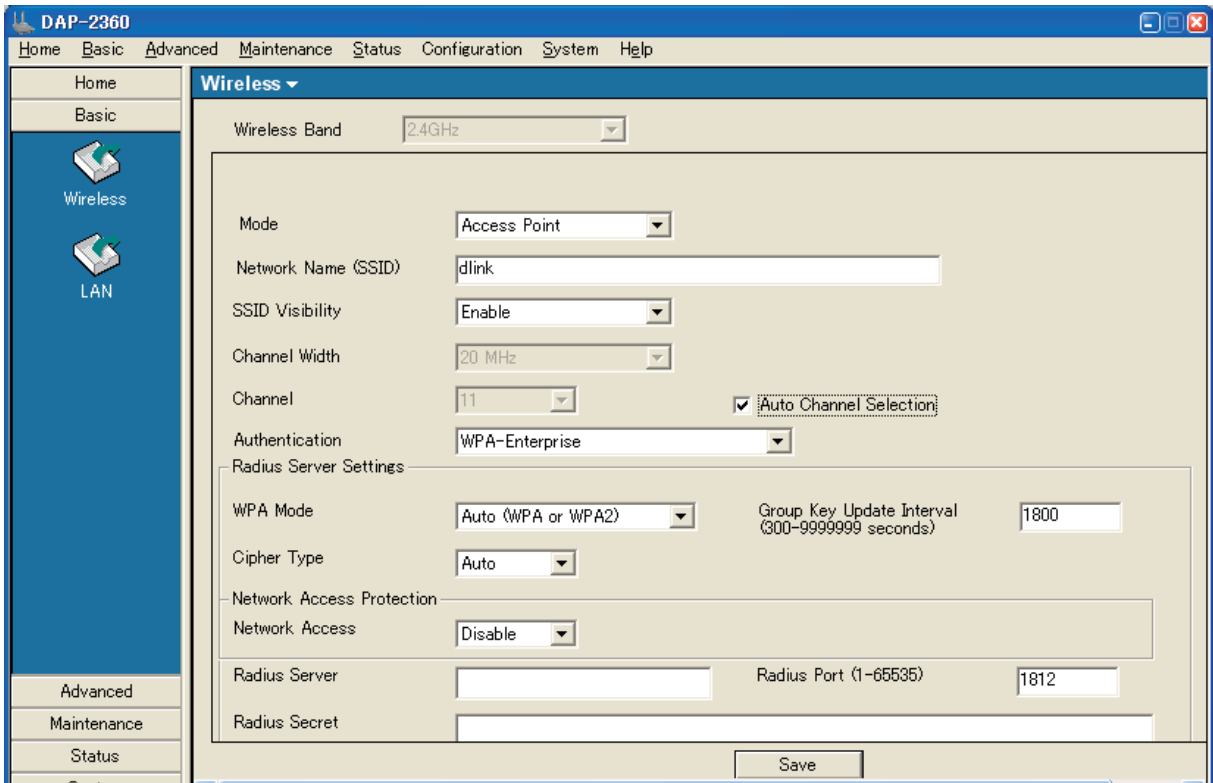


図 4-9 Access Point モード画面例 1 - WPA-Enterprise

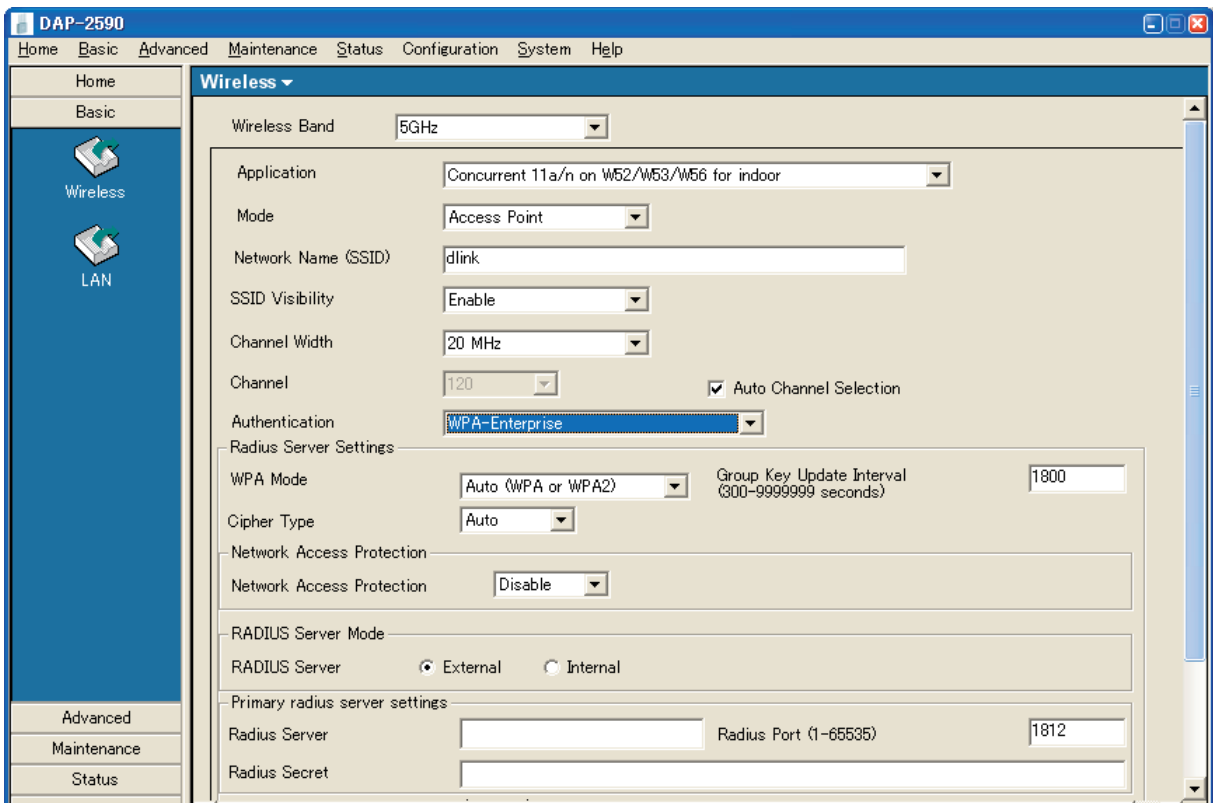


図 4-10 Access Point モード画面例 2 - WPA-Enterprise

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Radius Server Settings	
WPA Mode	「Auto (WPA or WPA2)」、「WPA Only」または「WPA2 Only」を選択します。本オプションは 802.11n アクセスポイントだけに利用可能です。
Cipher Type	暗号タイプ。プルダウンメニューから「Auto」、「TKIP」、または「AES」を選択します。
Group Key Update Interval (300-9999999)	グループキーを更新する間隔を設定します。推奨値は「1800 (秒)」です。短い間隔を指定すると、通信速度が遅くなります。
Primary / Secondary Radius Server Settings	
Radius Server	RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。
Radius Port (1-65535)	RADIUS サーバの認証に使用するポート番号を入力します。
Radius Secret	RADIUS のシークレット (パスワード) を入力します。
Primary / Secondary accounting Server Settings	
Accounting Mode	Accounting モードを使用します。
Accounting Server	Accounting サーバの IP アドレスを入力します。
Accounting Port	Accounting サーバに使用するポート番号を入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

認証方式 : WPA/WPA2 Personal

The screenshot shows the configuration interface for a DAP-2360 device. The 'Wireless' tab is selected, and the 'Access Point' mode is chosen. The settings are as follows:

- Wireless Band: 2.4GHz
- Mode: Access Point
- Network Name (SSID): dlink
- SSID Visibility: Enable
- Channel Width: 20 MHz
- Channel: 11 (with 'Auto Channel Selection' checked)
- Authentication: WPA-Personal
- PassPhrase Settings:
 - WPA Mode: Auto (WPA or WPA2)
 - Cipher Type: Auto
 - Manual (selected) / Periodical Key Change
 - Group Key Update Interval (300-9999999 seconds): 1800
 - Activated From: Sun 00:00
 - Time Interval: 1 (1~168)hour(s)
 - PassPhrase: (empty field)

A 'Save' button is located at the bottom right of the configuration area.

図 4-11 Access Point モード画面例 1 - WPA2-Personal

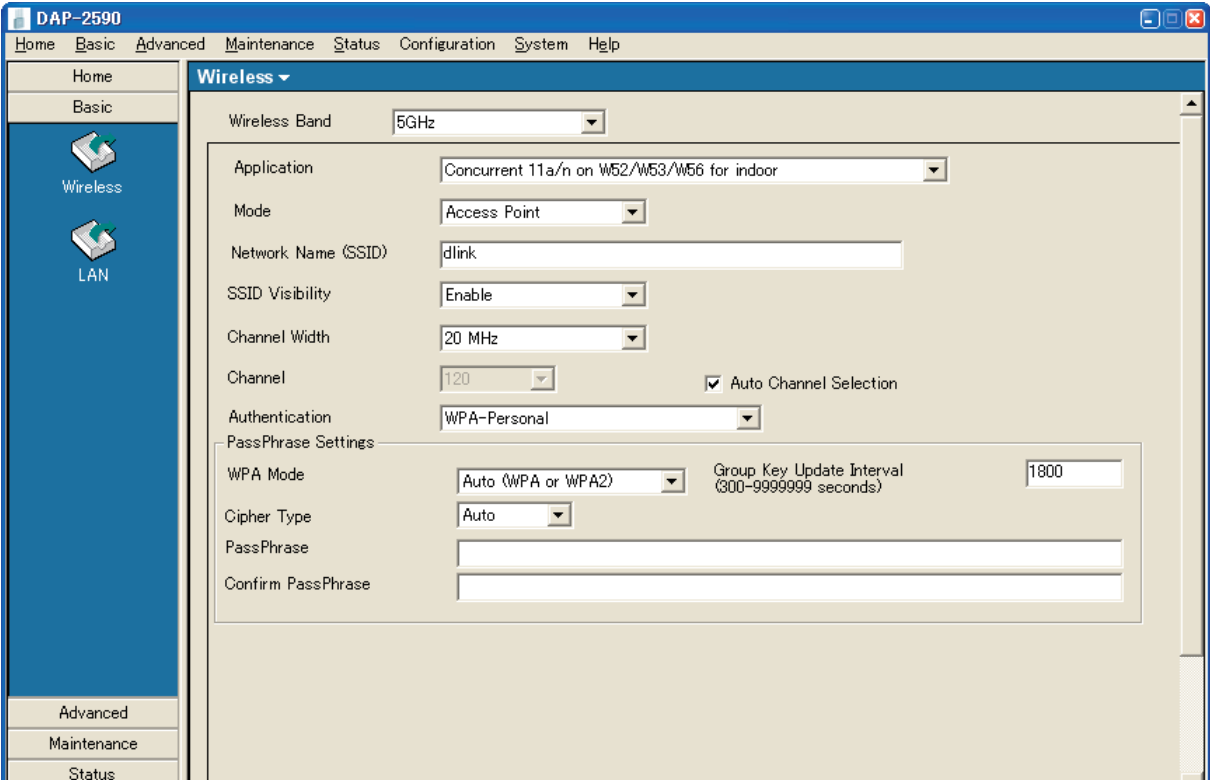


図 4-12 Access Point モード画面例 2 - WPA2-Personal

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Band	プルダウンメニューから無線帯域を選択します。
Personal/Enterprise:	「WPA Mode」で「Auto (WPA or WPA2)」、「WPA Only」または「WPA2 Only」を選択します。本オプションは 802.11n アクセスポイントだけに利用可能です。
WPA setting	
Cipher Type	暗号タイプ。プルダウンメニューで「Auto」、「AES」または「TKIP」を選択します。
Group Key Update Interval (300-9999999)	グループキーを更新する間隔を設定します。1800 (秒) が推奨値です。短い間隔を指定すると、通信速度が遅くなります。
PassPhrase	半角英数字 8 から 63 文字のパスフレーズを入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

WDS モード

WDS（Wireless Distribution System）は、BSS（Basic Service Sets）と呼ばれる相互接続です。無線上で複数の有線ネットワークをブリッジします。アクセスポイントは複数のネットワークを無線接続します。この時、無線 LAN アクセスポイントとしての動作は行いません。

「AP Mode」で「WDS」を選択します。

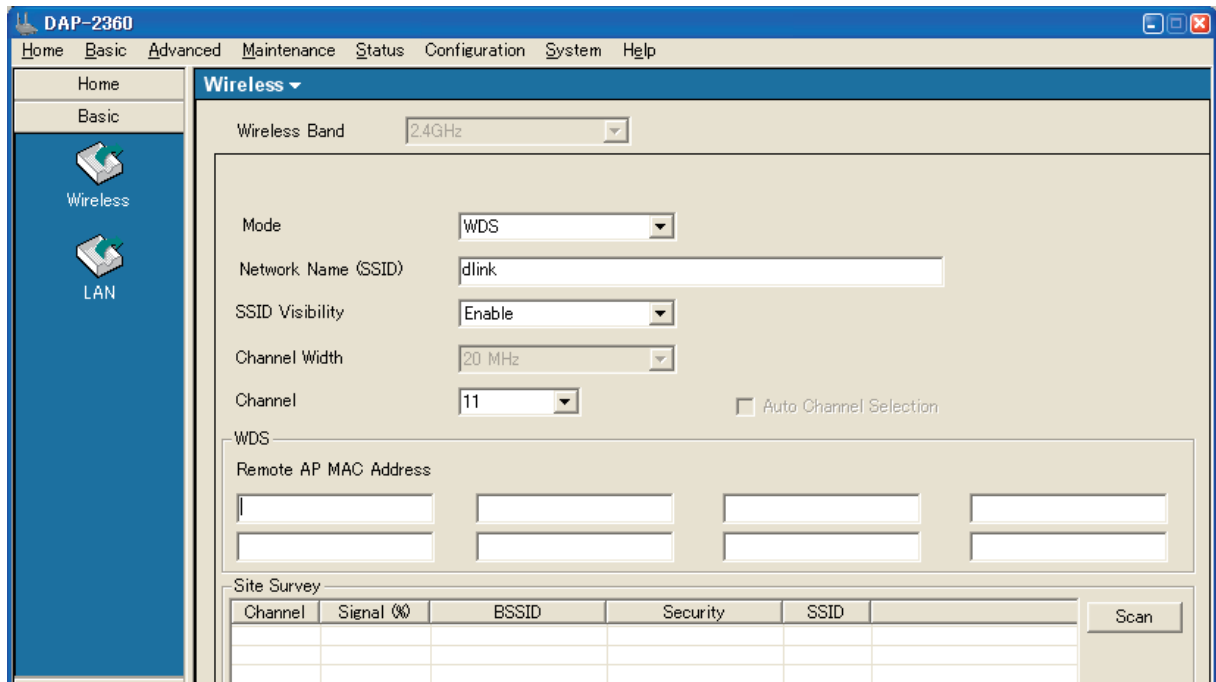


図 4-13 WDS モード画面例 1

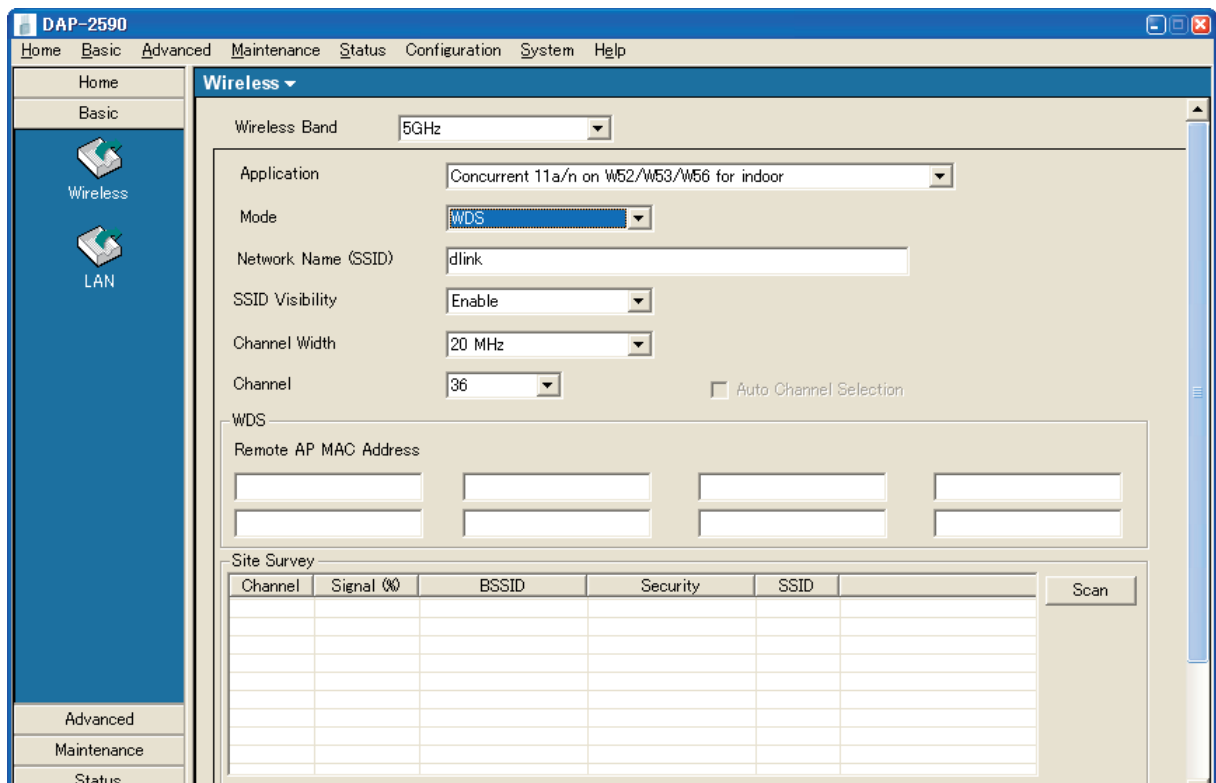


図 4-14 WDS モード画面例 2

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Remote AP MAC Address	WDS モードを使用して接続する他のアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。
Site Survey	「Scan」 ボタンをクリックすると、ローカルなアクセスポイントを検出します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

WDS with AP モード

アクセスポイントとの WDS 接続を行います。ネットワーク内のアクセスポイントは、WDS 経由で有線と共に無線で接続されます。アクセスポイントは複数のネットワークを無線接続します。この際、そのまま無線 LAN アクセスポイントとしての動作します。

「AP Mode」で「WDS with AP」を選択します。

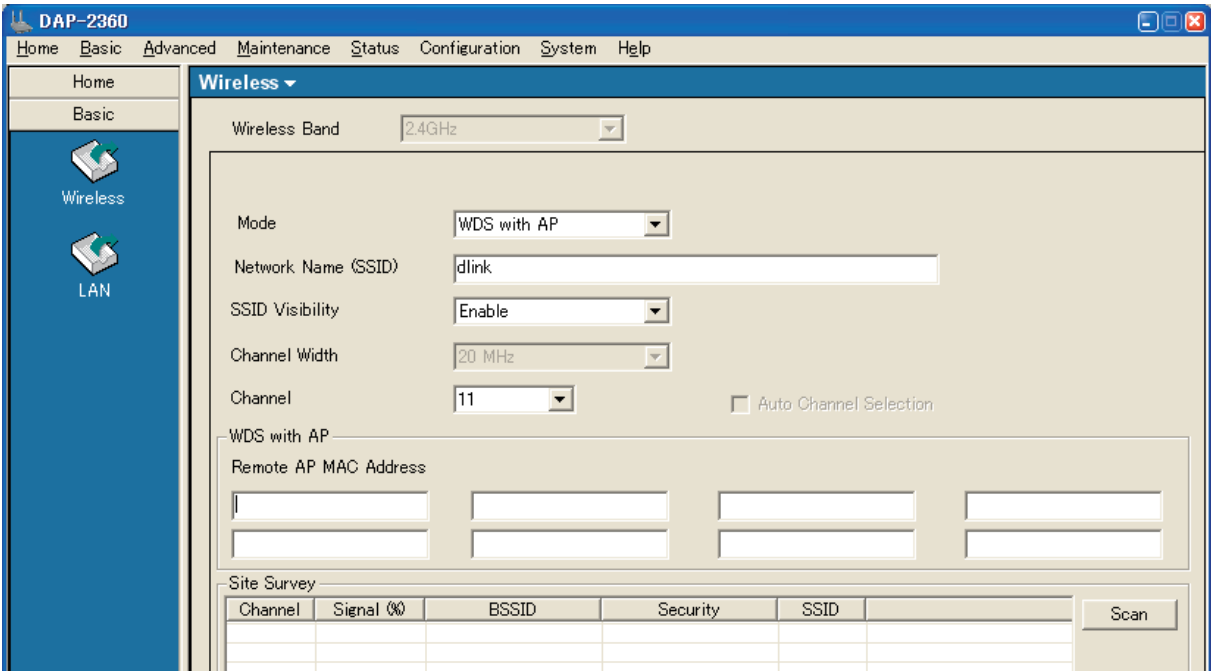


図 4-15 WDS with AP モード画面例 1

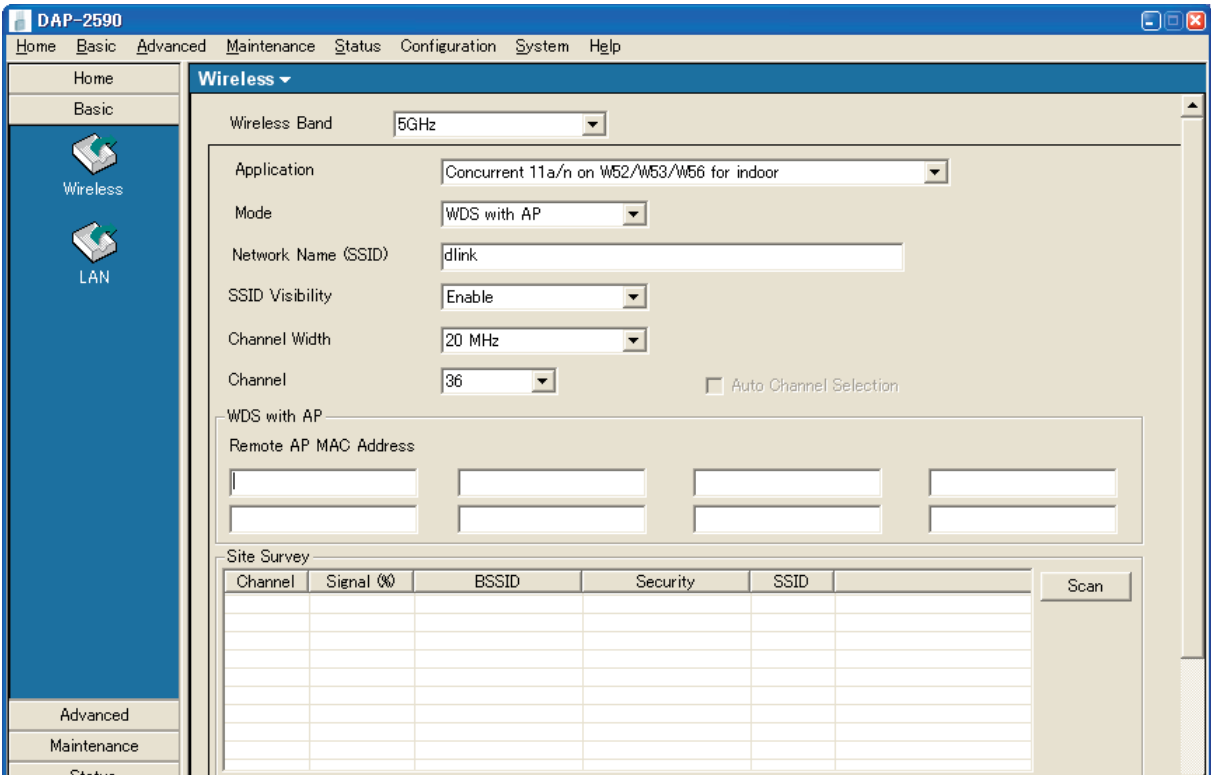


図 4-16 WDS with AP モード画面例 2

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Remote AP MAC Address	WDS モードを使用して接続する他のアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。
Site Survey	「Scan」 ボタンをクリックすると、ローカルなアクセスポイントを検出します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Wireless Client (802.11n のみ)

デバイスは、アクセスポイントに接続するために無線クライアントステーションとして機能します。無線以外のデバイスのために無線接続を提供します。

「AP Mode」で「Wireless Client」を選択します。

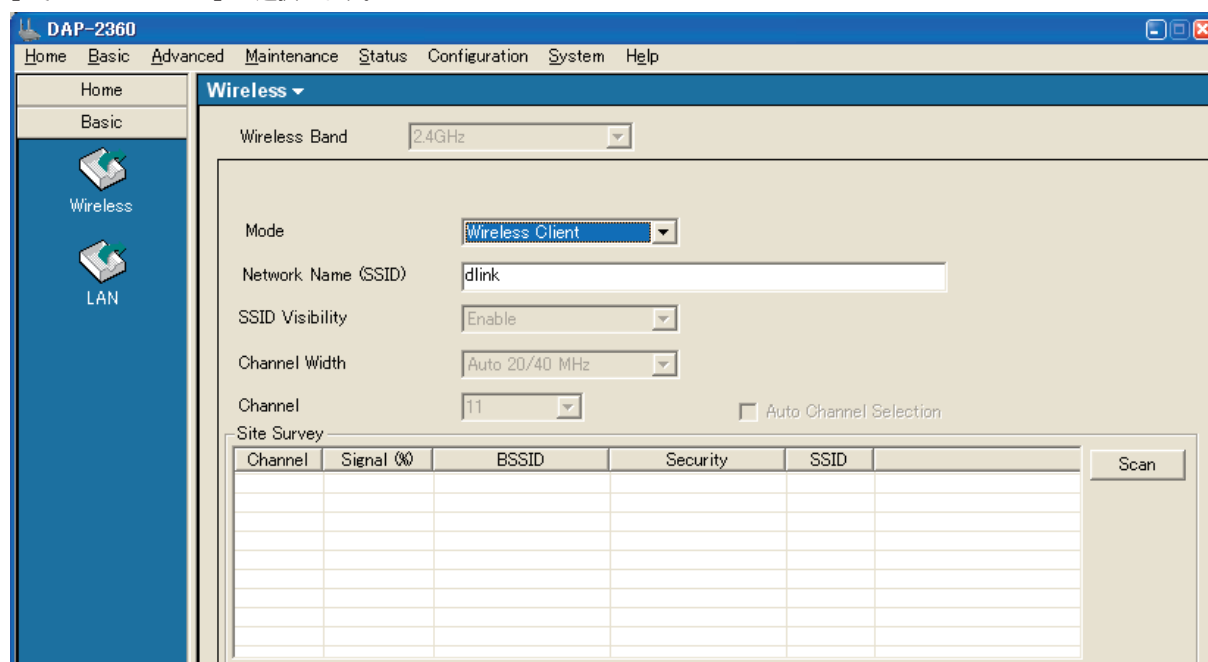


図 4-17 Wireless Client モード画面例 1

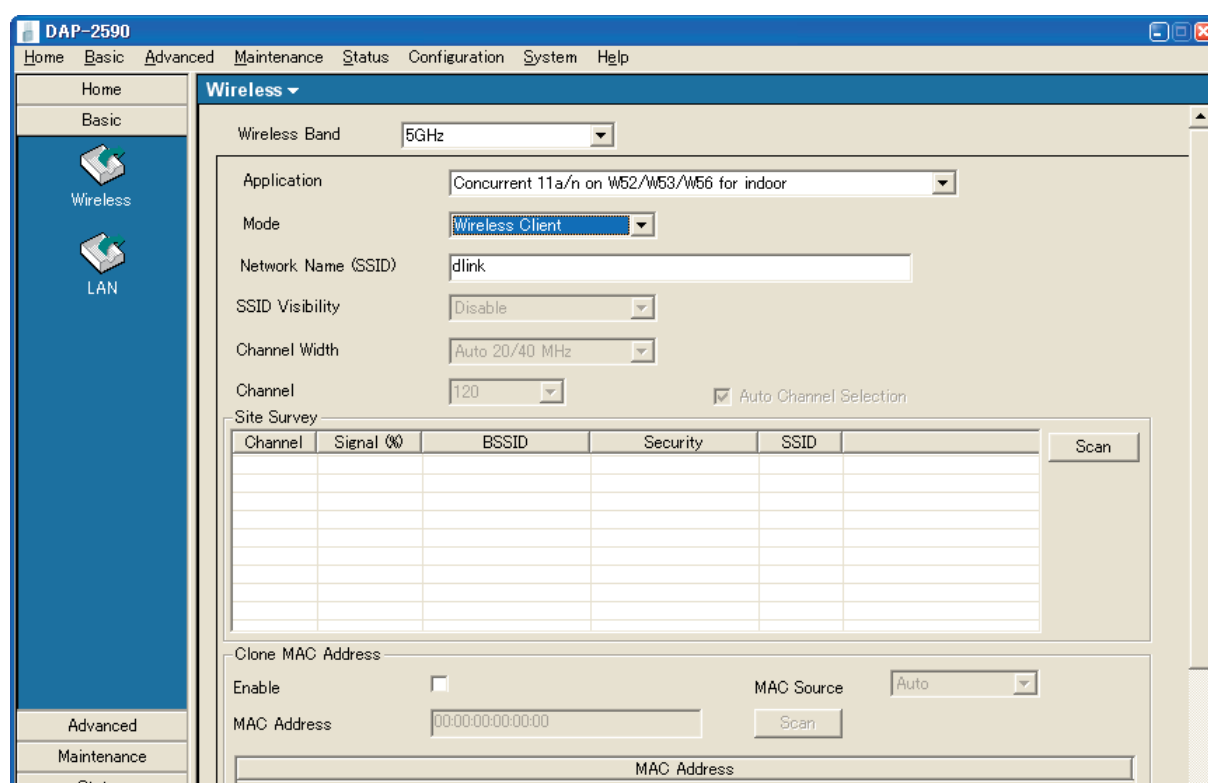


図 4-18 Wireless Client モード画面例 2

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Site Survey	「Scan」 ボタンをクリックすると、ローカルなアクセスポイントを検出します。
Clone MAC Address	
ネットワークカードのように別のアクセスポイントと通信するために、AP Client モードに設定済みのアクセスポイントに MAC アドレスを割り当てます。	
Enable	MAC アドレスのクローン機能を有効にします。
MAC Source	<ul style="list-style-type: none"> manually - スキャンリストにどんなアドレスもエントリして、選択することができます。 Auto - 検出されたアクセスポイントに最初の MAC アドレスを割り当てます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

LAN（LAN 設定）

アクセスポイントの有線 LAN の設定を行います。

Basic > LAN の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

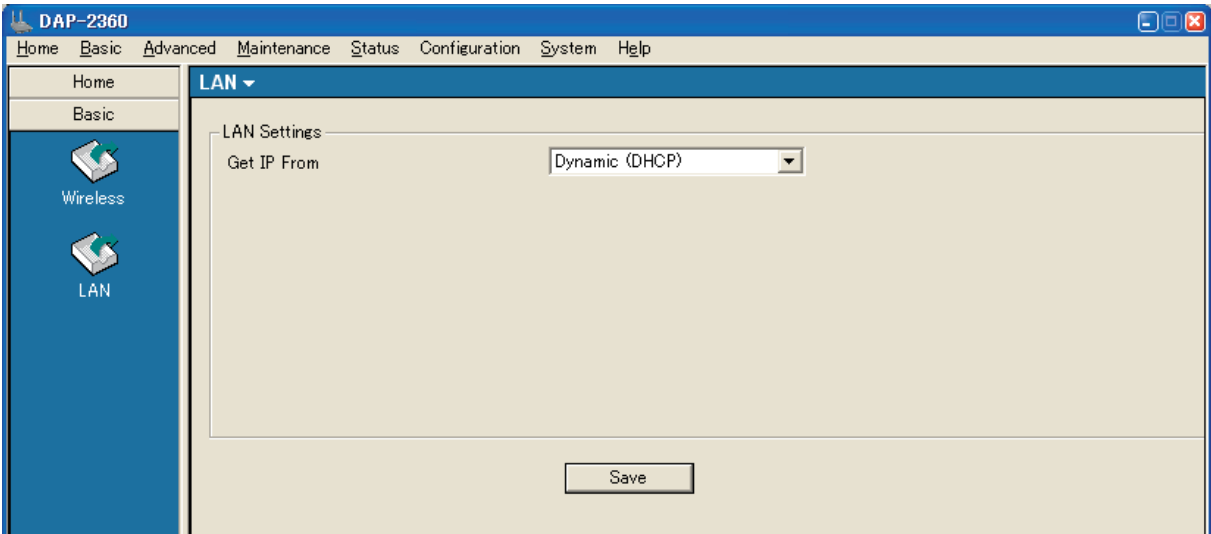


図 4-19 LAN 設定 画面 - Dynamic (DHCP)

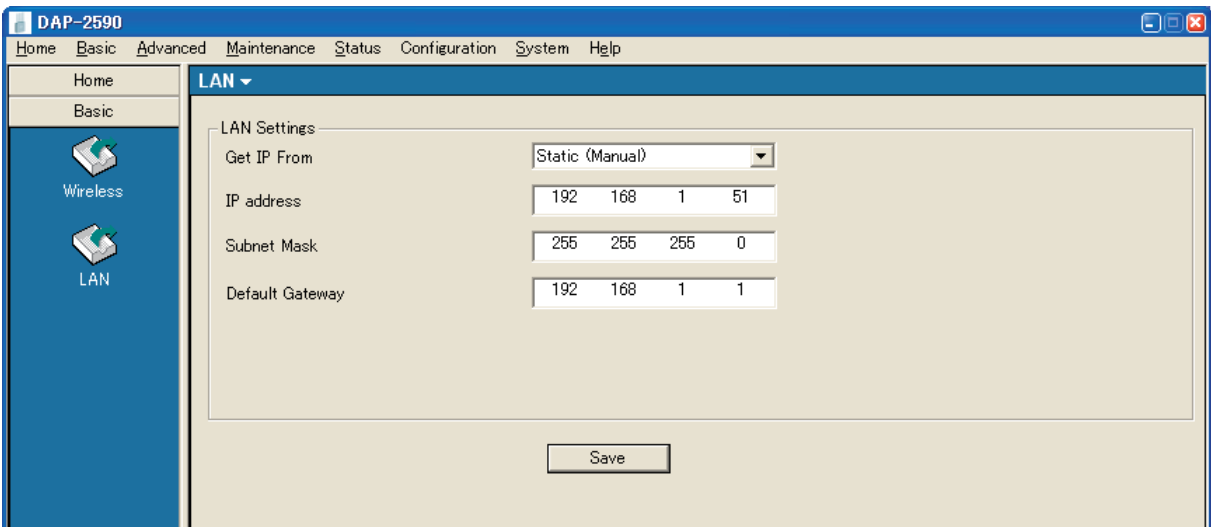


図 4-20 LAN 設定 画面 - Static (Manual)

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Get IP From	<ul style="list-style-type: none">Dynamic (DHCP) - アクセスポイントは DHCP クライアントとして機能します。これにより、DHCP サーバから IP 設定情報を受け取ることができます。Static (Manual) - アクセスポイントに固定 IP アドレスを割り当てます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Advanced（詳細設定）

Performance（性能設定）（802.11a）

Advanced > Performance の順にメニューをクリックし、「Wireless Mode」で「IEEE 802.11a only」を選択して以下の画面を表示します。

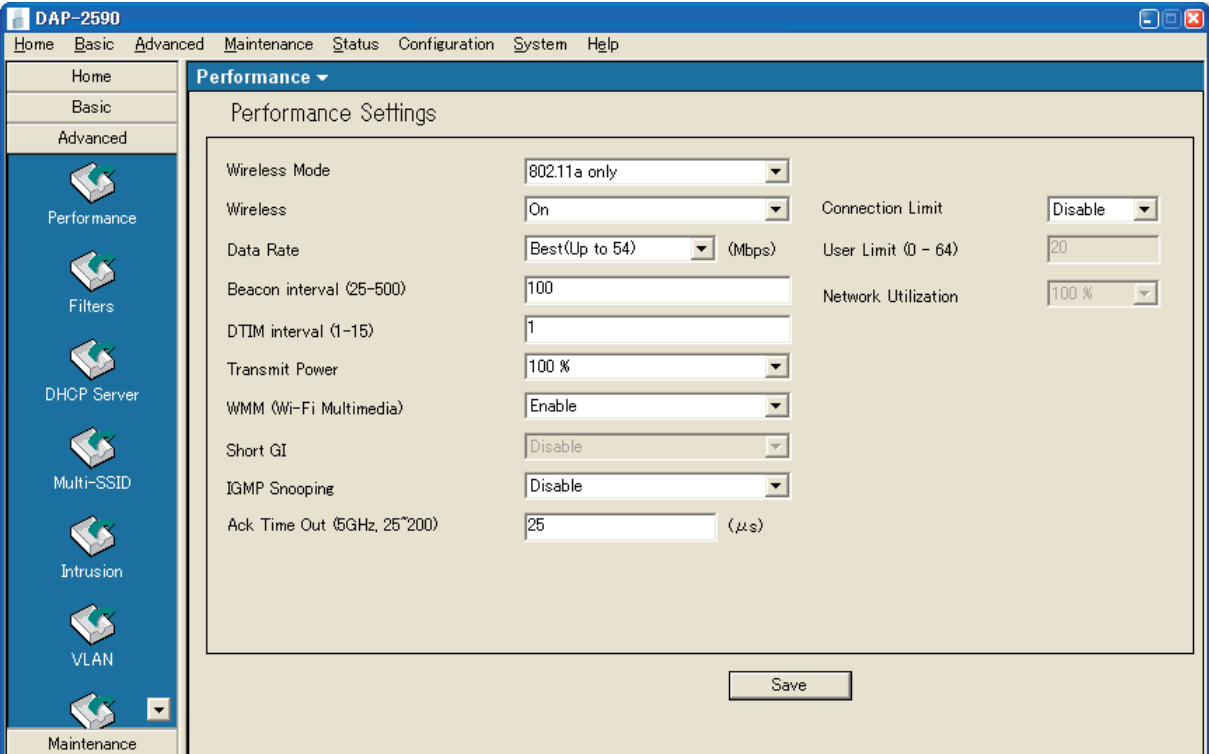


図 4-21 Performance 画面例 - IEEE 802.11a

本画面には以下のような項目が表示されます。

項目	説明
Wireless Mode	無線モード「IEEE 802.11a only」を選択します。
Wireless Band	
Radio	管理者モードの切り替え（「ON」または「OFF」）を行います。「OFF」（管理用モード）にすると無線通信ができなくなります。管理用モードは、本製品の運用中に一時的に設定を変更する場合や、メンテナンス時に使用します
Wireless	
Data Rate	選択デバイスの最大無線通信速度を選択します。
Frequency	無線帯域の現在の周波数を表示します。
Beacon Interval (20 - 1000)	選択デバイスのビーコン値を指定します。ビーコンとはアクセスポイントからネットワークとの同期をとるために送信するパケットのことです。初期値の「100」が推奨されています。
DTIM (1 - 255)	DTIM（Delivery Traffic Indication Message）送信間隔。初期値は 1 です。DTIM とは省電力モードの無線 LAN クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。
Fragment Length (256 - 2346)	パケットが断片化される時のパケットサイズ(Byte)。パケットの断片化を行うかどうかの指定をします。初期値は「2346」です。ここで指定したサイズを超過したパケットは送信前に断片化されます。
RTS Length (256 - 2346)	障害物で隠れた端末により発生するコリジョンが引き起こす転送効率低下対策のために RTS/CTS 方式で通信する基準値。通常は変更する必要はありませんが、転送効率が低下する場合には値を変更してください。
Transmit Power	送信電力（Full、Half（-3dB）、Quarter（-6dB）、Eighth（-9dB）または Min）または（12.5、25、50、100%）を選択します。本ツールは、伝送距離を制限する際にセキュリティの目的で役立ちます。
Channel	使用するチャンネルを選択します。「Auto Channel Scan」が「Disable」の時に選択します。無線ネットワークにおいて最適なチャンネルを自動的に選択する場合、および最もすいているチャンネルを検索する場合に「Enable」を選択します。
WMM	本機能を有効にすると Wi-Fi ネットワークを使用して快適にオーディオやビデオアプリケーションを利用できるようになります。WMM は IEEE 802.11e WLAN QoS 標準のサブセットに基づいています。「Enable」（有効）または「Disable」（無効）を選択します。初期値は「Disable」です。
Ack Time Out	長距離のリンクにおいて処理性能を効果的に最適化するために 2.4GHz 帯では 48-200、5GHz 帯では 25-200 の範囲で Ack タイムアウトを指定します。単位はミリ秒（μs）です。初期値は 2.4GHz 帯では 25μs、5GHz 帯では 48μs です。
IGMP Snooping	IGMP (Internet Group Management Protocol) Snooping 機能を利用すると、アクセスポイントはルータと IGMP ホスト（無線ステーション）間で送信される IGMP クエリと IGMP レポートを認識できるようになります。IGMP Snooping を有効にすると、アクセスポイントは通過する IGMP メッセージに基づいて IGMP ホストにマルチキャストパケットを送信します。

アクセスポイントの設定

項目	説明
Connection Limit	接続制限はロードバランシング用のオプションです。これにより、複数の本製品を使用して無線ネットワークトラフィックとクライアントを共有できます。本機能を有効な場合、ユーザ数が「ユーザ制限」または指定した本アクセスポイントのネットワーク使用率を超過すると、クライアントは本アクセスポイントに接続できなくなります。
Super Mode	<p>「Super A」を選択すると 108Mbps の無線速度を有効にします。本モードは、IEEE 802.11a を使用したエンドユーザアプリケーションの通信速度を向上させるために性能を改善した機能のグループです。また、802.11a 準拠のデバイスとの下位互換をサポートしています。最高のパフォーマンスを得るためには、ネットワーク上のすべてのデバイスが「Super A」をサポートしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Disable - 標準の 802.11a をサポートします。エンハンス機能はありません。 Super A without Turbo - パケットバースト、ファストフレーム、および圧縮機能をサポートします。Turbo モードはありません。 Super A with Dynamic Turbo - パケットバースト、ファストフレーム、圧縮、およびダイナミック Turbo モード機能をサポートします。本設定は、Turbo モードがない従来のデバイスと下位互換性があります。ダイナミック Turbo モードは、無線ネットワークにおけるすべてのデバイスが Super A とダイナミック Turbo を有効に設定する場合にのみ有効です。 Super A with Static Turbo - パケットバースト、ファストフレーム、圧縮、およびスタティック Turbo モード機能をサポートします。本設定は、Turbo モードがない従来のデバイスとは下位互換性がありません。ダイナミック Turbo モードは通常有効で、無線ネットワークにおけるすべてのデバイスが Super A とダイナミック Turbo を有効に設定する場合にのみ有効です。
Antenna Diversity	本オプションは、初期値で有効です。802.11 a/g アクセスポイントが有効な場合、各無線インタフェースは最も大きな RSSI 値を持つアンテナに自動的に切り替えます。無効な場合、各無線インタフェースは主アンテナを使用します。アクセスポイントが正面にある場合、5GHz 帯は右のアンテナから送信し、一方、2.4GHz 帯は左のアンテナを使用します。詳細については各アクセスポイントのマニュアルを参照してください。
Advanced Data Rate Settings	
Enable Data Rate Control	チェックを行い、データ転送速度のコントロールを有効にします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

注意 製品によって表示項目は異なります。

Performance (性能設定) (802.11g)

Advanced > Performance の順にメニューをクリックし、「Wireless Band」または「Wireless Mode」で「IEEE 802.11g」を選択して以下の画面を表示します。

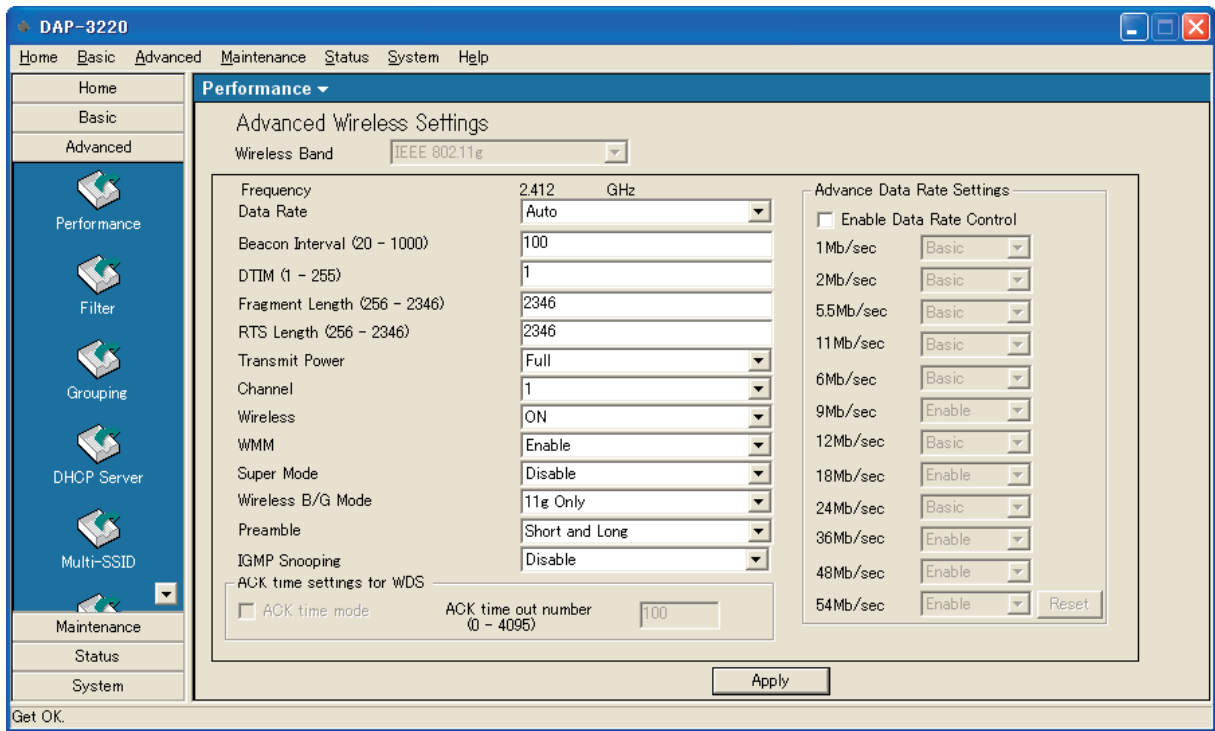


図 4-22 Performance 画面例 - IEEE 802.11g

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Band	無線モード「IEEE 802.11g」を選択します。
Frequency	無線帯域の現在の周波数を表示します。
Data Rate	選択デバイスの最大無線通信速度を選択します。初期値は「Auto」です。
Beacon Interval (20 - 1000)	選択デバイスのビーコン値を指定します。ビーコンとはアクセスポイントからネットワークとの同期をとるために送信するパケットのことです。初期値の「100」が推奨されています。
DTIM (1 - 255)	DTIM (Delivery Traffic Indication Message) 送信間隔。初期値は 1 です。DTIM とは省電力モードの無線 LAN クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。
Fragment Length (256 - 2346)	パケットが断片化される時のパケットサイズ (Byte)。パケットの断片化を行うかどうかの指定をします。初期値は「2346」です。ここで指定したサイズを超過したパケットは送信前に断片化されます。
RTS Length (256 - 2346)	障害物で隠れた端末により発生するコリジョンが引き起こす転送効率低下対策のために RTS/CTS 方式で通信する基準値。RTS 値は矛盾したデータフローが出現しない限り、変更するべきではありません。初期値は 2346 です。
Transmit Power	送信電力 (Full、Half (-3dB)、Quarter (-6dB)、Eighth (-9dB) または Min) または (12.5、25、50、100%) を選択します。本ツールは、伝送距離を制限する際にセキュリティの目的で役立ちます。
Channel	使用するチャンネルを選択します。「Auto Channel Scan」が「Disable」の時に選択します。無線ネットワークにおいて最適なチャンネルを自動的に選択する場合、および最もすいているチャンネルを検索する場合に「Enable」を選択します。
Wireless	「On」または「Off」を選択します。
Radio	管理者モードの切り替え (「ON」または「OFF」) を行います。「OFF」(管理用モード) にすると無線通信ができなくなります。管理用モードは、本製品の運用中に一時的に設定を変更する場合や、メンテナンス時に使用します
WMM	本機能を有効にすると Wi-Fi ネットワークを使用して快適にオーディオやビデオアプリケーションを利用できるようになります。WMM は IEEE 802.11e WLAN QoS 標準のサブセットに基づいています。「Enable」(有効) または「Disable」(無効) を選択します。初期値は「Disable」です。
Super Mode	108Mbps の無線速度を「Disable」(無効) または「Enable」(有効) にします。「Turbo」は、IEEE 802.11g ネットワークにおけるエンドユーザアプリケーションの通信速度を向上させるために性能を改善した機能のグループです。また、802.11g 準拠のデバイスとの下位互換をサポートしています。最高のパフォーマンスを得るためには、ネットワーク上のすべてのデバイスが「Turbo」をサポートしている必要があります。
Internal Station Connection	本機能を「Enable」(有効) にすると、無線 LAN クライアント同士の通信を可能にします。「Disable」(無効) にするとクライアントはアクセスポイントを介した通信が行えなくなります。
Antenna Diversity	本オプションは、初期値で有効です。802.11 a/g アクセスポイントが有効な場合、各無線インタフェースは最も大きな RSSI 値を持つアンテナに自動的に切り替えます。無効な場合、各無線インタフェースは主アンテナを使用します。アクセスポイントが正面にある場合、5GHz 帯は右のアンテナから送信し、一方、2.4GHz 帯は左のアンテナを使用します。詳細については各アクセスポイントのマニュアルを参照してください。
Wireless B/G Mode	本機能は、「11g only」(IEEE 802.11g だけの無線ネットワーク)、「11b only」(IEEE 802.11b だけの無線ネットワーク)、または「Mixed」(IEEE 802.11b と相互接続する IEEE 802.11g の無線ネットワーク)を設定することができます。
Preamble	「Short and Long」または「Long Only」を選択します。初期値は「Short and Long」です。
IGMP Snooping	IGMP Snooping を許可するためには「Enable」を選択します。
Advanced Data Rate Settings	
Enable Data Rate Control	データ転送速度のコントロールを「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Performance（性能設定）（802.11n）

Advanced > Performance の順にメニューをクリックし、「Wireless Band」または「Wireless Mode」で「IEEE 802.11n」を選択して以下の画面を表示します。

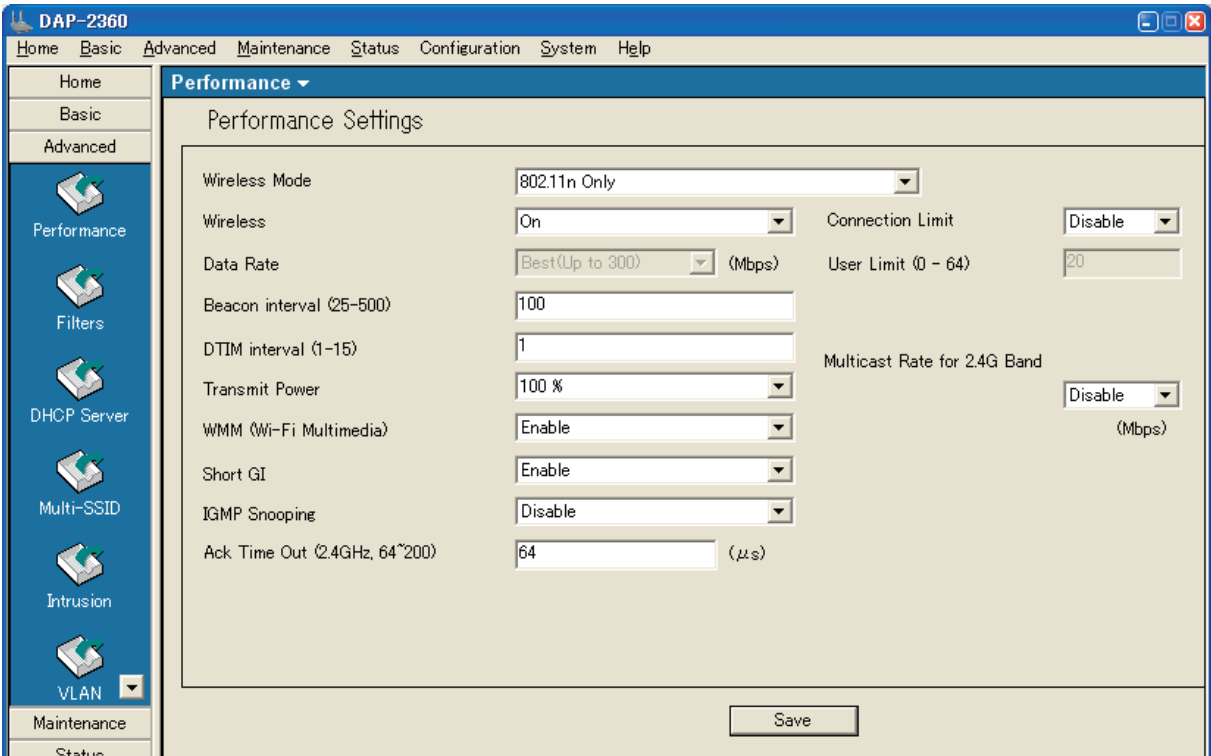


図 4-23 Performance 画面例 - IEEE 802.11n

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Mode	無線モード「Mixed 802.11n, 802.11g and 802.11b」を選択します。
Data Rate	選択デバイスの最大無線通信速度を選択しました。初期値は「Auto」です。
Beacon Interval (25 - 500)	選択デバイスのビーコン値を指定します。ビーコンとはアクセスポイントからネットワークとの同期をとるために送信するパケットのことです。初期値の「100」が推奨されています。
DTIM (1 - 15)	DTIM (Delivery Traffic Indication Message) 送信間隔。初期値は 1 です。DTIM とは省電力モードの無線 LAN クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。
Transmit Power	送信電力 (Full、Half (-3dB)、Quarter (-6dB)、Eighth (-9dB) または Min) または (12.5、25、50、100%) を選択します。本ツールは、伝送距離を制限する際にセキュリティの目的で役立ちます。
WMM (Wi-Fi Multimedia)	本機能を有効にすると Wi-Fi ネットワークを使用して快適にオーディオやビデオアプリケーションを利用できるようになります。WMM は IEEE 802.11e WLAN QoS 標準のサブセットに基づいています。「Enable」(有効) または「Disable」(無効) を選択します。初期値は「Disable」です。
Short GI	「Short GI」を許可するためには「Enable」を選択します。有効にするとガード間隔時間を減らすため、データ能力が増大します。しかし、信頼性が低くなり、大きなデータ損失を引き起こす可能性があります。
Ack Time Out	長距離のリンクにおいて処理性能を効果的に最適化するために 2.4GHz 帯では 48-200、5GHz 帯では 25-200 の範囲で Ack タイムアウトを指定します。単位はミリ秒 (μs) です。初期値は 2.4GHz 帯では 25 μs、5GHz 帯では 48 μs です。
IGMP Snooping	IGMP (Internet Group Management Protocol) Snooping 機能を利用すると、アクセスポイントはルータと IGMP ホスト (無線ステーション) 間で送信される IGMP クエリと IGMP レポートを認識できるようになります。IGMP Snooping を有効にすると、アクセスポイントは通過する IGMP メッセージに基づいて IGMP ホストにマルチキャストパケットを送信します。
Connection Limit	接続制限はロードバランシング用のオプションです。これにより、複数の本製品を使用して無線ネットワークトラフィックとクライアントを共有できます。本機能を有効な場合、ユーザ数が「ユーザ制限」または指定した本アクセスポイントのネットワーク使用率を超過すると、クライアントは本アクセスポイントに接続できなくなります。
User Limit (0 - 64)	アクセスポイントに接続可能な最大ユーザ数を設定します。「Connection Limit」が有効な場合にだけ使用できます。
Link Integrity	有効であると、アクセスポイントのアップリンクがオフの場合に接続している無線クライアントは切断されます。
Network Utilization	ネットワーク利用率を設定します。利用率が設定値以上であると、クライアントはアクセスポイントに接続できません。「Connection Limit」が有効な場合にだけ使用できます。
Multicast Rate for 2.4G band	選択デバイスの最大マルチキャスト通信速度を指定します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Filters（フィルタ設定）

フィルタ機能の設定をします。

Wireless MAC ACL

アクセスコントロールリストの設定をします。

Advanced > Filters の順にメニューをクリックし、「Wireless MAC ACL」をチェックして以下の画面を表示します。

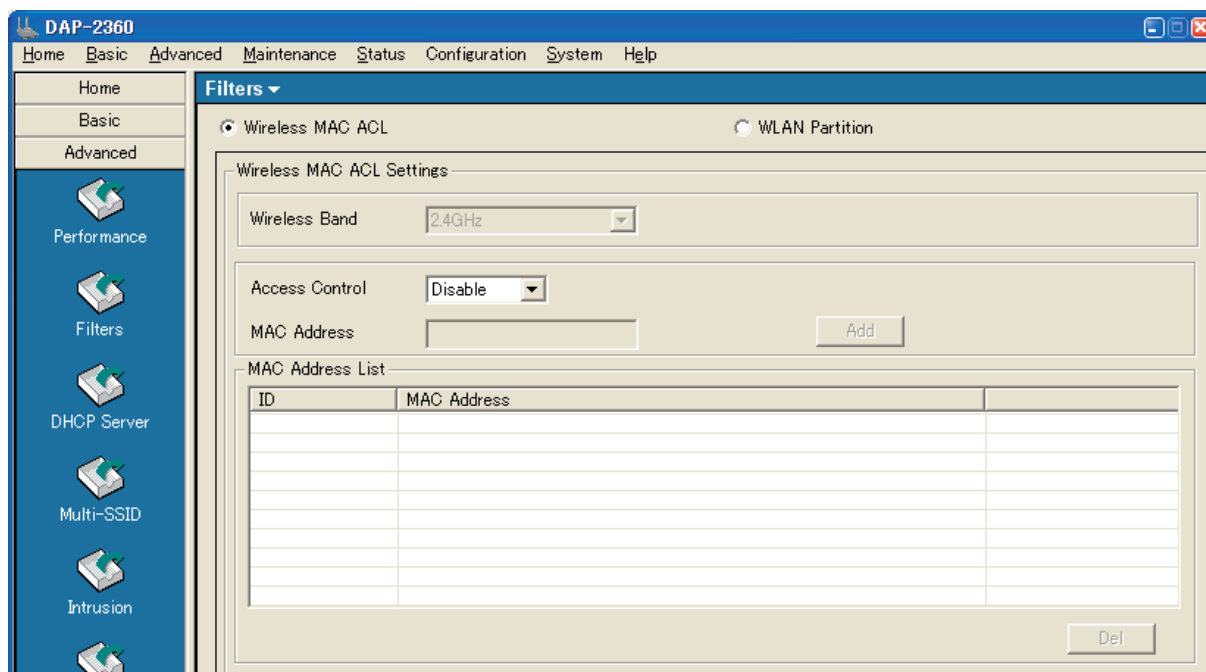


図 4-24 Filter 画面例 1 - Wireless MAC ACL

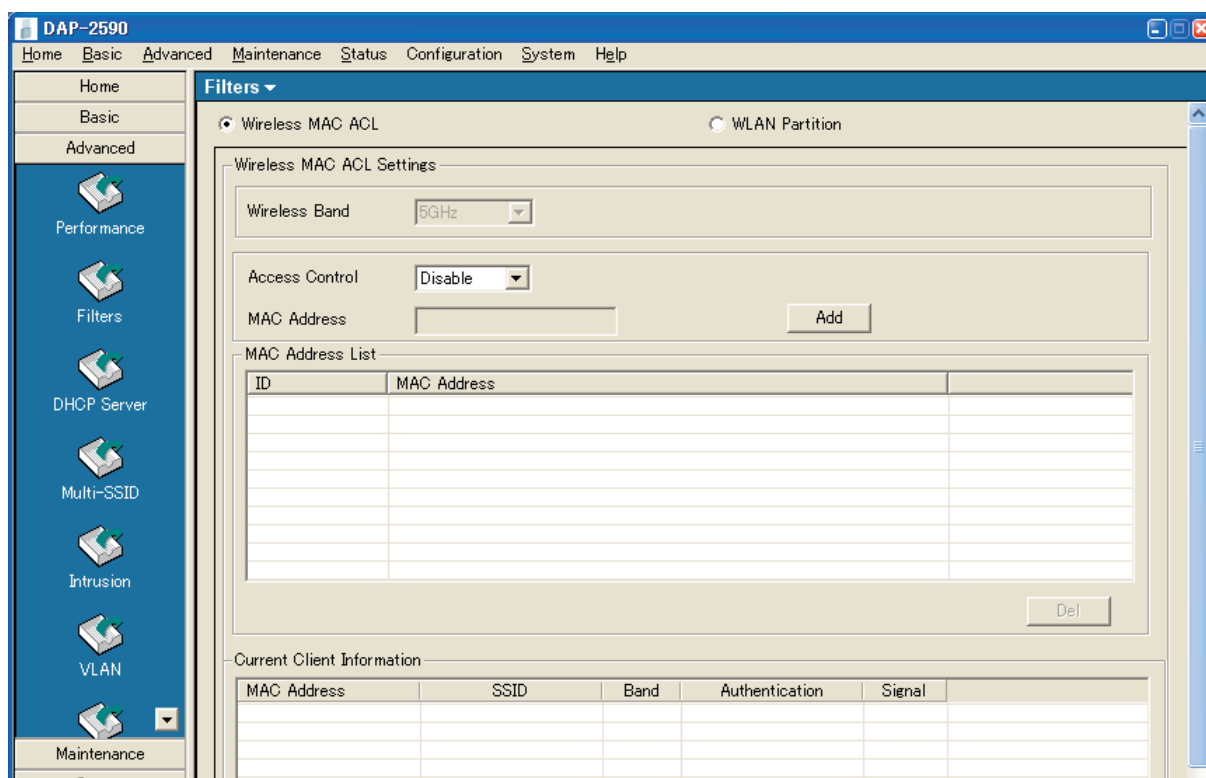


図 4-25 Filter 画面例 2 - Wireless MAC ACL

アクセスポイントの設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Band	アクセスコントロールフィルタを適用する無線ネットワークを表示します。
Access Control	アクセスコントロールが無効の場合、MAC アドレスに基づいてフィルタされません。「Accept」または「Reject」を選択すると、MAC アドレスを入力するボックスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• Disable - フィルタ機能を無効にします。• Accept - アクセスコントロールリストに登録されている MAC アドレスを持ったデバイスのみ接続を許可します。• Reject - アクセスコントロールリストに登録されている MAC アドレスを持つデバイスとの接続を拒否します。
MAC Address	アクセスコントロールリストへの MAC アドレスの登録（「Add」または「Apply」ボタン） および削除（「Del」ボタン）を行います。
クライアント情報	
MAC Address List	テーブルには現在の接続クライアントが表示されます。「Add」ボタンをクリックし、アクセスコントロールリストにクライアントを追加します。
Upload ACL File	ACL ファイルを使用してアクセスコントロールフィルタを適用します。 <ul style="list-style-type: none">• Browse - ローカルコンピュータ上の ACL ファイルを検索します。• Upload - ファイルをアクセスポイントにアップロードします。• Download - ACL コントロール設定をコンフィグレーションに保存します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

WLAN Partition

WLAN パーティションを設定します。

Advanced > Filter の順にメニューをクリックし、「WLAN Partition」をチェックして以下の画面を表示します。

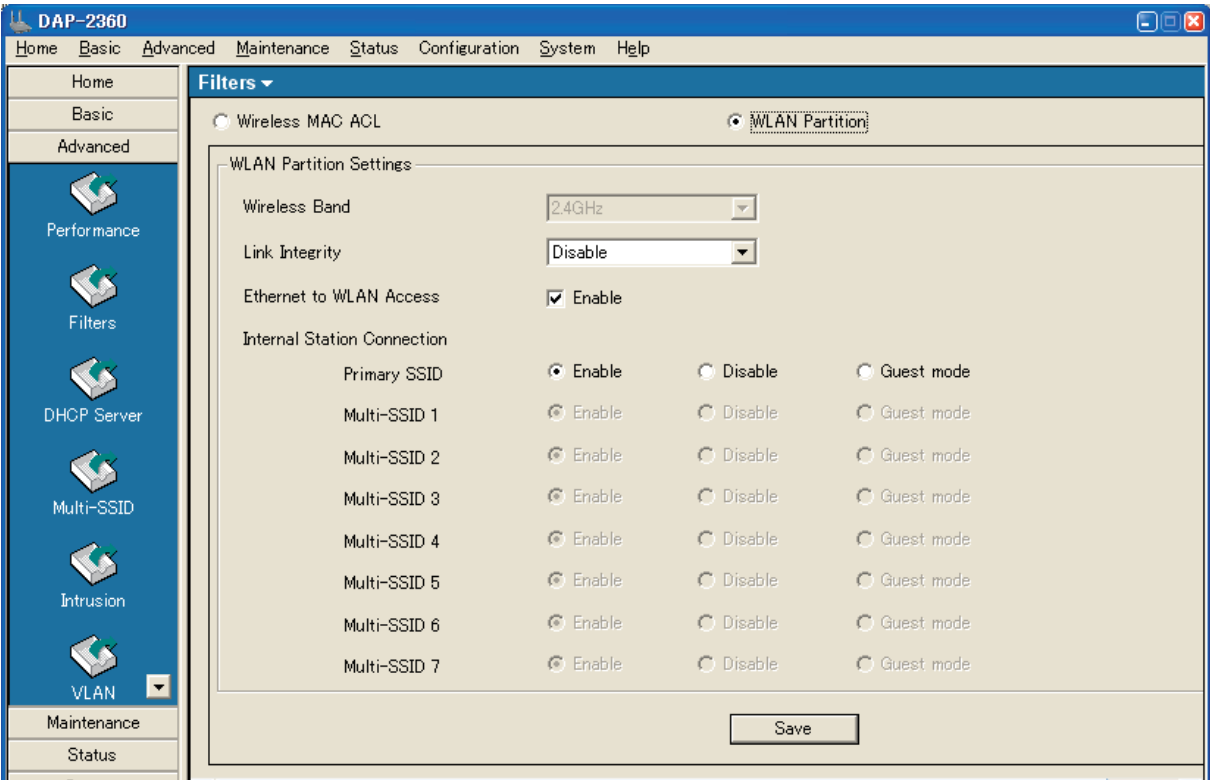


図 4-26 Filter 画面例 1 - WLAN Partition

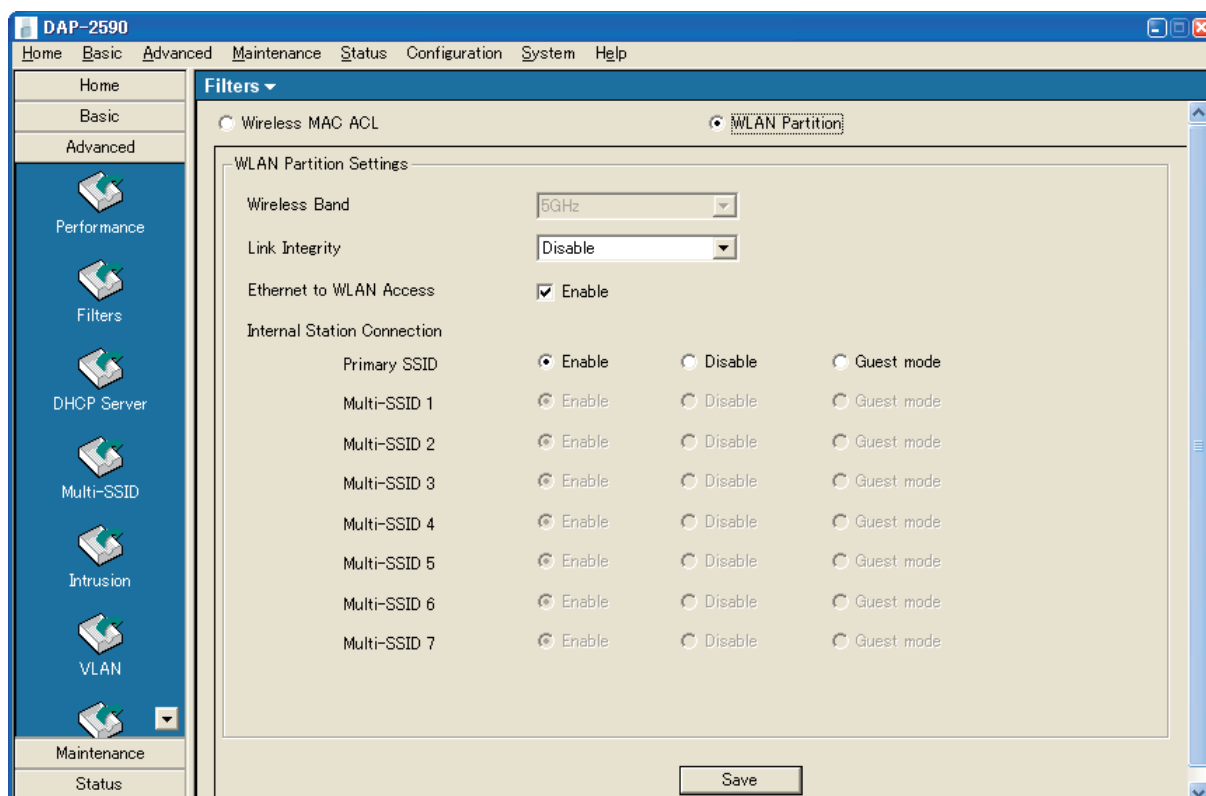


図 4-27 Filter 画面例 2 - WLAN Partition

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Internal Station Connection	本機能を「Enable」(有効)にすると、無線 LAN クライアント同士の通信を可能にします。無効にすると、クライアントはアクセスポイントを介した通信が行えなくなります。
Ethernet to WLAN Access	本機能を「Enable」(有効)にすると、無線 LAN クライアントと有線 LAN 側デバイスとの通信を可能にします。無効にすると有線 LAN 側から無線 LAN デバイスへの通信が行えなくなりますが、無線 LAN 側から有線 LAN 側へのデータ送信は可能です。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Grouping (アクセスポイントグループ化設定)

Advanced > Grouping の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

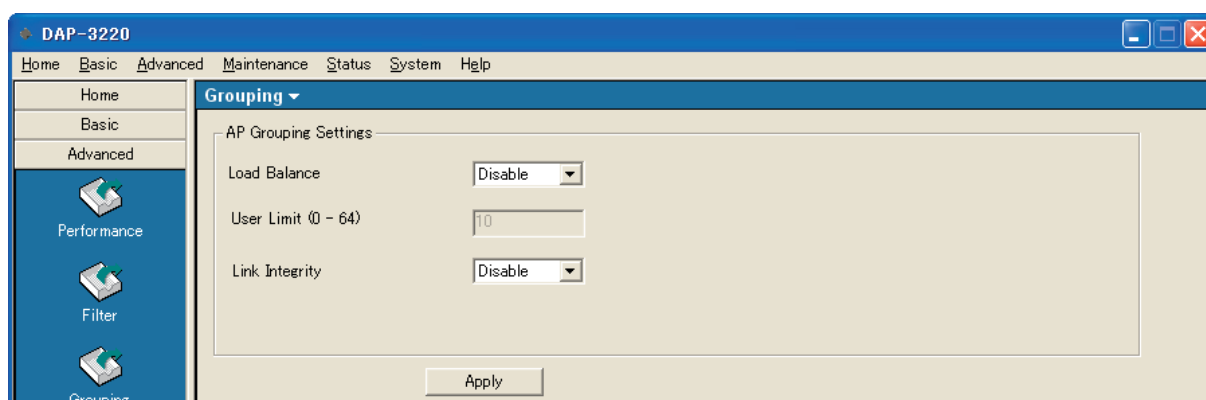


図 4-28 Grouping 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Load Balance	「Enable」を選択して、アクセスポイント間のロードバランシングを有効にします。初期値は無効です。
User Limit (0-64)	ユーザ数の制限 (0-64) を入力します。
Link Integrate / Link Integrity	「Enable」の場合、LAN とアクセスポイント間に切断が発生した場合に、アクセスポイントに接続する無線クライアントをアクセスポイントから切断します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

DHCP Server（DHCP サーバ設定）

DHCP サーバ設定をします。

Advanced > DHCP Server の順にメニューをクリックします。

Dynamic Pool Settings（ダイナミックプール設定）

「DHCP Server Settings」セクションで「Dynamic Pool Settings」をチェックし、以下の画面を表示します。

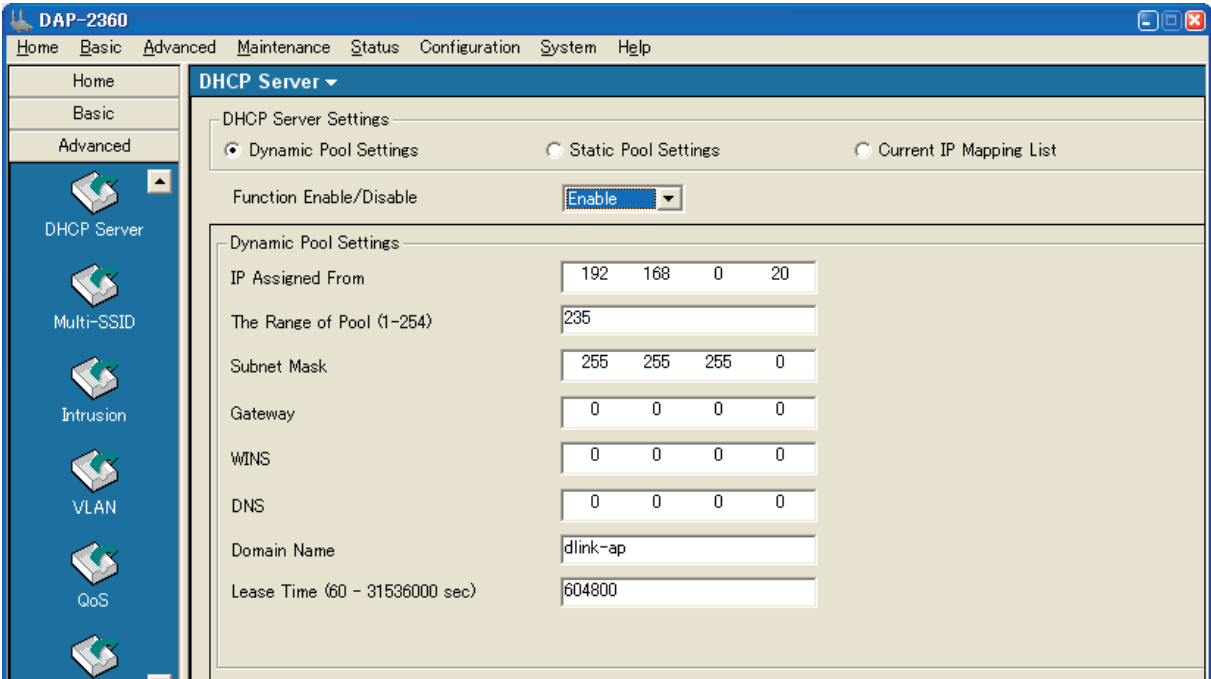


図 4-29 DHCP Server 画面 - Dynamic Pool Settings

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Function Enable/Disable	DHCP サーバ機能を「Enable」（有効）または「Disable」（無効）にします。
Dynamic Pool Settings	
IP Assigned From	ネットワーク内のクライアントに割り当てる最初の IP アドレスを入力します。
The Range of Pool [1-255]	アドレスプールの範囲。割り当てを行う IP アドレスの数を入力します。
SubMask	ネットワークのサブネットマスクを入力します。
Gateway	ネットワーク内のゲートウェイの IP アドレスを入力します。通常、ルータの IP アドレスを入力します。
WINS	無線ネットワークの WINS サーバアドレスを指定します。WINS(Windows Internet Naming Service) は、動的な IP アドレスを持つネットワークの IP アドレスを決定するシステムです。
DNS	DNS サーバの IP アドレスを入力します。DNS(Domain Name Server) は、 www.dlink-jp.com などのドメイン名を IP アドレスに変換します。
Domain Name	必要に応じて本製品のドメイン名を入力します。（例： www.dlink-jp.com ）
Lease Time [60-31536000 sec]	DHCP サーバが新しい IP アドレスを割り当てるまでの時間（リース期間）を入力します。
Status	「Dynamic Pool Settings」（ダイナミックプール設定）で入力したエントリを「ON」または「OFF」にします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Static Pool Settings (スタティックプール設定)

特定のデバイスに起動のたびに同じ IP アドレスを割り当てる場合には、本ボックスにチェックを入れて、スタティックプール設定を行います。スタティックプールリストに登録する IP アドレスが、ダイナミックプール範囲に登録した IP アドレスと重複しないように注意してください。

1. 「DHCP Server Settings」 セクションで「Static Pool Settings」をチェックし、以下の画面を表示します。

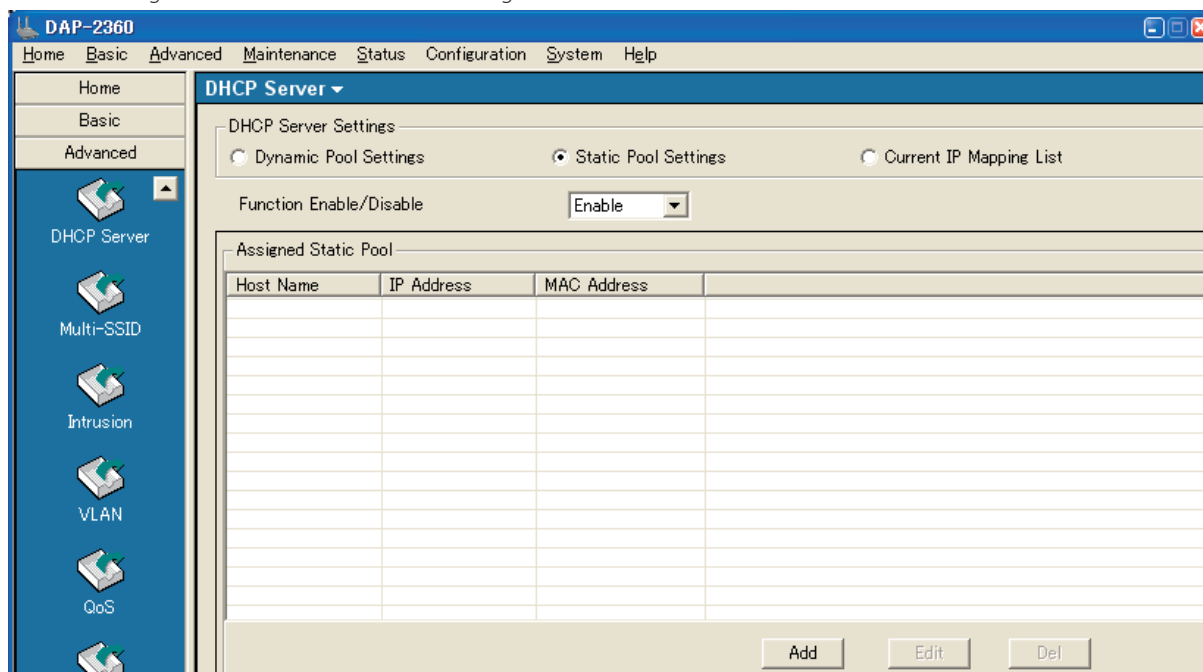


図 4-30 DHCP Server 画面 - Static Pool Settings

2. 「Function Enable/Disable」を「Enable」として、「Add」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

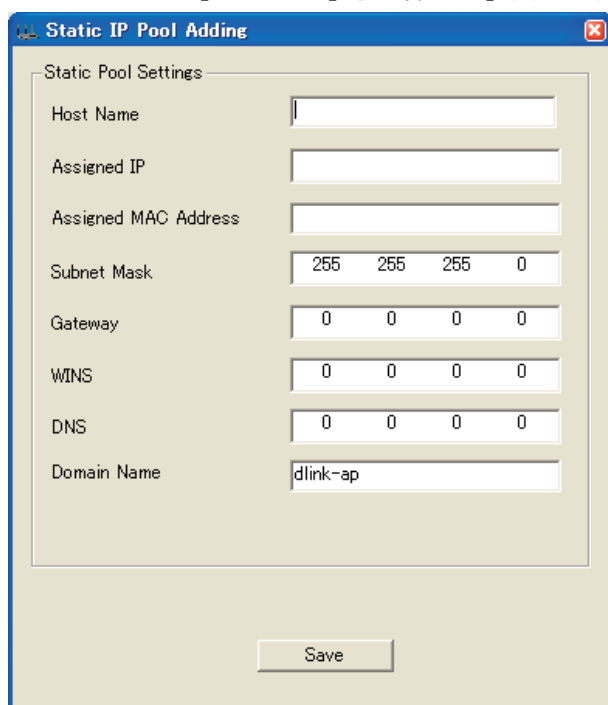


図 4-31 DHCP Server 画面 - Static Pool Settings

アクセスポイントの設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Function Enable/Disable	DHCP サーバ機能を「Enable」（有効）または「Disable」（無効）にします。
Static IP Pool Adding	
Host Name	ネットワーク内のクライアントに割り当てるホスト名を入力します。
Assigned IP	ネットワーク内のクライアントに割り当てる IP アドレスを入力します。
Assigned MAC Address	ネットワーク内のクライアントに割り当てる MAC アドレスを入力します。
SubMask	ネットワークのサブネットマスクを入力します。
Gateway	ネットワーク内のゲートウェイの IP アドレスを入力します。通常、ルータの IP アドレスを入力します。
WINS	無線ネットワークの WINS サーバアドレスを指定します。WINS(Windows Internet Naming Service) は、動的な IP アドレスを持つネットワークの IP アドレスを決定するシステムです。
DNS	DNS サーバの IP アドレスを入力します。DNS(Domain Name Server) は、 www.dlink-jp.com などのドメイン名を IP アドレスに変換します。
Domain Name	必要に応じて本製品のドメイン名を入力します。（例： www.dlink-jp.com ）
Status	ここで入力したエントリを「ON」または「OFF」にします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Current IP Mapping List（現在の IP マッピングリスト）

現在の DHCP ダイナミック / スタティック IP アドレスプールの情報を表示します。本情報を表示するためには、本アクセスポイントの DHCP 機能を有効にし、ダイナミック / スタティック IP アドレスプールを割り当てる必要があります。

「DHCP Server Settings」セクションで「Current IP Mapping List」をチェックし、以下の画面を表示します。

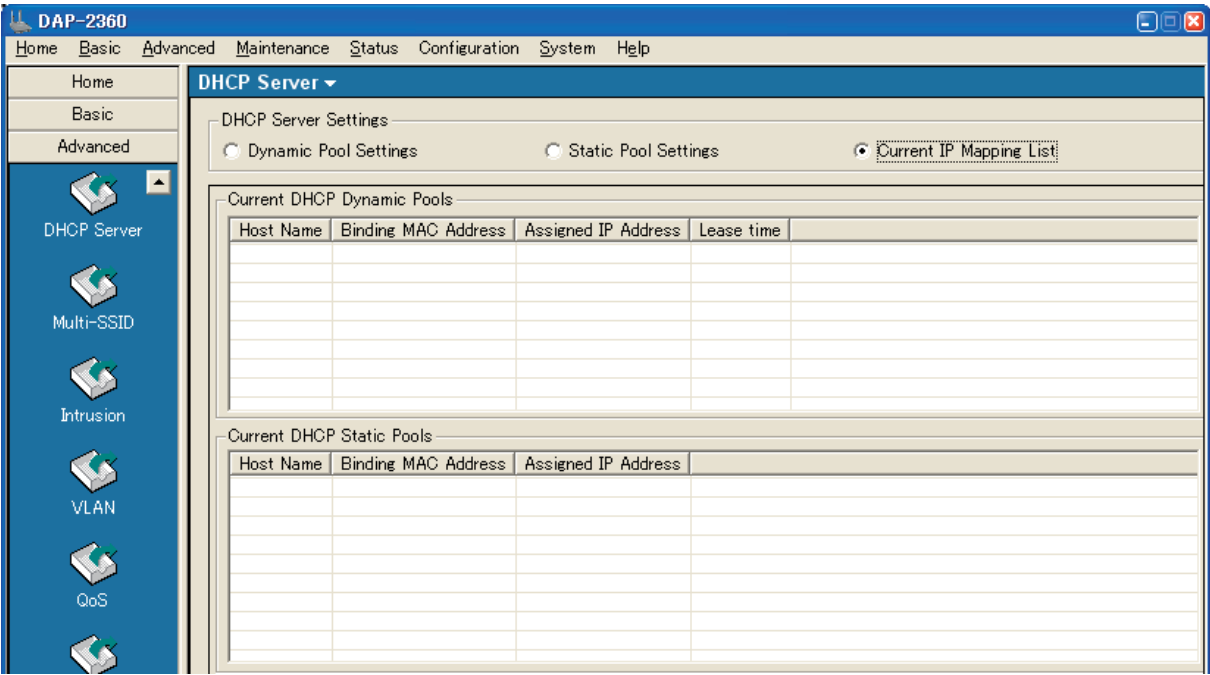


図 4-32 DHCP Server 画面 - Current IP Mapping List

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Current DHCP Dynamic Pools : DHCP サーバ機能が割り当てるダイナミック IP アドレスリスト。	
Current Dynamic MAC	DHCP ダイナミック IP アドレスプールに登録されたネットワーク内のデバイスの MAC アドレス。
Current Dynamic Assigned IP	DHCP サーバ機能がデバイスに割り当てるダイナミック IP アドレス。
Current Dynamic Lease	ダイナミック IP アドレスの有効時間。
Current DHCP Static Pools : DHCP サーバ機能が割り当てを行うスタティック IP アドレスリスト。	
Current Static MAC	DHCP スタティック IP アドレスプールに登録されたネットワーク内のデバイスの MAC アドレス。
Current Static Assigned IP	DHCP サーバ機能がデバイスに割り当てたスタティック IP アドレス。

「Refresh」ボタンをクリックすると、情報は更新されます。

Multi-SSID（マルチ SSID 設定）

マルチ SSID の設定をします。

本製品は、マルチ SSID 機能を使用して、同じチャンネルを使用しながら仮想的に分類したグループを構成することが可能です。1 件のプライマリ SSID に対し、3 件までのゲスト SSID が作成可能です。ゲスト SSID はサイトサーベイツールにより検出されないため、ゲスト SSID に接続するためには、正確なゲスト SSID とセキュリティ設定を確認する必要があります。VLAN 機能はプライマリ SSID とゲスト SSID の両方において有効です。

ゲストと内部ネットワークを組み込んだ VLAN（Virtual LAN）を構成するには、VLAN をサポートするスイッチと DHCP サーバを使用する必要があります。スイッチのポートに IEEE 802.1Q 定義の VLAN タグ付きパケットをサポートする設定を行ってください。

Advanced > Multi-SSID の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

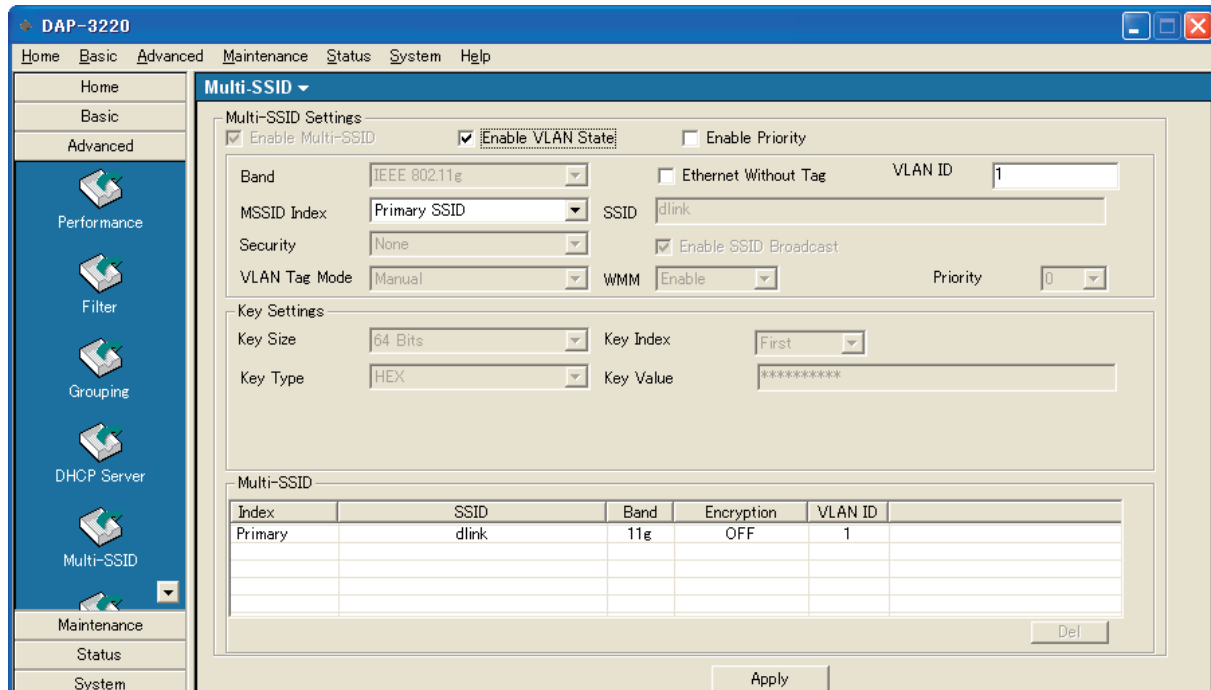


図 4-33 Multi-SSID 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Enable Multi-SSID	チェックして Multi-SSID を有効にすると、「both」、「11a」または「11g」ネットワークに SSID を設定することができます。
Enable VLAN State	チェックすると、VLAN が有効になります。
Enable Priority	チェックすると、優先度が有効になります。
Band	無線周波数 (IEEE 802.11a または IEEE 802.11g) を選択します。802.11n アクセスポイントを設定する場合には「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Ethernet Without Tag	チェックすると、タグなしのイーサネットに設定します。「VLAN State」が有効な場合にだけ使用できます。
MSSID Index	1 周波数あたり最大 7 個の MSSID を選択できます。MSSID の初期値は「Primary」です。合計 8 個の MSSID を周波数ごとに設定できます。
SSID	SSID (Service Set Identifier) は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。初期設定は「dlink」です。SSID を入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録が簡単に行えます。
VLAN ID	VLAN 番号 (0-4094) を入力します。「VLAN State」が有効な場合にだけ使用できます。
Security	プルダウンメニューからセキュリティレベルを選択します。
Ethernet	LAN1 (PoE) でネットワークを設定するためには「Main」を選択します。LAN2 にネットワークを設定するためには「Guest」を選択します。
Enable SSID Broadcast Enable SSID Visibility	チェックすると各 SSID に対して SSID のブロードキャストが有効になります。
VLAN Tag Mode	VLAN タグモードを表示します。
WMM	チェックして、WMM を有効にします。
Priority	選択した SSID のプライオリティレベルを選択します。「Priority」が有効な場合にだけ使用できます。

アクセスポイントの設定

項目	説明
WEP 暗号化	
Key Index	選択デバイスに以下のどのキーを有効にするかを指定します。
Key Type	「HEX」または「ASCII」を選択します。
Key Size	暗号化レベル（64、128、または 162 ビット）を選択し、ボックスに WEP キーを入力します。
WPA/WPA2 Personal	
Cipher Type	「AUTO」、「AES」または「TKIP」を選択します。
Group Key Update Interval	Group Key Interval(初期値 :1800) を入力します。
Passphrase	WPA パスフレーズ（半角英数字 8 ～ 63 文字）を入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Rogue AP（不正なアクセスポイントの検出）

不正なアクセスポイントの検出を行います。

Advanced > Rogue AP の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

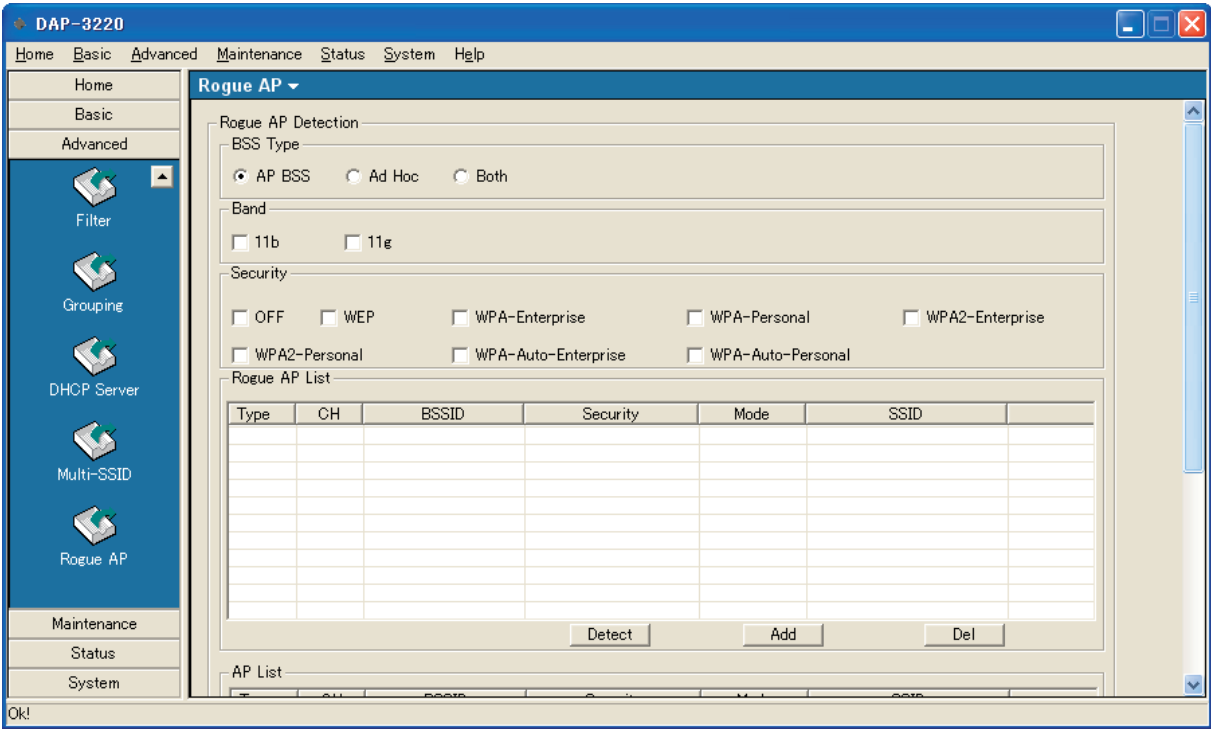


図 4-34 Rogue AP 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
BSS Type	BSS(Basic Service Set) タイプを「AP BSS」「Ad Hoc」「Both」から選択します。
Band	AP 検索を行う通信モードを「11a」、「11b」または「11g」から選択します。（複数選択可）
Security	AP 検索を行うセキュリティタイプを「OFF」、「WEP」、「WPA-Enterprise」、「WPA-Personal」、「WPA2-Enterprise」、「WPA2-Personal」、「WPA-Auto-Enterprise」または「WPA-Auto-Personal」から選択します。（複数選択可）
Rogue AP List	「Detect」ボタンをクリックし、アクセスポイントを検索します。ここには検索された不正なアクセスポイントが表示されます。検索は上の項目（BSS Type、Band、Security）で指定した内容に基づき行われます。検索されたアクセスポイントが同じネットワークに属している場合や、存在を既に認識している場合は「Add」ボタンをクリックし、アクセスポイントリストに保存します。
AP List	アクセスポイントリスト。ネットワークにアクセスを許可されたアクセスポイントを表示します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Intrusion（侵入）（802.11nのみ）

周囲のアクセスポイントを分類するために使用されます。

Advanced > Intrusion の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

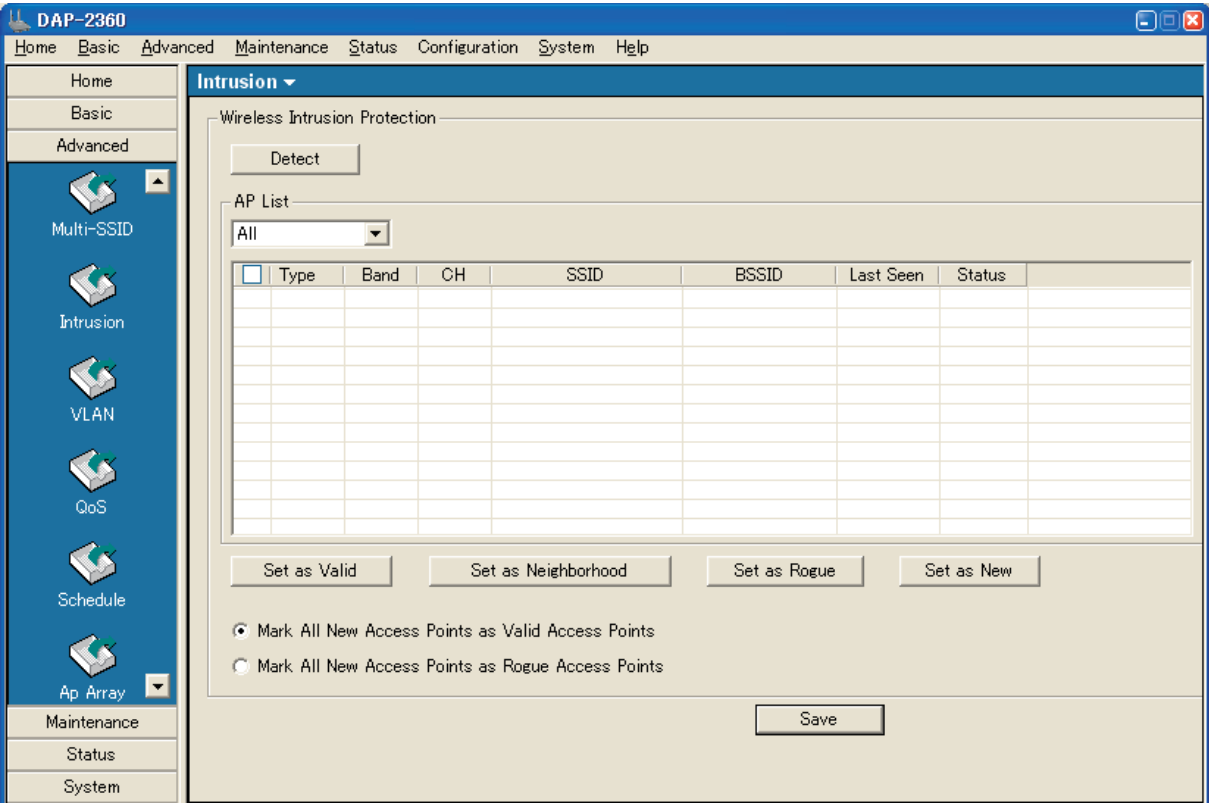


図 4-35 Intrusion 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Detect	ボタンをクリックして、周囲のアクセスポイントを検出します。結果はアクセスポイントリストに表示されます。
AP List	アクセスポイントのカテゴリ。「All」リストからアクセスポイントを分類するためにはアクセスポイントエントリに対応する「Set」ボタンをクリックします。または、「Mark All New Access Points as Valid/Rogue Access Points」をマークします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

VLAN (VLAN 設定) (802.11n のみ)

VLAN 設定を行います。

VLAN List タブ (VLAN リストの表示)

Advanced > VLAN の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

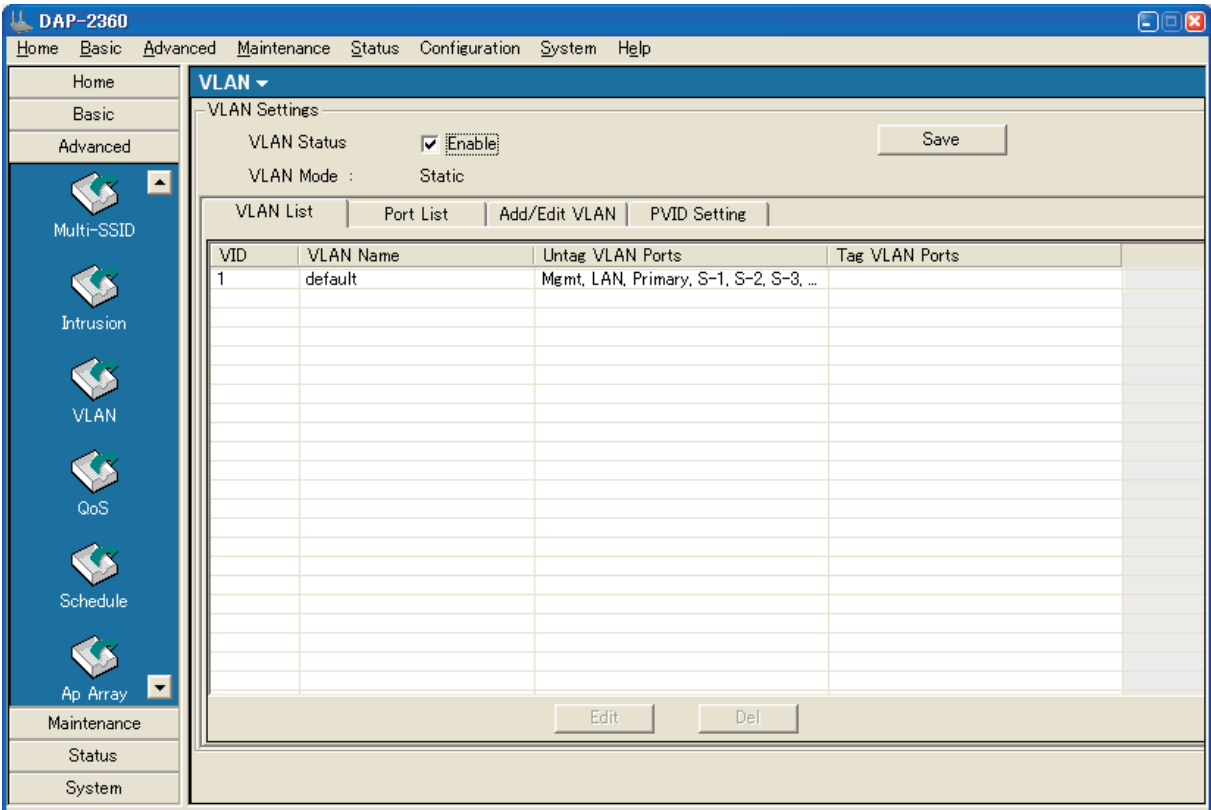


図 4-36 VLAN 画面 - VLAN List タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
VLAN Status	ボックスをチェックし、VLAN 機能を有効にします。
VLAN Mode	VLAN のモードを表示します。
VLAN List	アクセスポイントに設定された VLAN を表示します。
Port List	アクセスポイントに設定されたポートを表示します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Add/Edit VLAN タブ（VLAN の追加と編集）（802.11n のみ）

VLAN の追加、編集を行います。

「Add/Edit VLAN」タブを選択し、以下の画面を表示します。

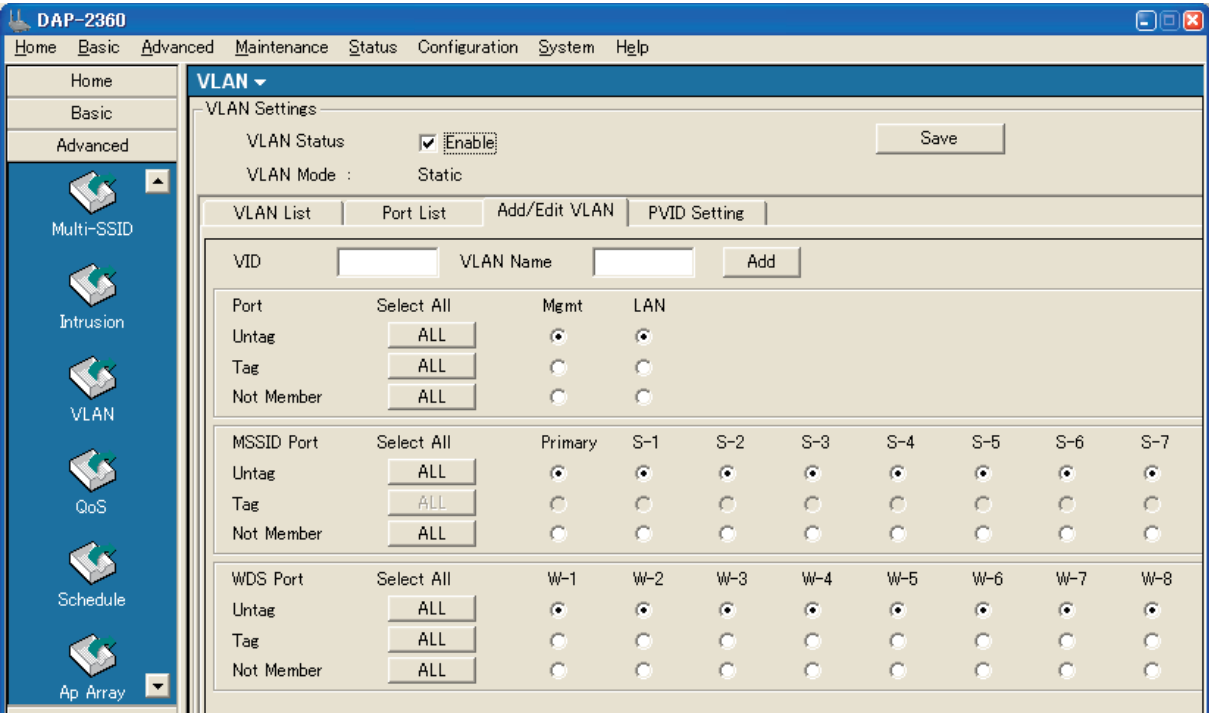


図 4-37 VLAN 画面 - Add/Edit VLAN タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
VID	VID 番号を入力します。
VLAN Name	VID 名を入力します。
Port / MSSID Port / WDS Port	Port / MSSID Port / WDS Port から VLAN メンバを選択して割り当てます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

VLAN の追加

- 「VID」、「VLAN Name」を入力し、「Add」ボタンをクリックします。
- Port / MSSID Port / WDS Port を指定し、「Apply」または「Save」ボタンをクリックします。

PVID Setting タブ（PVID 設定）（802.11n のみ）

PVID の設定を行います。

「PVID Setting」タブを選択し、以下の画面を表示します。

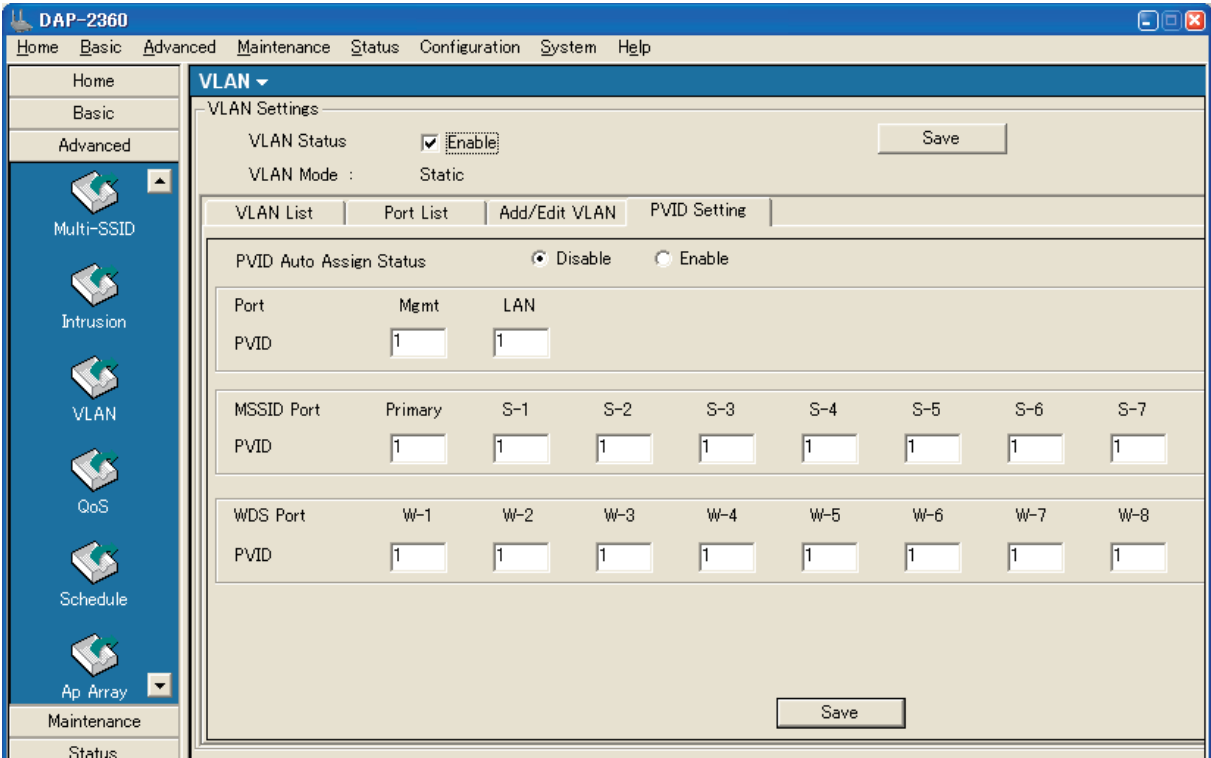


図 4-38 VLAN 画面 - PVID Setting タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
PVID Auto Assign Status	ボックスをチェックすると、PVID を自動的に割り当てます。
Port / MSSID Port / WDS Port	手動で PVID を割り当てます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Port List タブ（ポートリストの表示）（802.11n のみ）

VLAN のポート設定を表示します。

「Port List」タブを選択し、以下の画面を表示します。

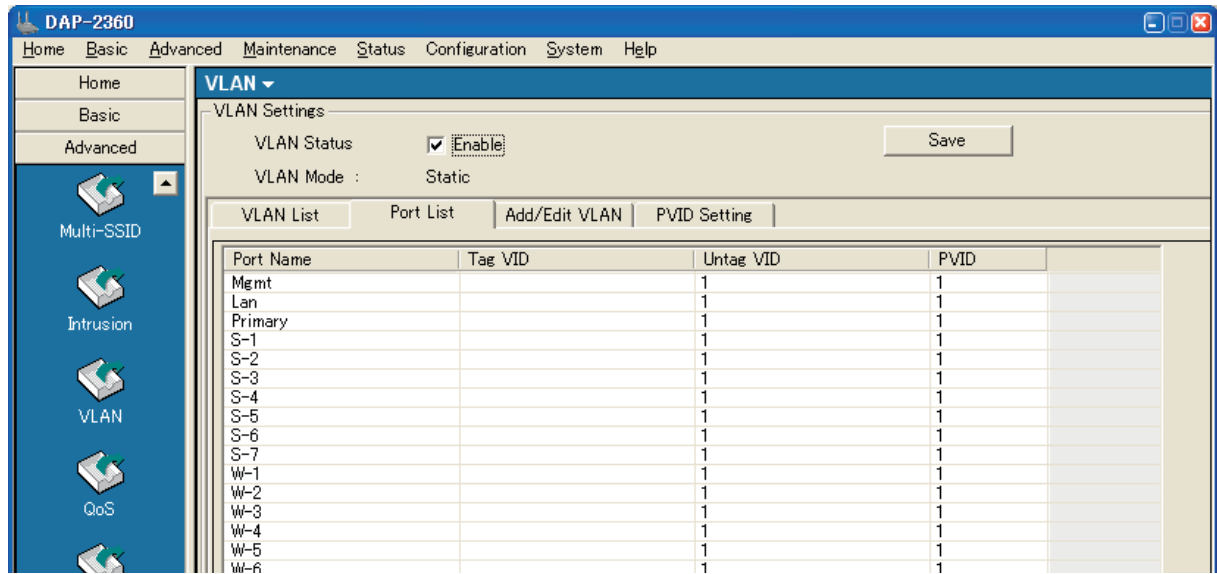


図 4-39 VLAN 画面 - Port List タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
VLAN Status	「Enable」（有効）にし、「Add/Edit VLAN」タブで「VLAN List」のアイテムを追加 / 変更します。
VLAN Mode	現在の VLAN モードが表示されます。
Port Name	ポート名が表示されます。
Tag VID	タグ付き VID が表示されます。
Untag VID	タグなし VID が表示されます。
PVID	ポート VLAN 識別子が表示されます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

QoS（QoS 設定）（802.11n のみ）

QoS の設定を行います。

Advanced > QoS の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

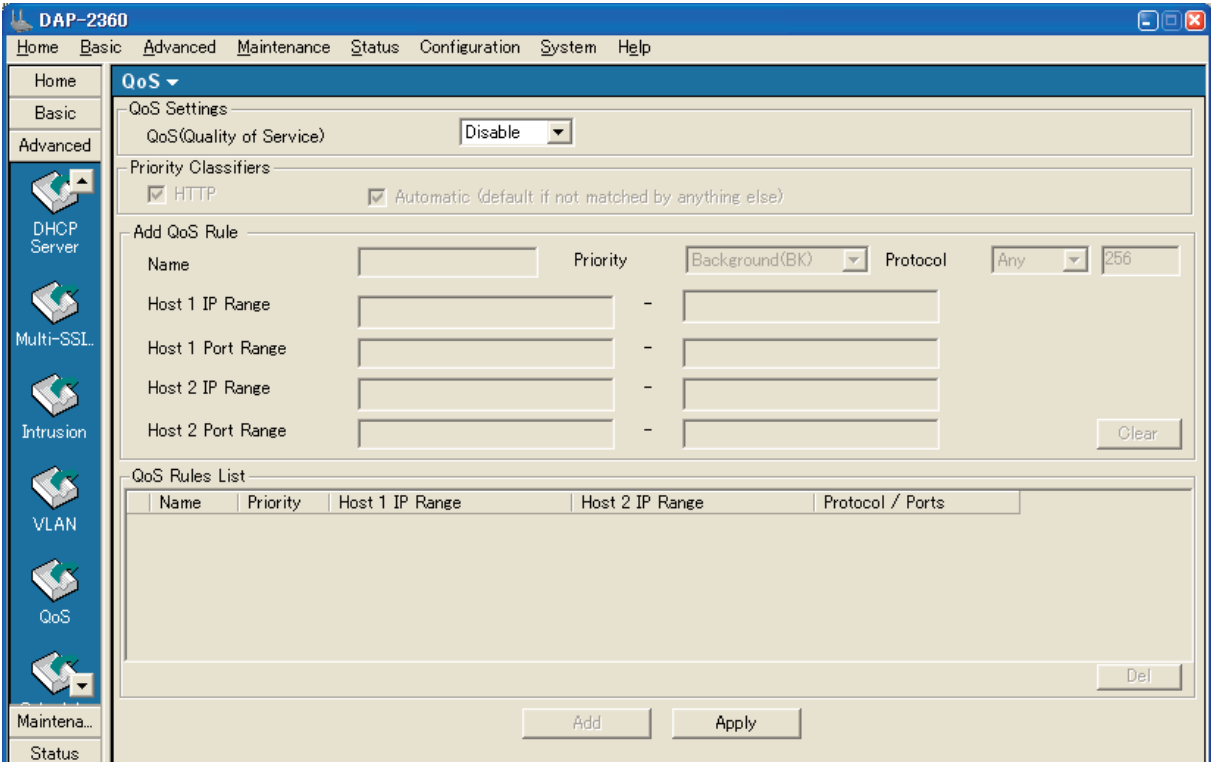


図 4-40 QoS 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
QoS Settings	
QoS Settings	「QoS（Qualify of Service）」で「Enable」を選択して、QoS 機能を有効にします。
Priority Classifiers	
Priority Classifiers	<ul style="list-style-type: none">HTTP - http パケットにルールを適用します。Automatic - すべてのパケットにルールを適用します。
Add QoS Rule	
Name	本 QoS ルールの名称を入力します。
Priority	プルダウンメニューから優先度レベルを選択します。優先度には 4 つのタイプ（Background、Best Effort、Video および Voice）があります。
Protocol	プルダウンメニューからプロトコル（Any、TCP、UDP、Both、ICMP、Other）を選択します。
Host IP Range	ルールを適用する IP 範囲を入力します。
Host Port Range	ルールを適用するポート範囲を入力します。
QoS Rules List	設定済みの QoS ルールを表示します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Schedule（スケジュール設定）（802.11n のみ）

スケジュールは、指定時間にアクセスポイントの無線機能をオープンまたはクローズするのに使用されます。

Advanced > Schedule の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

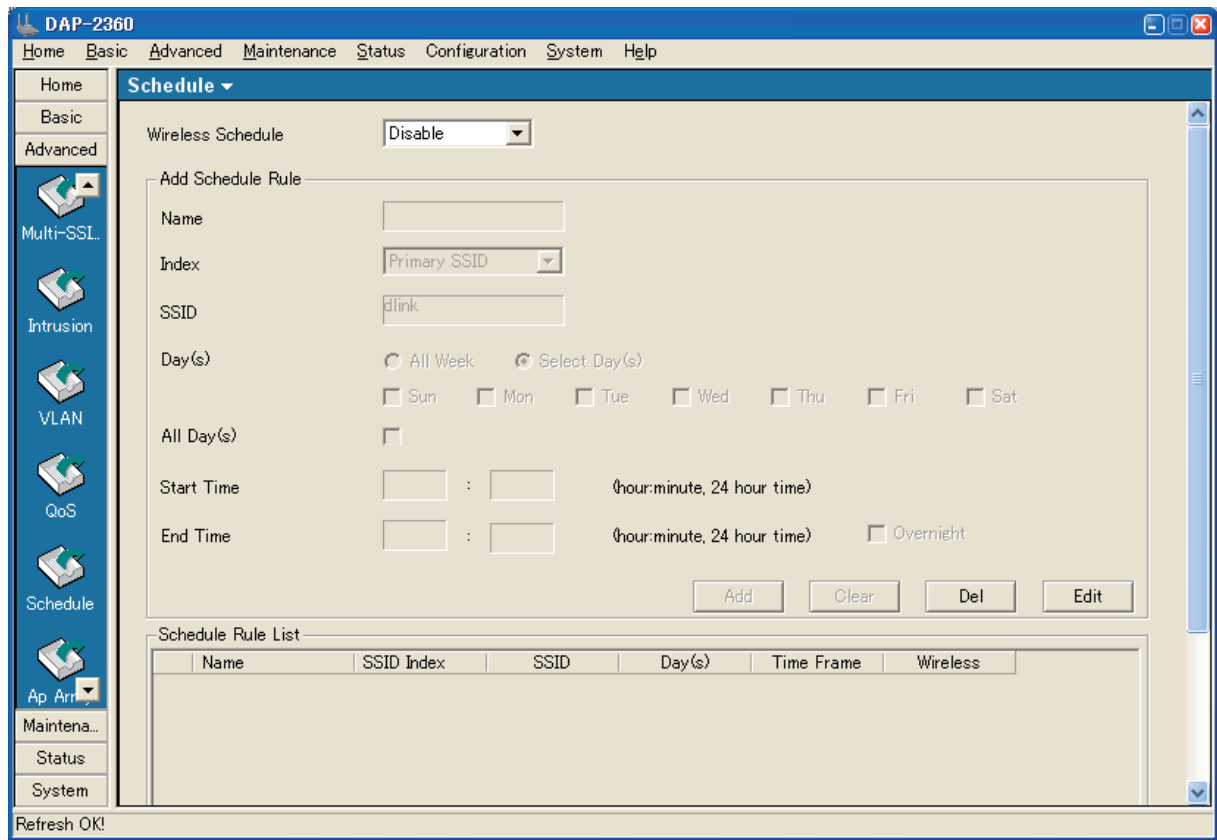


図 4-41 Schedule 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Wireless Schedule Settings	
Wireless Schedule	本機能を有効にするためには、プルダウンメニューから「Enable」を選択します。
Add Schedule Rule	
Index	SSID インデックスを選択します。
SSID	選択した SSID を表示します。
Name	本スケジュールルールの名称を入力します。
Day(s)	スケジュールを適用する日を選択します。
Start/End Time	スケジュールを適用する開始時刻と終了時刻を入力します。
Schedule Rules List	
設定済みのスケジュールルールを表示します。	

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Ap Array (AP アレイ) (802.11n のみ)

AP アレイは、ネットワーク管理をより簡単にするために 1 つのグループに体系付けたネットワーク上のデバイスのセットです。

Advanced > AP Array の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

Ap Array ▾

☐ Enable AP Array

☐ Master ☐ Backup Master ☒ Slave

AP Array name

AP Array password

Scan AP Array List

Connection Status Disconnect

AP Array List

Array name	Master IP	MAC	Master	Backup Master	Slave	Total
------------	-----------	-----	--------	---------------	-------	-------

Current Array Members

Index	Role	IP address	MAC address	Location
-------	------	------------	-------------	----------

Synchronized Parameters:

Wireless Basic Settings

Network Name (SSID)	<input checked="" type="checkbox"/>	SSID Visibility	<input checked="" type="checkbox"/>	Auto Channel Selection	<input checked="" type="checkbox"/>
Channel width	<input checked="" type="checkbox"/>	Security	<input checked="" type="checkbox"/>	Band	<input checked="" type="checkbox"/>

Wireless Advanced Setting

Data Rate	<input checked="" type="checkbox"/>	Beacon Interval	<input checked="" type="checkbox"/>	DTIM Interval	<input checked="" type="checkbox"/>
Transmit Power	<input checked="" type="checkbox"/>	WMM (Wi-Fi Multimedia)	<input checked="" type="checkbox"/>	Ack Time Out	<input checked="" type="checkbox"/>
Short GI	<input checked="" type="checkbox"/>	IGMP Snooping	<input checked="" type="checkbox"/>	Link Integrity	<input checked="" type="checkbox"/>
Connection Limit	<input checked="" type="checkbox"/>	Wireless ACL	<input checked="" type="checkbox"/>		

Multiple SSID_VLAN

SSID	<input checked="" type="checkbox"/>	SSID Visibility	<input checked="" type="checkbox"/>	Security	<input checked="" type="checkbox"/>
WMM	<input checked="" type="checkbox"/>	VLAN	<input checked="" type="checkbox"/>		

Advanced Functions

Schedule Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	QoS Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	DHCP server Settings	<input checked="" type="checkbox"/>
Log Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	Time and Date Settings	<input checked="" type="checkbox"/>		

Administration Settings

Limit Administrator	<input checked="" type="checkbox"/>	System Name Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	Login Settings	<input checked="" type="checkbox"/>
Console Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	SNMP Settings	<input checked="" type="checkbox"/>	Ping Control Setting	<input checked="" type="checkbox"/>

図 4-42 Schedule 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Enable AP Array	チェックすると AP アレイ機能を有効にします。「Master」、「Backup Master」、「Slave」の 3 つのモードから選択します。同じアレイに存在する AP は同様の設定を行います。「Slave AP」と「Backup Master AP」が AP アレイに参加するとコンフィグレーションは「Master AP」をこれらの AP に同期するようにします。
AP Array Name	作成した「AP アレイ」の名前を入力します。
AP Array Password	作成した「AP アレイ」へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
Scan AP Array List	クリックしてネットワーク上にある有効なアクセスポイントを検索します。
Connection Status	現在の AP アレイの状態を表示します。
AP Array List	以下の項目に対して現在の AP アレイの状態を表示します。: Array Name、Master IP、MAC、Master、Backup Master、Slave および Total
Current Members	現在のアレイメンバをすべて表示します。DAP-2553 の AP アレイ機能では、最大 8 個の AP アレイをサポートしています。
Synchronized Parameters	AP アレイに同期する項目を選択します。「Clear all」ボタンをクリックすると、すべての同期パラメータがクリアされます。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

ARP Snooping Prevention (ARP Spoofing 防止) (802.11n のみ)

ARP スプーフィング攻撃を防ぐためにパケットコンテンツ ACL を使用して、偽造されたゲートウェイの MAC と IP バインディングを含む不正な ARP パケットを防御します。

Advanced > ARP Spoofing Prevention の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

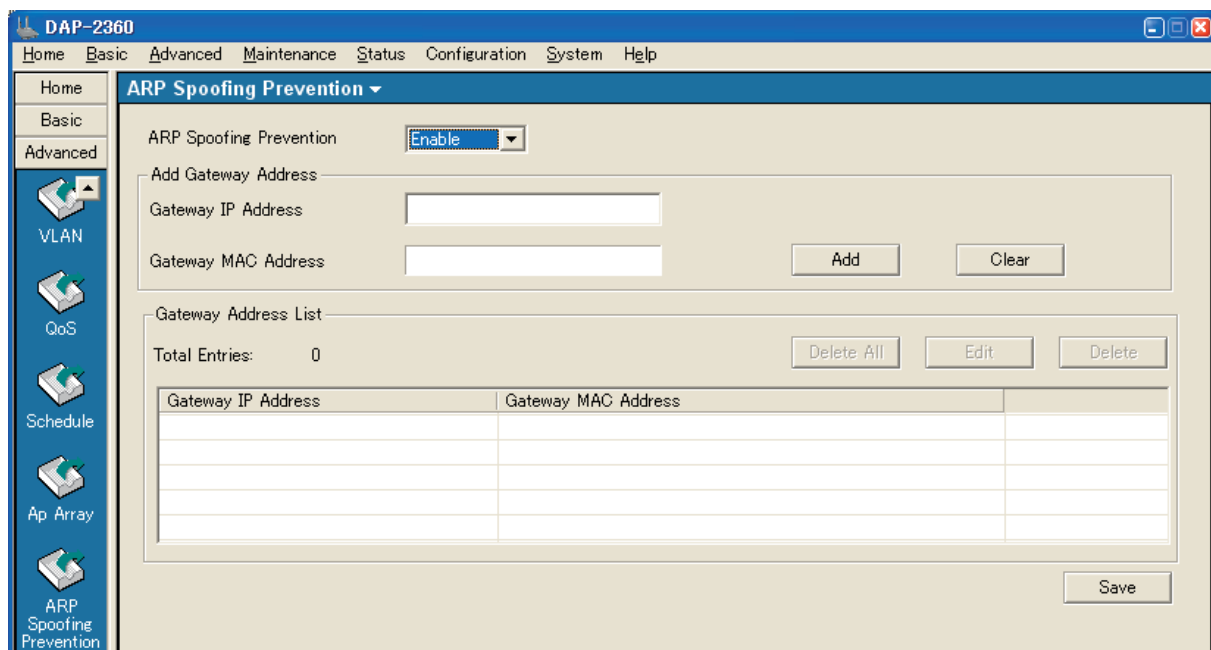


図 4-43 ARP Spoofing Prevention 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
ARP Spoofing Prevention	「Enable」を選択し、ARP スプーフィング攻撃防止機能を有効にします。
Add Gateway Address	
Gateway IP Address	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
Gateway MAC Address	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。

「Add」ボタンをクリックして、ゲートウェイの MAC と IP アドレスのバインディングリストに登録します。設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Internal RADIUS Server（内部 RADIUS サーバ）

内部 RADIUS サーバを設定します。

Advanced > Internal RADIUS Server の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

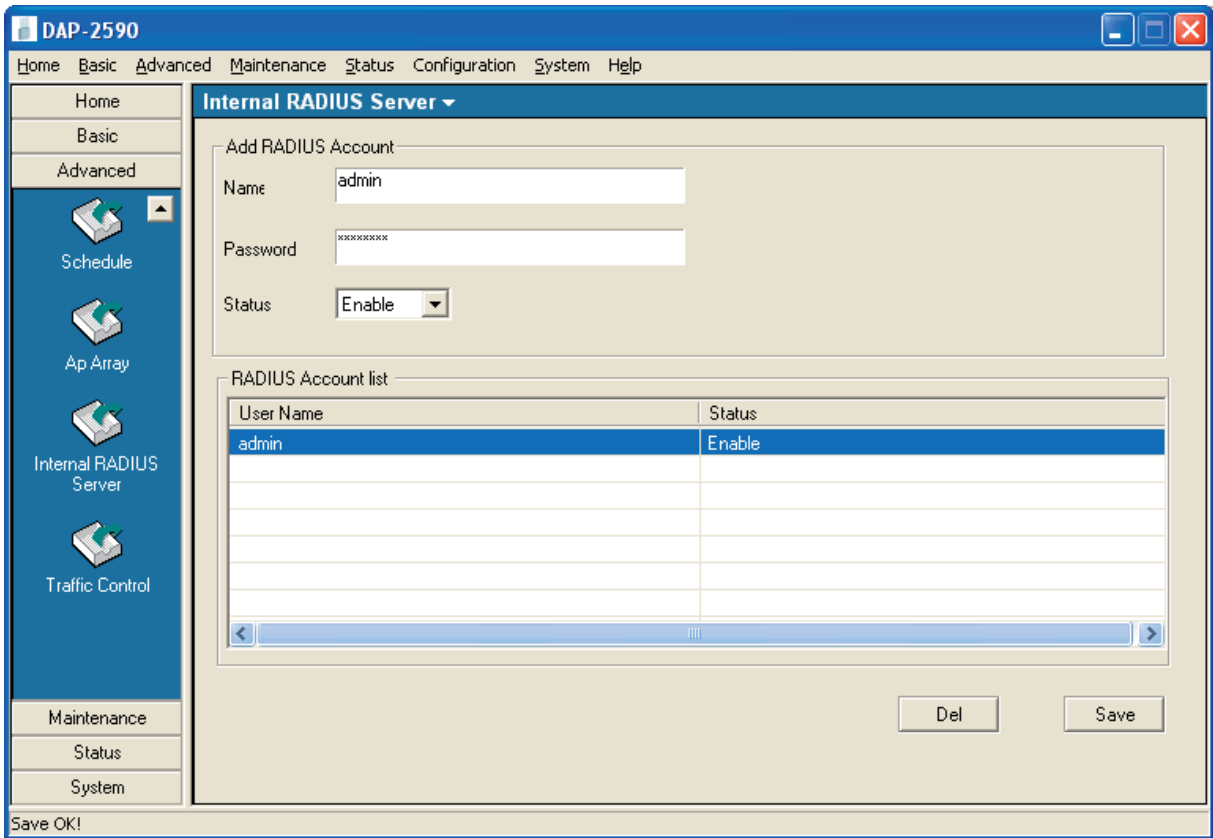


図 4-44 Internal RADIUS Server 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Name	ユーザ名を入力します。
Password	パスワードを入力します。
Status	プルダウンメニューから、「Enable」（有効）または「Disable」（無効）を選択します。
RADIUS Account List	作成した RADIUS アカウントとその状態をすべて表示します。
Del	RADIUS Account リストからアカウントを選択し、「Del」ボタンをクリックして、アカウントを削除します。
Save	アカウントの作成、または状態の変更後に設定を保存するためには、「Save」ボタンをクリックします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Traffic Control（トラフィックコントロール）

Uplink and Downlink Settings（アップリンクとダウンリンク設定）タブ

ダウンリンクとアップリンク帯域幅（Mbps）の指定を含むダウンリンクとアップリンクインタフェースをカスタマイズできます。これらの値は QoS と Traffic Manager 画面にも使用されます。

Advanced > Traffic Control > Uplink and Downlink Settings タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

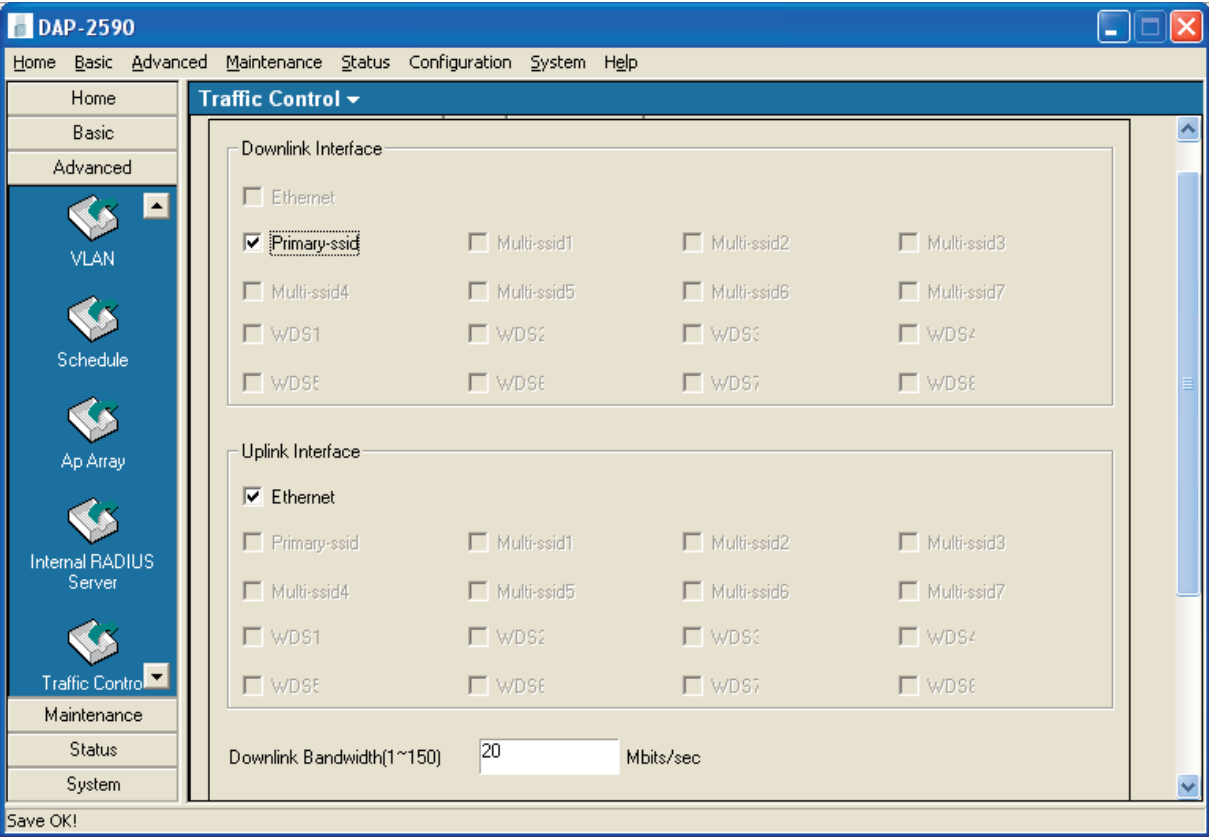


図 4-45 Traffic Control 画面 - Uplink and Downlink Settings タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Downlink Interface	ダウンリンク帯域幅（Mbps）。
Uplink Interface	アップリンク帯域幅（Mbps）。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

QoS（QoS 設定）タブ

QoS（Quality of Service）は異なるアプリケーションのトラフィックに優先度をつけることでネットワークの使用効果を機能アップします。

Advanced > Traffic Control > QoS タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

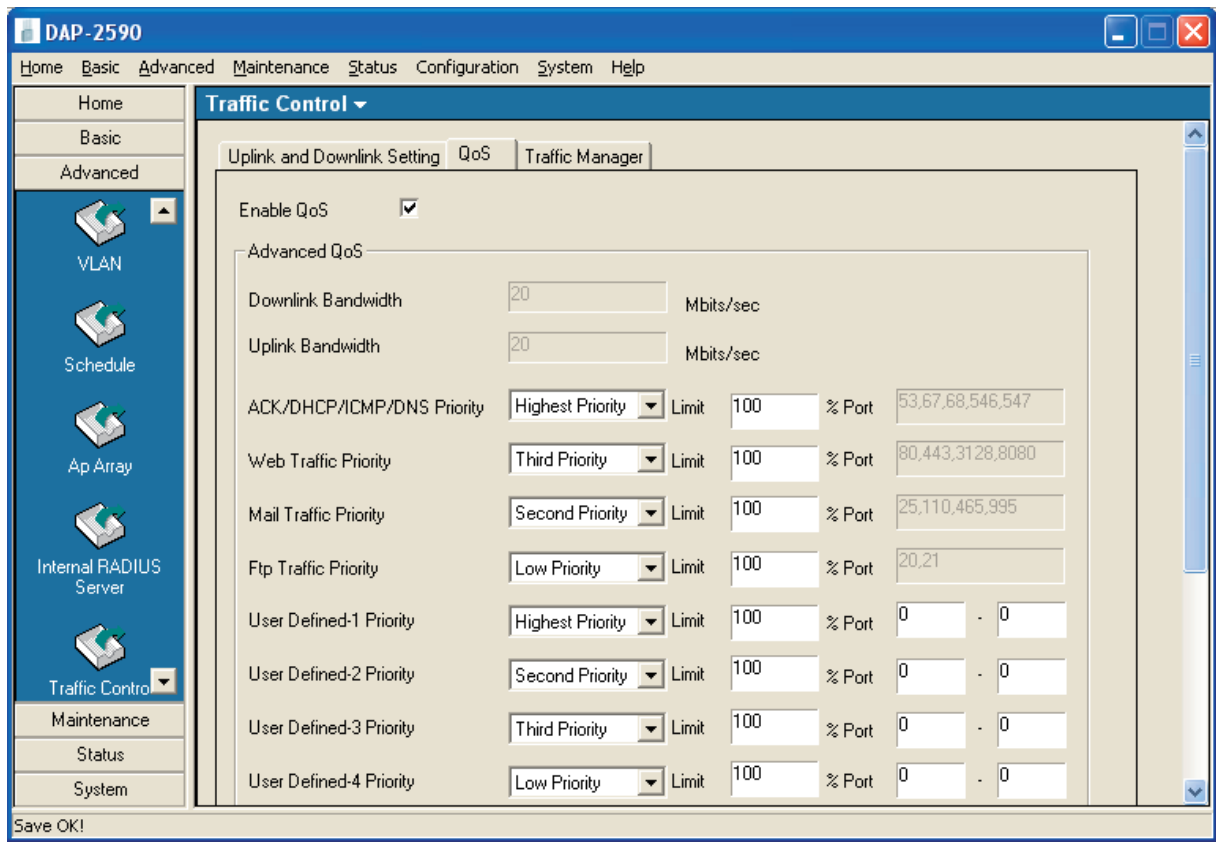


図 4-46 Traffic Control 画面 - QoS タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Enable QoS	このボックスをチェックすると、QoS はトラフィックに優先度をつけることができます。プルダウンメニューを使用して 4 つのレベルの優先度を選択します。
Downlink Bandwidth	ダウンリンク帯域幅 (Mbps)。この値は「Uplink/Downlink Setting」画面で入力します。
Uplink Bandwidth	アップリンク帯域幅 (Mbps)。この値は「Uplink/Downlink Setting」画面で入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Traffic Manager（トラフィックマネージャ）タブ

リストにあるクライアントのトラフィックに対応する方法を指定するトラフィック管理ルールを作成し、新しいトラフィックマネージャルールにダウンリンクおよびアップリンクスピードを指定します。

Advanced > Traffic Control > Traffic Manager タブの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

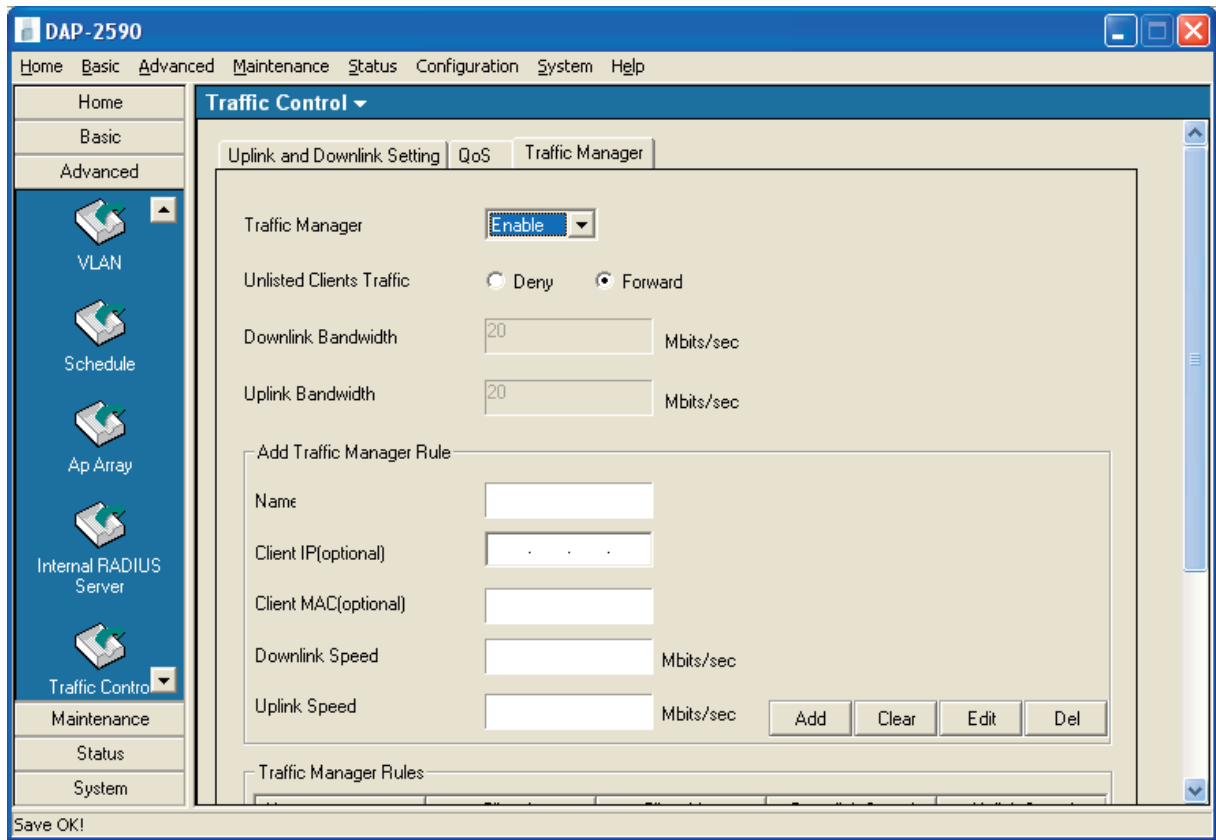


図 4-47 Traffic Control 画面 - Traffic Manager タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Traffic Manager	プルダウンメニューから、「Enable」（有効）または「Disable」（無効）を選択します。
Unlisted Clients Traffic	「Deny」を選択すると、リストにないクライアントのネットワークアクセスを防御し、「Forward」を選択すると、すべてのクライアントにネットワークアクセスを許可します。
Downlink Bandwidth	ダウンリンク帯域幅 (Mbps)。この値は「Uplink/Downlink Setting」画面で入力します。
Uplink Bandwidth	アップリンク帯域幅 (Mbps)。この値は「Uplink/Downlink Setting」画面で入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Maintenance（メンテナンス設定）

Admin（管理者設定）

Maintenance > Admin の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

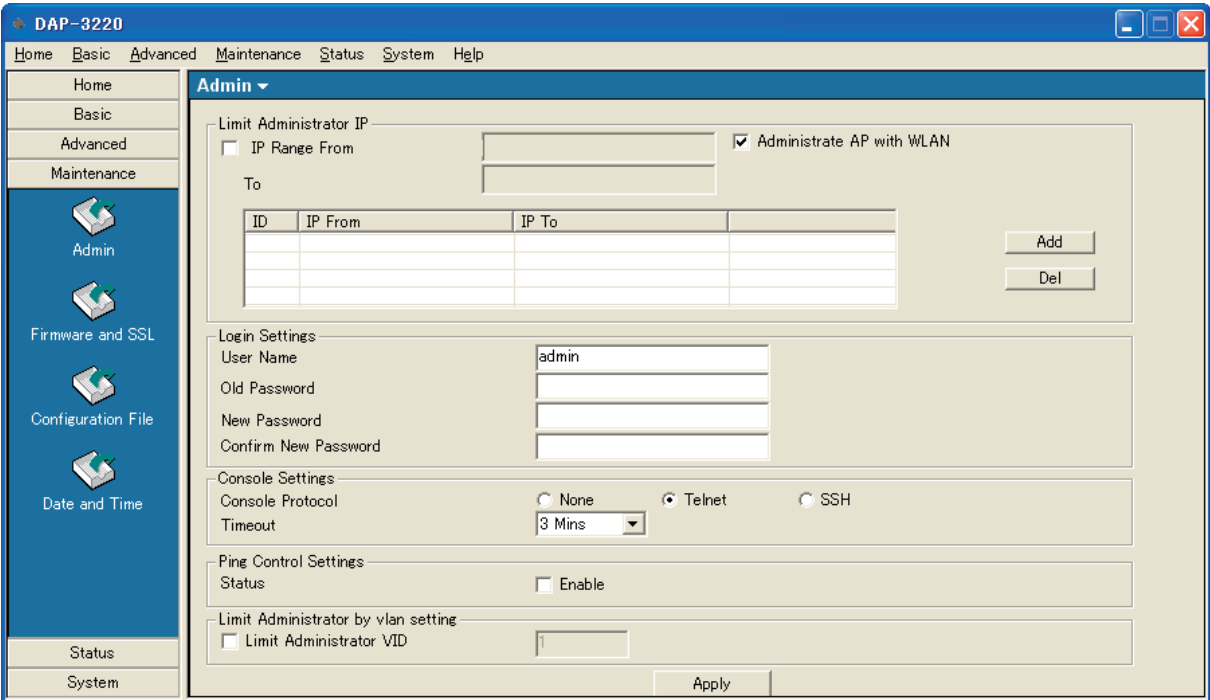


図 4-48 Admin 画面例 (802.11g)

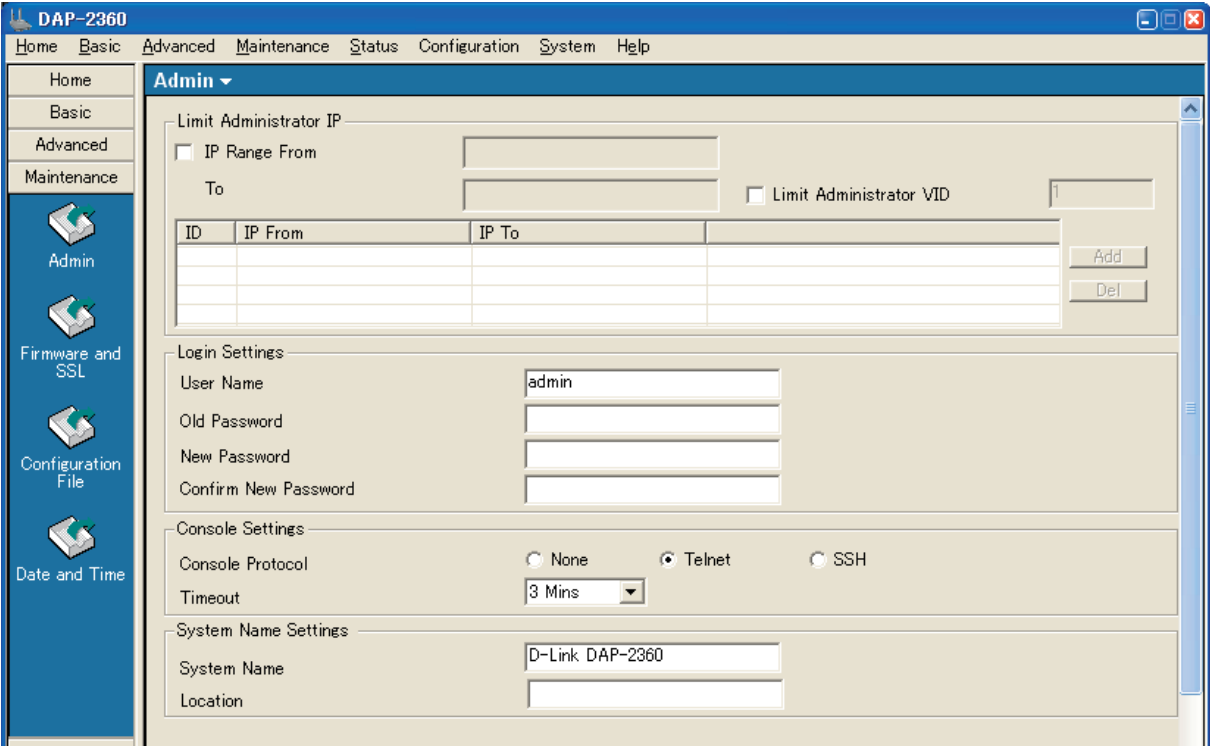


図 4-49 Admin 画面例 (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Limit Administrator IP	
IP Range From	チェックすると、IP 範囲内のコンピュータだけにアクセスポイントの管理を許可します。
Limit Administrator VID	チェックすると、VID 内のコンピュータだけにアクセスポイントの管理を許可します。
Login Settings	
User Name	ユーザ名を入力します。初期値は「admin」です。
Old Password	パスワードの変更を行う場合、ここで現在のパスワードを入力します。
New Password	パスワードの変更を行う場合、ここで新しいパスワードを入力します。
Confirm New Password	確認のために新しいパスワードを入力します。
Console Settings	
Console Protocol	使用するプロトコルのタイプ (Telnet または SSH) を選択します。または、「None」(なし) を選択します。
Timeout	プルダウンメニューから期限を選択します。
Ping Control Settings	
Status	ボックスをチェックすると、アクセスポイントへの ping がコンピュータに許可されます。
System Name Settings	
System Name	本デバイスの名称を入力します。
Location	デバイスの位置に関する説明を入力します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Firmware and SSL (ファームウェアと SSL 証明書の更新)

Maintenance > Firmware and SSL の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

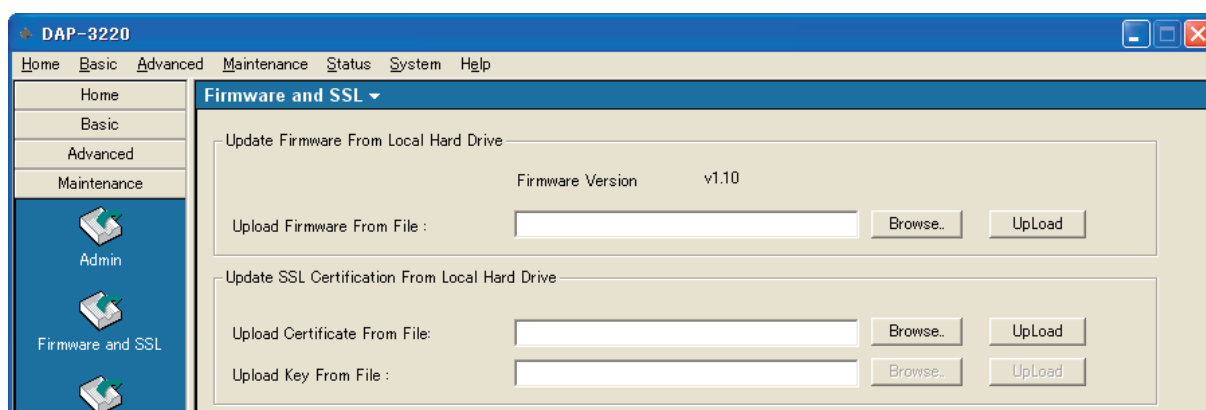


図 4-50 Firmware and SSL 画面例 (802.11g)

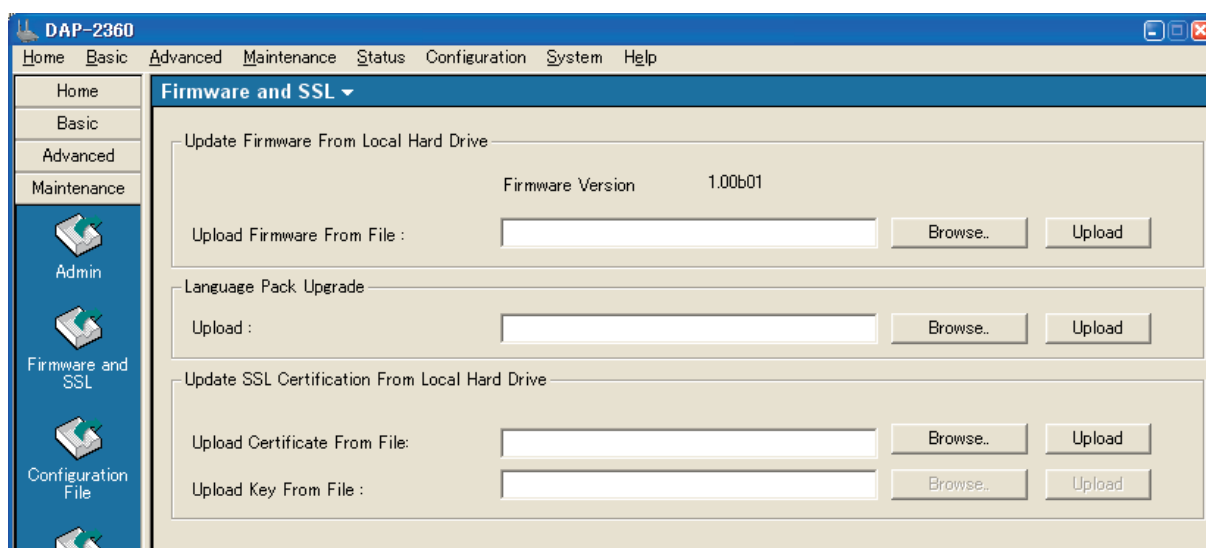


図 4-51 Firmware and SSL 画面例 (802.11n)

アクセスポイントの設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Update Firmware From Local Hard Drive	
Upload Firmware From File	アクセスポイントにアップロードするファイルを指定します。
Language Pack Upgrade	
Upload	アクセスポイントにアップロードする言語パックを指定します。
Update SSL Certification from Local Hard Drive	
Upload Certificate From File	アクセスポイントにアップロードする SSL 証明書を指定します。
Upload Key From File	アクセスポイントにアップロードするキーファイルを指定します。

ファームウェアの更新

1. 弊社のホームページから最新のファームウェアファイルをダウンロードし、ご使用のハードディスク上の検索しやすい場所に保存します。
2. 「Upgrade Firmware from Local Hard Drive」セクションの「Upgrade Firmware From File」の「Browse」ボタンをクリックします。
3. ファイルを入力するダイアログが表示されます。
4. ファイルの場所を指定し、「開く」ボタンをクリックします。
5. ファイルへのパスが「Upgrade Firmware File From」に表示されます。
6. 「Upload」ボタンをクリックして、ファイルをアクセスポイントにアップロードします。

SSL 証明書の更新

1. アクセスポイントの SSL 証明書を更新するためには、「Update SSL Certification from Local Hard Drive」セクションの「Upload Certificate From File」の「Browse」ボタンをクリックして、ご使用のローカルコンピュータ上の SSL 証明書とキーファイルの場所を指定します。
2. 「Upload」ボタンを使用して、ファイルをアクセスポイントにアップロードします。

言語パックの更新

1. アクセスポイントの言語を更新するためには、「Browse」ボタンをクリックして、ご使用のローカルコンピュータ上の言語パックを指定します。
2. 「Upload」ボタンを使用して、ファイルをアクセスポイントにアップロードします。

Configuration File（コンフィグレーションファイルの保存と復元）

デバイスの設定をファイルに保存または復元することができます。

Maintenance > Configuration File の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

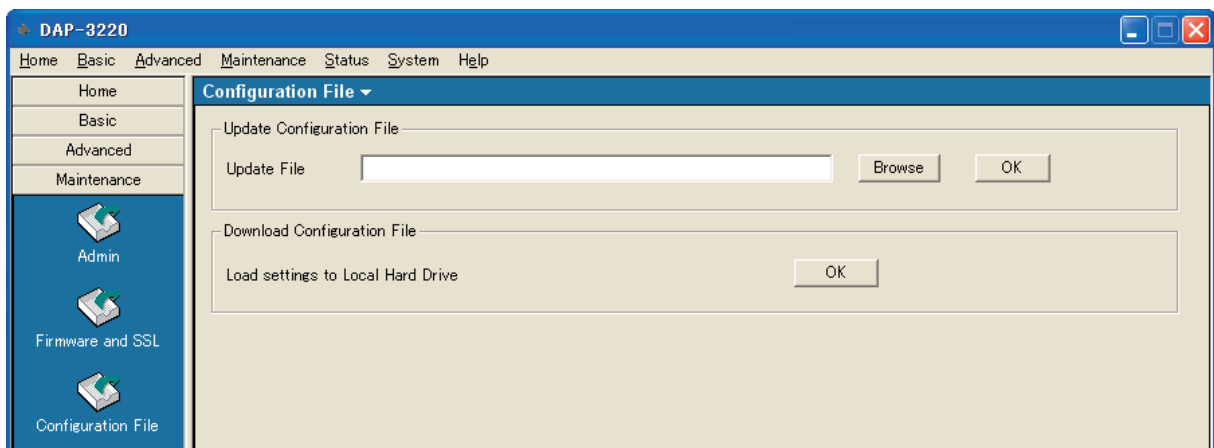


図 4-52 Configuration File 画面例 (802.11g)

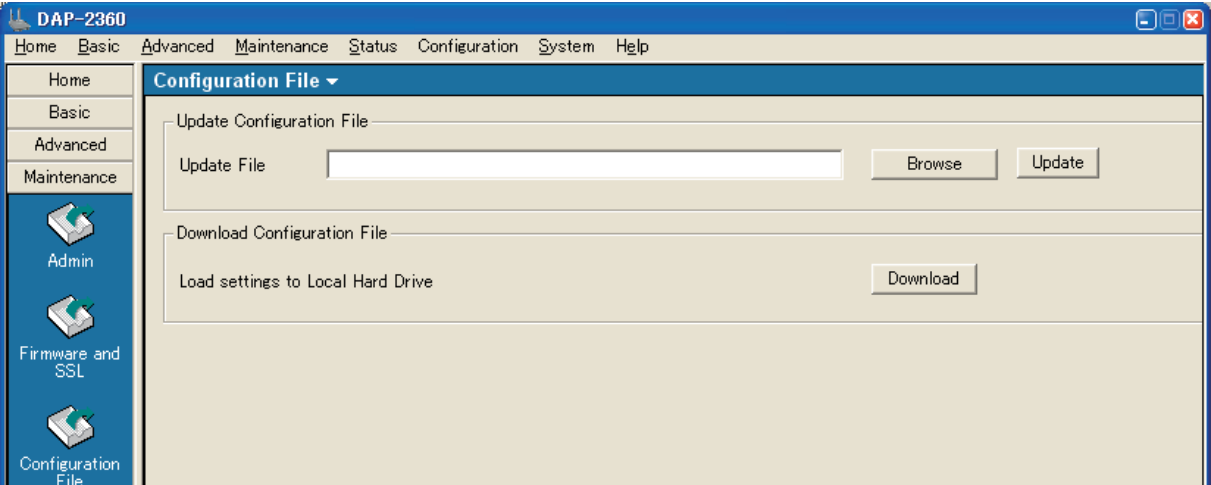


図 4-53 Configuration File 画面例 (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Update Configuration File	
Update File	復元するコンフィグレーションを指定します。
Download Configuration File	
Load settings to Local Hard Drive	ローカルなハードディスクにコンフィグレーションを保存します。

設定ファイルの保存

- 1. メイン画面のデバイスリストからデバイスを選択します。
- 2. Tools > Configuration 画面を表示します。
- 3. すべての必要な設定を行った後、「Download Configuration File」セクションの「OK」ボタンをクリックします。
- 4. ファイル名と保存場所を入力するためのダイアログが表示されます。ファイル名を入力し、保存場所を指定後「Save」ボタンをクリックします。

保存済みの設定ファイルの復元

- 1. 「Update Configuration File」セクションの「Browse」ボタンをクリックして、ご使用のコンピュータのデバイス設定ファイルの場所を指定します。
- 2. コンフィグレーションファイルを入力する「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。ファイルの場所を指定し、「開く」ボタンをクリックします。
- 3. 「Upgrade File」欄にファイルへのパスが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、アクセスポイントに設定ファイルをアップロードします。

Date and Time（時間設定）

Maintenance > Date and Time（または SNTP）の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

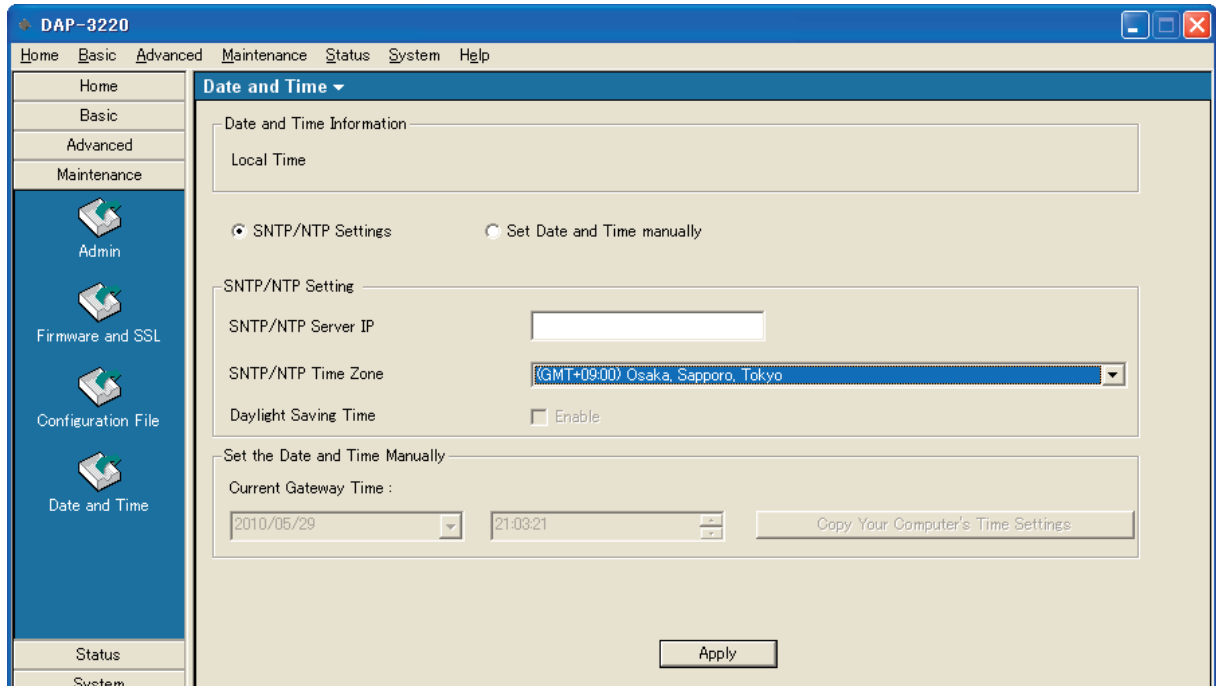


図 4-54 Date and Time 画面例（802.11g）

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
SNTP/NTP Settings	このボックスをチェックすると NTP サーバを使用して時間同期を行います。
Set Date and Time manually	このボックスをチェックすると日時設定を手動で行います。
SNTP/NTP Settings	
NTP Server IP	SNTP/NTP サーバの IP アドレスを入力します。
Time Zone	プルダウンメニューより使用するタイムゾーンを選択します。
Daylight Saving Time	サマータイムを使用する場合は、ボックスにチェックを入れます。
Set the Date and Time Manually	
Current Gateway Time	ボックスから日時を選択するか、または「Copy Your Computer's Time Settings」ボタンをクリックして、ご使用のコンピュータの時間設定をアクセスポイントにコピーします。

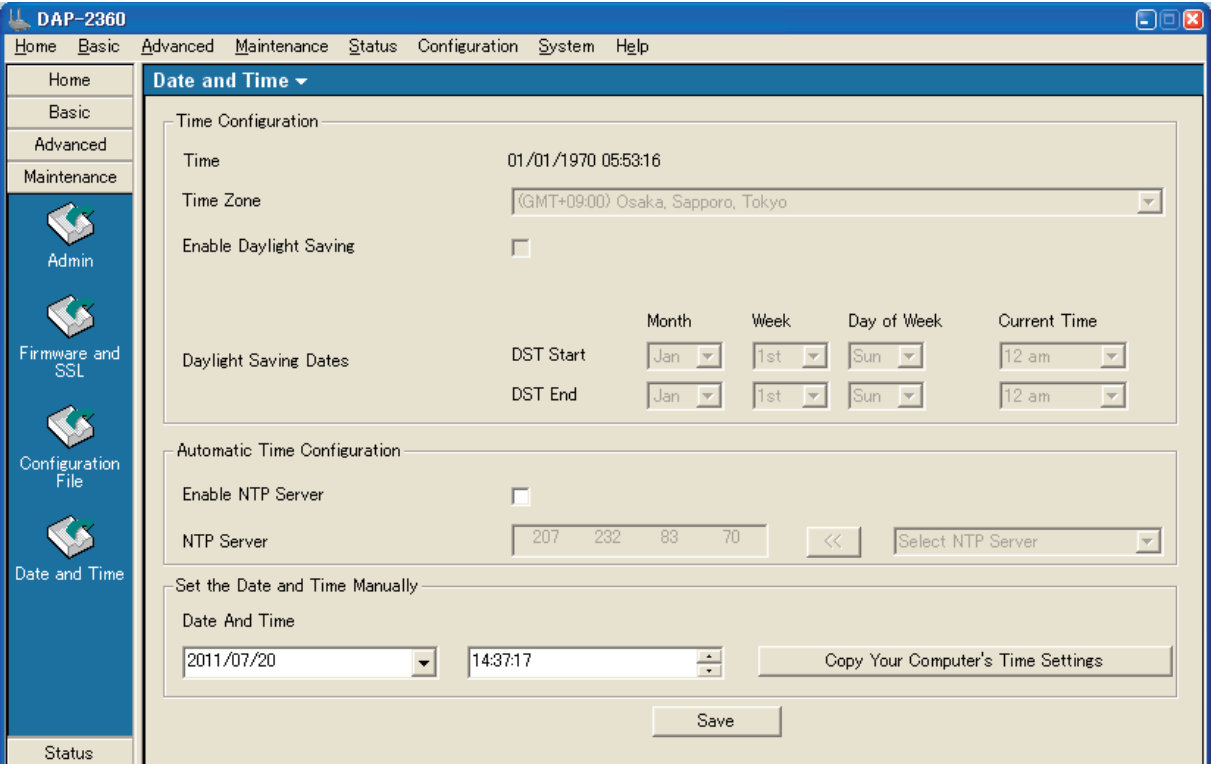


図 4-55 Date and Time 画面例 (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Time Configuration	
Time	現在のローカルタイムが表示されます。
Time Zone	プルダウンメニューから使用するタイムゾーンを選択します。
Enable Daylight Saving Time	サマータイムを使用する場合は、ボックスにチェックを入れます。
Daylight Saving Offset	プルダウンメニューからオフセット時間を選択します。
Daylight Saving Dates	サマータイムの開始日と終了日を選択します。
Automatic Time Configuration	
Enable NTP Server	このボックスをチェックすると NTP サーバを使用して時間同期を行います。
NTP Server Used	プルダウンメニューから NTP サーバを選択します。
Set the Date and Time Manually	
Date And Time	ボックスから日時を選択するか、または「Copy Your Computer's Time Settings」ボタンをクリックして、ご使用のコンピュータの時間設定をアクセスポイントにコピーします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Status（ステータスの表示）

Device Information（デバイス情報）

Status > Device Information の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

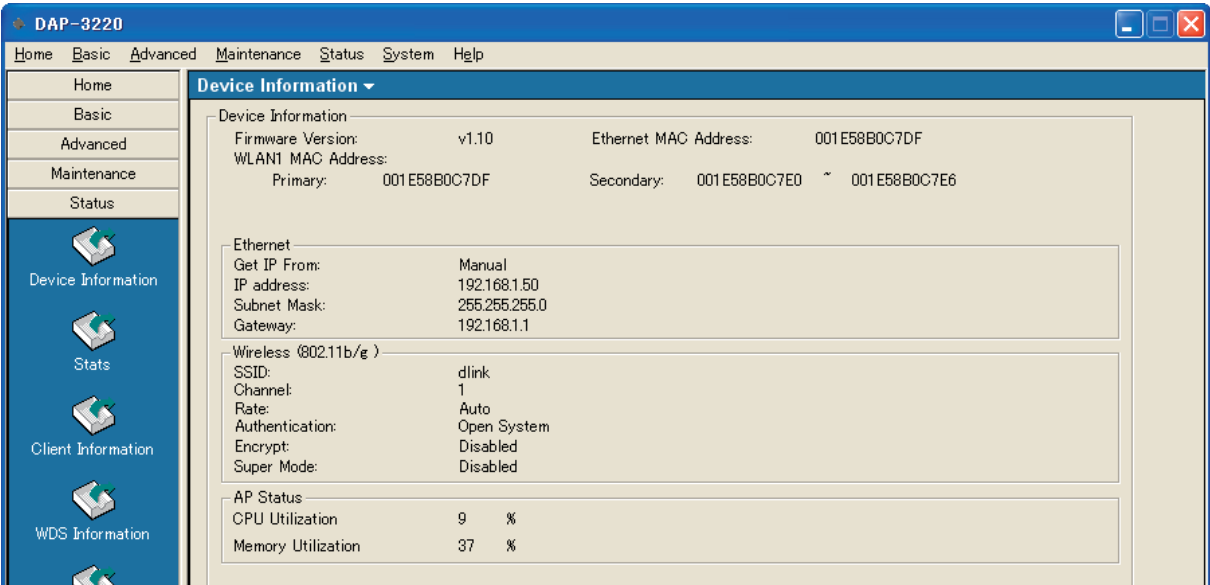


図 4-56 Device Information 画面例 (802.11g)

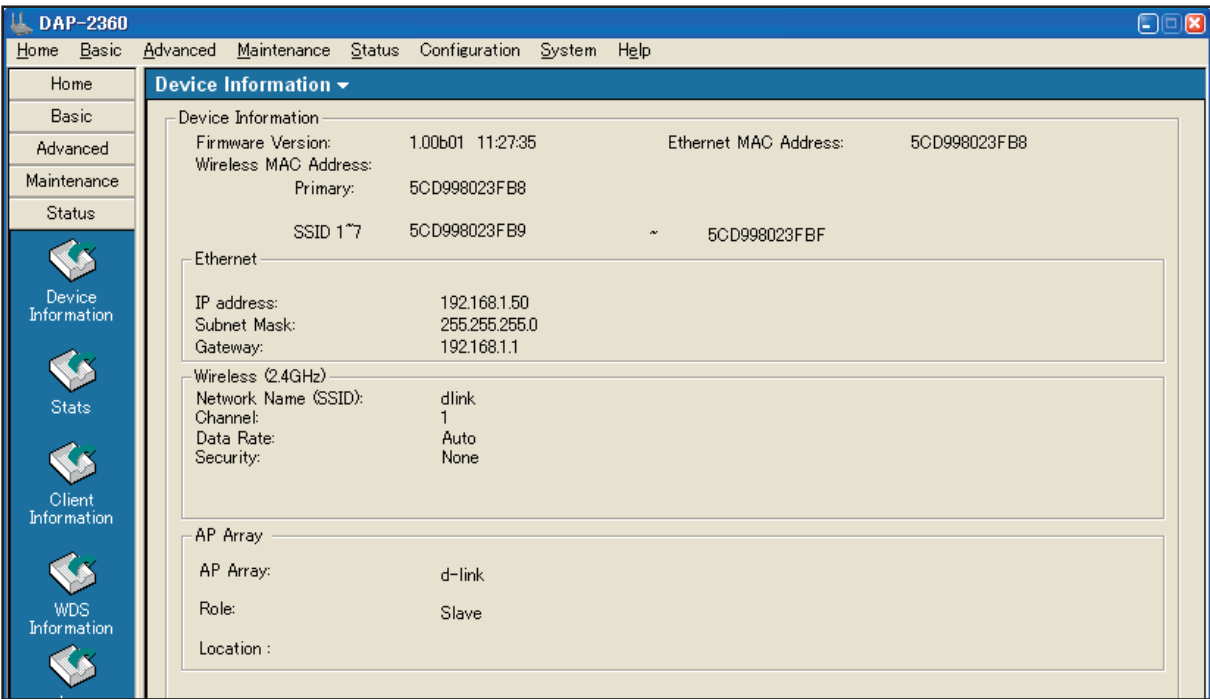


図 4-57 Device Information 画面例 (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Device Information	ファームウェアバージョン、MAC アドレスなどアクセスポイントの設定内容を表示します。また、2.4GHz、または 5GHz の無線ネットワークについて WLAN 情報を表示します。

Stats（状態）

Status > Stats の順にメニューをクリックします。

WLAN Traffic Statistics（WLAN トラフィック統計情報）

「WLAN Traffic Statistics」をクリックし、以下の画面を表示します。ここでは、無線ネットワークにおけるデータの処理性能、送受信フレーム、および WEP フレームエラーの統計情報を表示します。

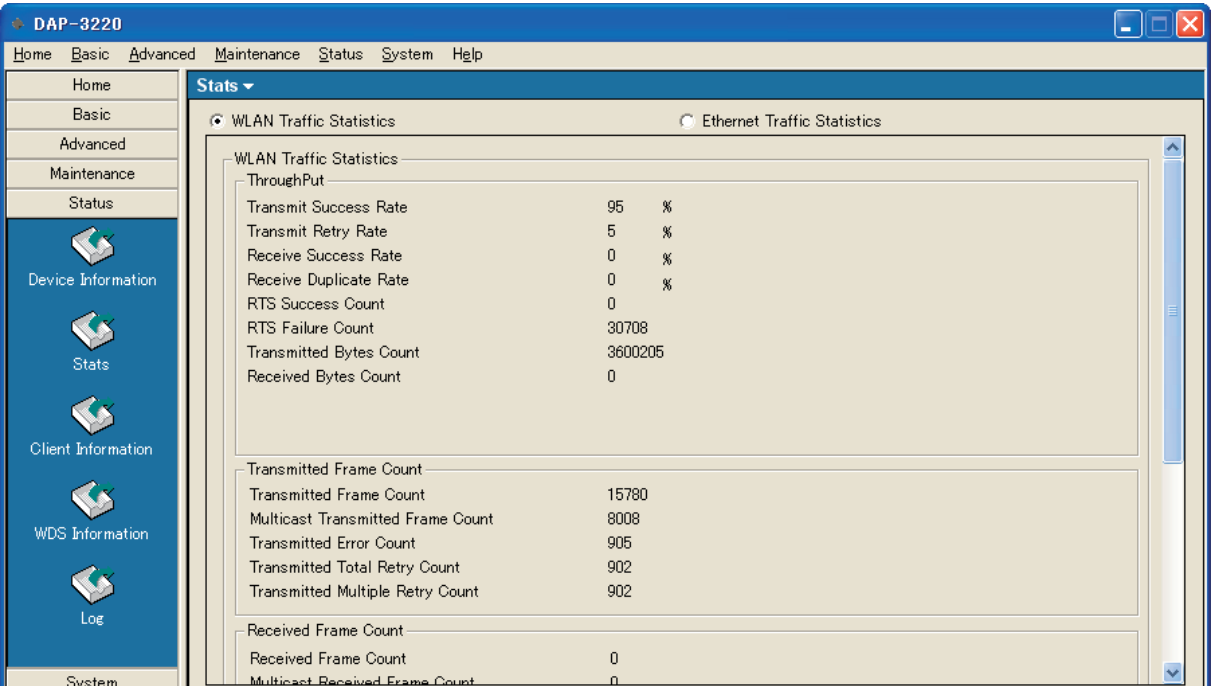


図 4-58 Stats 画面例 1 - WLAN Traffic Statistics（802.11g）

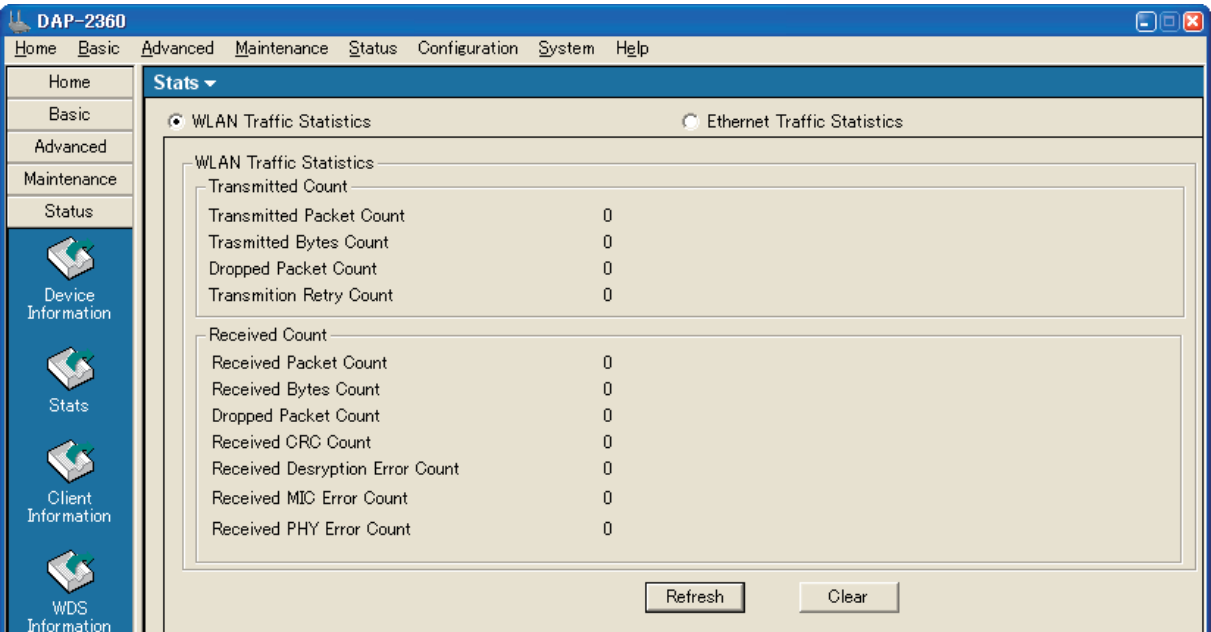


図 4-59 Stats 画面例 2 - WLAN Traffic Statistics（802.11n）

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
WLAN Traffic Statistics	無線ネットワークにおけるデータの処理性能、および送受信フレームの統計情報を表示します。

「Refresh」ボタンをクリックして、情報を更新します。

「Clear」ボタンをクリックすると、カウンタは 0 にクリアされます。

Ethernet Traffic Statistics (イーサネットトラフィック統計情報)

「Ethernet Traffic Statistics」をクリックし、以下の画面を表示します。

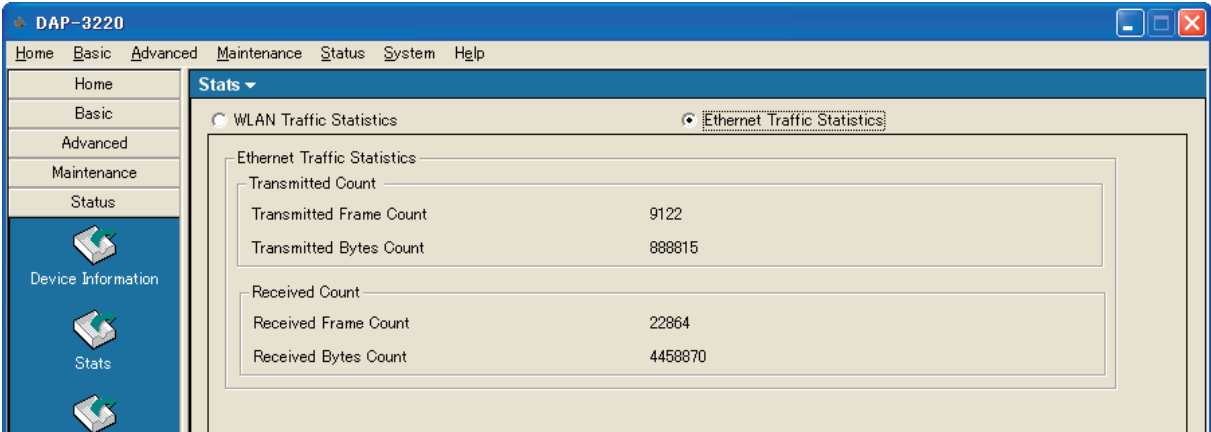


図 4-60 Stats 画面例 1 - Ethernet Traffic Statistics タブ (802.11g)

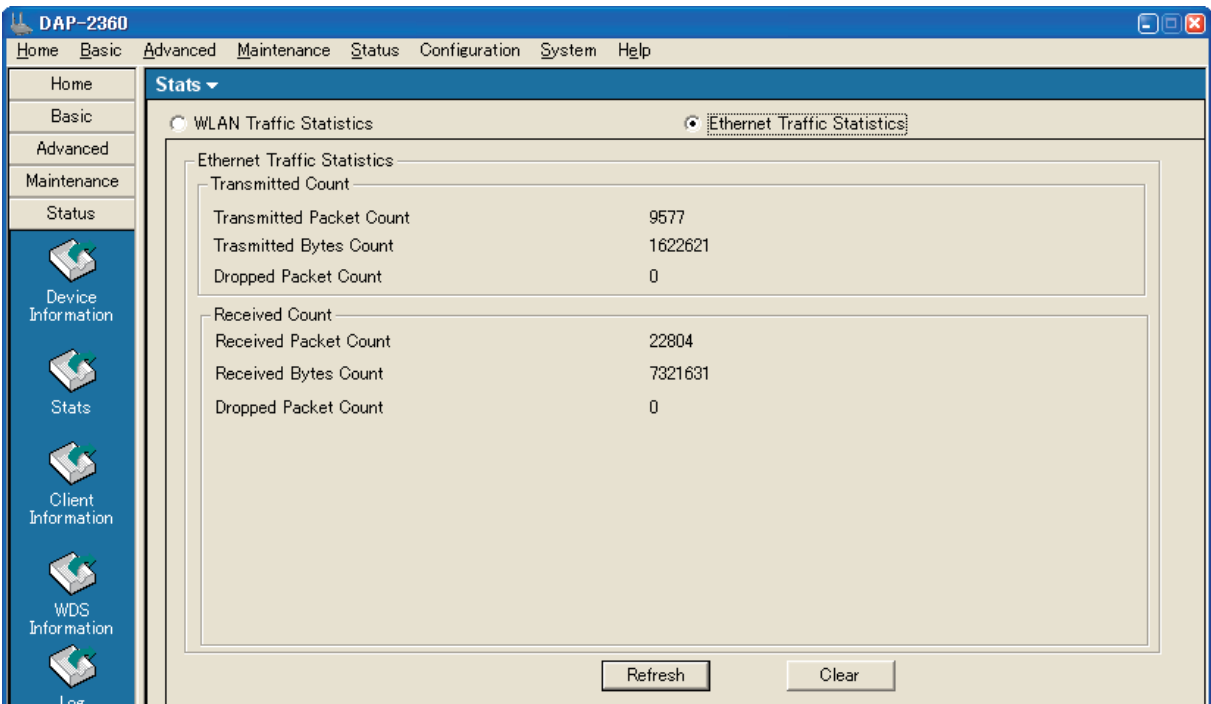


図 4-61 Stats 画面例 2 - Ethernet Traffic Statistics タブ (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Ethernet Traffic Statistics	アクセスポイントのイーサネットポートにおけるデータの処理性能および送受信フレームの統計情報を表示します。

「Refresh」ボタンをクリックして、情報を更新します。

「Clear」ボタンをクリックすると、カウンタは 0 にクリアされます。

Client Information (クライアント統計情報)

現在アクセスポイントに接続するクライアントの無線情報を表示します。アクセスポイントと通信中の各クライアントについて以下の情報が表示されます。

Status > Client Information の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

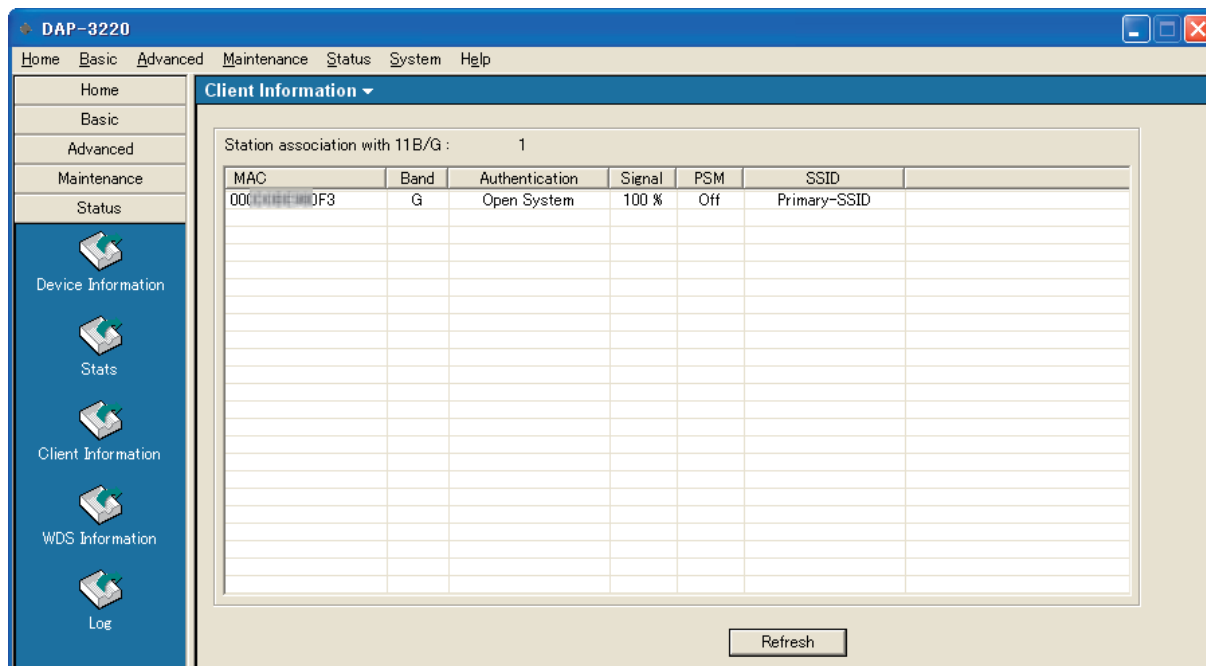


図 4-62 Client Information 画面例 1 (802.11g)

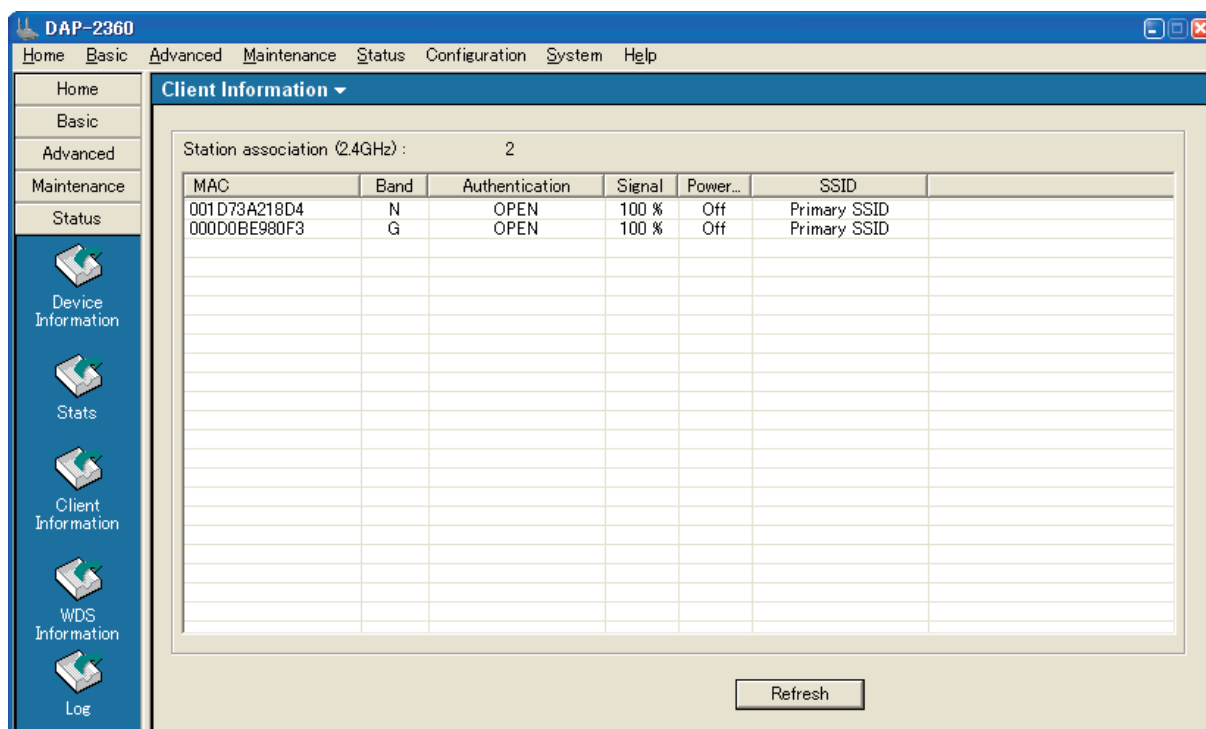


図 4-63 Client Information 画面例 2 (802.11n)

アクセスポイントと通信中の各クライアントについて以下の情報が表示されます。

項目	説明
MAC	クライアントの MAC アドレスを表示します。
Band	クライアントが接続する通信モードが表示されます。
Authentication	使用されている認証方式が表示されます。
Signal	クライアントの信号強度が表示されます。
PSM / Power Saving Mode:	省電力モードの状態が表示されます。
SSID	クライアントが接続している SSID が表示されます。

「Refresh」ボタンをクリックして、情報を更新します。

WDS Information (WDS 情報)

Status > WDS Information の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

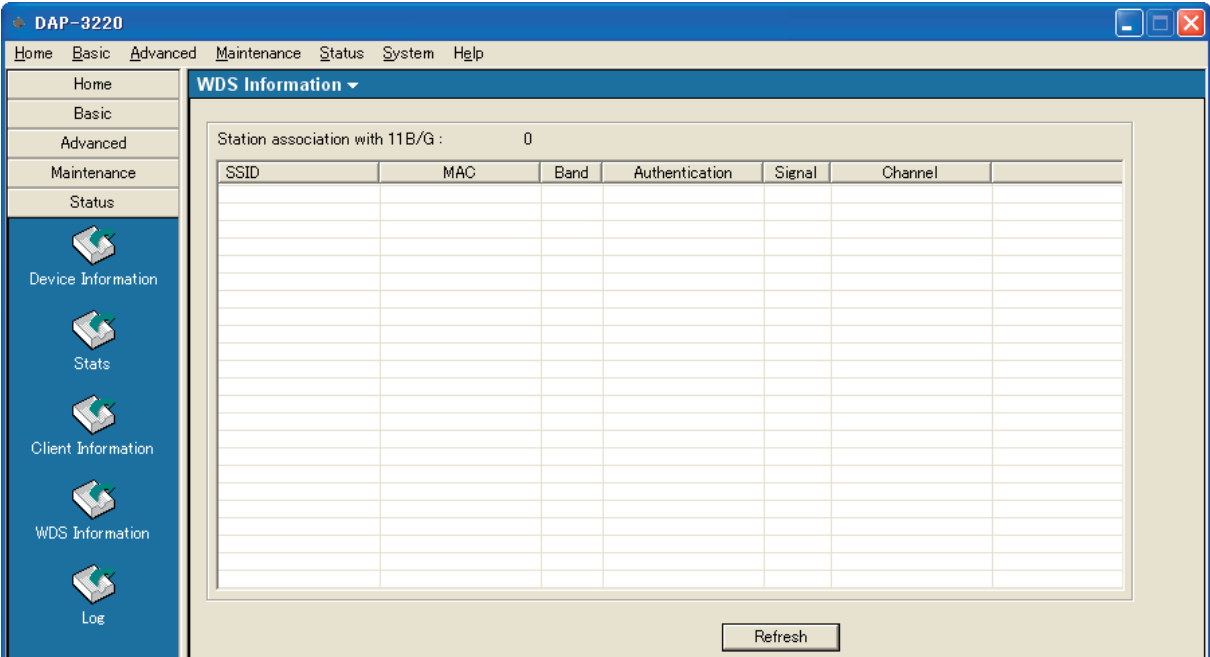


図 4-64 WDS Information 画面 1 (802.11g)

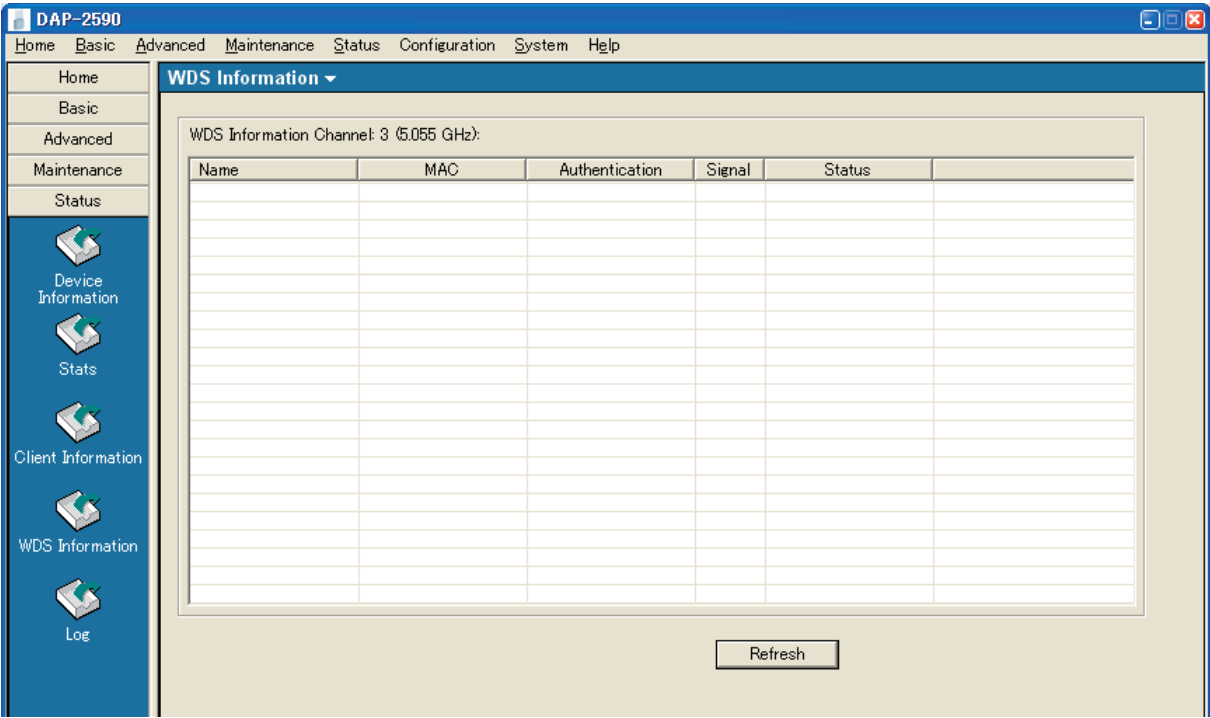


図 4-65 WDS Information 画面 2 (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Name	クライアント名を表示します。
MAC	クライアントの MAC アドレスを表示します。
Authentication	使用されている認証方式が表示されます。
Signal	クライアントの信号強度が表示されます。
Status	無線機能の状態が表示されます。

「Refresh」 ボタンをクリックして、情報を更新します。

Log (ログの参照)

Status > Log の順にメニューをクリックします。

Log View (ログの参照)

「Log View」をクリックし、以下の画面を表示します。

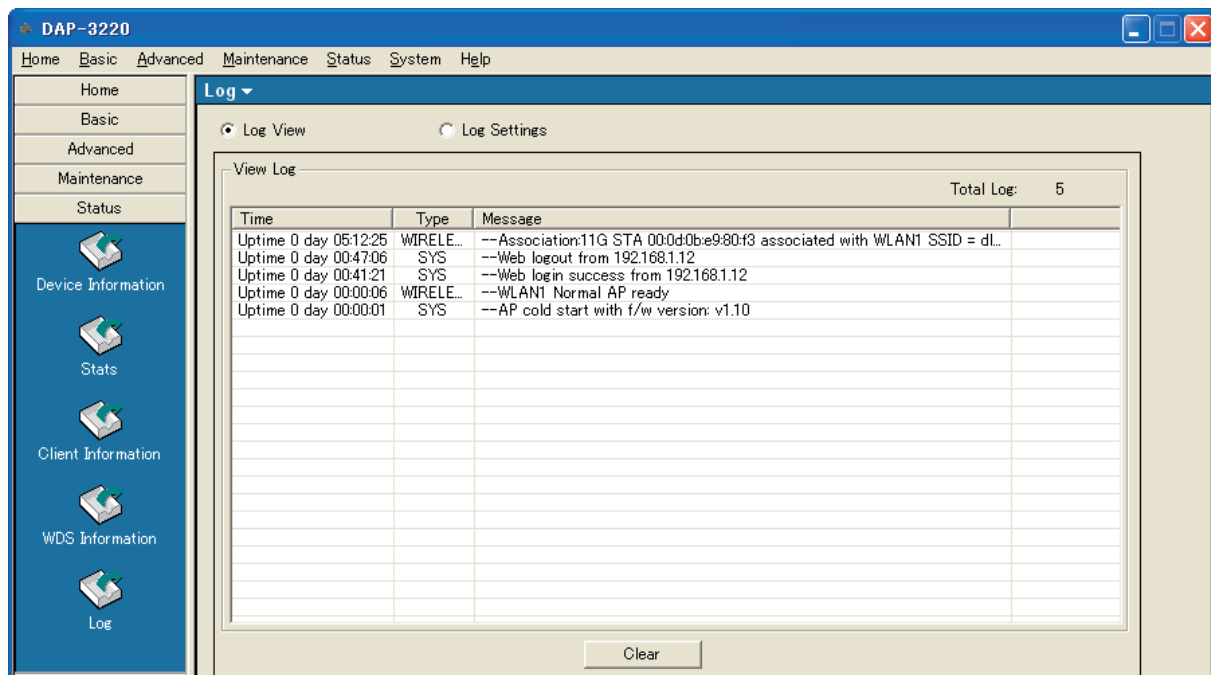


図 4-66 Log 画面例 1 - Log View (802.11g)

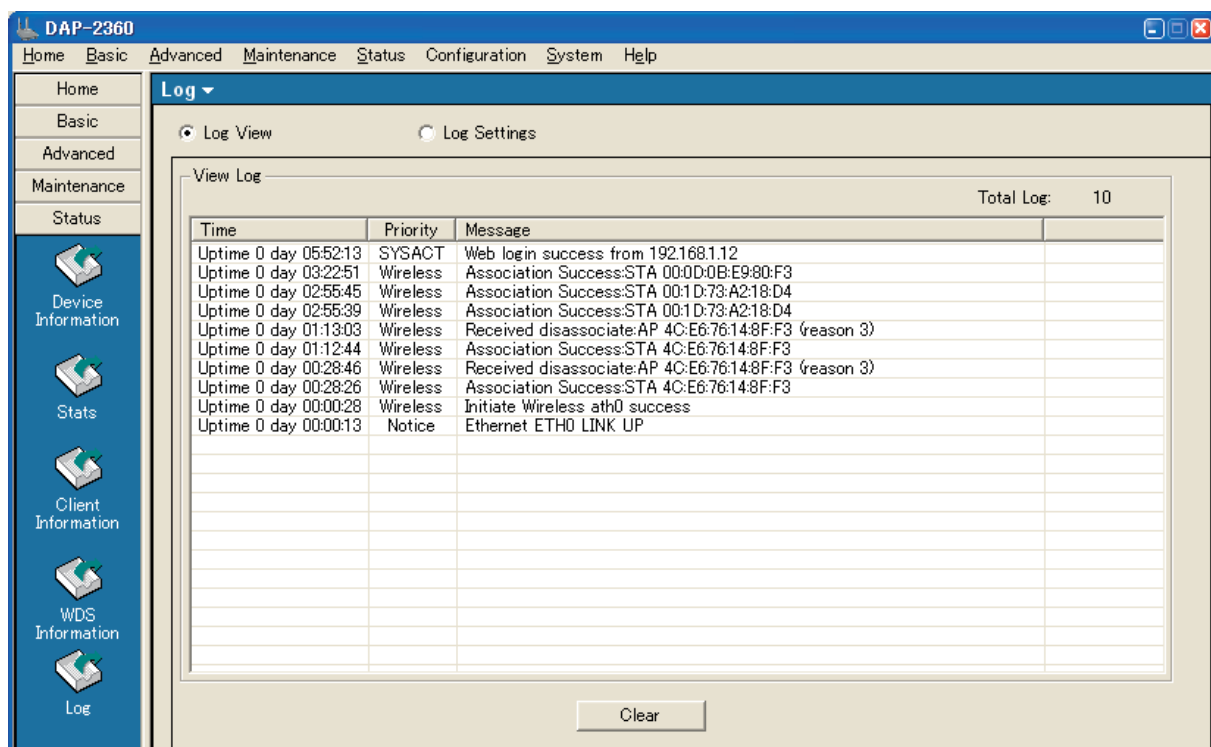


図 4-67 Log 画面例 2 - Log View (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
View Log	ログはタイムスタンプとメッセージのタイプを含むシステムとネットワークメッセージを表示します。

「Clear」ボタンをクリックして、ログをクリアします。

Log Settings (ログの設定)

「Log Settings」をクリックし、以下の画面を表示します。

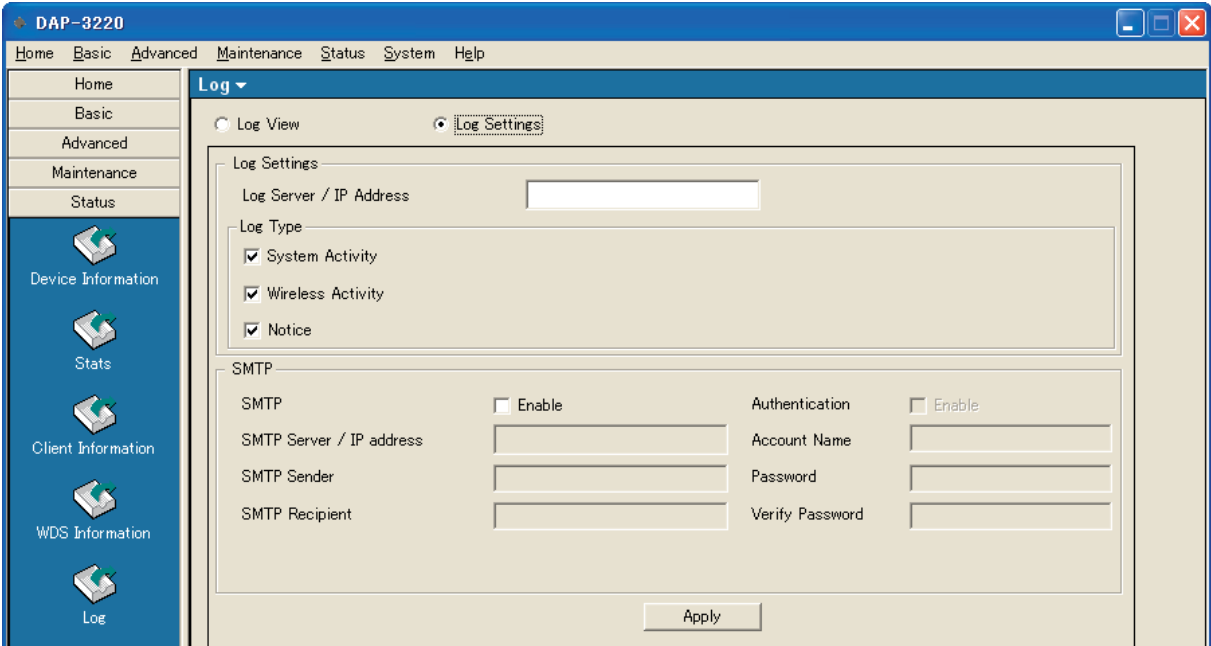


図 4-68 Log 画面例 1 - Log Settings (802.11g)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Log Settings	
Log Server / IP Address	アクセスポイントのログを送信するサーバの IP アドレスを入力します。
Log Type	ログを出力するアクティビティのタイプをチェックします。3 つのタイプ (System Activity、Wireless Activity、および Notice) があります。
Email Notification	
Email Notification	「Enable」ボックスをチェックして、E-Mail 通知機能を有効にします。
Email Server Address	SMTP サーバ IP アドレスを入力します。
From Email Address	SMTP 送信者の E-Mail アドレスを入力します。
To Email Address	SMTP 受信者の E-Mail アドレスを入力します。
User Name / Password	SMTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。
Email Log Schedule	
Schedule	プルダウンメニューからのログを受信者に送信する間隔を選択します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

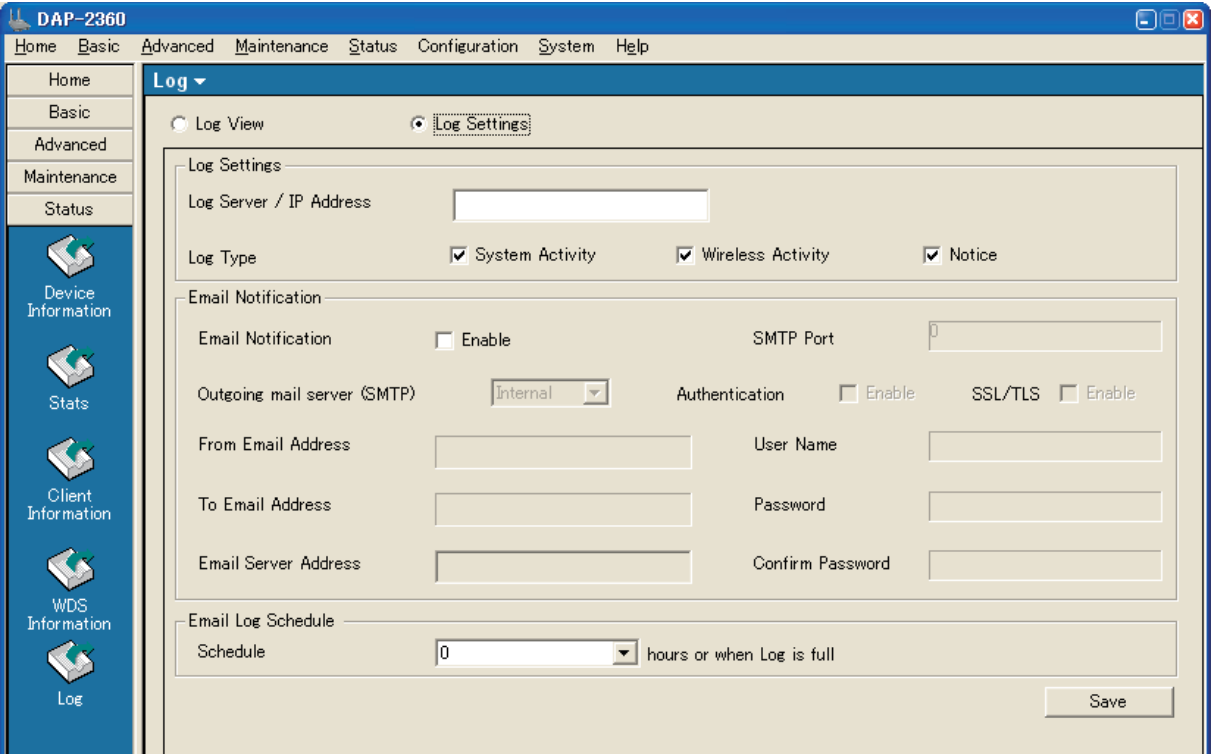


図 4-69 Log 画面例 2 - Log Settings (802.11n)

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Log Settings	
Log Server / IP Address	アクセスポイントのログを送信するサーバの IP アドレスを入力します。
Log Type	ログを出力するアクティビティのタイプをチェックします。3 つのタイプ (System Activity、Wireless Activity、および Notice) があります。
Email Notification	
Email Notification	「Enable」 ボックスをチェックして、E-Mail 通知機能を有効にします。
Outgoing mail server	外向きサーバのタイプを選択します。3 つのタイプ (Internal、gmail、hotmail) があります。
SMTP Port	外向きサーバの SMTP ポートを入力します。
From Email Address	SMTP 送信者の E-Mail アドレスを入力します。
To Email Address	SMTP 受信者の E-Mail アドレスを入力します。
User Name / Password	SMTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。
Email Server Address	SMTP サーバ IP アドレスを入力します。
Email Log Schedule	
Schedule	プルダウンメニューからのログを受信者に送信する間隔を選択します。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

System（システム設定）

System メニューをクリックし、以下の画面を表示します。

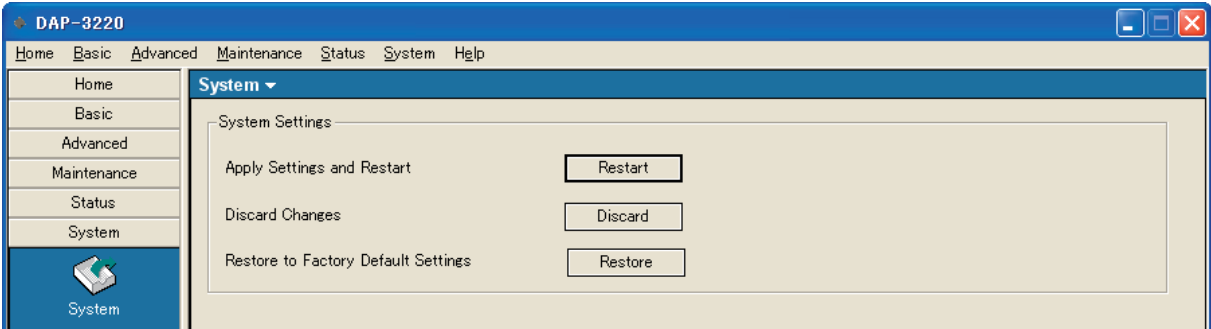


図 4-70 System 画面例 1（802.11g）

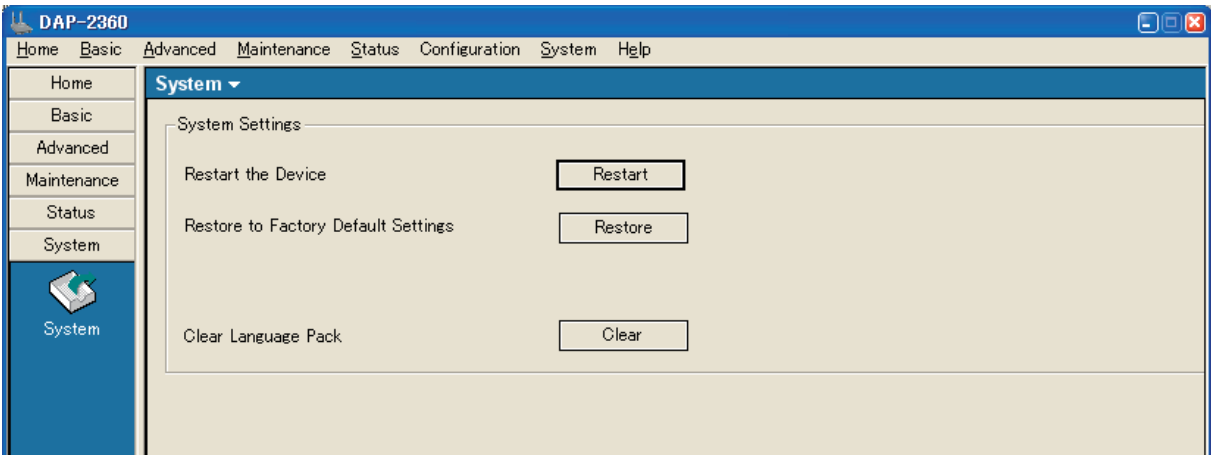


図 4-71 System 画面例 2（802.11n）

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Apply Settings and Restart	「Restart」ボタンをクリックすると、アクセスポイントの再起動とコンフィグレーションの保存を行います。
Discard Changes	「Changes」ボタンをクリックすると、コンフィグレーション設定への変更は破棄されます。
Restore to Factory Default Settings	「Restore」ボタンをクリックすると、アクセスポイントは工場出荷時の初期設定に戻ります。
Clear Language Pack	「Clear」ボタンをクリックして言語パックをクリアします。

設定を変更する際は、必ず「Apply」または「Save」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

アクセスポイントの再起動とコンフィグレーションの保存

1. 「Restart」ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。



図 4-72 確認ダイアログ

2. 「OK」ボタンをクリックしてアクセスポイントの再起動とコンフィグレーションの保存を行います。

コンフィグレーション設定の変更の破棄

1. 「Discard」ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。

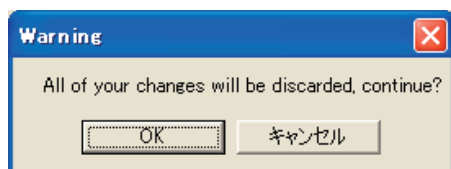


図 4-73 確認ダイアログ

2. 「OK」ボタンをクリックしてコンフィグレーションへの変更を破棄します。

工場出荷時の初期設定へのリストア

1. 「Restore」ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。

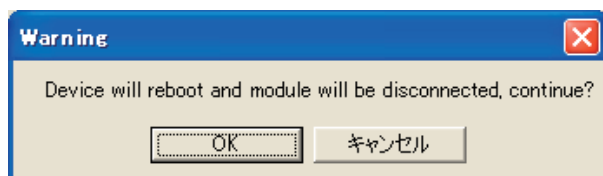


図 4-74 確認ダイアログ

2. 「OK」ボタンをクリックして工場出荷時設定へリストアします。

Help（ヘルプ表示）

アクセスポイントのモジュールに関する情報を表示します。

Help > About メニューをクリックし、以下の画面を表示します。

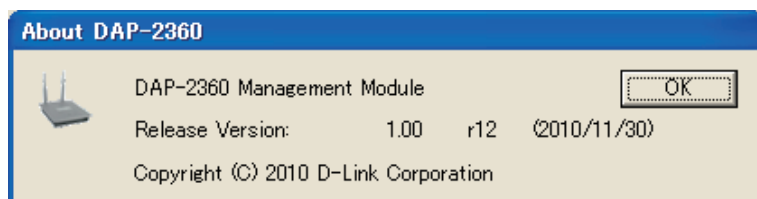


図 4-75 Help 画面

第 5 章 詳細なアクセスポイントの管理

ここでは、メインメニューを使用してアクセスポイントを詳細に管理する方法について説明します。

- MultiConfiguration (マルチコンフィグレーション)
- Fault Manager (故障管理)
- Tool (ツール)
- Report (レポート)

MultiConfiguration (マルチコンフィグレーション)

Template (テンプレート設定)

管理者は、本製品がテンプレートを使用して検出したアクセスポイントのコンフィグレーションを管理することができます。複数のアクセスポイントに同じプロファイルを使用できます。各テンプレートプロファイルには、「System」、「Wireless」、「Security」および「Filter」設定を含むアクセスポイント機能について独自の設定を持たせることができます。

新しいテンプレートの作成

1. MultiConfiguration > Template の順にメニューをクリックし、「Template」画面の右クリックメニューから「New」を選択します。

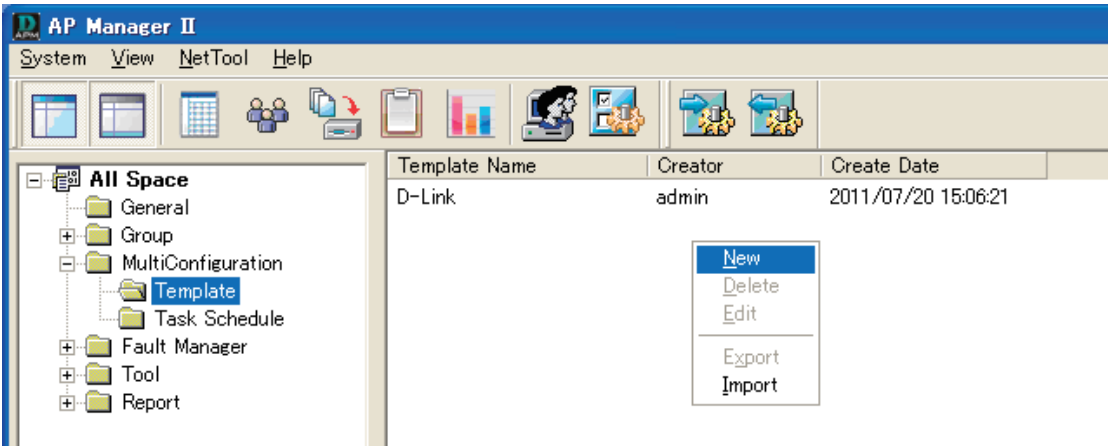


図 5-1 Template 画面 - New

2. 以下の画面が表示されます。

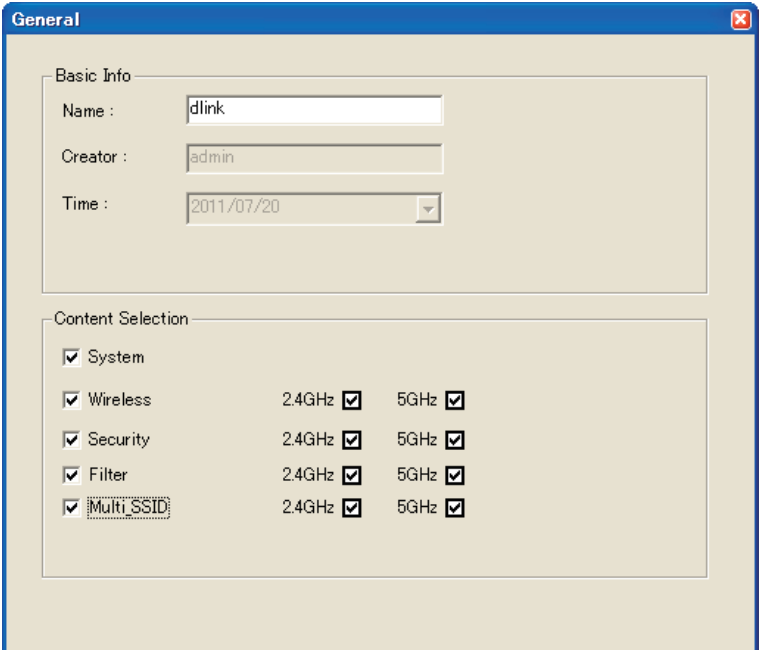


図 5-2 General 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Basic Info	本テンプレートの名称を入力します。
Content Selection	ボックスをチェックして本テンプレートに含めるコンフィグレーションの内容を選択します。

3. 「次へ」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

System

Check All

Clear All

LAN Settings

Get IP FromStatic (Manual)

Subnet Mask

Default Gateway

Admin

User Nameadmin

Password

Console settings

Status

Enable

Console Protocol

Telnet

SSH

Timeout5 Mins

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

図 5-3 System 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
LAN Settings	本テンプレートの IP 情報を指定します。
Admin	本テンプレートに含めるコンフィグレーションの内容を選択します。
Console Settings	本テンプレートのコンソール設定を行います。

4. 「次へ」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

Wireless 5GHz

Check All

Clear All

Wireless Settings (5GHz)

SSID

Channel

SSID Broadcast

Data Rate

RTS Length (256-2346)

Beacon Interval (20-1000)

Fragment Length (256-2346)

DTIM (1-255)

Radio

11N Channel Width

dlink

Auto

Enable

Auto

2346

100

2346

1

On

Auto 20/40 MHz

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

図 5-4 Wireless 5GHz 画面

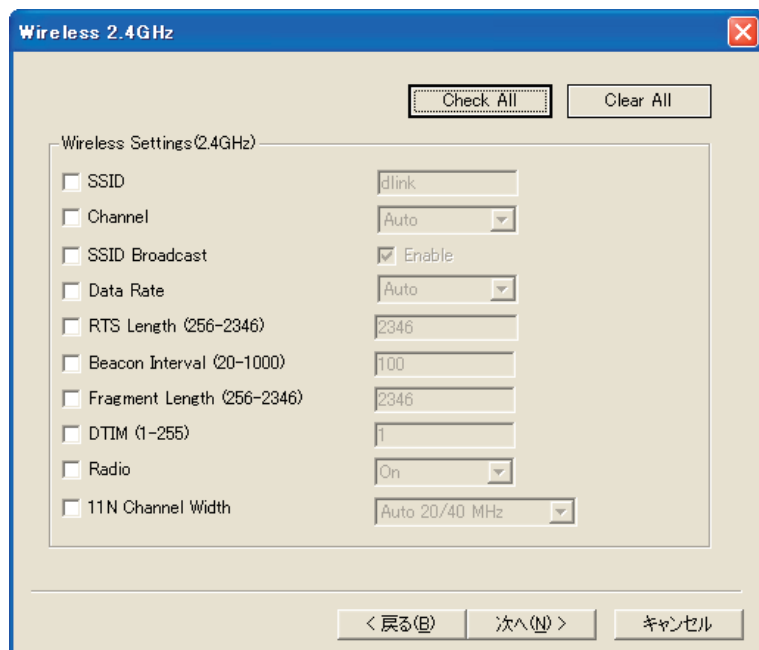


図 5-5 Wireless 2.4GHz 画面

本テンプレートに含めるコンフィグレーションの内容を選択します。

5. 「次へ」 ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

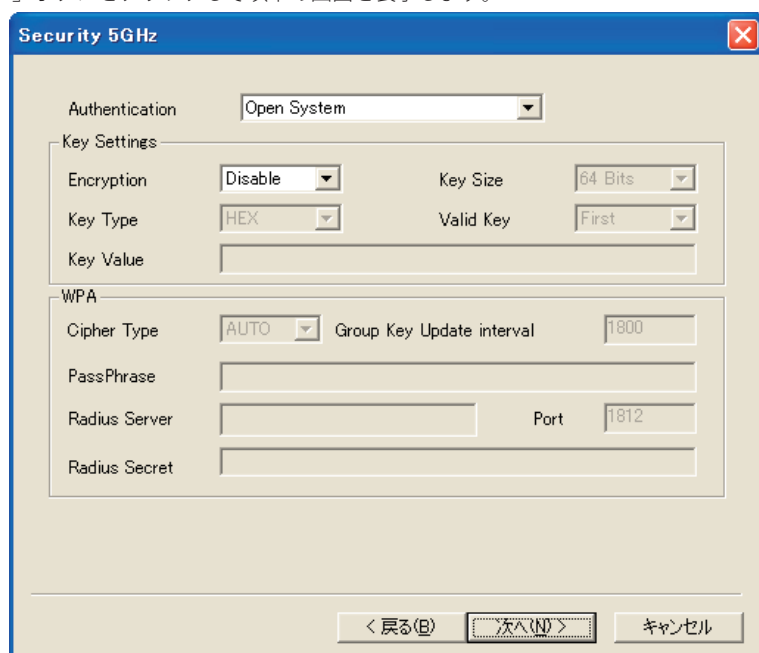
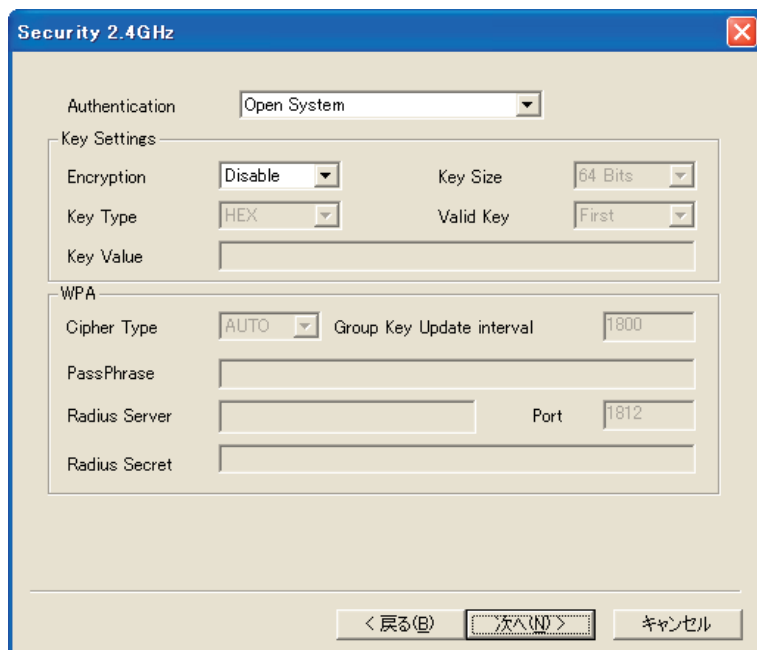


図 5-6 Security 5GHz 画面



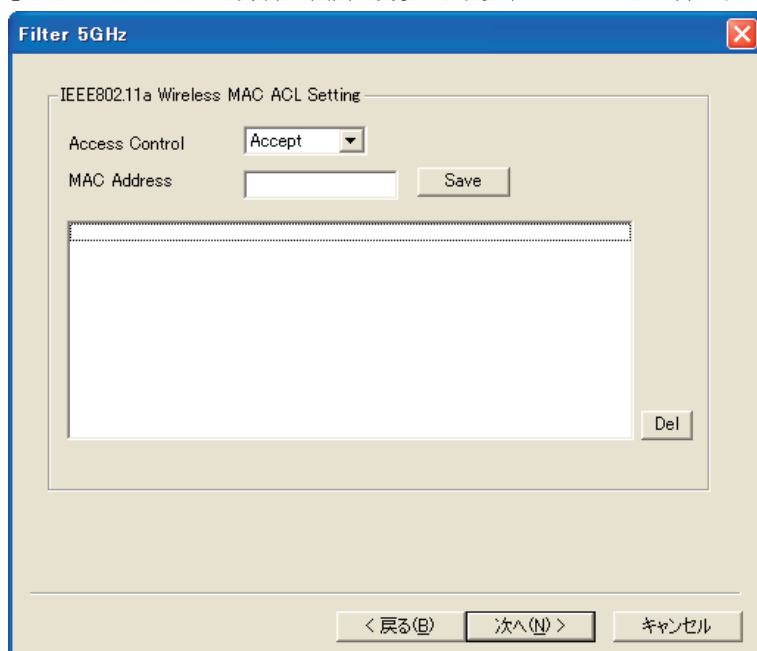
The 'Security 2.4GHz' dialog box contains the following settings:

- Authentication:** Open System
- Key Settings:**
 - Encryption: Disable
 - Key Size: 64 Bits
 - Key Type: HEX
 - Valid Key: First
 - Key Value: (empty text field)
- WPA:**
 - Cipher Type: AUTO
 - Group Key Update interval: 1800
 - PassPhrase: (empty text field)
 - Radius Server: (empty text field)
 - Port: 1812
 - Radius Secret: (empty text field)

Buttons at the bottom: < 戻る(B) >, 次へ(N) >, キャンセル

図 5-7 Security 2.4GHz 画面

6. 「次へ」 ボタンをクリックして以下の画面を表示します。本テンプレートに含めるフィルタの内容を選択します。



The 'Filter 5GHz' dialog box contains the following settings:

- IEEE802.11a Wireless MAC ACL Setting:**
 - Access Control: Accept
 - MAC Address: (empty text field)
 - Save: (button)
- Filter List:** (empty list area)
- Buttons:** Del (button)

Buttons at the bottom: < 戻る(B) >, 次へ(N) >, キャンセル

図 5-8 Filter 5GHz 画面

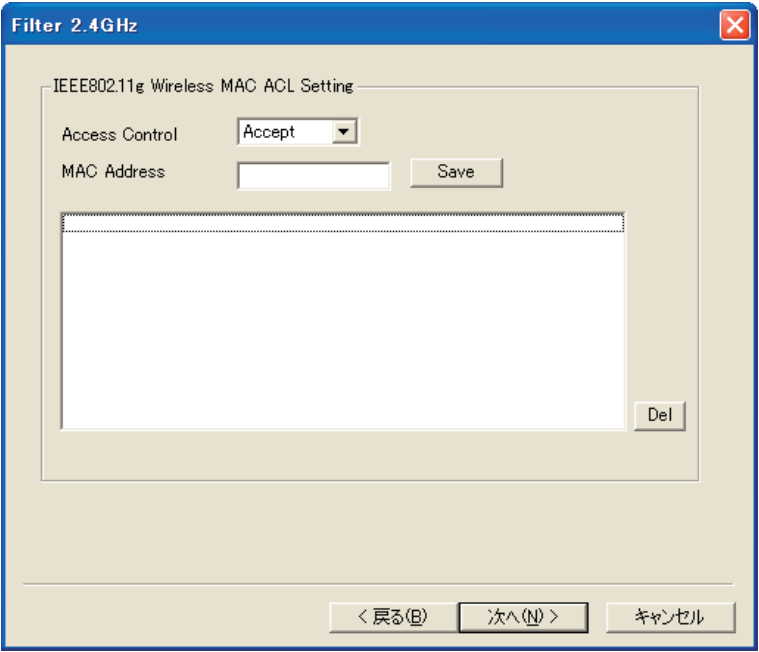


図 5-9 Filter 2.4GHz 画面

7. 「次へ」 ボタンをクリックして以下の画面を表示します。本テンプレートに含めるマルチ SSID の内容を選択します。

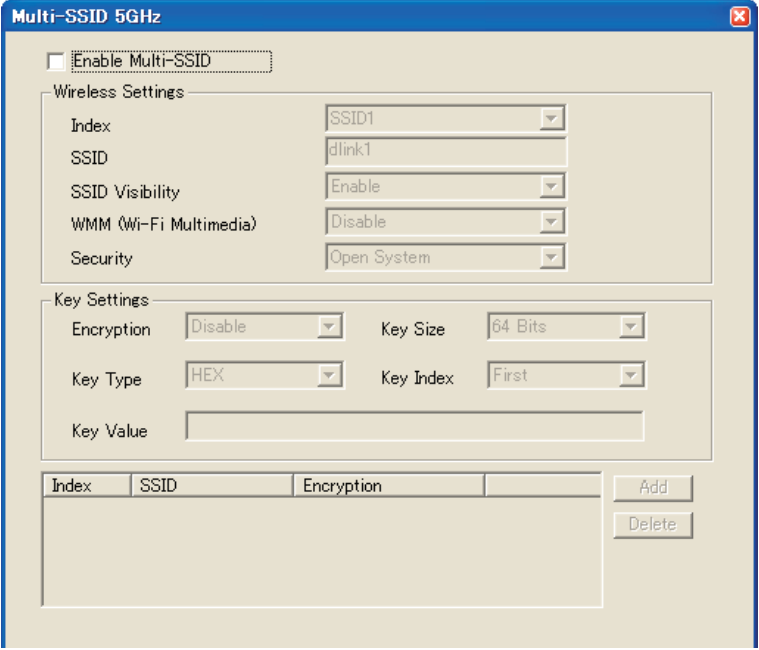


図 5-10 Multi-SSID 5GHz 画面

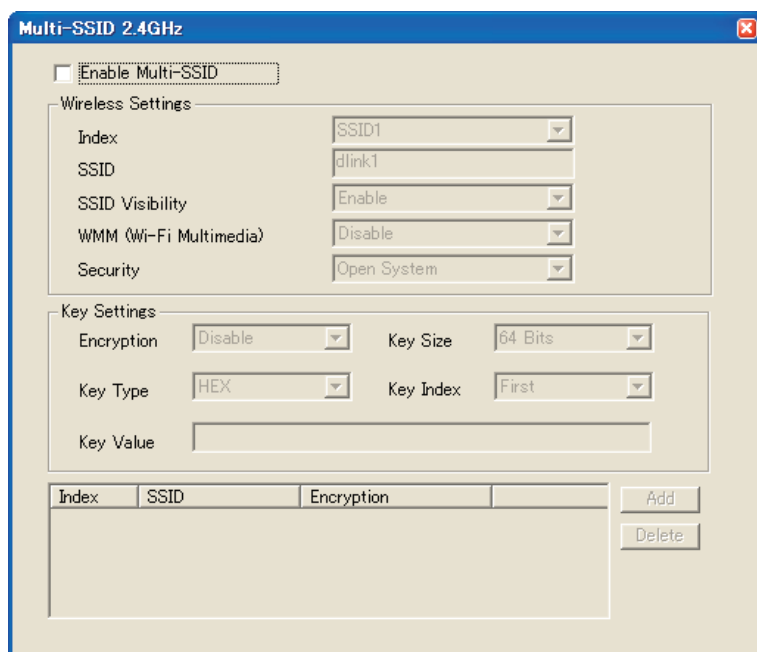


図 5-11 Multi-SSID 2.4GHz 画面

8. 「次へ」 ボタンをクリックして以下の画面を表示します。



図 5-12 Set Complete 画面

9. 「完了」 ボタンをクリックして、テンプレートの設定を終了します。

テンプレートの編集

1. テンプレートの編集のためには、テンプレートをダブルクリックするか、またはテンプレートを右クリックしてプルダウンメニューから「Edit」を選択します。

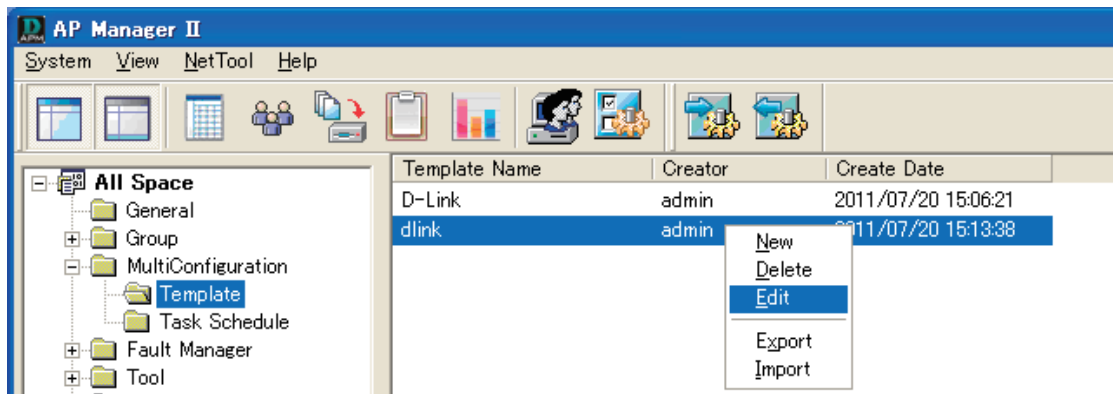


図 5-13 Template 画面 - Edit

2. 以下の画面が表示されます。

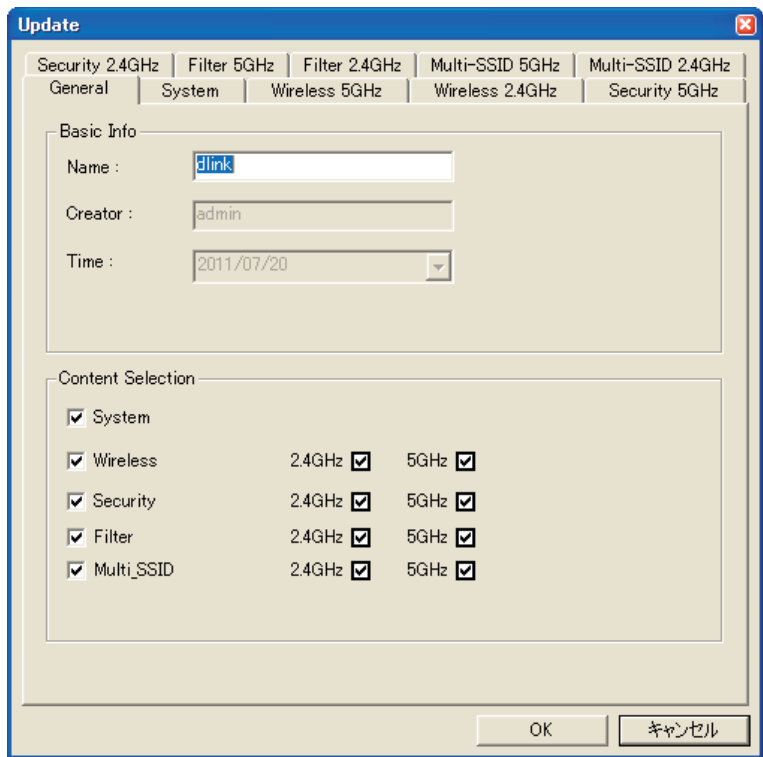


図 5-14 Update 画面

3. 各タブで設定を編集後、「OK」ボタンをクリックします。

テンプレートの削除

1. テンプレートを削除するためには、テンプレートを右クリックしてプルダウンメニューから「Delete」を選択します。

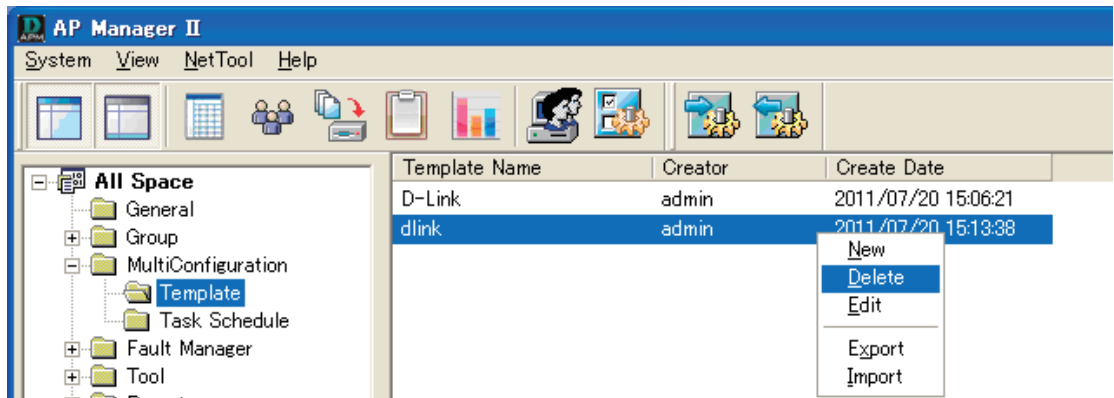



図 5-15 Template 画面 - Delete

テンプレートプロファイルのインポート

AP Manager II で、テンプレートをプロファイルからインポートすることができます。

1. **MultiConfiguration > Template** の順にメニューをクリックし、画面のいずれかを右クリックして表示されるプルダウンメニューから「Import」を選択するか、ツールバーから  アイコンをクリックします。

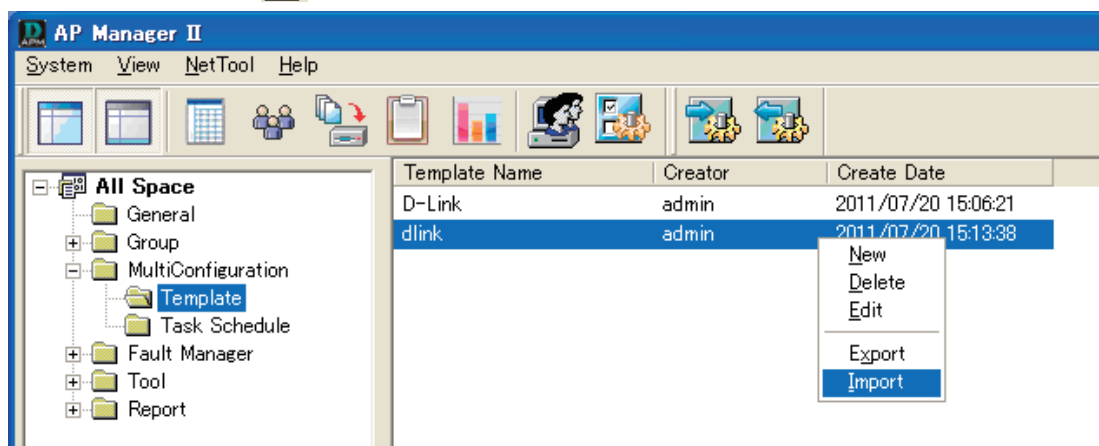



図 5-16 Template 画面 - Import

2. 「ファイルを開く」画面でテンプレートファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックしてテンプレートをインポートします。

テンプレートプロファイルのエクスポート

AP Manager II で、テンプレートをディスクに保存されたプロファイルにエクスポートすることができます。

1. **MultiConfiguration > Template** の順にメニューをクリックし、プルダウンメニューから「Export」を選択するか、ツールバーから  アイコンをクリックします。

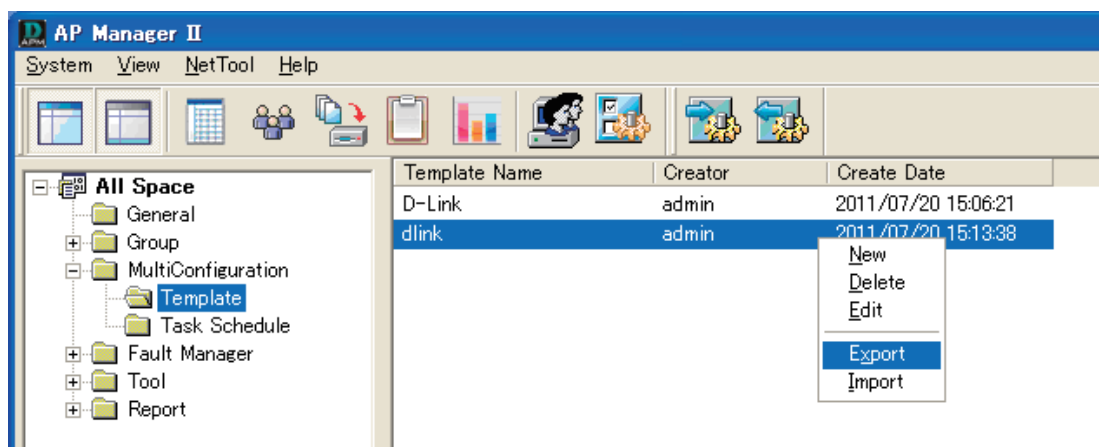


図 5-17 Template 画面 - Export

2. 「名前を付けて保存」の「ファイル名」にプロファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックして、ファイルにテンプレートをエクスポートします。

Task Schedule（タスクのスケジュール設定）

管理者は、一度にデバイスの比較、デバイスへのファームウェアの更新、およびテンプレートのアップロードを行うことができます。

MultiConfiguration > Task Schedule の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

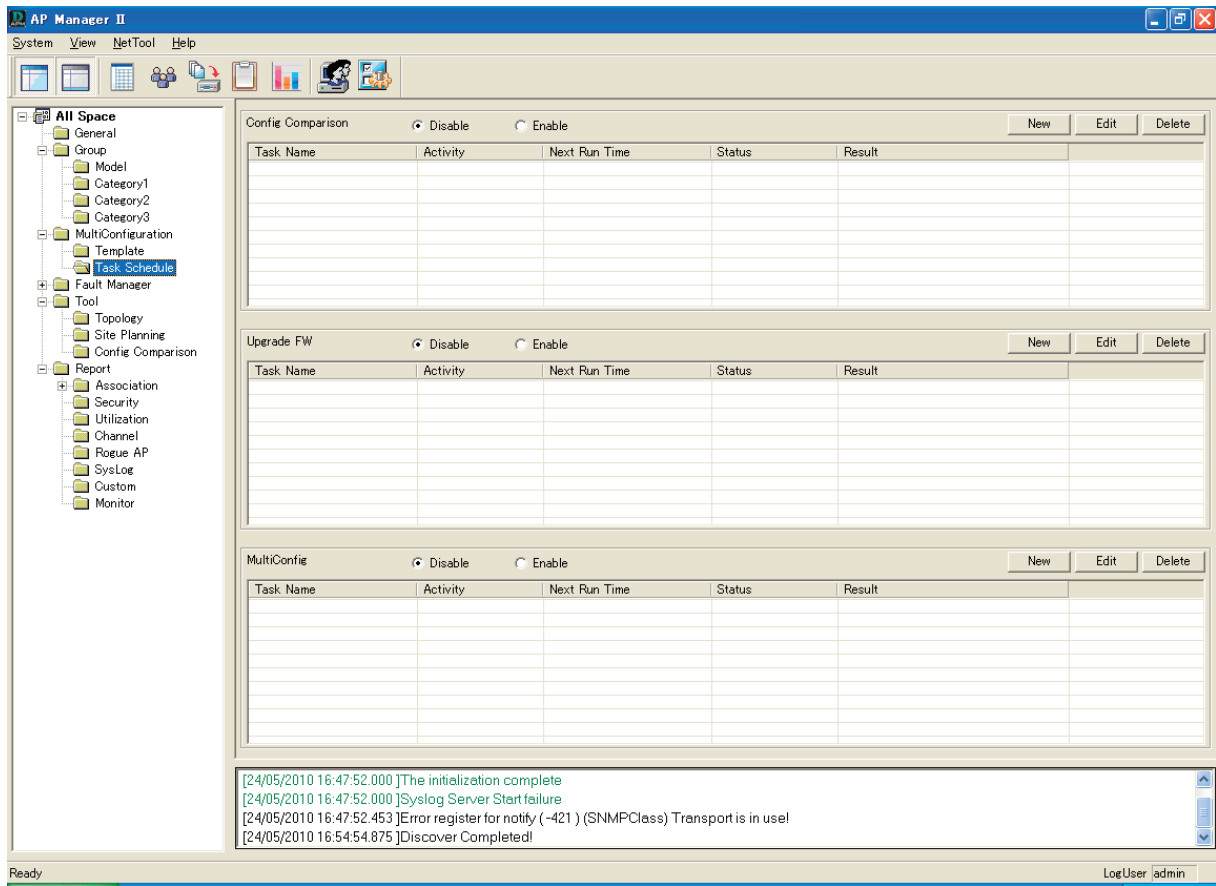


図 5-18 Task Schedule 画面

これらの各オプションについては、以下のページで説明します。

Config Comparison

☒ Disable
 ☐ Enable

New

Edit

Delete

Task Name	Activity	Next Run Time	Status	Result

1. 「New」 ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。

Device

Task Name:

☒ By Group
 ☐ By IP

By Group

Group Name	Sort
<input checked="" type="checkbox"/> DAP-2360	Model
<input type="checkbox"/> DAP-2590	Model

By IP

IP Address	Model Name
<input type="checkbox"/> 192.168.1.50	DAP-2360
<input type="checkbox"/> 192.168.1.51	DAP-2590

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Task Name	タスクを説明する文字列を入力します。
By Group	グループごとにアクセスポイントを選択します。グループに所属するアクセスポイントに比較を行います。
By IP	IP アドレスごとアクセスポイントを選択し、比較を行います。

The screenshot shows a 'Template' dialog box. It features a title bar with the text 'Template' and a close button. The main area is titled 'Select Template' and contains a table with two columns: 'Selected' and 'Template Name'. The first row is highlighted, showing a radio button in the 'Selected' column and 'D-Link' in the 'Template Name' column. Below the table is a scrollbar. At the bottom of the dialog are three buttons: '< 戻る(B)', '次へ(N) >', and 'キャンセル'.

95

3. 比較するテンプレートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。スケジュールの設定を行います。

Schedule

Run

Save

Specify Time

Specify Day

Monday

Tuesday

Wednesday

Thursday

Friday

Saturday

Sunday

Date:

2010/05/29

Time

22:02:54

戻る(B)

完了

キャンセル

図 5-22 スケジュールの設定 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Run	デバイスを直ちに比較します。
Save	この比較記録の保存のみ行います。
Specify Time	比較を行う曜日を指定します。比較は毎週決まった曜日に行われます。
Specify Day	比較を行う日付を指定します。その時にだけ比較は行われます。

4. 「完了」ボタンをクリックして設定を終了します。

以下のような比較レコードが表示されます。

The following are different items between template and DAP-2553 192.168.1.150 :

Template	Device
[System]	[System]
IsSSH=Enable	IsSSH=Disable
Telnet_timeout=5 Mins	Telnet_timeout=3 Mins
[5GHz_SecuritySettings]	[5GHz_SecuritySettings]
[5GHz_Filter]	[5GHz_Filter]
filter_mac_acl=Accept	filter_mac_acl=Disable

OK

The following are different items between template and DAP-3220 192.168.1.50 :

Template	Device
[System]	[System]
IsSSH=Enable	IsSSH=Disable
Telnet_timeout=5 Mins	Telnet_timeout=3 Mins
[2.4GHz_SecuritySettings]	[2.4GHz_SecuritySettings]
[2.4GHz_Filter]	[2.4GHz_Filter]

OK

図 5-23 Enable Comparison 画面

結果は新しい画面に表示されます。

Config Comparison

Disable

Enable

New

Edit

Delete

Task Name	Activity	Next Run Time	Status	Result
Check	Disable	N/A	Stopped	Success

図 5-24 Config Comparison 画面 - 結果

96

Upgrade Firmware（ファームウェアの更新）

AP Manager II が検出した各アクセスポイントのために、本機能を使用してデバイスに対して指定時間に一括で新しいファームウェアをアップロードすることができます。

Upgrade FW ☒ Disable ☐ Enable New Edit Delete

Task Name	Activity	Next Run Time	Status	Result

図 5-25 Update Firmware 画面

1. 「New」 ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。デバイスの設定を行います。

Device

Task Name

☒ By Group ☐ By IP

By Group

Group Name	Sort
<input checked="" type="checkbox"/> DAP-2360	Model
<input type="checkbox"/> DAP-2590	Model

By IP

IP Address	Model Name
<input type="checkbox"/> 192.168.1.50	DAP-2360
<input type="checkbox"/> 192.168.1.51	DAP-2590

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 5-26 Device 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Task Name	タスクに関する説明を入力します。
By Group	グループごとにアクセスポイントを選択します。グループに所属するアクセスポイントにファームウェアをアップロードします。
By IP	IP アドレスごとにアクセスポイントを選択し、ファームウェアをアップロードします。

2. 「次へ」 ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。ファームウェアファイルの設定を行います。

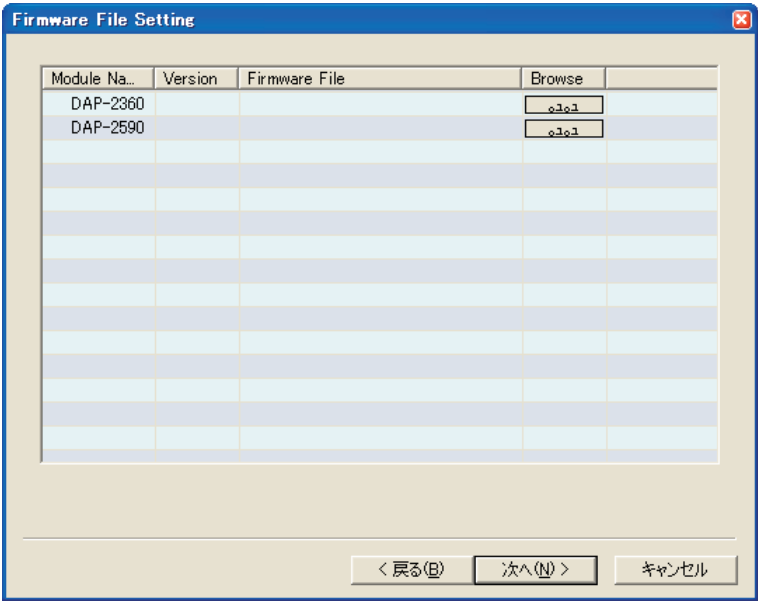


図 5-27 ファームウェアファイル設定 画面

3. 該当するデバイスの「Browse」 ボタンをダブルクリックすると以下の画面が表示されます。

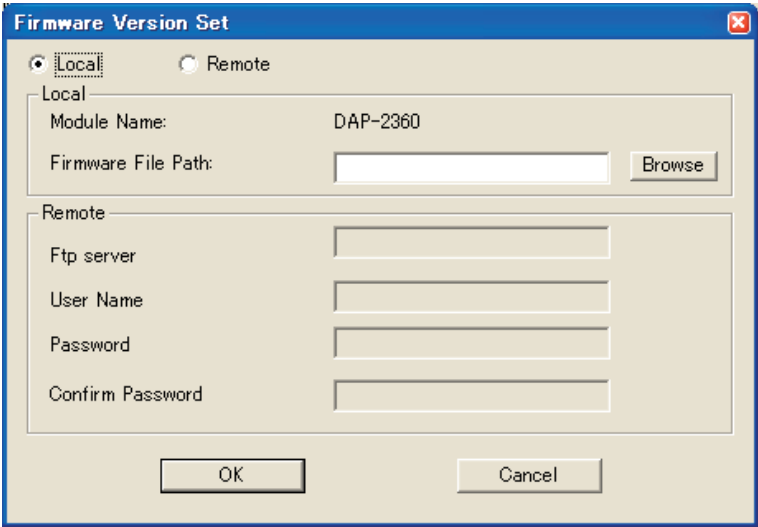


図 5-28 ファームウェアファイル選択 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Local	ローカルなハードディスクから更新するファームウェアファイルを選択します。
Remote	リモートの FTP サーバからファームウェアをロードします。本機能を実行するためには、「Remote」欄で適切な値を入力する必要があります。

4. 「OK」 ボタンをクリックして、ダイアログを閉じてファームウェアのパスが設定されたことを確認します。

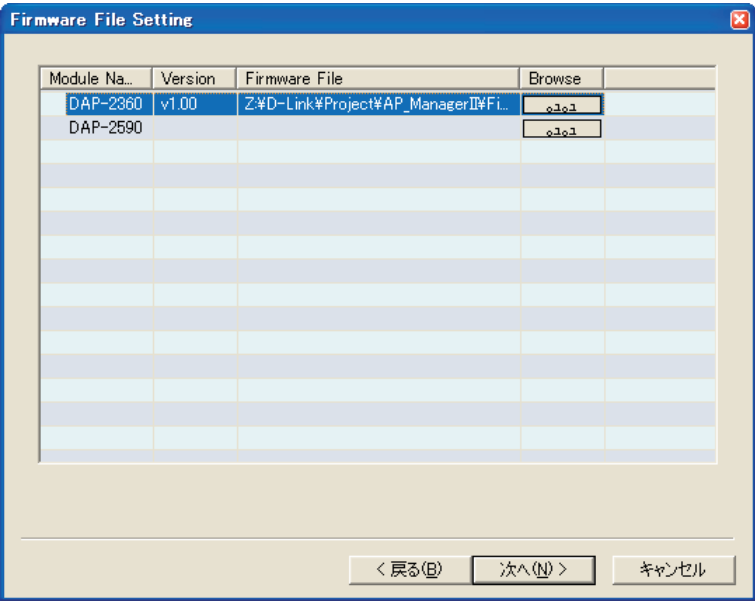


図 5-29 ファームウェアファイル選択 画面

5. 「次へ」 ボタンをクリックしてスケジュールの設定を行います。

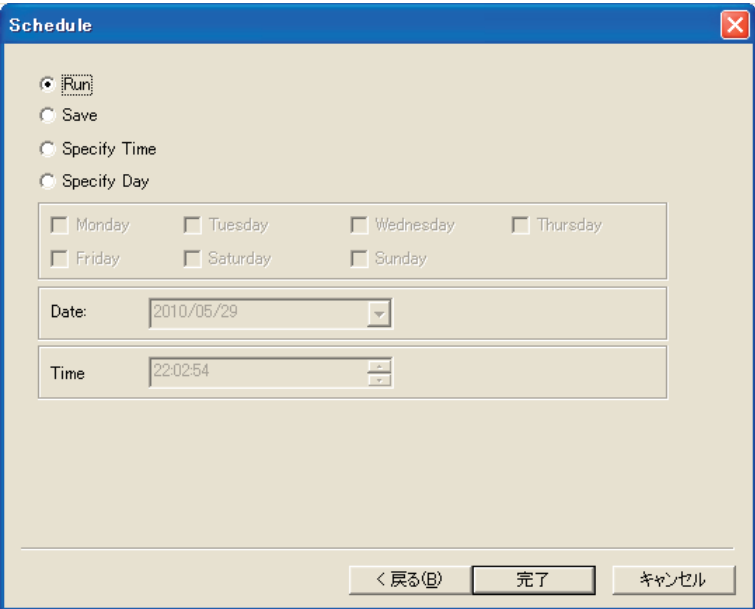


図 5-30 スケジュール設定 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Run	ファームウェアを直ちに更新します。
Save	この更新記録の保存のみ行います。
Specify Time	更新を行う曜日を指定します。更新は毎週決まった曜日に行われます。
Specify Day	更新を行う日付を指定します。

6. 「完了」 ボタンをクリックして、設定を終了します。

7. 更新結果が画面に表示されます。

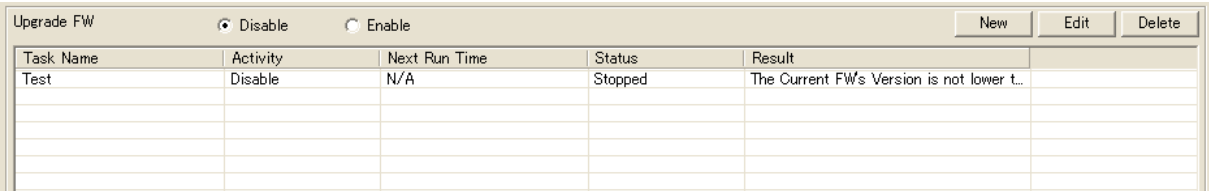


図 5-31 Update Firmware 画面 - 結果

MultiConfig (マルチコンフィグレーション)

AP Manager II が検出した各アクセスポイントのために、本機能を使用してデバイスに対して指定時間に一括で定義済みのテンプレートをアップロードすることができます。

MultiConfig					
<input checked="" type="radio"/> Disable	<input type="radio"/> Enable		New	Edit	Delete
Task Name	Activity	Next Run Time	Status	Result	

図 5-32 MultiConfig 画面

1. 「New」 ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。デバイスの設定を行います。

Device

Task Name:

☒ By Group
 ☐ By IP

By Group

Group Name	Sort
<input checked="" type="checkbox"/> DAP-2360	Model
<input type="checkbox"/> DAP-2590	Model

By IP

IP Address	Model Name
<input type="checkbox"/> 192.168.1.50	DAP-2360
<input type="checkbox"/> 192.168.1.51	DAP-2590

图 5-33 Device 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Task Name	タスクに関する説明を入力します。
By Group	グループごとにアクセスポイントを選択します。グループに所属するアクセスポイントにファームウェアをアップロードします。
By IP	IP アドレスごとにアクセスポイントを選択し、ファームウェアをアップロードします。

2. 「次へ」ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。テンプレートの設定を行います。

[illegible]

図 5-34 テンプレート選択画面

アップロードするテンプレートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

3. スケジュールの設定を行います。

Schedule

Run

Save

Specify Time

Specify Day

Monday

Tuesday

Wednesday

Thursday

Friday

Saturday

Sunday

Date:

2010/05/29

Time

22:02:54

< 戻る(B)

完了

キャンセル

図 5-35 スケジュール設定 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Run	ファームウェアを直ちに更新します。
Save	この更新記録の保存のみ行います。
Specify Time	更新を行う曜日を指定します。更新は毎週決まった曜日に行われます。
Specify Day	更新を行う日付を指定します。

4. 「完了」 ボタンをクリックして、設定を終了します。

5. 結果が画面に表示されます。

MultiConfig

Disable

Enable

New

Edit

Delete

Task Name	Activity	Next Run Time	Status	Result
Test	Disable	N/A	Stopped	Success

図 5-36 MultiConfig 画面 - 結果

Fault Manager（故障管理）

アクセスポイントから受信したトラップデータとポーリングしたデータを表示します。

Fault Manager メニューをクリックし、以下の画面を表示します。

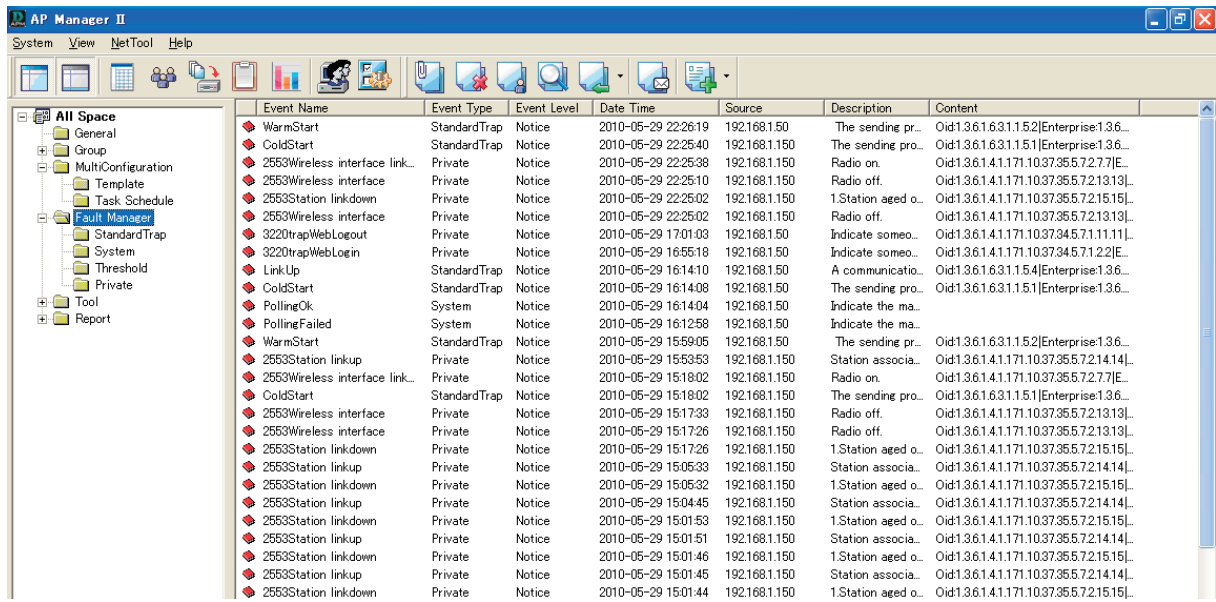


図 5-37 Fault Manager 画面

イベントには 4 つのタイプがあります。

項目	説明
StandardTrap	標準のトラップ画面ではアクセスポイントから受信した標準のトラップデータを表示します。
System	「System」画面ではポーリング結果を表示します。ポーリングを開始するためには、 119 ページ を参照してください。
Threshold	「Threshold」画面ではしきい値通知データを表示します。しきい値通知を有効にするためには、 119 ページ を参照してください。
Private	「Private」画面ではアクセスポイントから受信したプライベートトラップのデータを表示します。

Event Settings (イベント設定)

トラップ条件を設定します。

ツールバーの  アイコンをクリックしてイベント設定を行います。

イベント設定の編集

「Event Type」リストからイベントを選択後、項目を編集します。

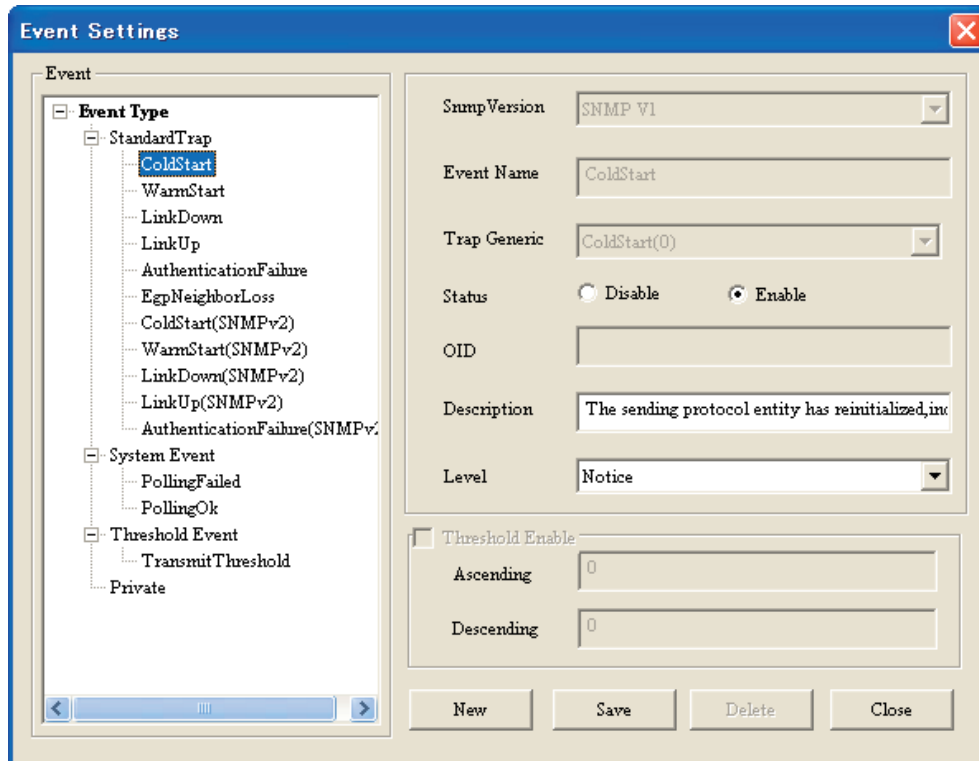


図 5-38 Event Settings 画面

設定後に、「Save」ボタンをクリックして変更を適用します。

新しいイベントの追加

「New」ボタンをクリックして、以下のイベント作成画面で設定を行います。

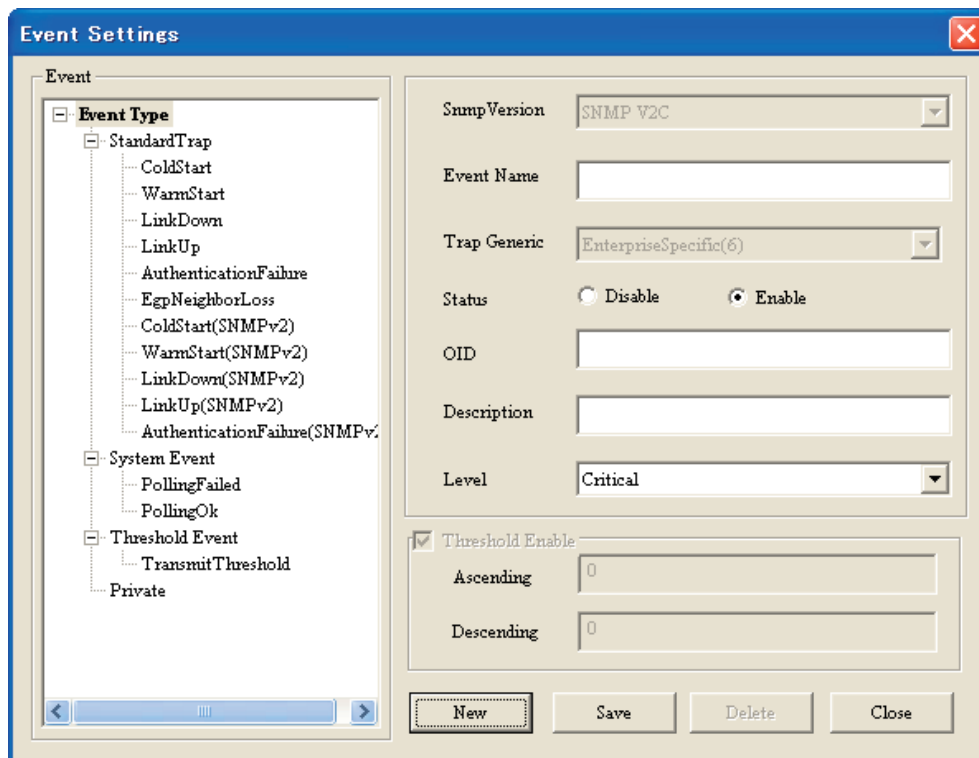




図 5-39 Event Settings 画面 - New

Event Export（イベントのエクスポート）

AP Manager II は、Text/Excel/PDF の形式でイベント結果をファイルにエクスポートすることができます。イベント結果を保存するためには、「Event」画面でイベントレコードを指定し、ツールバーの「Event Export」  アイコンをクリック後、希望するファイル形式を選択します。AP Manager II はそのタイプのレコードすべてをファイルに保存します。

Notice Setting（通知設定）

AP Manager II は、いずれかのレベルのイベントが発生した際に行う対応する操作を設定することができます。通知設定を設定するためには、以下に通り、ツールバーの  アイコンをクリックします。

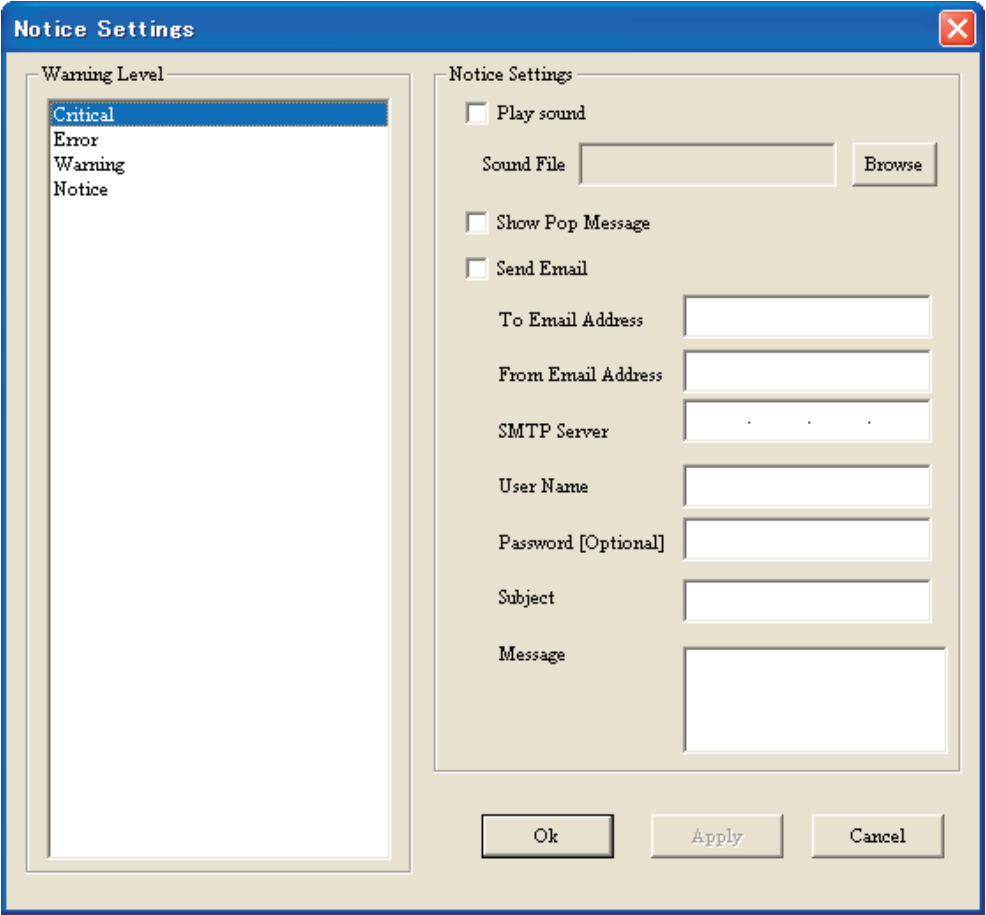


図 5-40 Notice Settings 画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Play sound	「Browse」 ボタンをクリックして、音声ファイルを選択します。AP Manager II は、本レベルのイベントが発生した場合に指定の音声ファイルを使用します。
Show Pop Message	AP Manager II は、本レベルのイベントが発生した場合にメッセージ画面をポップアップします。
Send Email	「To/From Email Address」、「SMTP Server」、「User Name / Password [Optional]」、「Subject」 および 「Message」 の各欄に E-Mail 情報を入力します。このレベルのイベントが発生すると、AP Manager II は E-Mail を送信します。

設定を変更する際は、必ず「Ok」 ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Watch List (ウォッチリストの設定)

AP Manager II を使用して、特定のデバイスとイベントだけを表示するカスタムウォッチリストを追加することができます。



図 5-41 Watch List 画面

以下の手順でウォッチリストを作成します。

1. ツールバーの  アイコンで「Create Watchlist」をクリックし、以下の画面を表示します。

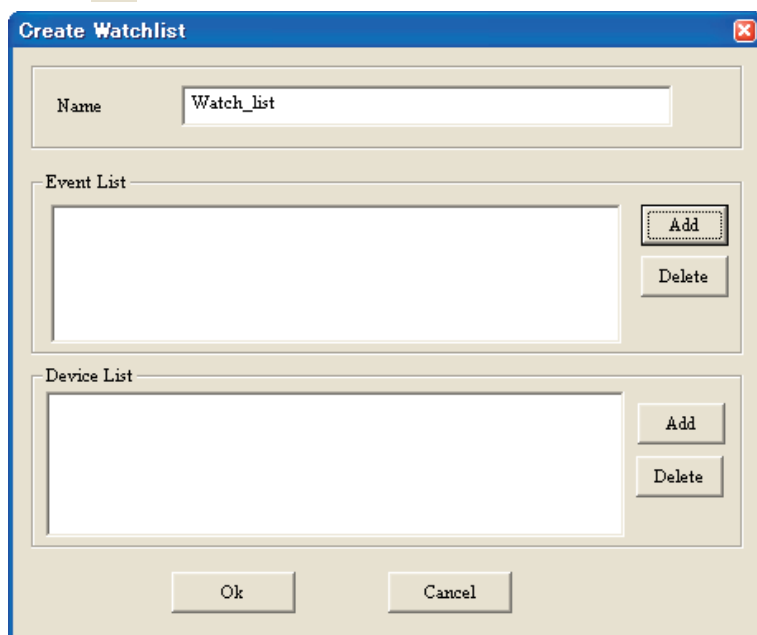


図 5-42 Create Watchlist 画面

「Name」にウォッチリスト名を入力します。

2. 「Event List」セクションの「Add」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

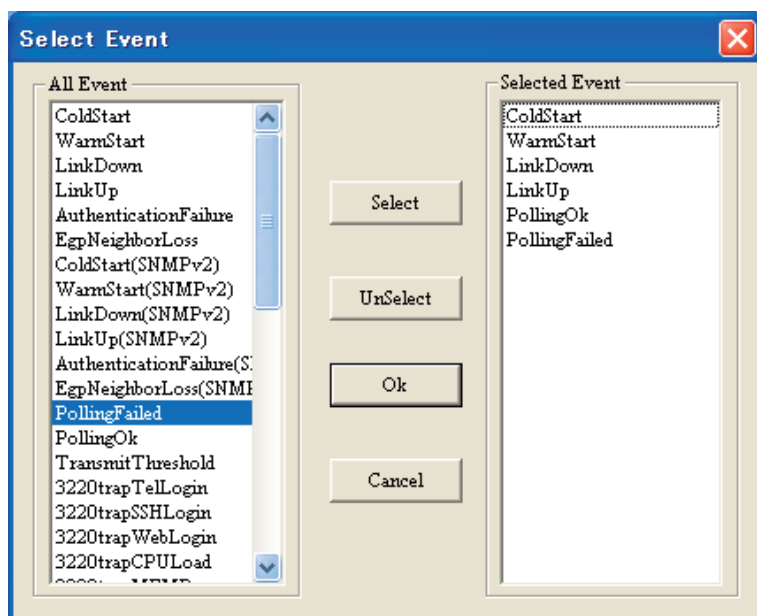


図 5-43 Select Event 画面

追加する必要のあるイベントを選択し、「Select」ボタンクリック後「Ok」ボタンをクリックします。

3. 「Device List」セクションの「Add」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

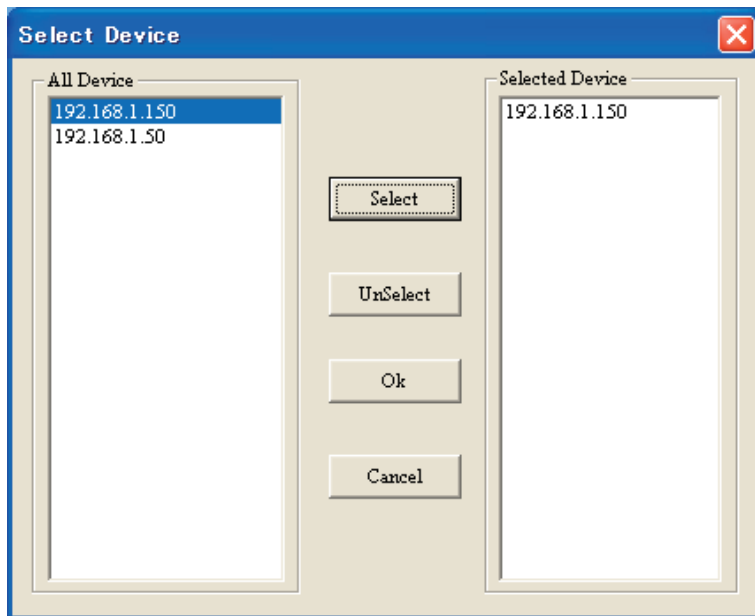


図 5-44 Select Device 画面

追加する必要のあるデバイスを選択し、「Select」ボタンクリック後「Ok」ボタンをクリックします。

4. 以下の画面で「Ok」ボタンをクリックします。

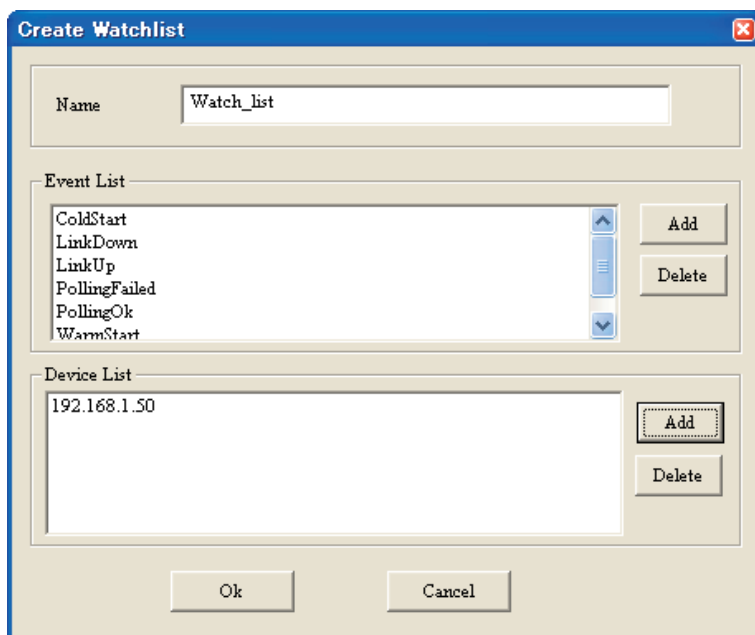


図 5-45 Create Watchlist 画面

注意

ウォッチリスト名は他のものと異なる必要があります。新しいイベントフォルダを作成するイベントタイプはシステムイベントに所属します。

ウォッチリストの削除

ウォッチリストの項目を選択し、ツールバーの  アイコンの「Delete Watchlist」をクリックします。

Tool (ツール)

Topology (トポロジ設定)

ネットワーク設計を支援するために計画したネットワークまたは既存のネットワークを図で表示するトポロジマップを作成することができます。また、AP Manager II は、ネットワークデバイスに定期的にポーリングしてステータスをモニタリングします。背景に使用されるアイコンとビットマップファイルを選択することで、さらにそれらの図をカスタマイズすることができます。

Tool > Topology の順にメニューをクリックします。

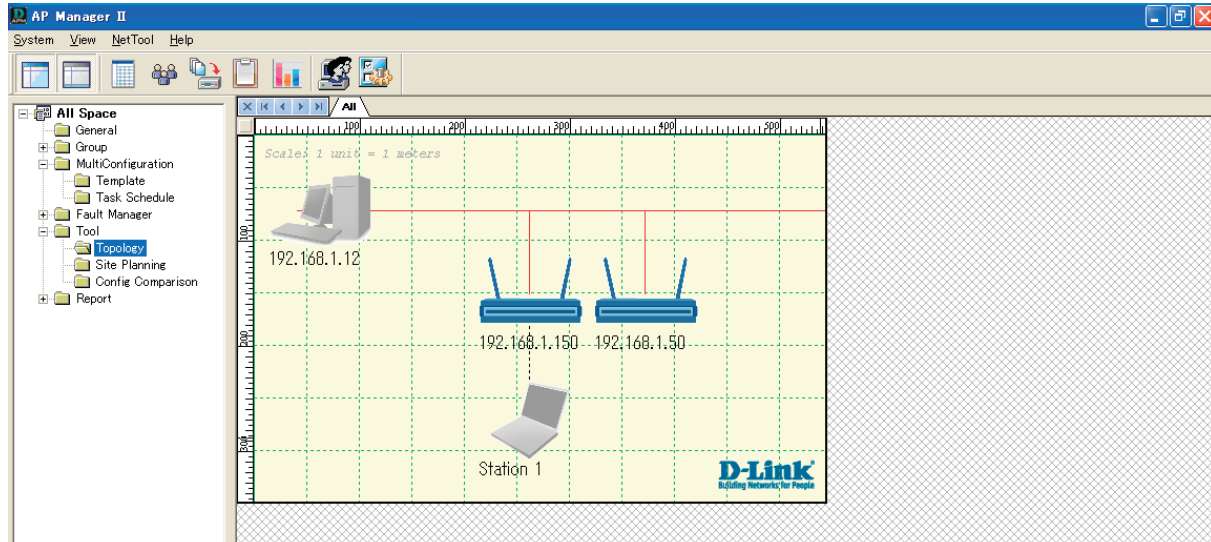


図 5-46 Topology 画面

トポロジマップを開くと、AP Manager II は、ネットワーク上の接続デバイスを検出し、マップにそれらのアイコンを表示します。

新しいトポロジ画面の作成

新しいトポロジでは、実際の配置に従ってアクセスポイントを配置することができます。アクセスポイントが故障した場合、管理者は、アクセスポイントが故障している様子を目視し、直ちにそれを置き換えることができます。

1. 新しいトポロジ画面を作成するためには、「Topology」画面上の余白部分を右クリックし、「New Topology」を選択します。

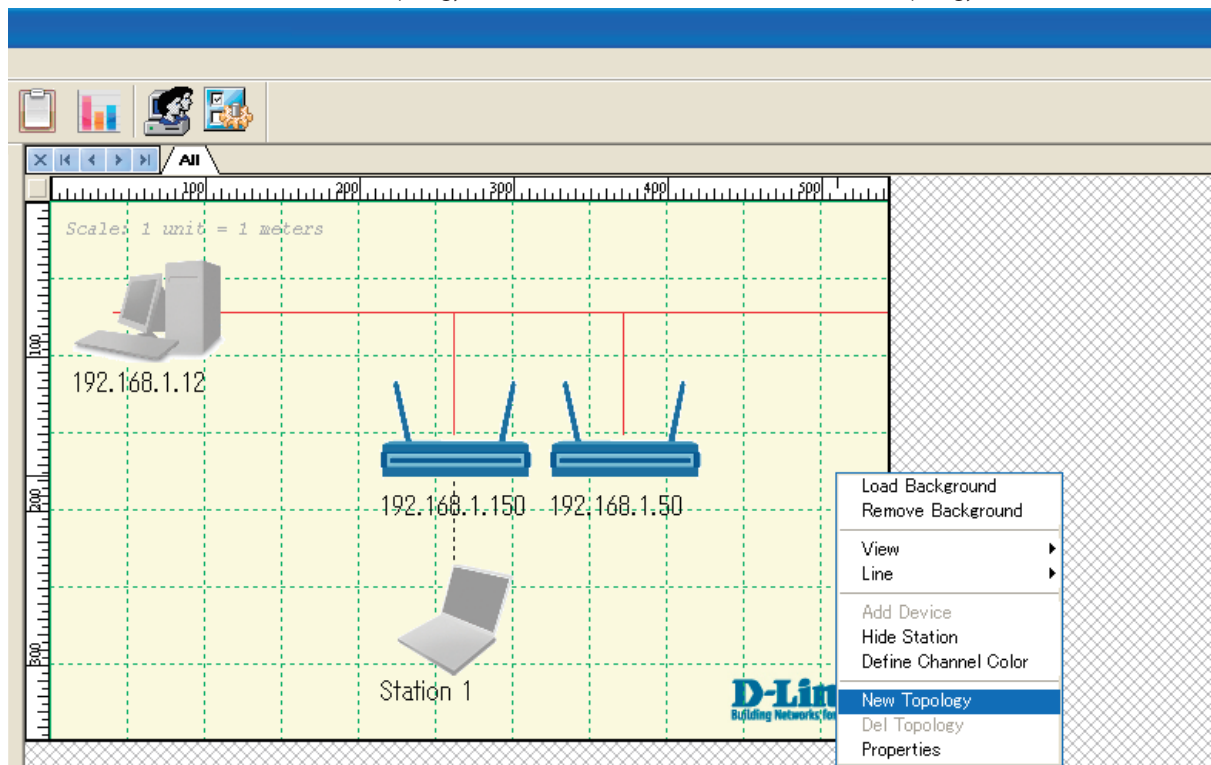


図 5-47 New Topology 画面

- はじめに、「All」トポロジ画面のアクセスポイントを右クリックし、「Copy Component To」下の新しいトポロジを選択することで、新しいトポロジにアクセスポイントをインポートすることができます。

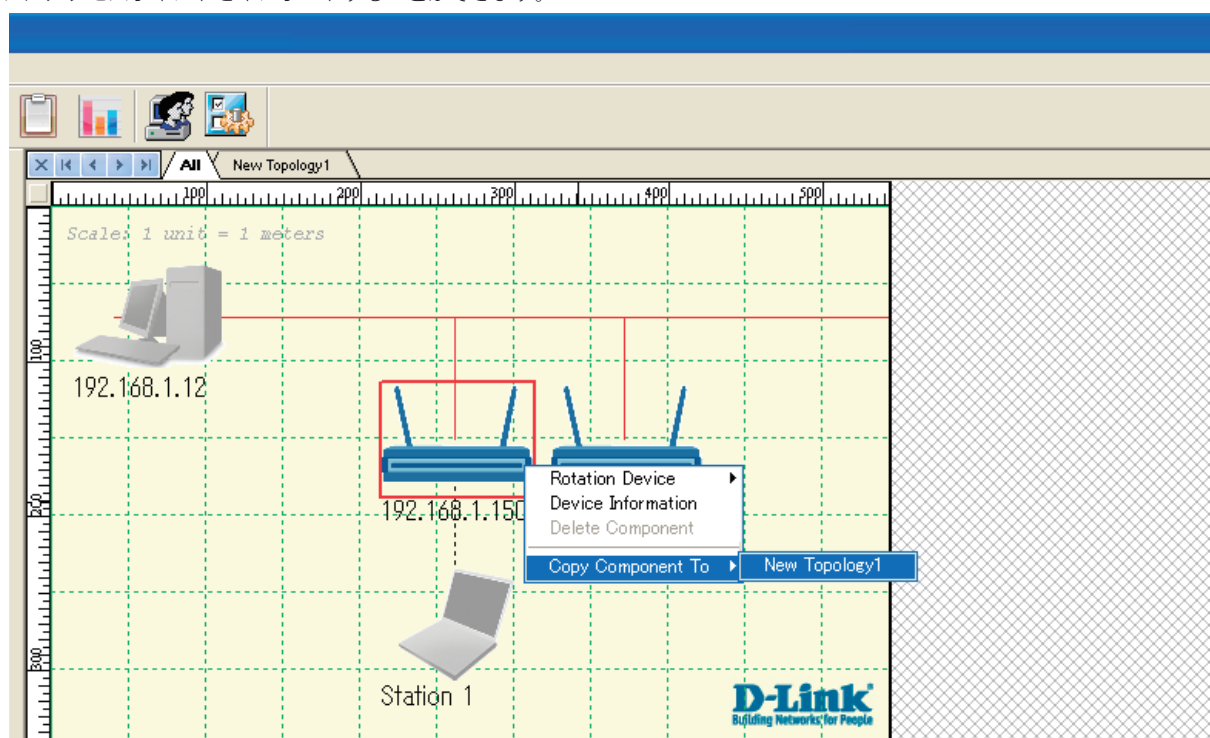


図 5-48 Topology メニュー

Show RF Range (RF スキャンの参照)

新しいトポロジ画面ではデバイスの RF 範囲を表示します。RF 範囲は送信電力に基づいており、そのカラーはチャンネルに関連します。

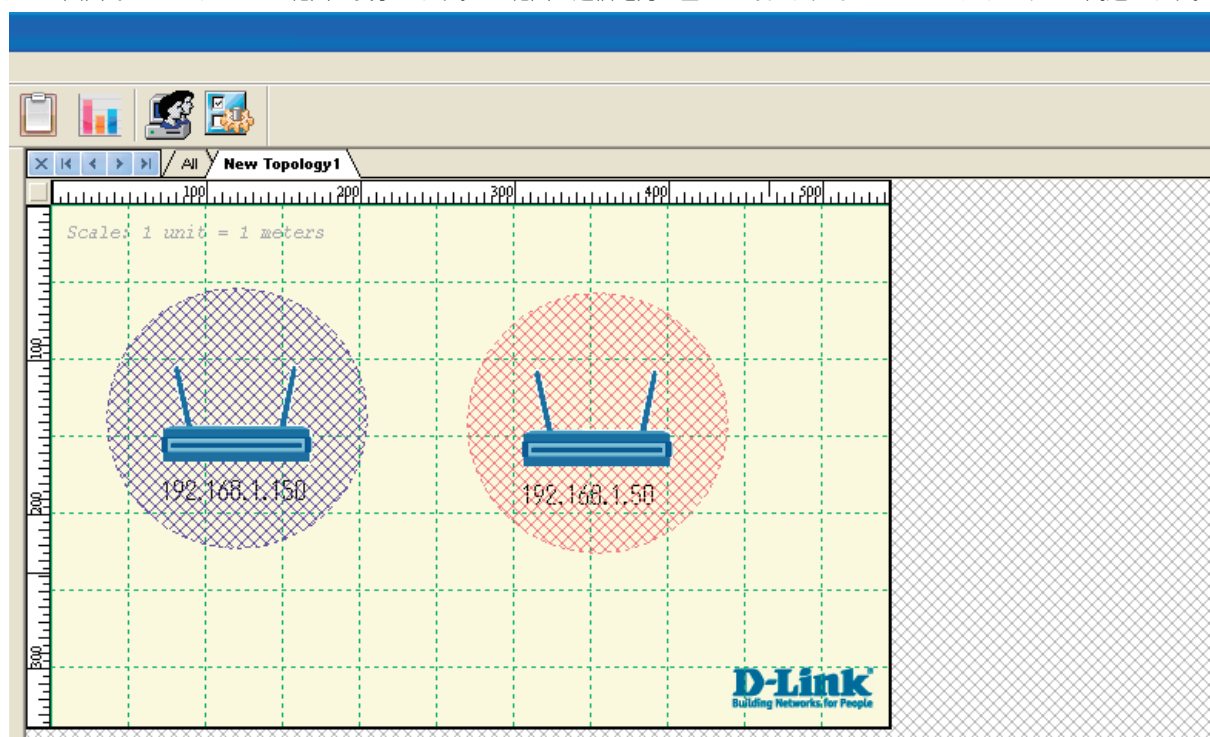


図 5-49 RF スキャン範囲 画面

アクセスポイントの電源がオフの場合、RF 範囲は表示されません。

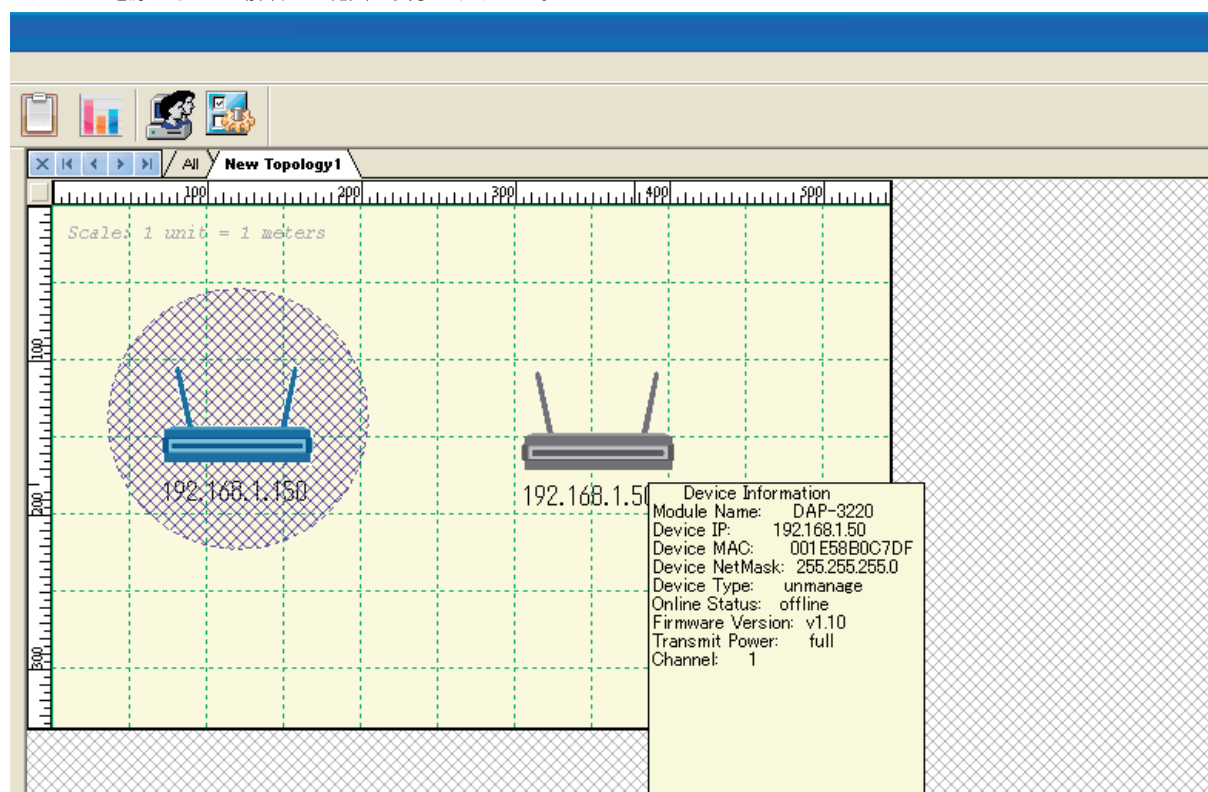


図 5-50 RF 範囲 画面 - オフライン

Background (背景)

Load Background (背景のロード)

新しいトポロジのために背景をロードするためには、「Topology」画面の余白部分を右クリックし、「Load Background」を選択します。

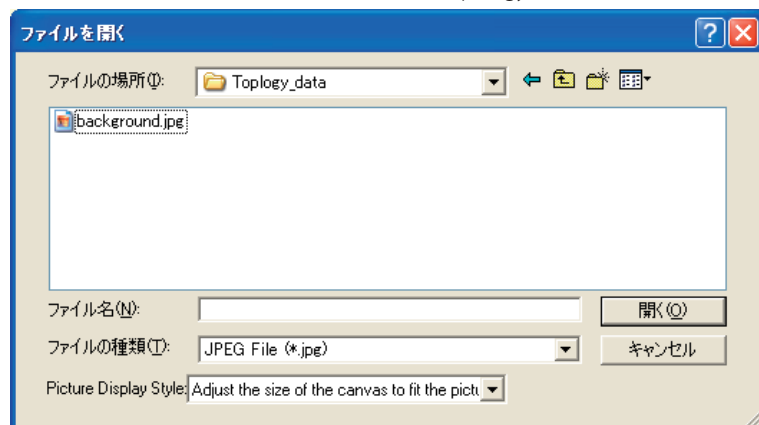


図 5-51 ファイルを開く 画面

ローディングの成功後は以下のように表示されます。

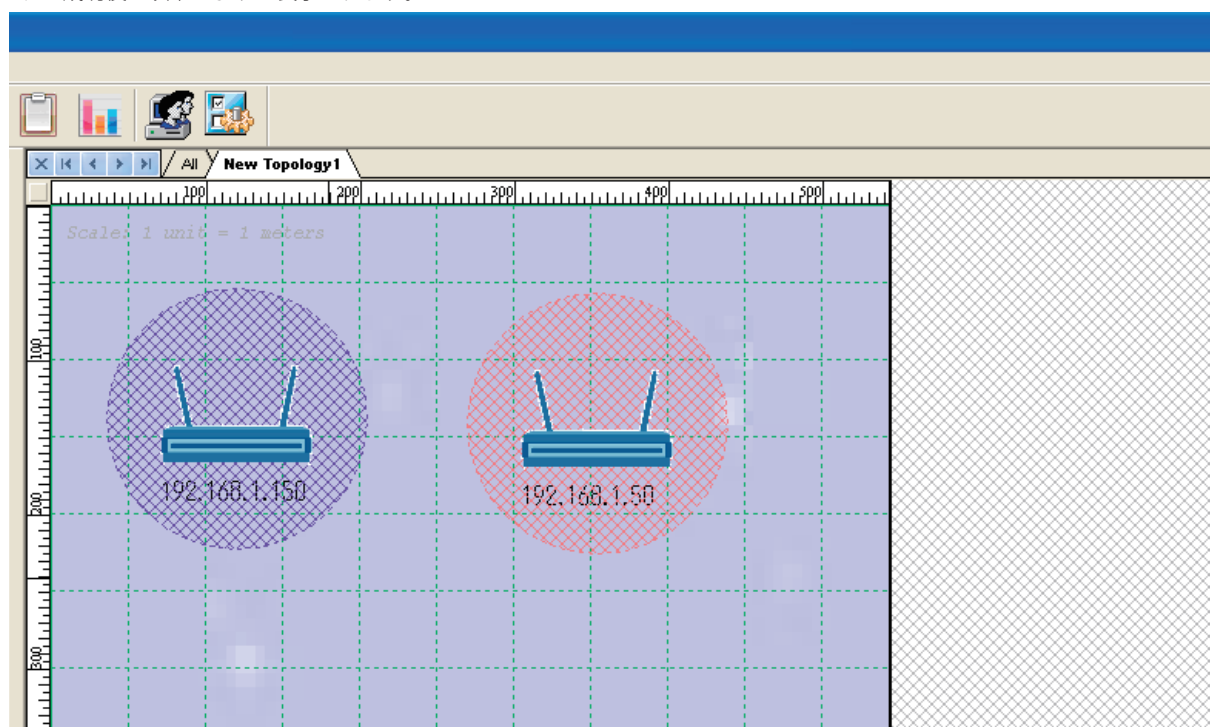


図 5-52 New Topology 画面 - ローディングの成功

Remove Background（背景の削除）

「Topology」画面の余白部分を右クリックし、「Remove Background」を選択します。

View（参照）

「View」オプションは、トポロジのサイズを構成するトポロジのグリッドとルーラを示し、大または小のアイコンを使用してアクセスポイントを表示する機能を提供します。

グリッドとルーラを表示または隠すためには、右クリックメニューから「Grid」または「Ruler」項目をクリックします。トポロジサイズと表示比率を変更するためには、以下に示されているように、右クリックメニューから「Topology Size」をクリックします。

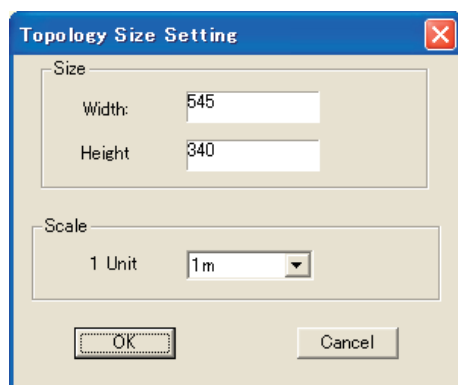


図 5-53 Topology Size Setting 画面

Line (ライン設定)

より効率的にアクセスポイントを体系化するためにマップ内にラインを挿入することができます。ラインを挿入するためには、右クリックメニューの「Line」オプションから「Insert line」をクリックし、マウスを使用してマップ内にラインを引きます。ラインの挿入後、ラインを右クリックしてプルダウンメニューから対応する項目を選択することで、ラインの編集を行うことができます。

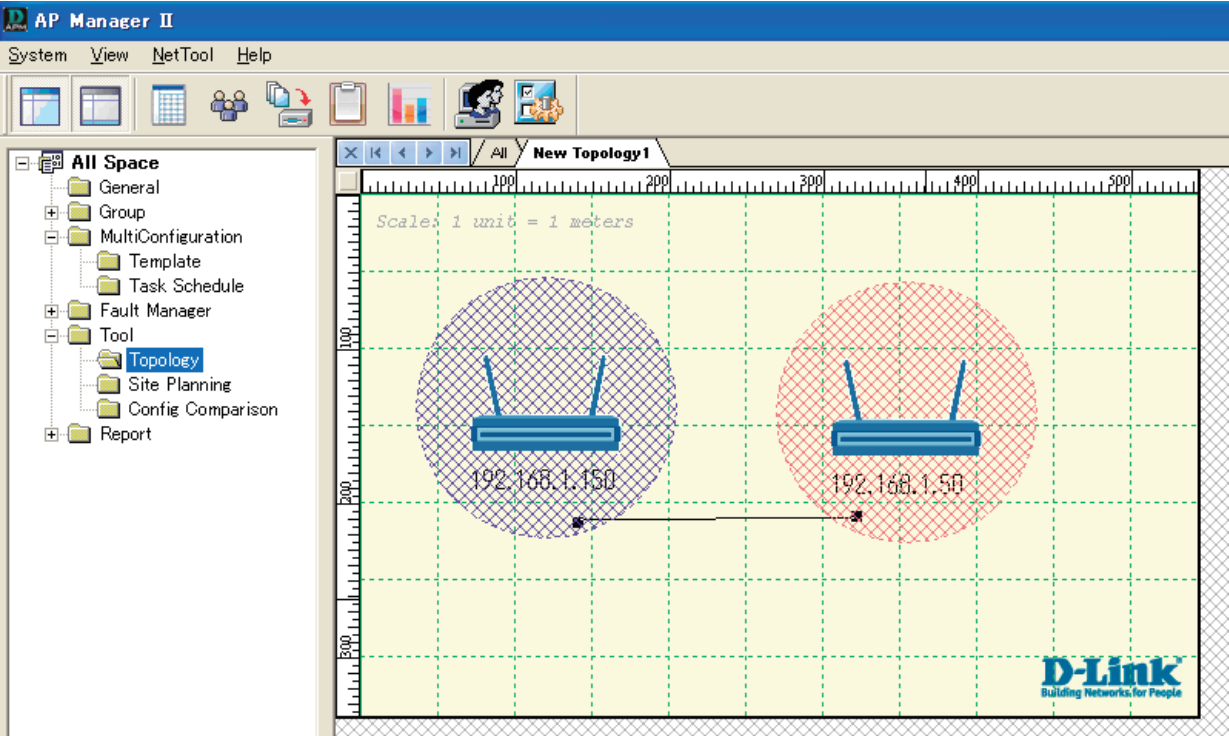


図 5-54 Topology 画面 - Line

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Delete Line	ラインを削除します。
Line Color	ラインカラーを設定します。
Line Width	ライン幅を設定します。
Hide Line	ラインを非表示にします。

Add/Hide Device (デバイスの追加 / 非表示)

右クリックメニューから「Add Device」をクリックすることでトポロジマップにステーションを追加します。

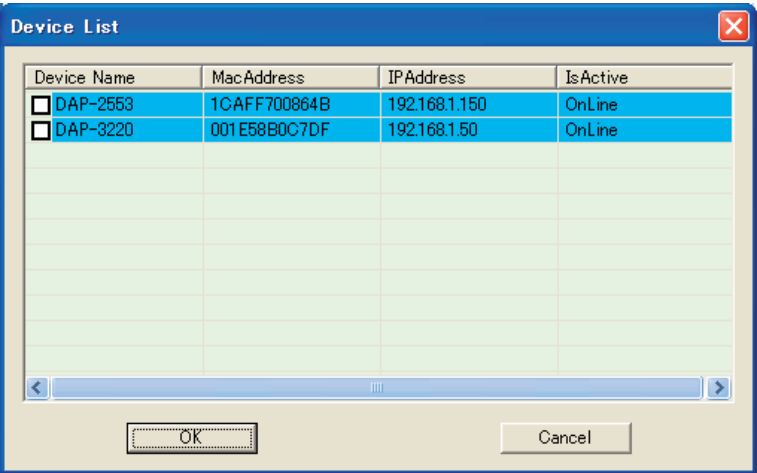


図 5-55 Device List 画面

トポロジビューでデバイスを非表示にするためには、デバイスを右クリックして、プルダウンメニューから「Hide Device」を選択します。

Define Channel Color（チャンネルカラーの定義）

トポロジ画面では異なるカラーでチャンネルを示すことができます。チャンネルカラーを設定するためには、右クリックメニューから「Define Channel Color」をクリックして以下の画面を表示します。

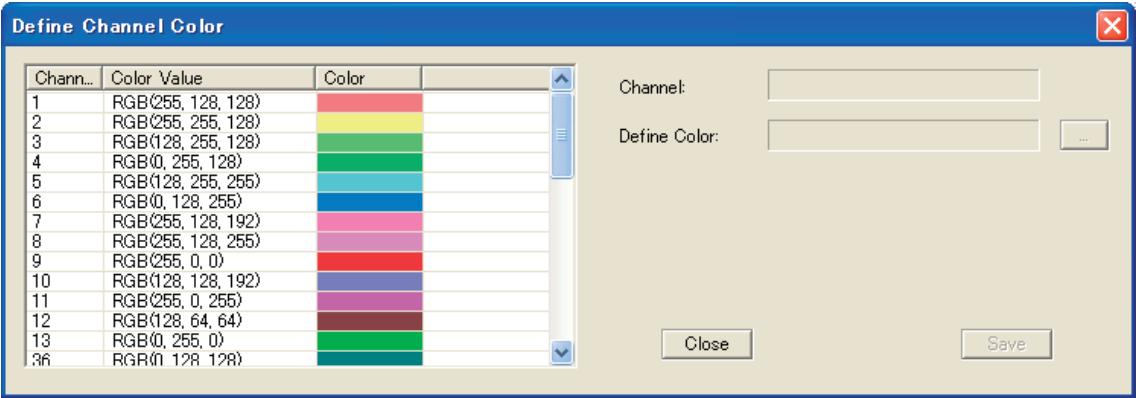


図 5-56 Define Channel Color 画面

Rotation Device（デバイスの回転）

以下に示されているように、デバイスを右クリックすることでデバイスの角度を変更することができます。

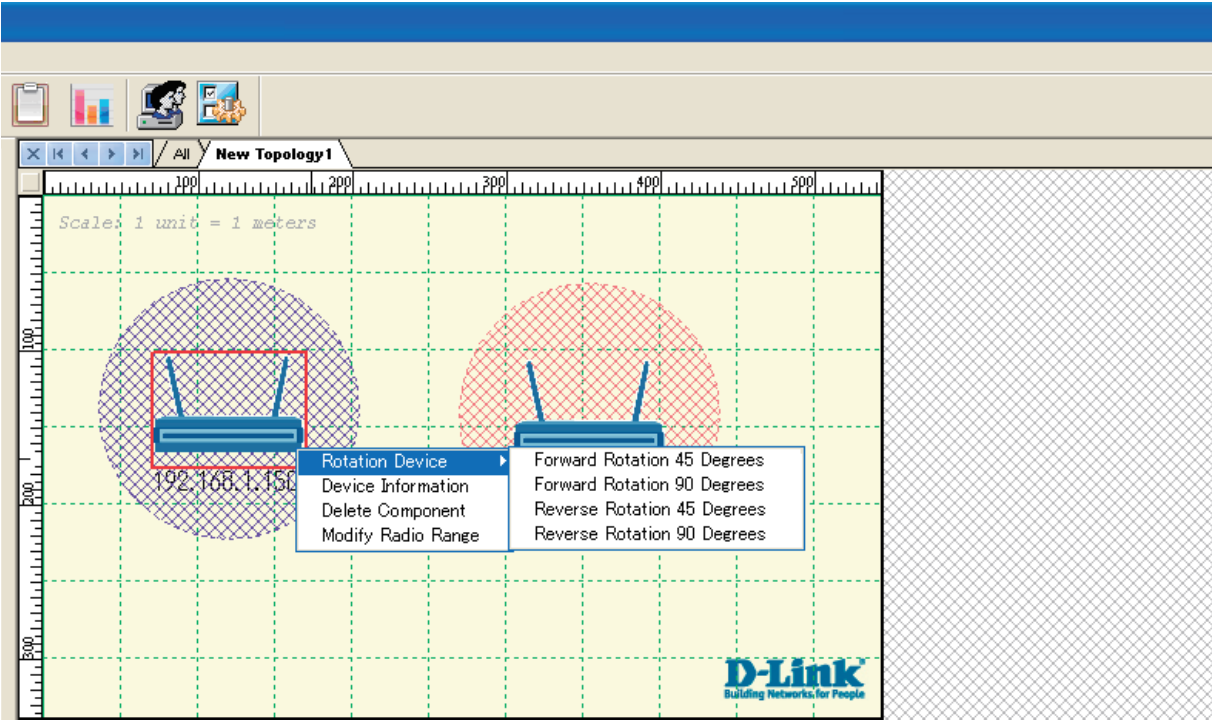


図 5-57 Rotation Device 画面

例えば、デバイスを時計回りで 45 度を回転させるためには、「Rotation Device」オプションから「Forward Rotation 45 Degrees」をクリックします。

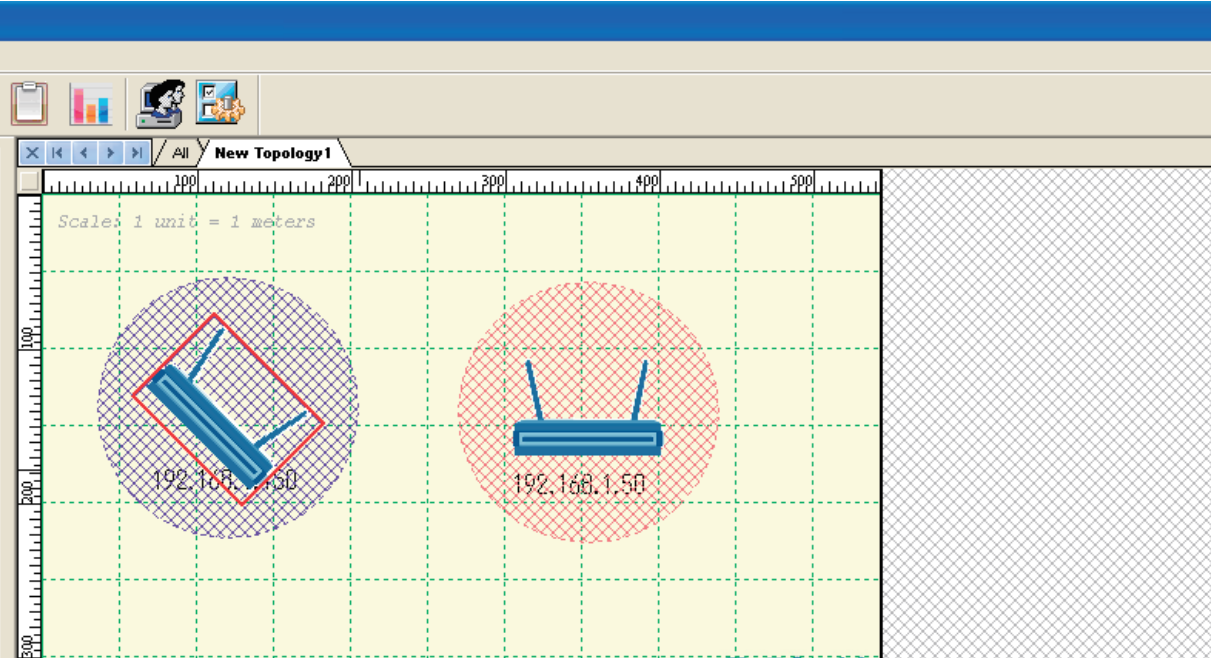


図 5-58 Forward Rotation 45 Degrees 画面

Site Planning（配置計画）

「Site Planning」は無線ネットワークの配置を支援するために設計されています。無線ネットワークを確立する前に、計画して評価する必要があります。通常、異なる位置にいくつかのアクセスポイントを配置し、どの場所が最も良好な無線通信結果に到達するかをテストするために AP プログラムが動作しているノート PC を使用します。データの記録後に、それらを解析のために AP Manager II にインポートすることができます。

ノート PC で AP プログラムを実行するためには、AP Manager II がインストールされているコンピュータの AP Manager II のインストールフォルダからノート PC に「ScanAP.exe」をコピーし、次に「ScanAP.exe」をダブルクリックします。

「Site Planning」ではスキャン AP ツールによってテストされた結果を示しています。最初に、「ScanAP.exe」を実行して、ファイルにスキャン結果を保存して、次に、「Site Planning」画面を右クリックしてファイルをロードします。

Tool > Site Planning > Load の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

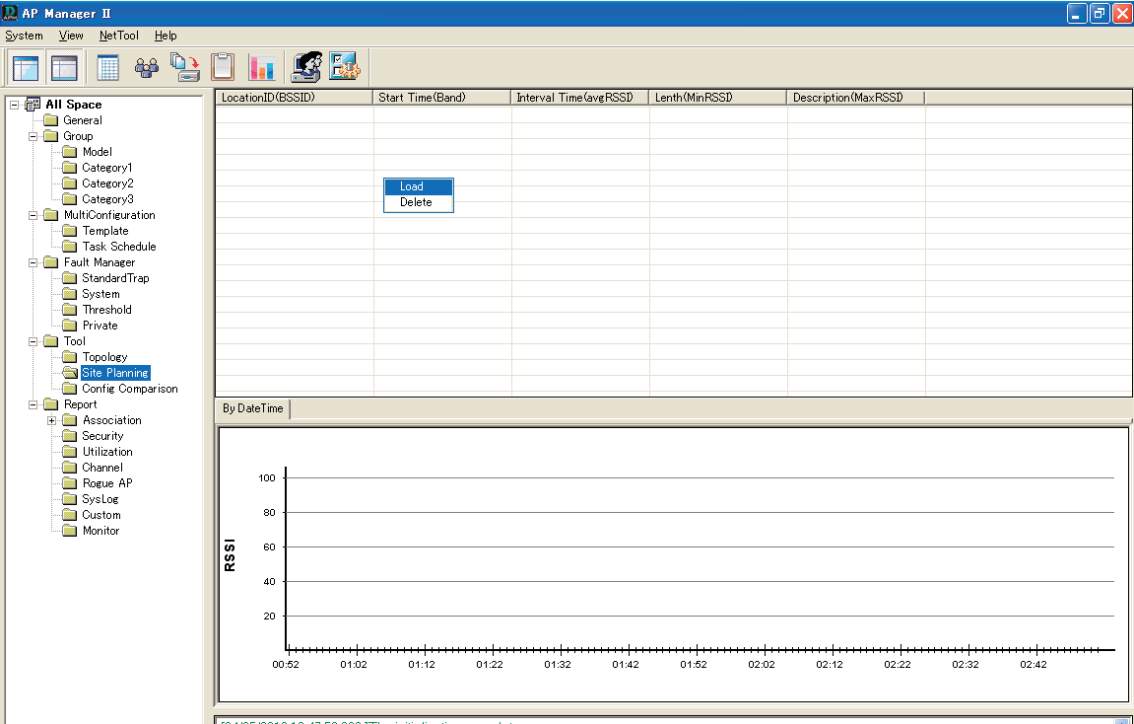


図 5-59 Site Planning 画面 - Load

「Site Planning」画面では、配置計画用の「BSSID」、「Start Time」、「Interval Time」、「Length」および「Description」データを表示します。

情報の収集

アクセスポイントの RF 情報を収集するためには、ツールメニューの **Net Tool > Scan** をクリックするかノート PC 内の「ScanAP.exe」をクリックして、スキャンプログラムを動作させてください。

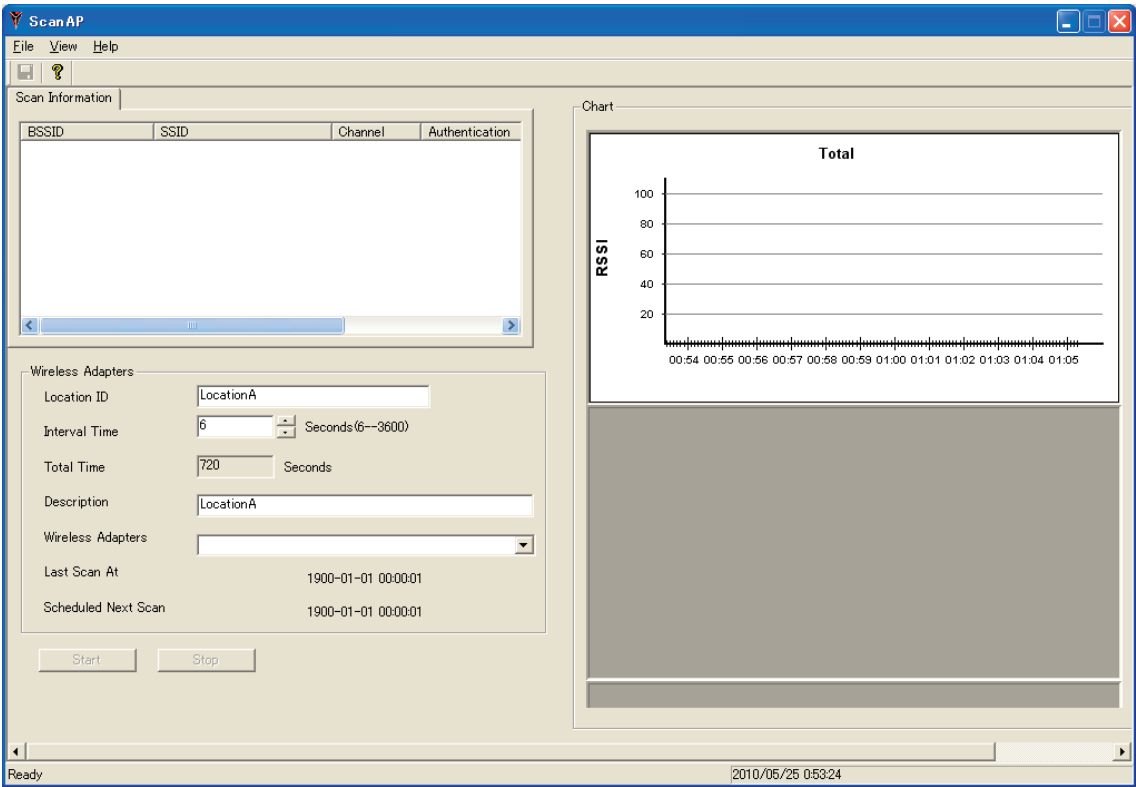


図 5-60 Scan AP 画面

「Location ID」と「Description」を入力し、「Interval Time」と「Wireless Adapter」を選択した後に「Start」ボタンをクリックします。はじめに、以下の画面でターゲットアクセスポイントを選択する必要があります。

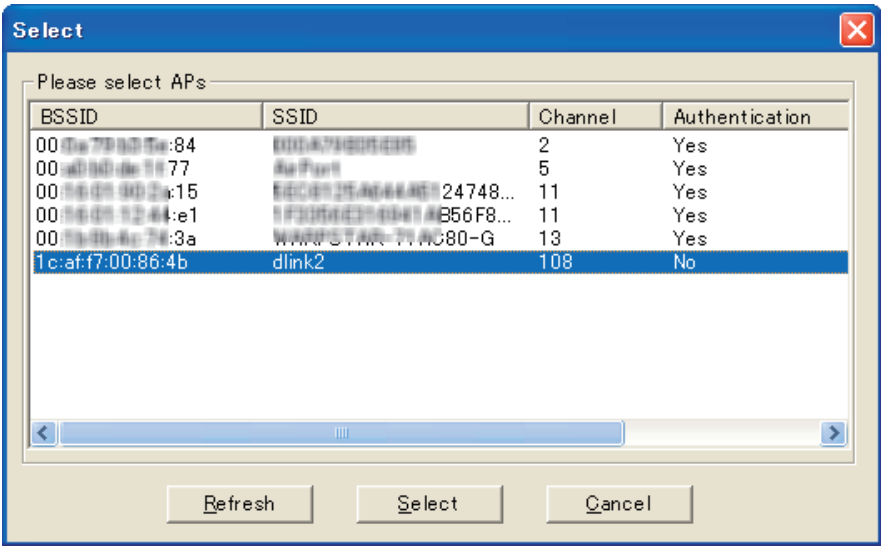


図 5-61 Select AP 画面

次に、「ScanAP」はアクセスポイントの RF 情報の収集を開始します。スキャン情報テーブルでは詳しい情報を表示します。スキャンが終了すると、画面は以下のように表示されます。

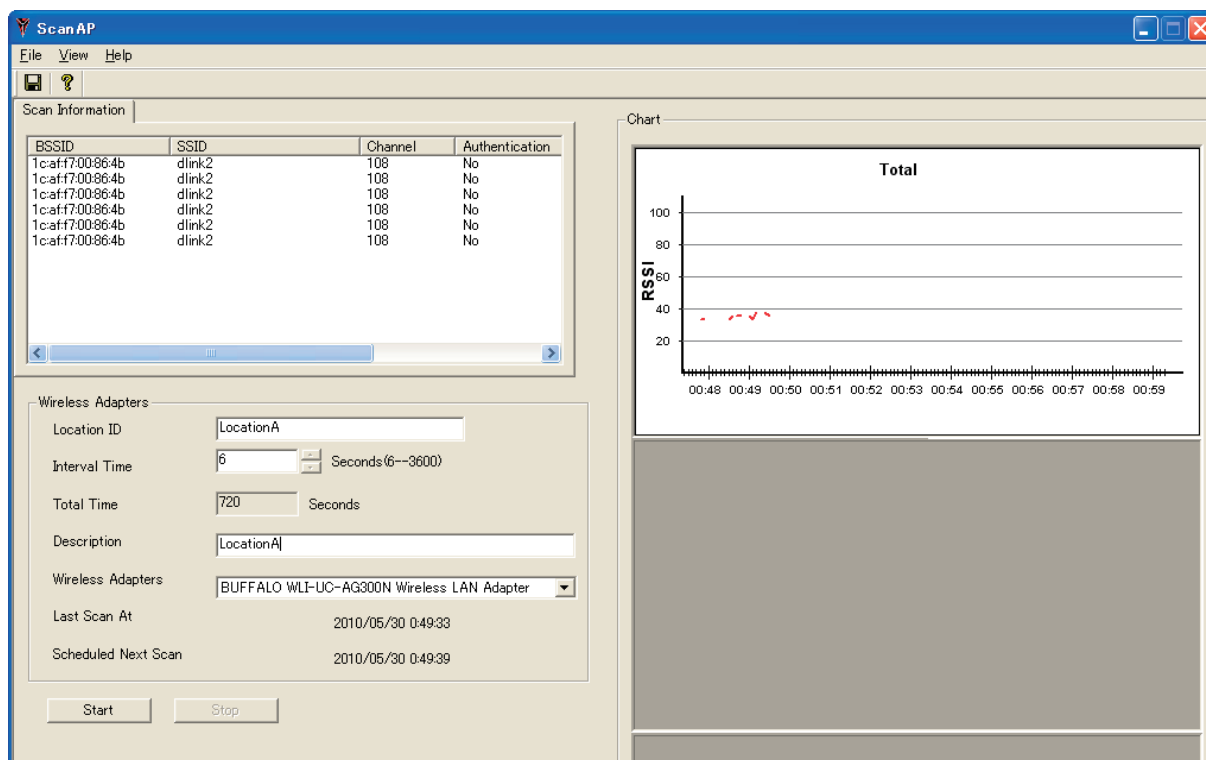


図 5-62 ScanAP 画面

再度スキャンするか、または「ScanAP」をクローズすると、以下のダイアログが表示されます。

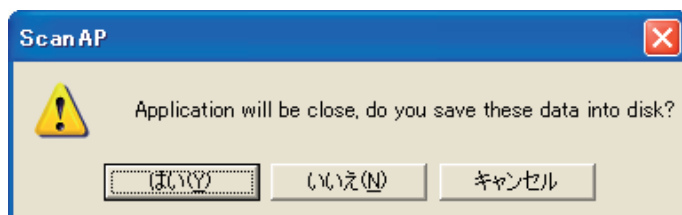


図 5-63 確認ダイアログ画面

ディスクに情報を保存する場合は、「はい」をクリックし、「名前を付けて保存」ダイアログが表示します。

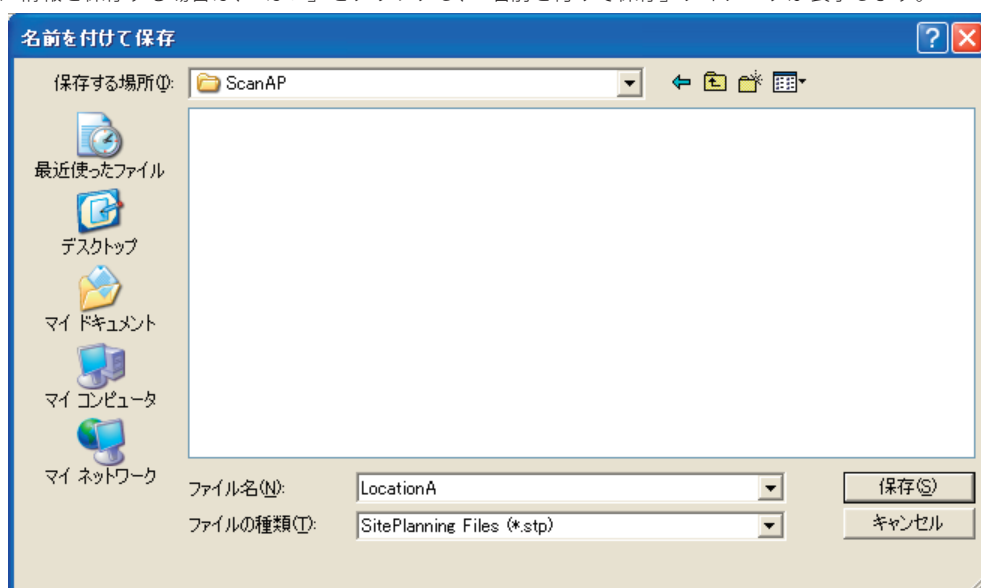


図 5-64 名前を付けて保存 画面

ファイルを指定後、「保存」ボタンをクリックします。

注意 ScanAP を、ノート PC で動作させることができます。

ロード情報

「Site Planning」アプリケーションに結果ファイルをロードするためには、「Site Planning」画面で「Load」ボタンをクリックして以下の画面を表示します。

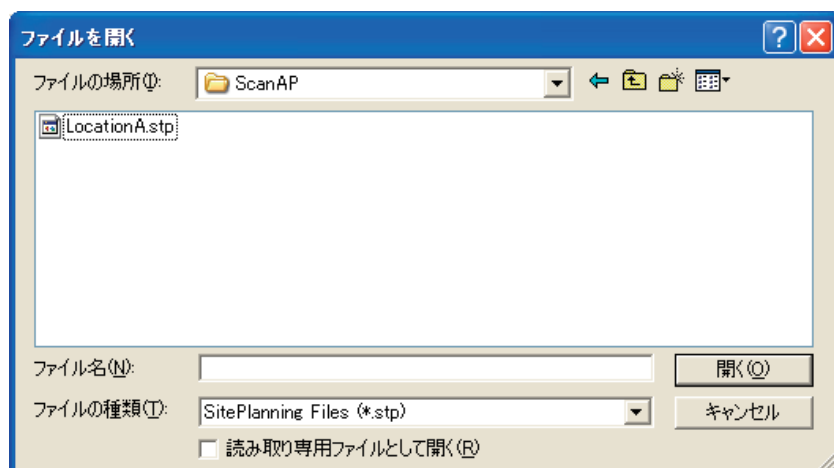


図 5-65 ファイルを開く画面

スキャン結果ファイルを選択します。AP Manager II は、時間ごとにラインでデータを示します。

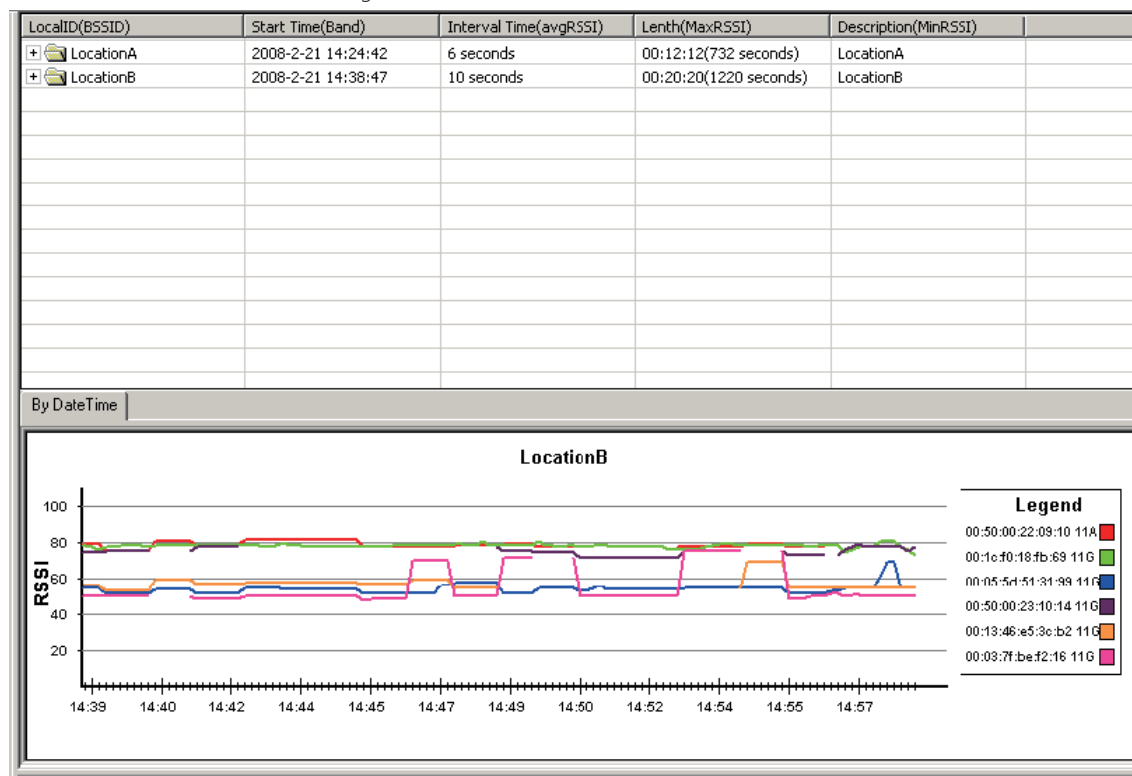


図 5-66 スキャン結果画面

スキャンレコードの前の「+」アイコンをクリックして、メニューを展開して詳細を表示します。

Report（レポート）

Association（アソシエーション）

「Association」画面では、管理アクセスポイントと接続するクライアントステーションを次の2つの方法で表示します。:「By Access Point」（アクセスポイントごと）および「By Wireless Station」（無線ステーションごと）

By Access Point（アクセスポイントごとの表示）

アクセスポイントとその AP リストに関連したクライアントステーションの詳細を強調表示します。情報には、「DateTime」、「MAC Address」、「Alias」、「Access Point」、「SSID」、「Band」、「Authentication」、「RSSI」 および 「Power save mode」が含まれます。

Report > Association > By Access Point の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

Access Point

Group TypeModelAll Group

Model Name	Mac Address	IP Address
<input type="checkbox"/> Dwl-3200AP	001346FDB4F8	192.168.0.50

Select NoneSelect AllRefresh

Station Detail

DateTime	Mac Address	Alias	Access Point	SSID	Band	Authentication
2/18/2009 15:36:13	00112493DCD3	jacky	192.168.0.50	Primary-SSID	802.11g	OpenSystem

Export TextClear

図 5-67 By Access Point 画面

「Group Type」から、特定モデルまたはグループに基づくデータを画面に表示するように指定することができます

アクセスポイントのデータをファイルにエクスポートするためには、「Export Text」メニューからファイルタイプをクリックするか、または「Export Text」ボタンをクリックした後、「Export」画面でファイル名を入力します。さらに「Save」ボタンをクリックして AP データを保存します。

117

By IP Address（無線ステーションごとの表示）

Report > Association > By IP Address の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

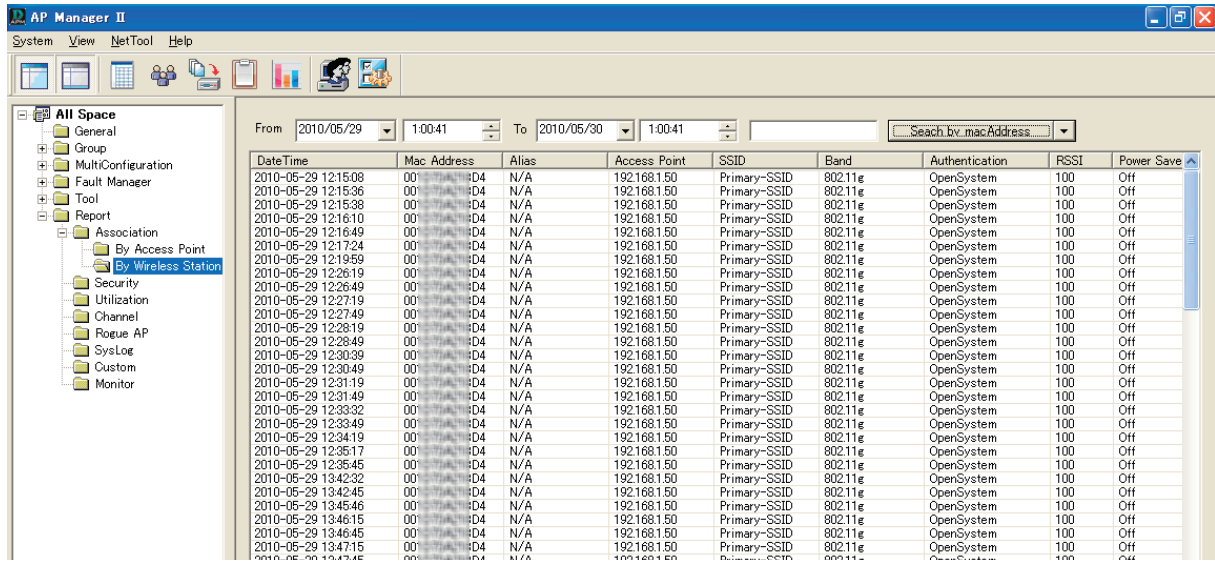


図 5-68 By IP Address 画面

指定したステーションおよび検出日に従ってアクセスポイントを表示するためには、「From/To」プルダウンメニューから日付を選択し、デバイスの MAC アドレスまたはエイリアスを入力後、「Search By…」ボタンをクリックします。

アクセスポイントのデータをファイルにエクスポートするためには、「Export Text」メニューからファイルタイプをクリックするか、または「Export Text」ボタンをクリックした後、「Export」画面でファイル名を入力します。さらに「Save」ボタンをクリックしてアクセスポイントデータを保存します。

Security（セキュリティ）

「Security」画面では管理アクセスポイントのセキュリティレベルを図で示します。

Report > Security の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

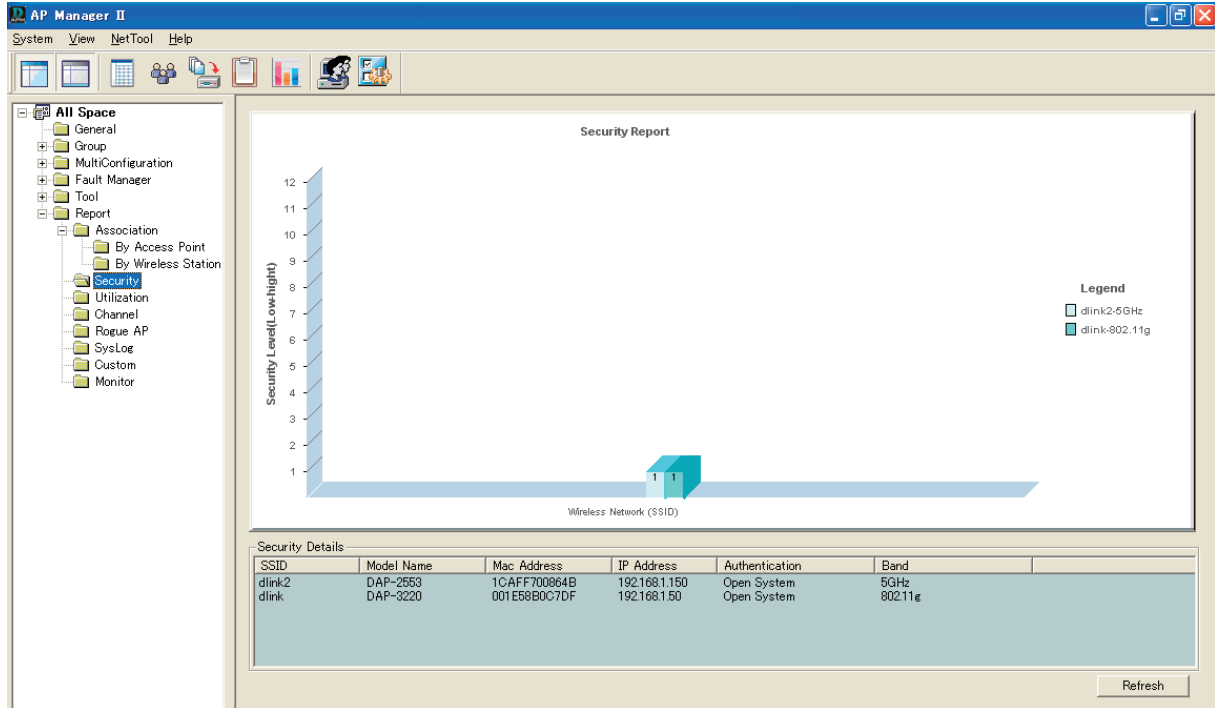


図 5-69 Security 画面

セキュリティレベルには次の通り最低から最高まであります。: Open System、Shared Key、WPA-Personal、WPA-Enterprise、WPA2-Personal、および WPA2-Enterprise。

「Security Details」セクションでは、アクセスポイントの SSID、Mode Name、MAC Address、IP Address、Authentication、および Band 情報を表示します。

Utilization（使用率）

「Utilization」画面では指定アクセスポイントの帯域使用率を表示します。使用率を参照するために、AP Manager II はアクセスポイントをポーリングする必要があります。

Report > Utilization の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

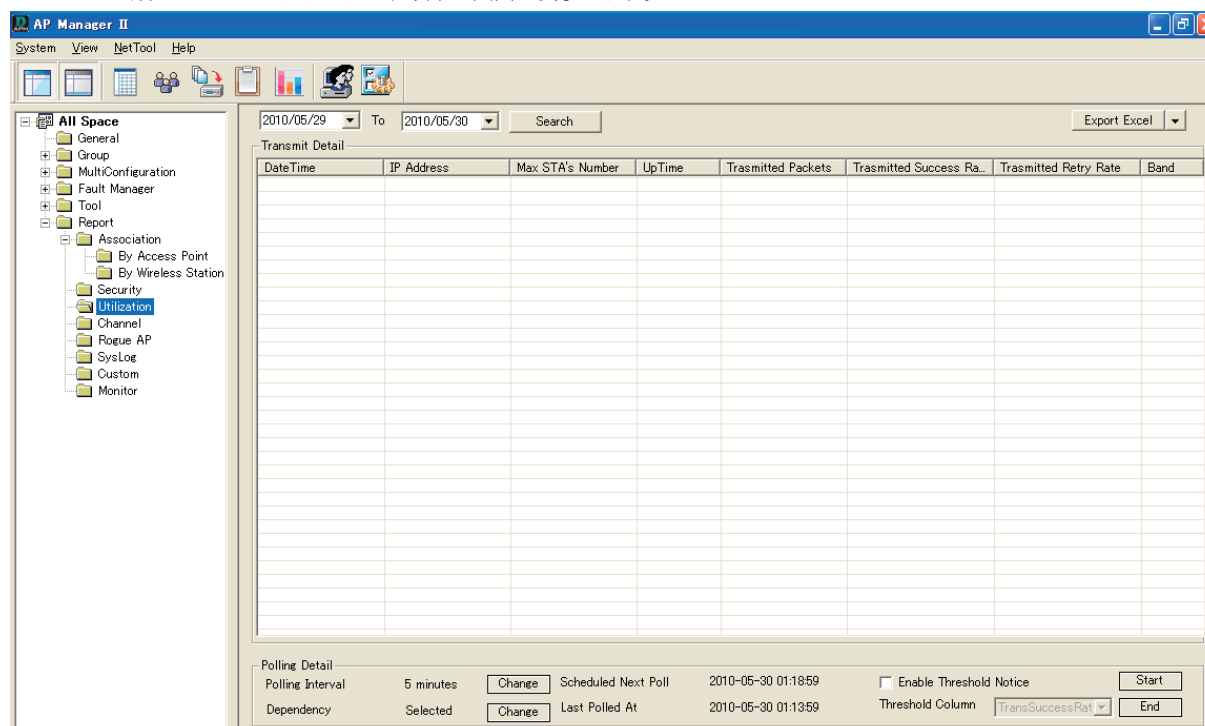


図 5-70 Utilization 画面

ポーリングを開始するためには、「Dependency」の「Change」ボタンをクリックして「Select」画面を表示します。

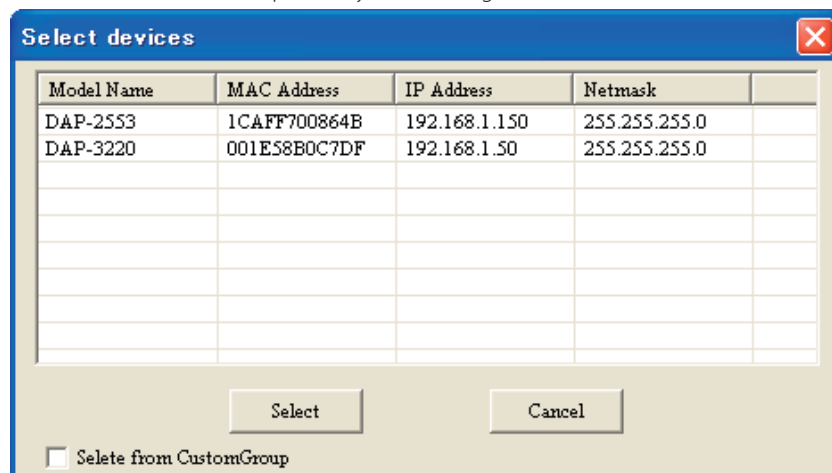


図 5-71 デバイスの選択 画面

AP Manager II がポーリングするアクセスポイントを選択後、「Start」ボタンをクリックする必要があります。また、「Enable Threshold Notice」をクリックしてしきい値通知を有効にし、「Threshold Column」のタイプを選択することができます。

以下のような結果が表示されます。

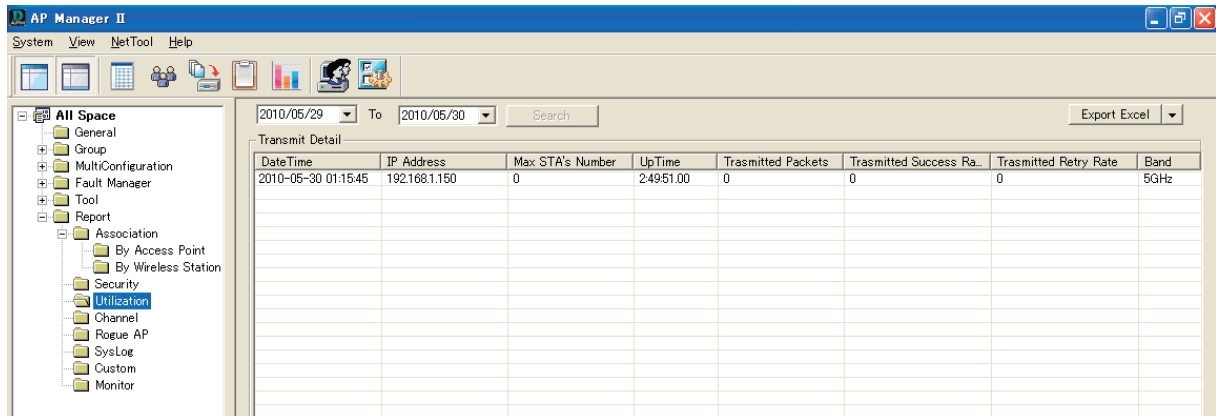


図 5-72 Utilization 画面 - Result

Channel (チャンネル)

「Channel」画面では、管理アクセスポイントのチャンネル使用状態を図で表示します。

Report > Channel の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

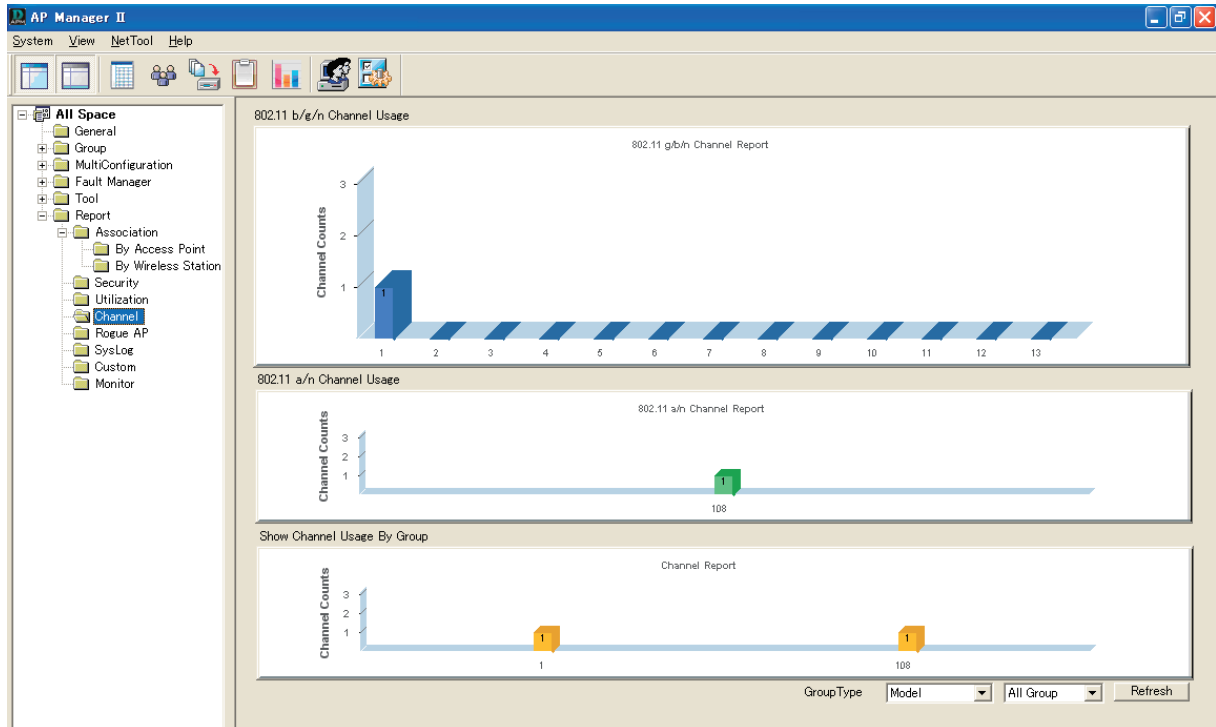


図 5-73 Channel 画面

「Group Type」から、指定モデルまたはグループに基づくデータを図で表示するように指定することができます。

Rogue AP（不正なアクセスポイント）

「Rogue AP」画面では、AP Manager II によって検索されたアクセスポイントを表示します。アクセスポイントが有効、不正、または Neighbor AP であるかを指定することができます。

Report > Rogue AP の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

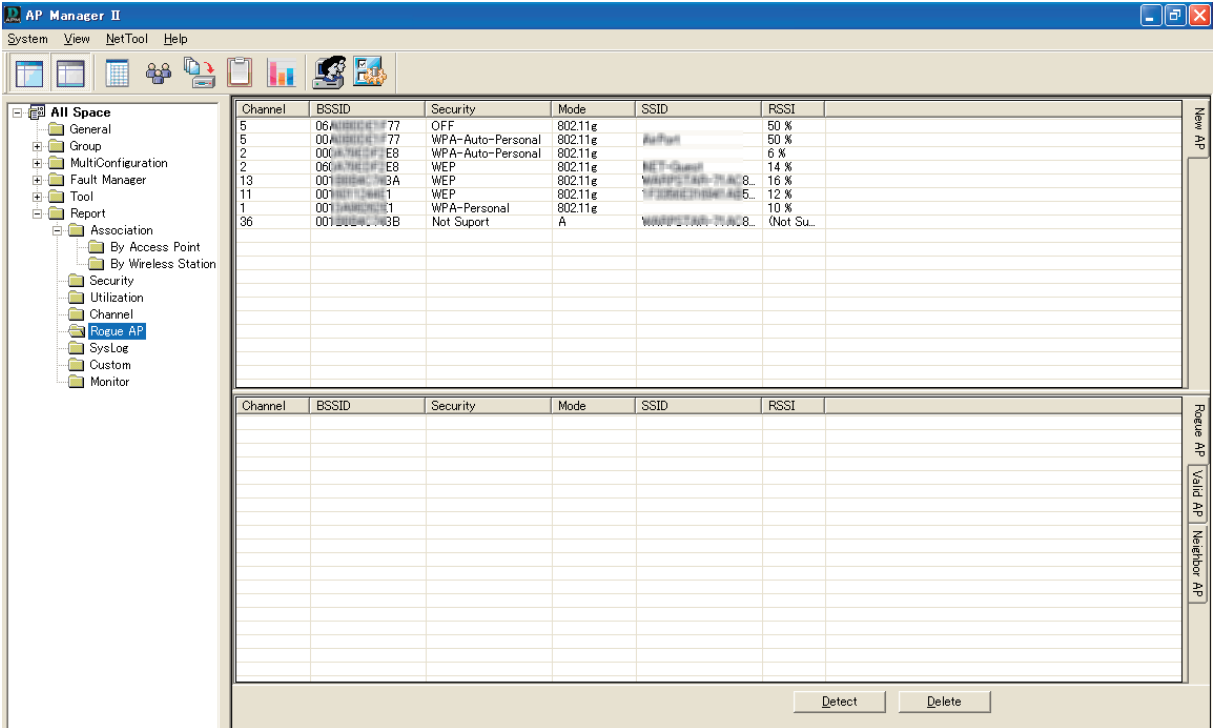


図 5-74 Rogue AP 画面

アクセスポイントを分類するためには、「Detect」ボタンをクリックして周囲のアクセスポイントを検索します。また、画面の右側でカテゴリをクリック後、アクセスポイントを画面の上から下にドラッグします。

Syslog（システムログの出力）

「Syslog」画面では、管理アクセスポイントが送信したシステムログ情報を表示します。はじめにシステムログを AP Manager II に送信するようにアクセスポイントを設定してください。アクセスポイントのログ出力設定については「[Log Settings（ログの設定）](#)」（82 ページ）を参照してください。

Report > Syslog の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

	Facility	Priority	Timestamp	Sender	Message
	1	5	2008-5-9 9:32:12	172.18.215.50	[SYS]--AP cold start with f/w version: v2.40
	1	5	2008-5-9 9:32:13	172.18.215.50	[SYS]--Web login success from 172.18.215.212
	1	5	2008-5-9 9:32:14	172.18.215.50	[WIRELESS]--WLAN1 Normal AP ready
	1	5	2008-5-9 9:34:52	192.168.0.50	[SYS]--AP warm start with f/w version: v2.10
	1	5	2008-5-9 9:34:53	192.168.0.50	[NOTICE]--Ethernet AE1 LINK DOWN
	1	5	2008-5-9 9:34:54	192.168.0.50	[WIRELESS]--WLAN0 Normal AP ready
	1	5	2008-5-9 9:34:55	192.168.0.50	[WIRELESS]--WLAN1 Normal AP ready
	1	5	2008-5-9 9:38:05	172.18.215.50	[SYS]--Web logout from 172.18.215.212
	1	5	2008-5-9 11:05:22	172.18.215.50	[SYS]--Web login success from 172.18.215.111
	1	5	2008-5-9 11:11:05	172.18.215.50	[SYS]--Web logout from 172.18.215.111

図 5-75 Syslog 画面

Customer（カスタマ）

「Customer」画面では、指定間隔でアクセスポイントに接続するステーション数に関するサマリ情報を表示します。

Report > Customer の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

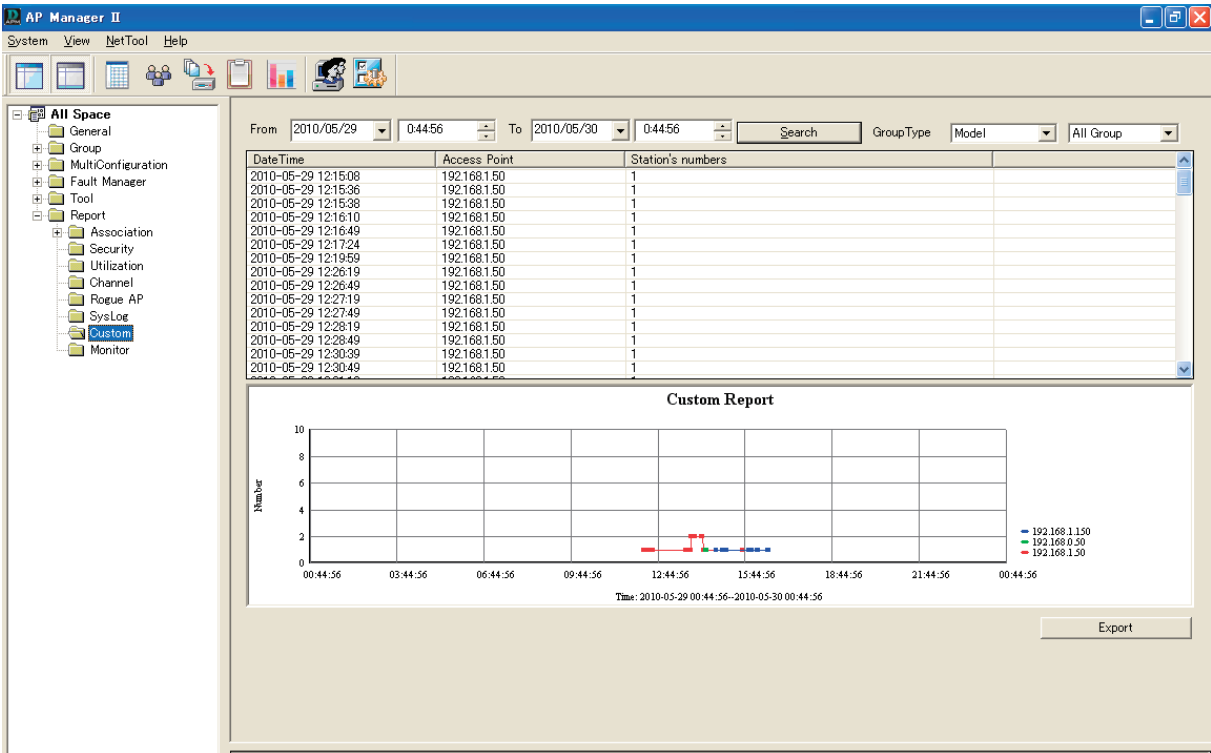


図 5-76 Customer 画面

検出日によってステーションを表示するためには、「From/To」プルダウンメニューから日付の範囲を選択し、「Search」ボタンをクリックします。「Group Type」から、指定グループに基づくデータを画面に表示するように指定することができます。

Monitor（モニタリング）

指定アクセスポイントの性能をリアルタイムに表示します。

Report > Monitor の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

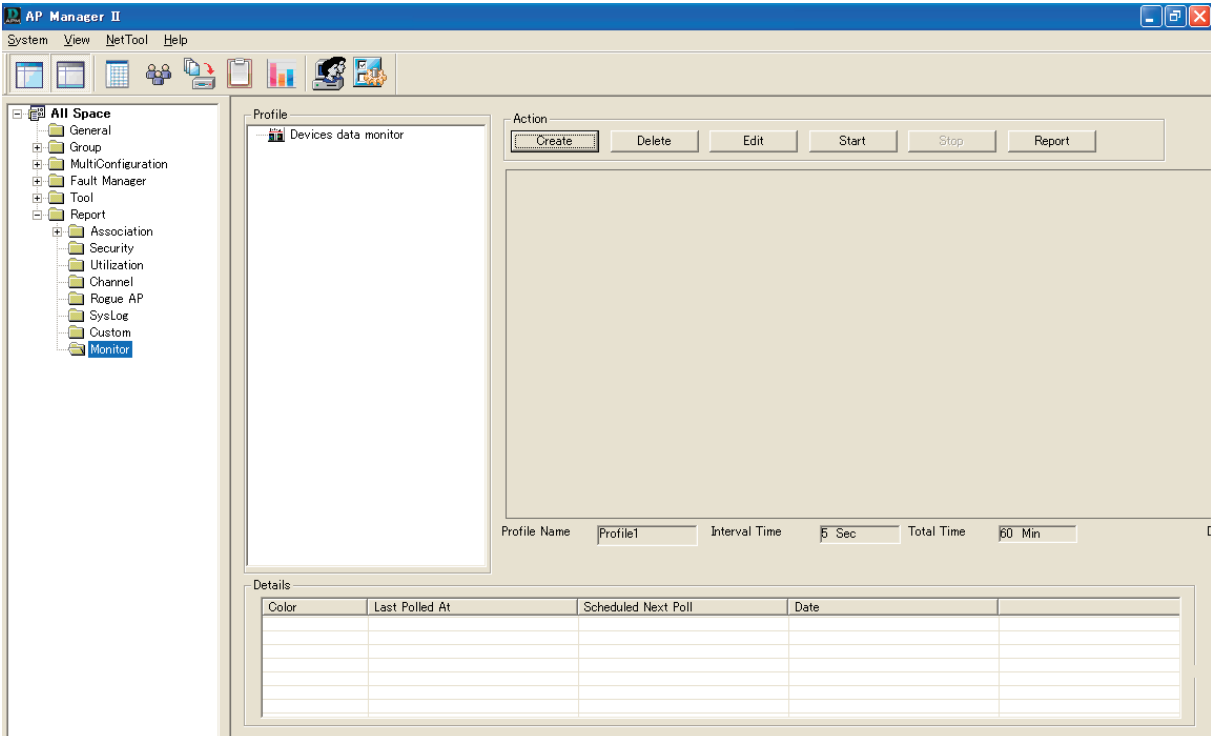
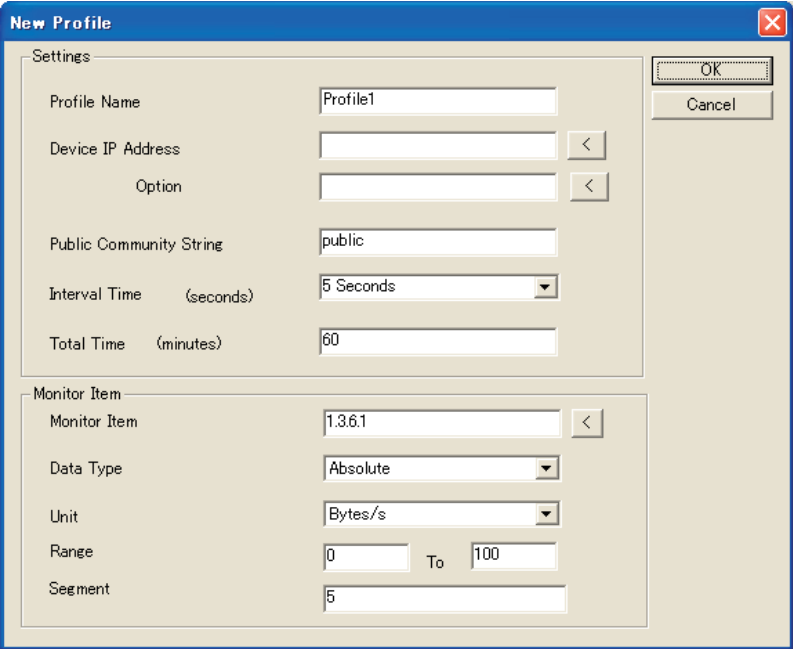


図 5-77 Monitor 画面

新しい監視プロファイルの作成

1. 「Create」 ボタンをクリックして、以下の画面を表示します。



The 'New Profile' dialog box is shown with the following fields and values:

Field	Value
Profile Name	Profile1
Device IP Address	
Option	
Public Community String	public
Interval Time (seconds)	5 Seconds
Total Time (minutes)	60
Monitor Item	
Monitor Item	1.3.6.1
Data Type	Absolute
Unit	Bytes/s
Range	0 To 100
Segment	5

図 5-78 New Profile 画面

- 「Settings」セクションで「<」ボタンをクリックすると、「Select devices」画面が表示され、アクセスポイントの管理の IP アドレスを選択することができます。
2. 「Profile Name」(プロファイル名)、「Public Community String」(パブリックコミュニティ文字列)を入力し、「Device IP Address」(デバイスの IP アドレス) ,「Interval Time」(スキャンする間隔)、「Total Time」(表示時間の合計) などモニタする項目を選択します。
3. 「Start」ボタンをクリックして、アクセスポイントの送受信データを視覚的にモニタリングします。

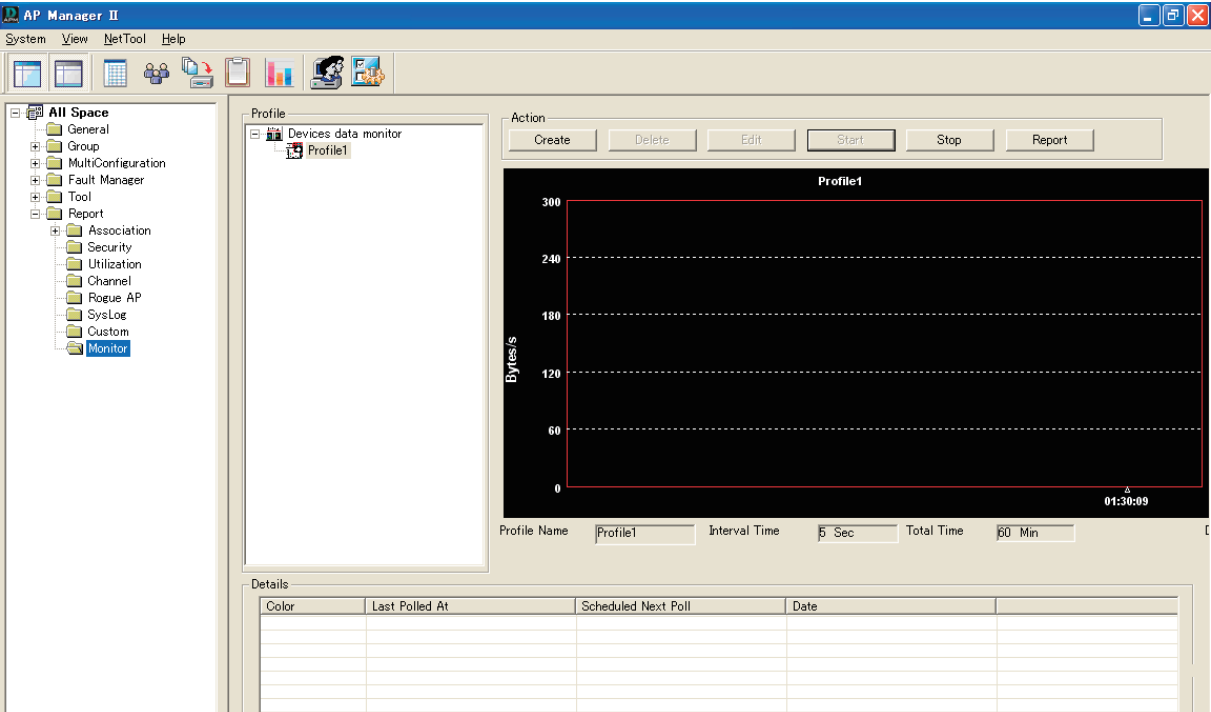



図 5-79 Monitor 画面 - 結果

User Management（ユーザ管理）

AP Manager II を使用してユーザプロフィールを管理することができます。

ユーザを管理するためには、「System」メニューの「User Manage」をクリックするか、またはツールバーの  アイコンをクリックして以下の画面を表示します。

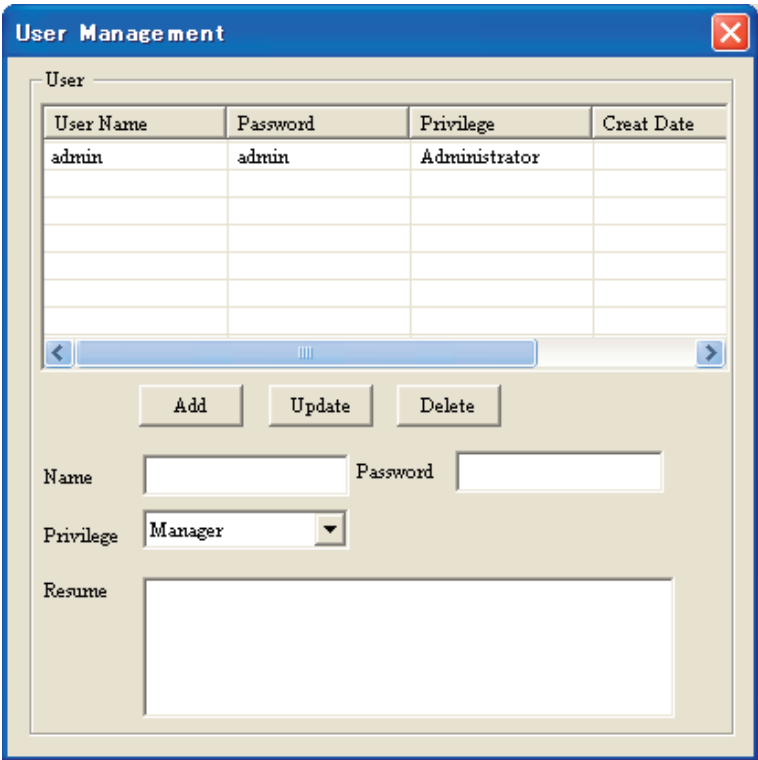


図 5-80 User Management 画面

特権レベルには以下の種類があります。

特権レベル	説明
Administrator	AP Manager II のすべての権利を所有しています。
Manager	ユーザ管理以外のすべての権利を所有しています。
Guest	情報の参照のみできます。

新しいユーザの登録

- 1. 「Name」および「Password」欄にそれぞれユーザ名とパスワードを入力します。
- 2. 「Privilege」プルダウンメニューから権利レベルを選択します。
- 3. 「Resume」に本ユーザに関する説明文を入力します。
- 4. 「Add」ボタンをクリックし、本ユーザを AP Manager II に追加します。

ユーザの編集

ユーザのレコード行を強調表示し、対応するテキストボックスの変更します。次に、「Update」ボタンをクリックして変更を適用します。


注意 変更は次回ログイン時に有効になります。

ユーザの削除

ユーザのエントリ行を強調表示し、「Delete」ボタンをクリックします。

System Environment（システム環境）

AP Manager II のソフトウェア動作環境を変更することができます。

System > Options をクリックするか、またはツールバーの  アイコンをクリックして以下の画面を表示します。

General タブ

Options

General | Module | Database Maintenance | Advanced

Logon Setting

☒ To use the system, user should input name and password

☐ Please select the user to use the system

User Name	Privilege	Creat Date	Resume
admin	Administr...		

SNMP Setting

Public Community String

private

Port

161

Private Community String

private

SNMP Response TimeOut

20

(5-60 Seconds)

Polling Setting

Polling type

☒ Disable

☐ Enable

Interval time

30

(10-60 Seconds)

Discover

Retry

1

TimeOut

5

(5-60 Seconds)

OK

キャンセル

適用(A)

図 5-81 Options 画面 - General タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Logon Setting	システムへのログイン方法（自動または手動）を設定します。自動的にログインするためには、ユーザリストからシステムにログインするのに使用されるユーザを選択する必要があります。
SNMP Setting	「Public/Private Community String」、「Port Number」および「SNMP Response Timeout」を設定します。
Polling Setting	初期値は「Disable」（無効）です。本機能を有効にした場合、ポーリング間隔を設定する必要があります。初期値は 30（秒）です。
Discover	検出を行う場合のリトライ回数とタイムアウト時間を入力します。

設定を変更する際は、必ず「OK」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Module タブ

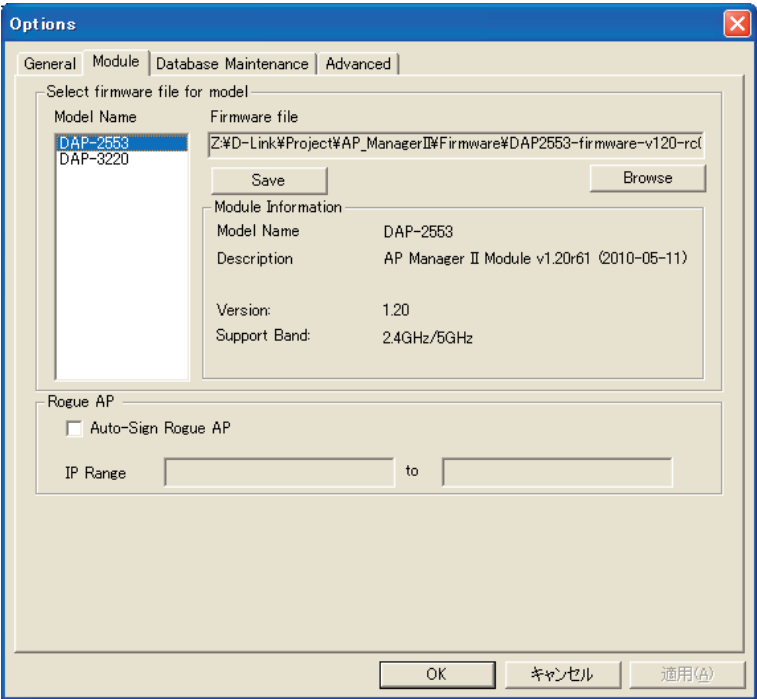


図 5-82 Options 画面 - Module タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Module	アクセスポイントのファームウェアを更新するためには、アクセスポイントの各モデルに対して初期ファームウェアファイルを指定することができます。アクセスポイントのタイプを1つ強調表示し、「Browse」ボタンをクリックしてファームウェアファイルを選択します。次に、「Save」ボタンをクリックして、変更を適用します。

設定を変更する際は、必ず「OK」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Database Maintenance タブ

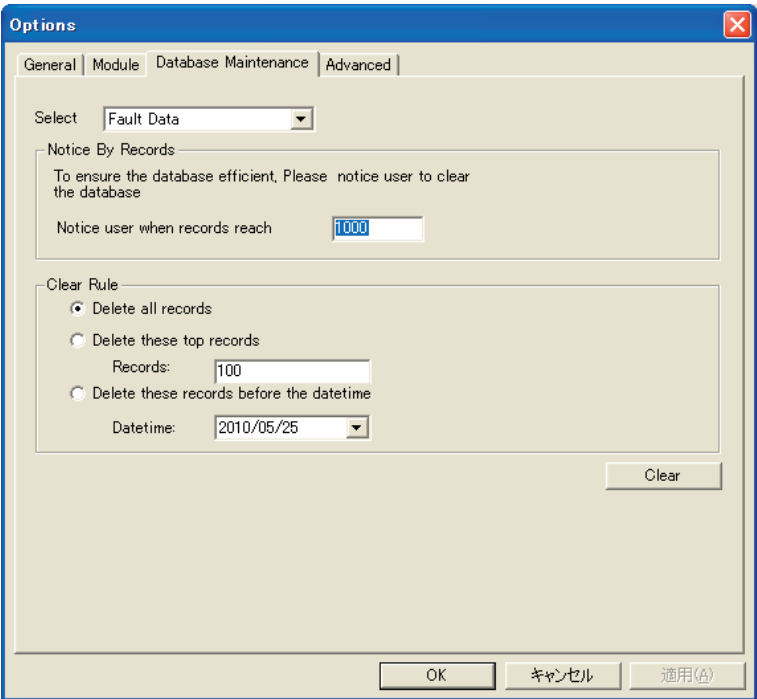


図 5-83 Options 画面 - Database Maintenance AP タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Select Choose	レコードタイプ。
Notice By Record	データベースをクリアするようにユーザに通知するのに至るレコード数を設定します。
Clear Rule	
Delete all records	本オプションを選択して、すべてのレコードをクリアします。
Delete these top records	本オプションを選択して、レコードの先頭から指定数クリアします。
Delete these records before the datetime	本オプションを選択して、指定時間前に保存したレコードをクリアします。

設定を変更する際は、必ず「OK」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

Advanced タブ

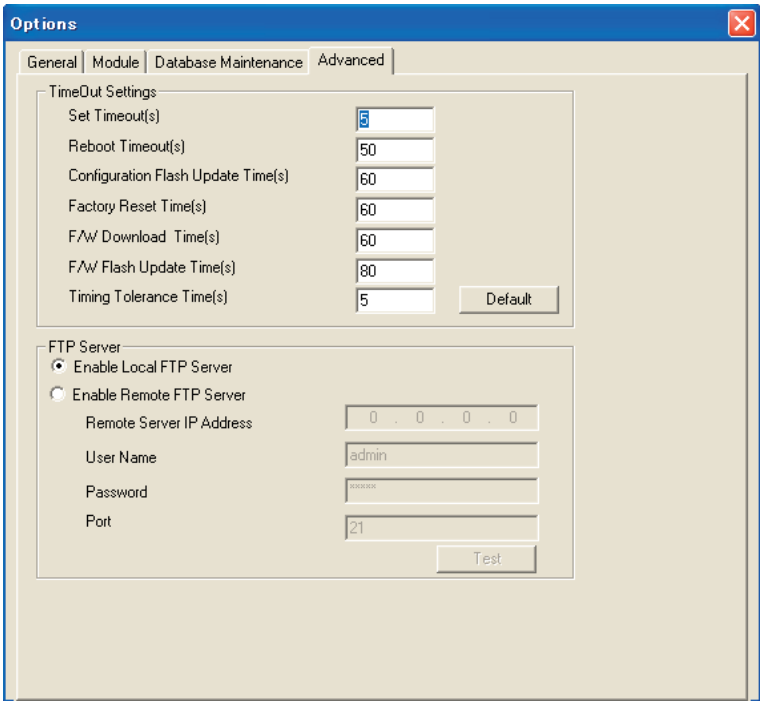


図 5-84 Options 画面 - Advanced タブ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
TimeOut Settings	システムのタイムアウト設定を行います。
FTP Server	「Enable Local FTP Server」を選択して、ローカルコンピュータ上の FTP サーバを実行します。AP Manager II の開始時に FTP サーバを実行します。「Enable Remote FTP Server」を選択して、1 つの FTP サーバにすべてのシステムログを保存します。ここでは FTP サーバのパラメータを設定する必要があります。

設定を変更する際は、必ず「OK」ボタンをクリックし、設定内容を適用してください。

付録 A MySQL から Postgresql へのデータベース変換

ここでは、MySQL から Postgresql へのデータベース変換について説明します。

注意 はじめに AP Manager II v2.0、MySQL サーバ、および MySQL コネクタの ODBC をインストールする必要があります。

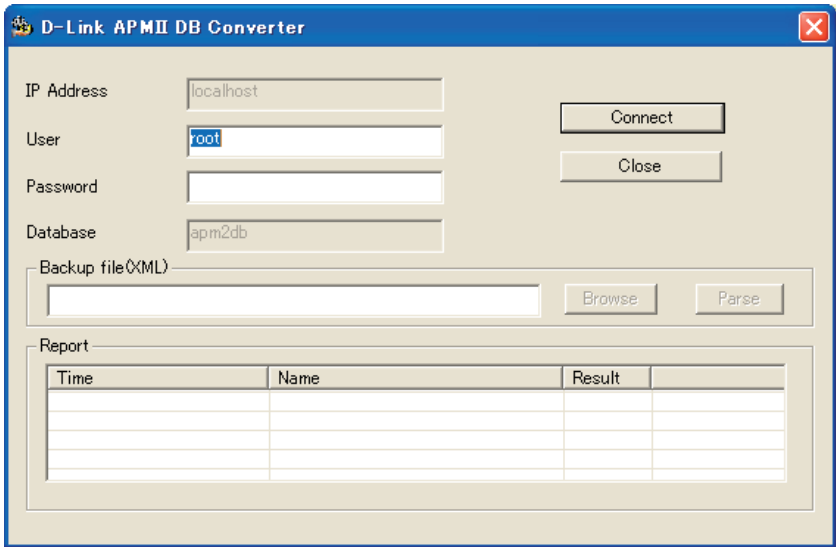
以下の手順に従って MySQL から Postgresql にデータベースを変換します。

1. AP Manager II データベース変換プログラムのインストールを開始するために、インストールパッケージの次のアイコンをダブルクリックします。



注意 インストールを続行する前に動作している他のすべてのプログラムを終了させることを推奨します。

2. インストールが開始され、以下の画面が表示されます。

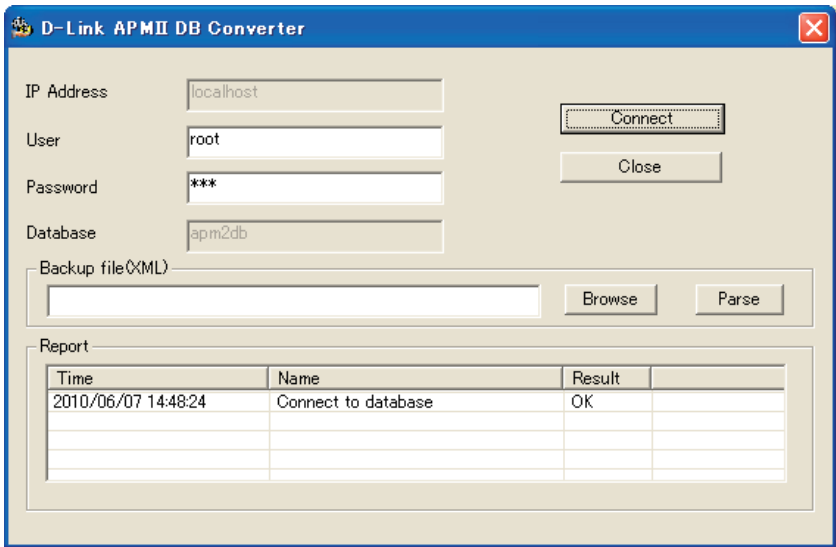
The screenshot shows the 'D-Link APMII DB Converter' window. It has input fields for 'IP Address' (localhost), 'User' (root), 'Password' (empty), and 'Database' (apm2db). There are 'Connect' and 'Close' buttons. Below these is a 'Backup file(XML)' section with a text box, 'Browse', and 'Parse' buttons. At the bottom is a 'Report' table with columns 'Time', 'Name', 'Result', and an empty column. The table is currently empty.

Time	Name	Result	

図 A-1 開始画面

2. MySQL データベースのユーザ名とパスワードを入力後、「Connect」ボタンをクリックして D-Link APM II DB Connector とご使用の MySQL データベース間に接続を確立します。接続状態は「Report」ボックスに表示されます。

注意 ユーザ名とパスワードは MySQL サーバのインストール処理で設定されます。

The screenshot shows the same 'D-Link APMII DB Converter' window, but the 'Connect' button is now disabled (greyed out). The 'Report' table now contains one row of data.

Time	Name	Result	
2010/06/07 14:48:24	Connect to database	OK	

図 A-2 ユーザ名とパスワードの設定画面

3. 接続の確立に成功した後に、「Browse」のボタンをクリックします。エクスポートされるデータベースを保存する場所とファイル名を指定します。

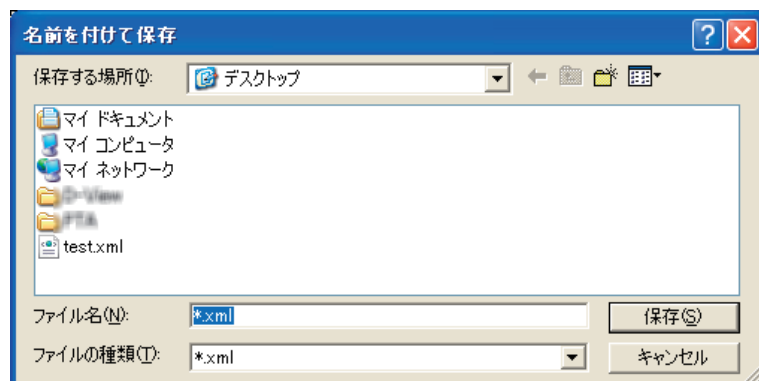


図 A-3 名前をつけて保存 画面

4. データベースを「xml」ファイルとしてローカルなハードディスクにエクスポートする場合には「Parse」ボタンをクリックします。

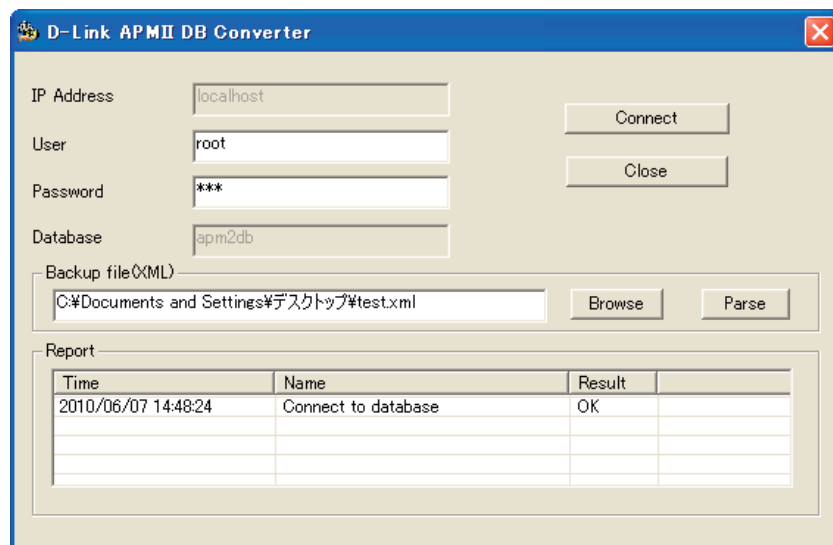


図 A-4 ファイルの変換画面 - 結果

5. 「Report」ボックスには、以下に示すように、データベースに関する状態情報を表示されます。

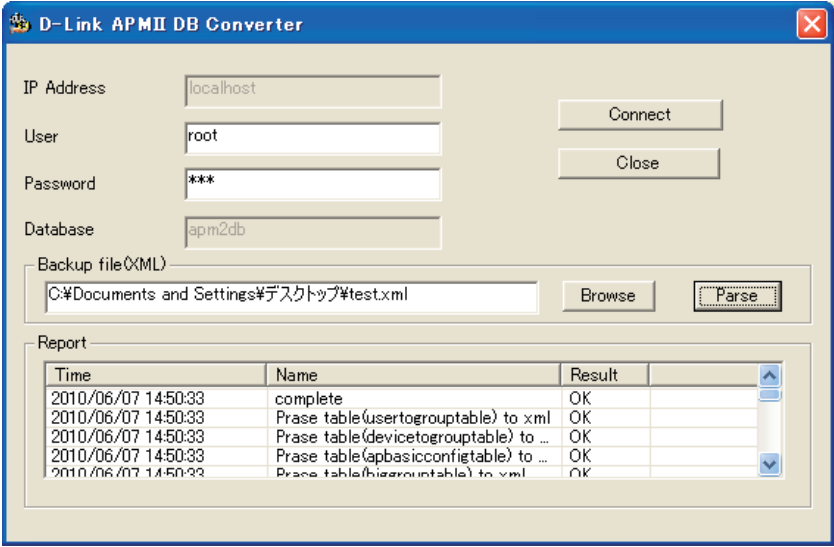


図 A-5 データベースの状態情報画面

6. AP Manager II v2.0x、MySQL サーバ、および MySQLI コネクタの ODBC をアンインストールします。
7. PostgreSQL サーバと PostgreSQL ODBC コネクタをインストールします。PostgreSQL サーバと PostgreSQL ODBC コネクタに関する詳しい情報について、「[第 2 章 製品のインストール](#)」（8 ページ）を参照してください。
8. AP Manager II v2.10 以上をインストールします。